I-O DATA

# HDL-GT シリーズ

## 画面で見るマニュアル

E07

# もくじ

# 安全にお使いいただくために

お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

## ■警告および注意表示

| | |
|---|---|
|  警告 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

## ■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）  「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）  「分解禁止」を表す絵表示



この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）  「電源プラグを抜く」を表す絵表示

##  警告


厳守

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。


分解禁止

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。
火災や感電、やけど、故障の原因になります。
修理は弊社修理センターにご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。


電源プラグを抜く

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐにコンセントからプラグを抜いてください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。


発火注意

本製品を接続する場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことをご注意ください。
●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。
●接続するコネクターやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因となることがあります。
●給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。
給電されているLANケーブルを接続した場合には発煙したり、火災の原因となることがあります。
●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。故障や動作不良の原因になります。
●接続するコネクターやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因になります。


禁止

AC100V(50/60Hz)以外のコンセントに接続しないでください。
発熱、火災の恐れがあります。


厳守

電源プラグをコンセントに完全に差し込んでください。
ショート、発熱の原因となり、火災、感電の恐れ


厳守

本製品の接続、取り外しの際は、必ず本書で、接続・取り外し方法をご確認ください。
間違った操作を行うと火災・感電・動作不良の原因となります。


水濡れ禁止

本体を濡らしたり、お風呂場では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。



禁止

濡れた手で本製品を扱わないでください。

感電や、本製品の故障の原因となります。



厳守

電源ケーブルについては以下にご注意ください。

●必ず添付または指定の電源ケーブルを使用してください。
●電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。
●電源ケーブルをACコンセントから抜く場合は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
ケーブルを引っ張ると、断線または短絡して、火災および感電の原因となることがあります。
●電源ケーブルの電源プラグは、濡れた手でACコンセントに接続したり、抜いたりしないでください。
感電の原因となります。
●電源ケーブルがACコンセントに接続されているときには濡れた手でパソコン本体に触らないでください。
感電の原因となります。
●本製品を長時間使わない場合は、電源ケーブルを電源から抜いてください。
電源ケーブルを長時間接続していると、電力消費・発熱します。



## 注意



注意

本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

故障や万一に備えて定期的にバックアップをお取りください。



禁止

本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かないでください。



禁止

[STATUS]ランプが点滅・点灯中に（動作中にシャットダウンを完了せずに）、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。



禁止

バスパワーで動作する USB ハードディスク（弊社製 HDMX シリーズなど）は、接続しないでください。
本製品では、使用できません。

接続すると故障の原因となります。



禁止

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

●振動や衝撃の加わる場所
●直射日光のあたる場所
●湿気やホコリが多い場所
●温湿度差の激しい場所
●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
●強い磁力電波の発生する物の近く
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
●水気の多い場所（台所、浴室など）
●傾いた場所
●腐食性ガス雰囲気中（$Cl_2$、$H_2S$、$NH_3$、$SO_2$、$NO_x$など）
●静電気の影響の強い場所
●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・カーペット・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所での使用（保管は構いません）



禁止

本製品は精密機器です。以下のことにご注意ください。

●落としたり、衝撃を加えない
●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
●重いものを上にのせない
●そばで飲食・喫煙などをしない
●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない



禁止

動作中にケーブルを抜かないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。




本製品内部を結露させたまま使わないでください。

時間をおいて、結露がなくなってからお使いください。
本製品を寒い所から暖かい場所へ移動したり、部屋の温度が急に上昇すると、内部が結露する場合があります。
そのまま使うと誤動作や故障の原因となる場合があります。




本体についた汚れなどを落とす場合、柔らかい布で乾拭きしてください。

●洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めて使用してください。
●ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。
●市販のクリーニングキットを使用して、本製品のクリーニング作業を行わないでください。故障の原因となります。




本製品内部およびコネクター部に液体、金属、たばこの煙などの異物が入らないようにしてください。




動作中にケーブルを激しく動かさないでください。

接触不良およびそれによるデータ破壊などの原因となることがあります。




ハードディスク内のデータは、こまめにバックアップするようにしてください。




本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。

改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。
修理センターでは、送付された本製品のハードディスク内のデータをすべて消去します。
必ず、データをバックアップしてから送付してください。




本製品で使用するハードディスクを廃棄あるいは譲渡などされる際は以下にご注意ください。

本製品で使用するハードディスクに記録されたデータは、OS 上で削除したり、ハードディスクをフォーマットするなどの作業を行っただけでは、特殊なソフトウェアなどを利用することで、データを復元・再利用できてしまう場合があります。その結果として、情報が漏洩してしまう可能性がありえます。
-情報漏洩などのトラブルを回避するために、データ消去のためのソフトウェアやサービスをご利用いただくことをおすすめいたします。

修理センターでは、送付された本製品のハードディスク内のデータをすべて消去します。
必ず、データをバックアップしてから送付してください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。
この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

# 使用上のご注意

本製品を使用する上で守っていただきたいご注意です。必ずお読みください。

## ■全般の注意

●本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。
（故障や万一に備えて定期的にバックアップをお取りください。）

●動作中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。

●チェックディスクを実行した場合は必ず終了するまで待ってから次の操作を行ってください。また、途中で電源を切ることはできません。終了するまでお待ちください。

●DHCP サーバのある環境では、本製品は自動的に DHCP サーバより IP アドレスが割り当てられるため、IP アドレスを設定する必要はありません。
ただし、DHCP サーバのない環境（パソコンにそれぞれ固定の IP アドレスを設定している環境）では、ネットワークに応じた IP アドレスを設定する必要があります。

●本製品を DHCP サーバが存在するネットワークに接続しても、正常に IP アドレスを取得できない場合があります。その場合は、本製品の IP アドレスを固定に設定してご利用ください。

●本製品はローカルネットワーク上でご利用ください。
本製品にグローバル IP アドレスを割り当て、直接インターネットに公開すると非常に危険です。ルーターを設置するなどして、インターネットから攻撃を受けないようにするなど、お客様にてセキュリティ確保をお願いいたします。

●本製品を複数台ネットワークに導入する場合や、他の LANDISK と併用する場合は、本製品の IP アドレスと[LANDISK の名前]をそれぞれ別々にする必要があります。

●本製品は工場出荷時状態では、DLNA サーバ機能が有効になっています。DLNA 機能をご使用にならない場合は、DLNA サーバ機能（DLNA Server サービス）を無効にしてご使用ください。
【共有サービス設定】（201ページ）参照

## ■ネットワークで共有する場合の注意

●ファイアウォールソフトをお使いの場合、本製品へアクセスできない場合があります。
その場合、ファイアウォールソフト側で、137～139 番、445 番のポートにアクセス許可する設定を行ってください。

●各 OS でのファイルサイズによる制限
・Windows Me の場合、4GB 以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱えません。
・Windows 98（SE 含む）の場合、2GB 以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱えません。
・Mac OS(Clasic)の 場合、2GB 以上のファイルはネットワーク経由で扱えません。

●フォルダ名、ファイル名に使用できる文字の制限
以下の個所を参照してください。
【文字制限一覧】（189ページ）

●接続可能端末数について
本製品にネットワーク経由で接続可能な端末数について、Windows では制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。

| | |
|---|---|
| Windows パソコン | 推奨する同時接続台数は１６台まで（ネットワークドライブの割り当ても同様です。） |
| Mac OS パソコン | 推奨する同時接続台数は８台まで（最大１６台まで） |

## ■共有、ユーザ、グループの設定時の注意

本製品出荷時には、本製品に接続できるすべてのユーザが読み書きできる[disk1]と[dlna]という共有フォルダがあります。
新規に共有フォルダを作成することもできます。

●本製品に作成する共有には、[全てのユーザ][指定ユーザ][指定グループ]でアクセス制限を設定することができます。

●本製品に登録可能なユーザ数は最大 300 個、グループ数は最大 100 個までとなります。
1 グループに登録可能なユーザは 300 ユーザまでとなります。

●ユーザ名とグループ名には同一の名称は使用できません。
ユーザ名と共有名、グループ名と共有名には同一の名称が使用できます。

●ユーザ名、グループ名、共有フォルダ名に使用できる文字の制限
次の個所を参照してください。【文字制限一覧】（189ページ）

## ■本製品および増設ハードディスクのデータ管理について

●本製品のデータは万一に備えて、増設ハードディスクなどに定期的にバックアップをお取りください。
本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

●カートリッジや増設ハードディスクの交換を行う場合、必ず、本製品の電源がONの状態（[POWER]ランプが緑点灯状態）で取り外し、取り付けを行ってください。【カートリッジの扱い方】（14ページ）、【ハードディスクやプリンタを増設する】（69ページ）参照
本製品はホットスワップに対応しておりますので、本製品の電源がONの状態で行うことができます。
ただし、以下の場合のみ、本製品の電源がOFFの状態（[ POWER]ランプが赤点灯、または、消灯状態）で取り外し、取り付けを行ってください。

・保管したディスクセットから復旧する場合（【ディスクセットから復旧する】125ページ）
・保管したミラーディスクから復旧する場合（【ミラーディスクから復旧する】119ページ）
・「RAID崩壊モード」で起動する場合（【強制的にRAIDを再構成する】161ページ）

●本製品前面のロックキーは、カートリッジを固定するためのものです。データをロックするものではありません。

●本製品の設定画面で表示される増設ハードディスク使用領域と Windows からネットワークドライブに割り当ててプロパティから確認した使用領域の値は大きく異なります。本製品で使用するファームウェアの表示における仕様で、ハードディスク側には問題はありません。正しい使用領域は、本製品の設定画面からご確認ください。

●設定画面上から行うハードディスクのチェックディスクでの[エラーチェックのみを行う]に要する時間は、ハードディスクの状態や容量により大きく異なります。
通常は、非常に短い時間で終了しますが、ハードディスクの状態により、数分から数十分程度の時間を要することがあります。

●ACCESS（アクセス）ランプ点滅中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。
故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。

●本製品の管理者は、すべての共有フォルダにアクセスする権限をもっています。（Windows パソコンからアクセスする場合のみ）
セキュリティのため、共有フォルダにアクセス時のパスワードを定期的に変更することをおすすめします。

●ファイルコピー中やバックアップ中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切るとコピーの処理が正常に行われません。
本製品や増設用ハードディスクの ACCESS（アクセス）ランプを確認の上、電源を切ってください。

●Windows 98 から本製品へのファイルコピー中に LAN ケーブルが抜けるなどして中断された場合、コピー途中のファイルが本製品上に残り消去できなくなる場合があります。
この場合は、いったん本製品の電源を切り、再度起動してからコピー途中のファイルを削除し、コピーをやり直してください。

## ■USB 機器、eSATA 機器を接続する際の注意

●本製品の USB ポート（1、2）や eSATA ポート（1、2）には、対応の機器以外の機器は接続しないでください。
（USB ハブや SATA ポートマルチプライヤーも接続できません。最新の対応 USB 機器および eSATA 機器は、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。）
本製品の USB ポートに増設できる USB 機器については、【増設できる USB 機器】（182ページ）もご覧ください。
本製品の eSATA ポートに増設できる eSATA 機器については、【増設できる eSATA 機器】（183ページ）もご覧ください。

●本製品に増設する USB ハードディスクや eSATA ハードディスクは、下記のフォーマット形式に対応しています。

| | 対応フォーマット形式 | |
|---|---|---|
| | FAT※1 | NTFS※2 |
| 本製品に接続した場合 | ○ | △※3 |
| パソコンに接続した場合 | ○ | ○ |

○：読み書き可　　△：読み込みのみ可

※1 1 本製品に接続して設定画面の【フォーマット（FAT32）】で FAT32 形式にフォーマットすることができます。
※2 2 本製品で NTFS 形式にフォーマットすることはできません。フォーマットする場合は、ハードディスクをパソコンに接続し、パソコン上からフォーマットしてください。（方法については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。）
※3 3 Macintosh の場合、NTFS 形式でフォーマットされた増設ディスクの共有および読み取り専用設定の共有はマウントできません。

●省電力設定の対応機器は、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。
（省電力設定の動作確認機種以外には省電力設定を有効にしないでください。）

●バスパワーで動作する USB 機器（弊社製 EasyDisk など）は、前面の[USB ポート 1]にのみ接続できます。

●デジカメや USB メモリコピー用ポート（USB ポート 1）の注意
・コピー開始、終了、エラーはランプやブザー音で確認してください。
・何らかの原因により、正常にデータをコピーできなかった場合の写真などのデータの補償に関して、弊社は一切責任を負いません。必ず、コピーが完了した後、コピー内容をパソコンなどによりご確認ください。

●ファイルコピー中やバックアップ中に、USB ポートに接続した機器の接続や取り外しをしたり、本製品やハードディスクの電源を切らないでください。コピーの処理が正常に行われません。

●USB 対応プリンタは、[USB ポート2]にのみ接続できます。
ただし、プリンタの双方向機能（インク残量の確認など）には対応しておりません。また、複合機（プリンタ機能以外にスキャナ機能やリーダライタ機能等を有するもの）をお使いの場合、プリンタ機能にのみ対応します。

●書込み禁止スイッチ付きのハードディスクなど、物理的に書込保護できるドライブを本製品に接続する場合は、必ず書き込み可能な状態に切り替えてお使いください。

●本製品には 2TB(2,199,023,255,552 Byte)より大きいディスク容量の増設ディスク(eSATA, USB)は接続できません。

●HDL-GT3.0/4.0 では eSATA ミラーリング機能は利用できません。

●本製品にはパーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT) の RHD カートリッジは接続できません。

●本製品にはパーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT) の増設ディスク(eSATA, USB)は接続できません。

# 準備編

# 特徴

## 目指したのは本物の RAID ドライブ

- 5年以上の実績、プロユースで鍛え抜かれた「DELTA2」のノウハウを LANDISK Tera の RAID 技術に集約。

**専用カートリッジの開発**
→ ホットスワップ 対応
→ 高速ドライブに対応エアーフロー設計
→ 容易な操作で交換





**異常時にも継続運用**
→ 万一構成ドライブに障害 が発生しても、システムを停止せず、障害ドライブのみを交換可能。

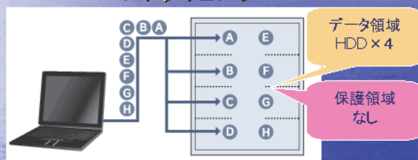
**インジケータ兼用ロックスイッチ**
→ カートリッジのロックスイッチはインジケータを兼用しています。ドライブの状態が一目でわかり、異常時もPCレスで交換が可能です。

**Relational HD**
→ カセット感覚で利用できる、シンプル設計のカートリッジシステム。
→ LANDISK Tera だけでなく、今後様々なハードディスク製品に展開していきます。

## 多彩な用途に応える RAID モード

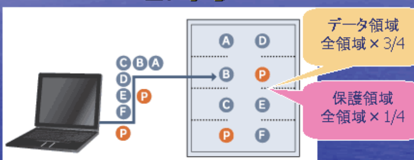
- ニーズに合わせた4つの RAID モードを提供。

**RAID0 ～ ストライピング**



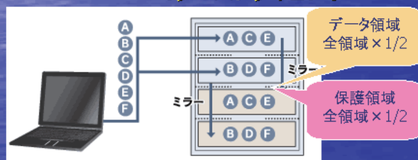

安全性：低　総容量：大

**RAID5 ～ 4基による RAID5**



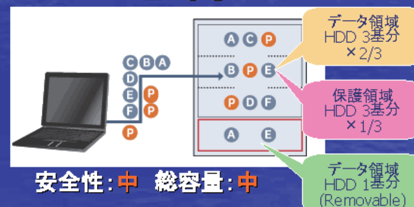

安全性：中　総容量：中

**RAID1+0 ～ ミラーストライピング**




安全性：高　総容量：小

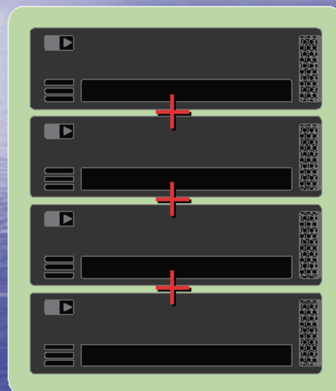
**RAID5 ～ 3基による RAID5+FAT**




安全性：中　総容量：中

# RAID0：ストライピング

- 全てのディスクをリニアに結合



ディスク4台分、フル容量を1つのボリュームに

**データ領域**

HDL-GT1.0:　1.0TB (250GB × 4)

HDL-GT2.0:　2.0TB (500GB × 4)

**保護領域**

なし

※保護領域
データを保護するための領域。

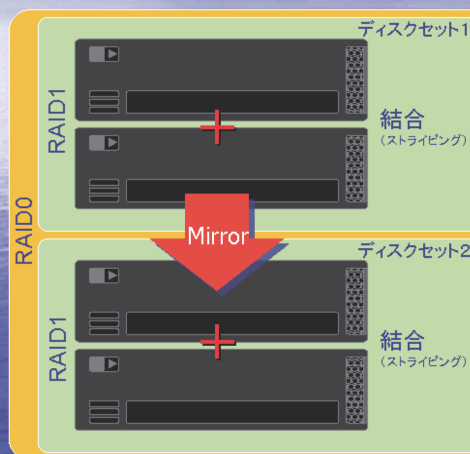



**容量すべてをデータ領域として利用可能。ストライピングによる高速アクセス！**

さらに同容量以上の eSATA ドライブ接続で Mirror が可能！

# RAID1+0：ミラーストライピング

- ミラーリングとストライピングの融合




高速性と冗長性を両立

**データ領域**

HDL-GT1.0:　0.5TB

HDL-GT2.0:　1.0TB

**保護領域**

HDL-GT1.0:　0.5TB

HDL-GT2.0:　1.0TB

データ領域は全容量の1/2
最大2台のドライブが
故障しても継続運用可能。

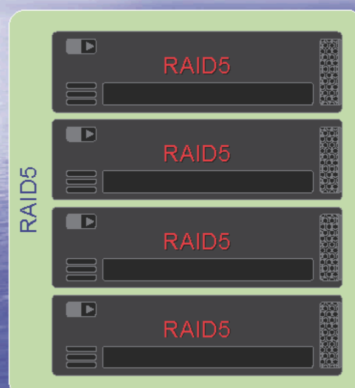
**ディスクセット単位でドライブの保管が可能**




さらに同容量以上のeSATA ドライブ接続でMirror が可能！

# RAID5：4基による分散パリティ

- 4台のドライブで RAID5 を構築




ディスク4台を使った RAID5 による冗長性確保

**データ領域**

HDL-GT1.0:　0.75TB

HDL-GT2.0:　1.5TB

**保護領域**

HDL-GT1.0:　0.25TB

HDL-GT2.0:　0.5TB



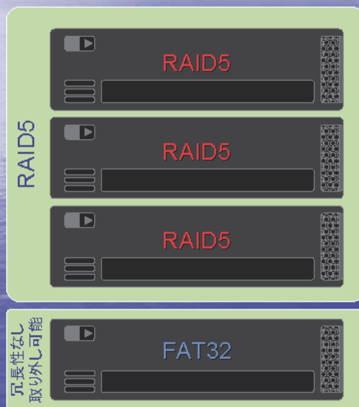

**データ容量は全ドライブ容量の3/4。1台のドライブが故障しても継続運用可能。**

※ただし、この場合、冗長性は失われます。

さらに同容量以上の eSATA ドライブ接続で Mirror が可能！

# RAID5+リムーバブル

- 3基による RAID5 に加え1基の自由に交換可能な FAT/NTFS ドライブ




ディスク3台を使った RAID5 による冗長性確保といつでも自由に抜き差しできるフレキシブルな1台の FAT ドライブ

**データ領域**
HDL-GT1.0: 0.5TB + 0.25TB
HDL-GT2.0: 1.0TB + 0.5TB

**保護領域**
HDL-GT1.0: 0.25TB
HDL-GT2.0: 0.5TB

リムーバブルドライブには保護機能は働きません。

eSATA1
Mirror

**総データ容量は全ドライブ容量の3/4。**
**1台のドライブが故障しても継続運用可能。**

さらに同容量以上の eSATA ドライブ接続で Mirror が可能！

# さらに信頼性を高めるために

- 「3本の矢」ならぬ「7本の矢」。ディスク自身の信頼性を高める、エラーマネジメント機能を実装

1. **RAID 機能**
→ RAID 機能の持つ冗長性
2. **アクティブリペア機能**
→ 不良セクタの自動修復機能
3. **S.M.A.R.T. チェック機能**
→ 故障する可能性が高いハードディスクを RAID メンバから除外
4. **エラーカウント機能**
→ 不良ドライブを RAID メンバから除外
5. **メール通知機能**
→ 各種異常状態を個別にメール通知可能
6. **チェックディスク機能**
→ ファイルシステムの論理障害の検出、修復機能
7. **ジャーナリングファイルシステム**
→ 強制電源断に強い論理障害回避機能

# デジタルマルチメディアもお任せ！

- メディアサーバとして DLNA 1.0 に準拠したメディアサーバ機能を搭載。DLNA 対応製品とシームレスに連携できます。

**DigiOn 社製「DiXiM Media Server for Linux」を搭載**




→ 実績豊富な DigiOn 社製の DiXiM サーバを搭載！
→ UPnP / DLNA1.0 ともに認定試験をパス。
→ 認証取得手続き中。

**東芝製デジタルハイビジョンテレビ「REGZA Z1000シリーズ」に完全対応**
→ ネットワークハイビジョン録画に対応。
→ REGZA のリモコン操作だけで LANDISK Tera への番組録画、LANDISK Tera 内のコンテンツ再生が簡単に行えます。
→ 接続は LANDISK Tera を LANHDD 端子に直接接続するだけ。PC 不要。
→ 大切なコンテンツを LANDISK Tera が守ります。






# その他充実した機能群

- ネットワーク接続ハードディスクに求められる機能を網羅。

**ネットワーク共有サービス**
→ Microsoft ネットワークファイル共有サービス
→ AppleShare ネットワークファイル共有サービス
→ FTP ファイル転送サービス

**バックアップ**
→ クイックコピー機能
→ セルフバックアップ機能
→ リモートバックアップ機能

**ミラーリング**
→ eSATA1 ポートへのミラーリング機能
→ ミラードライブ保管機能
→ RAID1+0 のディスクセット保管機能

**スケジュール**
→ セルフバックアップ機能
→ リモートバックアップ機能
→ スケジュール起動／シャットダウン

**その他**
→ LED 輝度調整
→ ネットワーク時刻同期機能（NTP）
→ ディスク省電力機能
→ メロディ機能

# カートリッジの扱い方

本製品では、電源投入中でもカートリッジの取り外しおよび取り付けが可能です。ただし、正しい手順を行わずに取り外しおよび取り付けを行うと、カートリッジ内のハードディスクだけでなく、他のカートリッジ、あるいは、本製品の故障その他の原因となります。

カートリッジの取り外しおよび取り付ける際は、必ず以下および次ページの手順に従って行ってください。

注意 いかなる場合におきましても弊社ではRAID構成が崩壊した本製品のデータを復旧することはできません。

●本製品のRAID構成されているハードディスクカートリッジは、障害発生時以外には取り外さないでください。
不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID構成が崩壊して全てのデータを失う危険性があります。

●障害発生したカートリッジを取り外す場合やRAID5+FAT/NTFS モードにおいてスロット４のFAT/NTFSドライブを抜く場合は、本製品の電源が入っている状態で取り外すことができます。ただし、[STATUS]ランプの点灯状況、該当カートリッジの[ACCESS]ランプが消灯していることを確認した上で取り外してください。

●誤って障害発生したディスク以外のカートリッジを取り外した場合、RAID構成が崩壊し、修復不能の状態となります。

●カートリッジの取り付け・取り外しは、必ず１台ずつ、以下の説明通りに行ってください。

●[STATUS]ランプ点滅中に[スライドスイッチ]は操作しないでください。

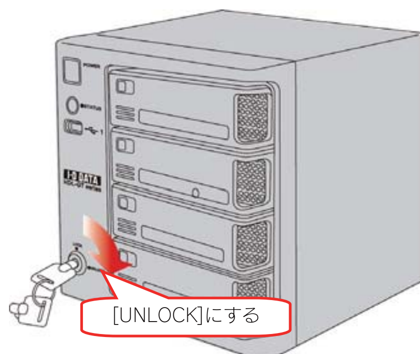
●新しいカートリッジに交換される場合にも、本製品の電源が入っている状態で取り付けることができます。

●交換時には、カートリッジ前面の[ACCESS]ランプの点灯状況および管理画面の[ボリューム情報]表示を確認し、間違いのないよう十分ご注意をお願いします。

## カートリッジの取り外し方

**1** LOCKキーのLOCKを解除します。
添付のロックキーでLOCKを時計周りにまわして、[UNLOCK]にします。

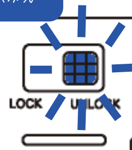





**2** 取り外すカートリッジの[スライドスイッチ]を右に移動します。
→カートリッジの[ACCESS]ランプが青点滅から消灯するまでお待ちください。



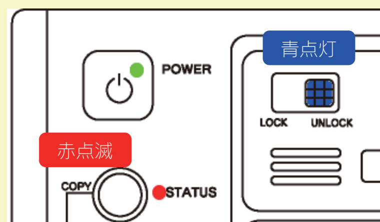

青点滅




消灯

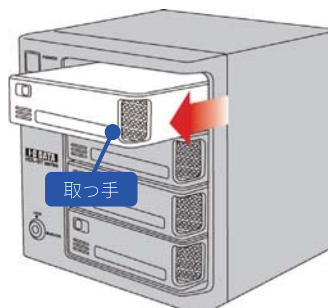



注意 [STATUS]ランプが赤点滅、[ACCESS]ランプが青点灯した場合は、取り外せません。
[スライドスイッチ]を再度[LOCK]に戻してください。




RAIDを再構築中などは取り外せません。再構築が終了するまで待つなど、取り外せる状態になってから取り外してください。
ただし、RAID 0で使用中など取り外せない場合もあります。

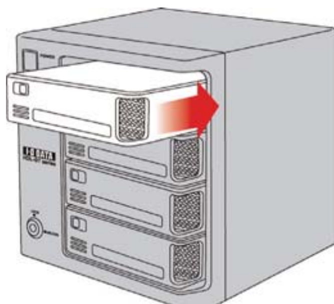
**3** カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り出します。



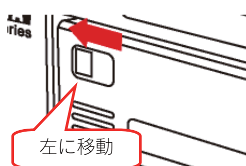

注意 ●必ず、[ACCESS]ランプが消灯していることを確認してから、取り外してください。
青点滅中、青点灯中に取り外した場合、カートリッジ内のハードディスクの故障、本製品に保存されたデータの破損、あるいは、本製品の故障の原因となります。

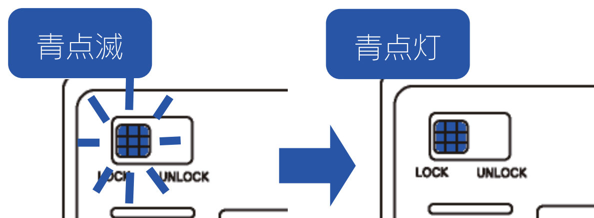
# カートリッジの取り付け方

**1** カートリッジをスロットの奥まで挿入します。



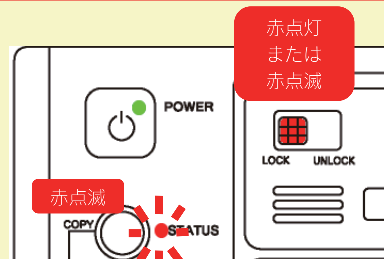
**2** 挿入したカートリッジの[スライドスイッチ]を左側（[LOCK]）に移動します。
→カートリッジの[ACCESS]ランプが青点滅から青点灯するまでお待ちください。




注意

●[STATUS]ランプが赤点滅、[ACCESS]ランプが赤点灯、または赤点滅した場合は、取り付けに失敗しています。
この状態は、システムに取り付け処理を行いましたがシステムで使用できない状態です。（状態は[ボリューム情報]画面（197ページ）でご確認ください。）




[ACCESS]ランプが赤点灯している場合

原因１：RAID5+FAT/NTFS 設定のスロット４に FAT/NTFS 形式でフォーマットされていないカートリッジを接続した。
対処：この場合、このままでは使用できませんので、WEB 設定画面よりフォーマット（FAT32）を行うか、いったん取り外し操作をおこない適切なフォーマットのカートリッジを接続してください。（メンテナンスについては、261ページをご覧ください。）
原因２：RAID を構成しているスロットに、FAT/NTFS 形式でデータが入っているカートリッジを接続した。
対処：通常、FAT/NTFS 形式以外、あるいは、FAT/NTFS 形式でデータが無い場合は、そのカートリッジを RAID に組み込み、再構築を開始しますが、FAT/NTFS 形式でデータがある場合のみ、システムは自動でデータを上書きしないようになっています。
このカートリッジを RAID に組み込み、再構築を開始するには、WEB 設定画面よりメンテナンスを実行してください。
原因３：RAID に組み込むために必要なディスク容量が足りないカートリッジを接続した。
対処：この場合、システムは RAID を構成するディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つカートリッジに交換する必要があります。

[ACCESS]ランプが赤点滅している場合　※赤点滅しているカートリッジは使用できません。

原因１：ディスクエラー発生過多
対処：本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生したディスクは RAID を構成するディスクとして使用しないようにしています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。
原因２：SMART チェックエラー発生
対処：本製品はディスクを接続されたとき、ディスク自身の故障診断機能（SMART）を利用してディスクが壊れていないか確認します。SMART 情報により故障と判定されるディスクは、使用しないようにしています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。

**3** すべてのカートリッジを取り付けた後、添付のロックキーで LOCK を反時計周りにまわして、[LOCK]にします。

# セットアップ

# Windows 環境での ネットワーク導入手順

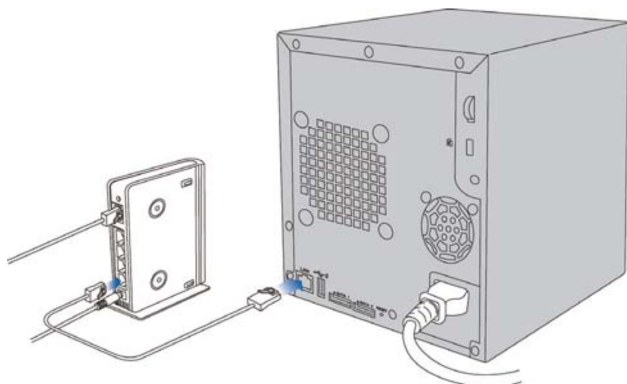
通常、ネットワーク内にブロードバンドルーターなどの「DHCP サーバー」となる機器がある場合は、ネットワークに接続すればそのまま本製品をご利用になれます。
ただし、ネットワーク内に DHCP サーバーとなる機器がない場合には、Windows パソコンを使って本製品の IP アドレスなどを変更する必要があります。

## STEP1 ネットワーク機器を確認する

ネットワーク内のパソコン、ルーター、アクセスポイントなどが正常に動作していることを確認します。

## STEP2 ネットワークにつなぐ

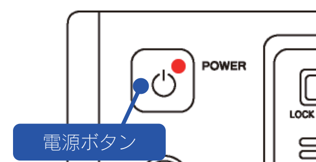
本製品の LAN ポートに添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をルーターやハブなどのネットワーク機器に接続します。



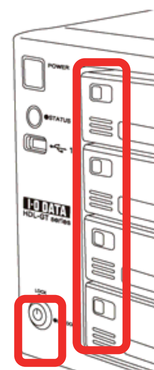
注意
●必ず LAN ケーブルを先に接続してください。
LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

## STEP3 電源を入れる

1 添付の「電源ケーブル」を本製品背面の[電源コネクター]に接続後、電源ケーブルを電源コンセントに接続します。
⇒電源コンセントに接続すると、前面の[POWER]ランプが赤色で点灯します。




2 [カートリッジ固定ロック]が[LOCK]状態となっていること、また、４台の[カートリッジ]のすべてのスライドスイッチが左側の[LOCK]状態となっていることを確認します。



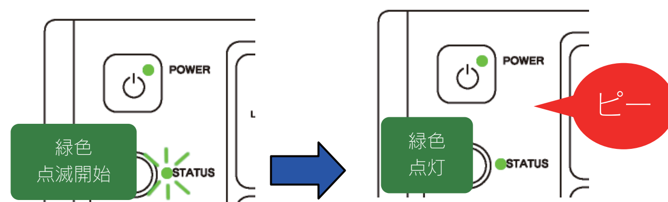

3 本製品前面の電源ボタンを押します。
「ピポッ」と音が鳴り[POWER]ランプが緑色に点灯します。

注意
●動作中に本製品のシャットダウンを完了せずに、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。

## STEP4 STATUS ランプを確認する

**1** しばらくすると、[STATUS]ランプが緑色で点滅し、約２分ほどで緑色に点灯します。

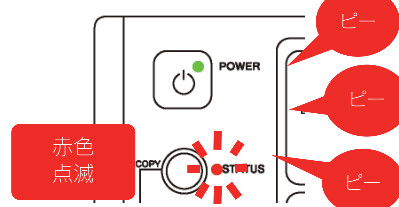
**2** 起動が完了すると、「ピー」と音が鳴ります。




### STATUS ランプが緑色で点灯している

以上でセットアップは完了です。これで、本製品を使用できる準備は整いました。
この後、以下の個所へお進みください。
【Windows から本製品にアクセスする】（22ページ）

### STATUS ランプが赤く点滅している




DHCP サーバーより IP アドレスを取得できない状態です。
以下の個所へお進みください。
【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（次ページ）

注意 ●ネットワーク内に DHCP サーバーがない場合、[STATUS]ランプは赤く点滅します。
ネットワーク内に DHCP サーバーがあるのに点滅している場合は、以下の手順を行ってみてください。
①いったん、本製品の[電源]ボタンを押して本製品の電源を切ります。
②DHCP サーバーが正しく動作していること、本製品とネットワーク機器が LAN ケーブルで正しく接続されていることを確認します。
③[電源]ボタンを押して、再度本製品の電源を入れます。
※DHCP サーバーがあるかどうかの確認方法については、別紙【必ずお読みください】裏面の【パソコンの IP アドレス】の項をご覧ください。

上記注意を確認しても改善されない場合は、【困ったときには】の以下の個所を参照してください。
【◆本製品起動時のトラブル】（227ページ）
【◆セットアップ時のトラブル（ネットワークへの導入時）】（231ページ）

注意 ●起動時の[ACCESS]・[STATUS]ランプの動作がおかしい場合、ブザーが鳴る場合については以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の【◆ランプやブザーについて】（257ページ）

# Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合

ネットワーク内に DHCP サーバーとなるネットワーク機器が無い場合、本製品をお使いのネットワークで使用している IP アドレスに合った固定の IP アドレスに設定する必要があります。

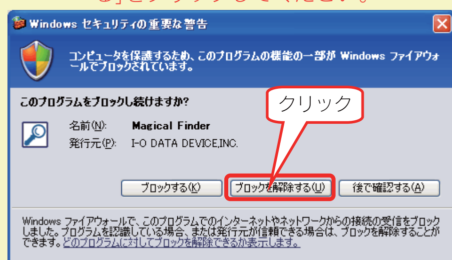
**1** パソコンを起動します。

**2** 添付 CD-ROM をセットし、起動してきたサポートソフトメニューの[Magical Finder 起動]をクリックすれば、「Magical Finder」が起動します。




注意

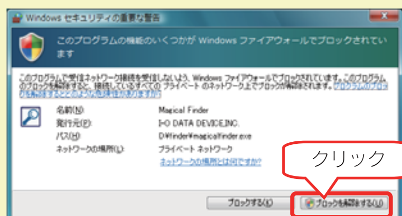
●Windows XP SP2 をお使いで以下の画面が表示された場合は、[ブロックを解除する]をクリックしてください。




●Windows Vista®をお使いで、CD-ROM を挿入すると、以下の画面が表示された場合、[Autorun.exe の実行]をクリックしてください。

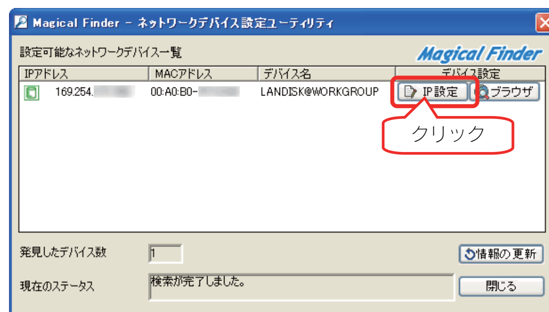



●Windows Vista®をお使いで、以下の画面が表示された場合、[ブロックを解除する]をクリックしてください。



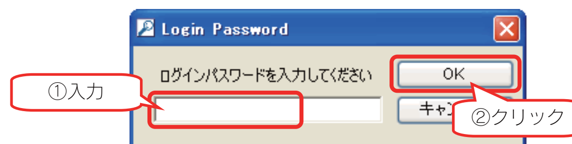

サポートソフトメニューが表示されていない場合
①[マイコンピュータ]を開きます。
※Windows Vista®では[スタート]→[コンピュータ]をクリックします。
②HDL-GTRxxx]※アイコンをダブルクリックします。
※xxx にはサポートソフトのバージョンが表示されます。
(サポートソフトメニューが表示されない場合は、さらに[Autorun.exe]アイコンをダブルクリックしてください。)

**3** 自動で本製品が検索されますので、[IP 設定]ボタンをクリックします。
※本製品の電源が ON になってから、検索されるまでに約 1 〜2 分かかる場合があります。



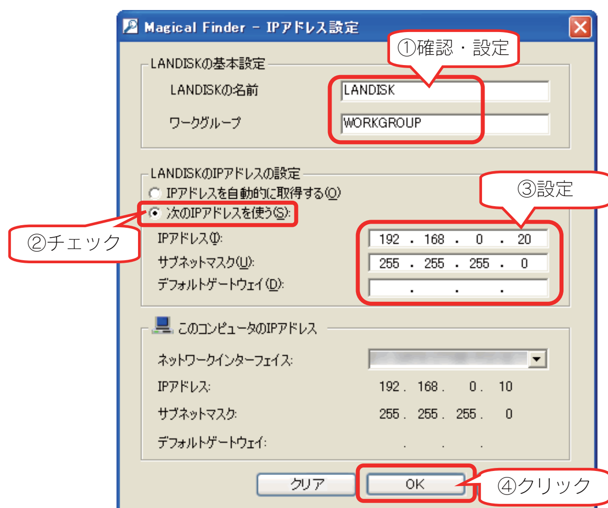

本製品が検索されない!
対処１：30 秒ほど待ってから[情報の更新]ボタンをクリックしてください。
対処２：以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の234ページ

**4** 管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、[OK]ボタンをクリックします。




「パスワードが間違っています。」と表示された！
対処：[OK]ボタンをクリック後、以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の254ページ

**5** [LANDISK の名前][ワークグループ]を確認後、お使いのネットワークに合わせた IP アドレスを設定後、[OK]ボタンをクリックします。
※画面の詳細は次ページを参照してください。




**6** [OK]ボタンをクリックします。

**7** 3の画面に戻りますので、[閉じる]ボタンをクリックします。

以上で IP アドレスの設定は終了です。
この後、以下の個所へお進みください。
【Windows から本製品にアクセスする】（22ページ）

## ▼[IP アドレス設定]画面

| LANDISK の基本設定 | | |
|---|---|---|
| LANDISK の名前 | ネットワーク上（[マイネットワーク]あるいは[ネットワークコンピュータ]など）に表示される本製品の名称です。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。<br>※変更する場合は、必ずメモしてください。<br>注意<br>●本製品を複数台使用する場合や、他の LANDISK※1 と併用する場合<br>※1　HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR、HDL-AV のシリーズ<br>必ず[LANDISK の名前]を変更し、同一のコンピュータ名がネットワーク内に複数存在しないように設定し、メモしてください。<br>設定例）　１台目の LANDISK の名前　「LANDISK１」<br>２台目の LANDISK の名前　「LANDISK２」　など | |
| ワークグループ | "ワークグループ"はパソコンの"ワークグループ名"と一致しなければなりません。（パソコンのワークグループ名を確認してください。）<br>ただし、ワークグループの名前が一致していない場合でも本製品にアクセスすることは可能です。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。 | |
| **LANDISK の IP アドレス設定** | | |
| IP アドレスを自動的に取得する | ネットワーク内に DHCP サーバーがある場合にチェックします。 | |
| 次の IP アドレスを使う | 固定の IP アドレスを使う場合にチェックします。 | |
| | IP アドレス | 本製品に設定する IP アドレスを入力します。<br>※使用しているネットワークのセグメント(IP アドレスのグループ)をご確認の上、他のネットワーク機器やパソコンの IP アドレスと重複しないように設定してください。 |
| | サブネットマスク | パソコンと同じサブネットマスクを入力します。<br>画面の[このコンピュータの IP アドレス]欄の[サブネットマスク]と同じ値を入力します。 |
| | デフォルトゲートウェイ | パソコンと同じデフォルトゲートウェイを入力します。<br>画面の[このコンピュータの IP アドレス]欄の[デフォルトゲートウェイ]と同じ値を入力します。表示されていない場合、入力する必要はありません。 |

| このコンピュータの IP アドレス | |
|---|---|
| ネットワークインターフェイス | パソコンのネットワークインターフェイス（LAN アダプター名など）を表示します。 |
| IP アドレス | パソコンの IP アドレスを表示します。 |
| サブネットマスク | パソコンのサブネットマスクを表示します。 |
| デフォルトゲートウェイ | パソコンのデフォルトゲートウェイを表示します。通常、ルーターの IP アドレスが設定されています。設定されていない場合、表示されません。 |

# Windowsから本製品にアクセスする

ネットワークに導入した本製品にアクセスする方法を説明します。
アクセス方法はOSにより異なりますので、下記のご使用のOSを参照してください。


・Windows Vista®から本製品にアクセスする（23ページ）
・Windows XPから本製品にアクセスする（24ページ）
・Windows 2000から本製品にアクセスする（25ページ）
・Windows Meから本製品にアクセスする（26ページ）
・Windows 98から本製品にアクセスする（27ページ）

# Windows Vista®から本製品にアクセスする

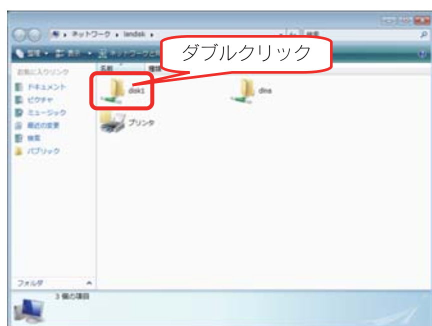
Windows Vista®から本製品にアクセスする手順です。

**1** [スタート]をクリックし、[検索の開始]をクリック後、「\\landisk」と入力し[Enter]キーを押します。
※本製品の「LANDISK の名前」を変更した場合は、\\の後に変更した名前を入力してください。




LANDISK が検索されない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の246ページ

**2** 本製品の共有フォルダの一覧が表示されます。
[disk1]フォルダをダブルクリックします。




**3** 表示された[disk1]フォルダ内にファイルを書き込むことができます。
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザと共有することができます。

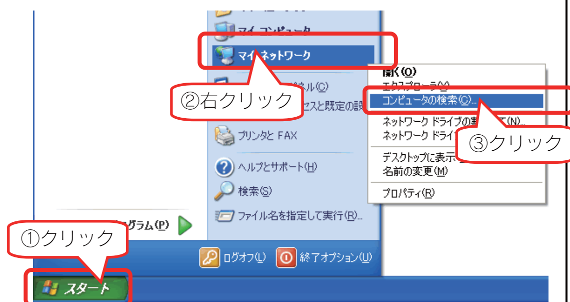



正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

# Windows XP から本製品にアクセスする

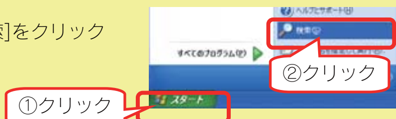
Windows XP から本製品にアクセスする手順です。

**1** [スタート]→[マイネットワーク]→[コンピュータの検索]をクリックします。

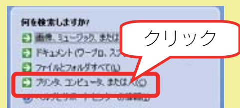



表示に[マイネットワーク]がない場合は、以下の手順を行います。

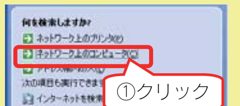
①[スタート]→[検索]をクリックします。



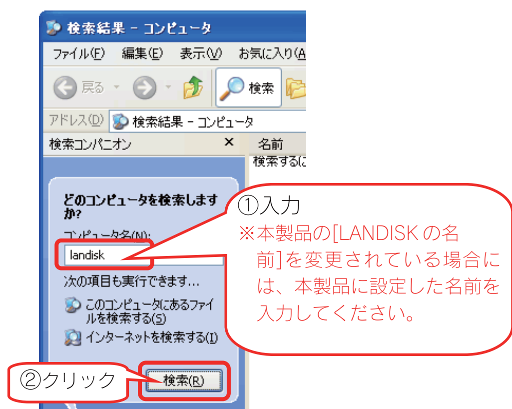

②"何を検索しますか?"で[プリンタ、コンピュータ、または人]をクリックします。



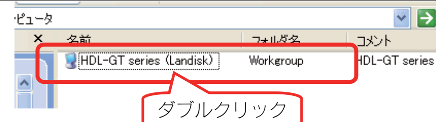

③"何を検索しますか?"で[ネットワーク上のコンピュータ]をクリックします。




**2** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、[検索]ボタンをクリックします。

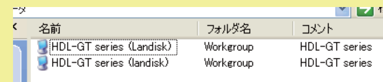



**3** 「HDL-GT series(Landisk)」が検索されますので、ダブルクリックします。
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。




2つ表示された場合は、どちらかをダブルクリックします。

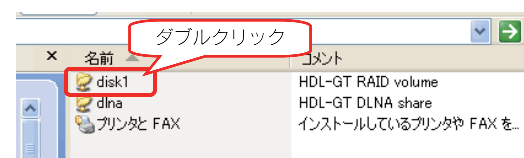
Windows XP から、本製品のコンピュータ名で検索を行った場合、2つの LANDISK が発見されることがあります。
2つのうちどちらかをダブルクリックしてください。



これは、本製品が使用しているファームウエアによる仕様となります。

LANDISK が検索されない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の243ページ

**4** [disk1]フォルダをダブルクリックします。




**5** 表示された[disk1]フォルダ内にファイルを書き込むことができます。
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザと共有することができます。



正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

# Windows 2000 から本製品にアクセスする

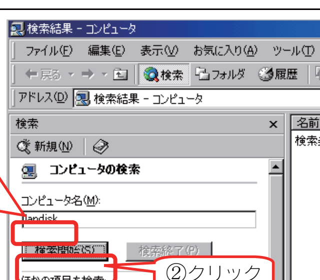
Windows 2000 から本製品にアクセスする手順です。

**1** [マイネットワーク]を右クリックして、[コンピュータの検索]をクリックします。



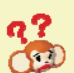

**2** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、[検索]ボタンをクリックします。

①入力
※本製品の[LANDISK の名前]を変更されている場合には、本製品に設定した名前を入力してください。



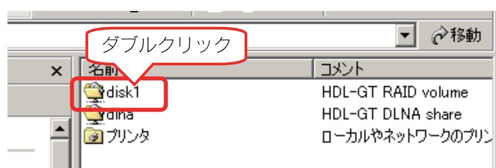

**3** 「Landisk」が検索されますので、ダブルクリックします。
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。



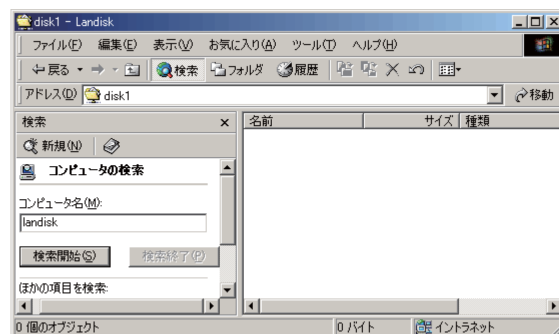



LANDISK が検索されない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の246ページ

**4** [disk1]フォルダをダブルクリックします。




**5** 表示された[disk1]フォルダ内にファイルを書き込むことができます。
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザと共有することができます。

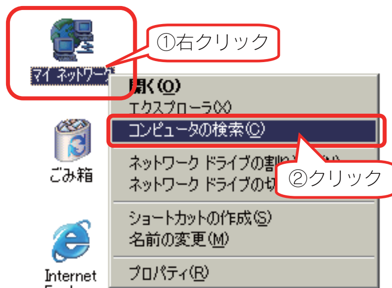



正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

# Windows Me から本製品にアクセスする

Windows Me から本製品にアクセスする手順です。

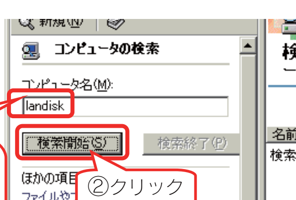
**1** [マイネットワーク]を右クリックして、[コンピュータの検索]をクリックします。



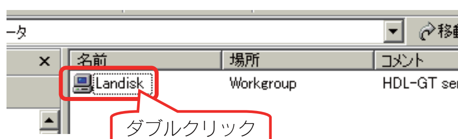

**2** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、[検索]ボタンをクリックします。

①入力

※本製品の[LANDISK の名前]を変更されている場合には、本製品に設定した名前を入力してください。




**3** 「Landisk」が検索されますので、ダブルクリックします。
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。



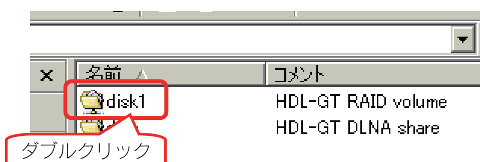



LANDISK が検索されない！

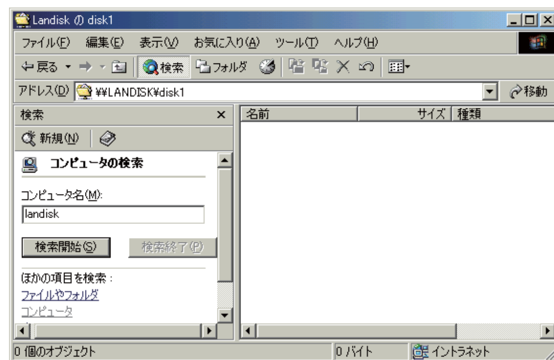
⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の246ページ

**4** [disk1]フォルダをダブルクリックします。




**5** 表示された[disk1]フォルダ内にファイルを書き込むことができます。
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザと共有することができます。

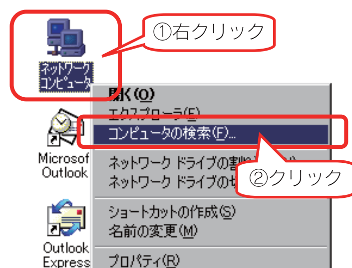



正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

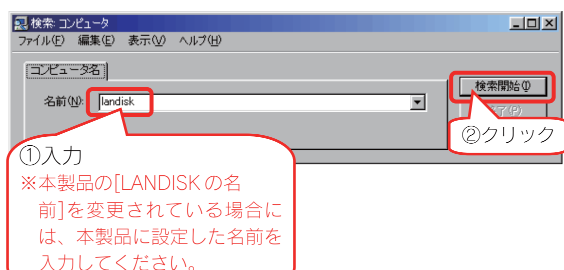
# Windows 98 から本製品にアクセスする

Windows 98 から本製品にアクセスする手順です。

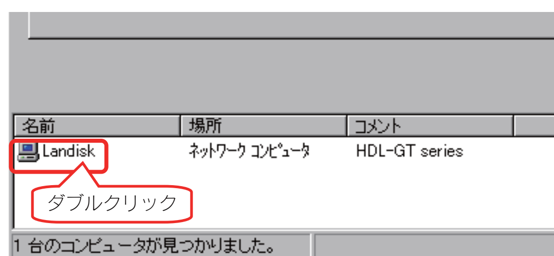
**1** [ネットワークコンピュータ]を右クリックして、[コンピュータの検索]をクリックします。




**2** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、[検索]ボタンをクリックします。

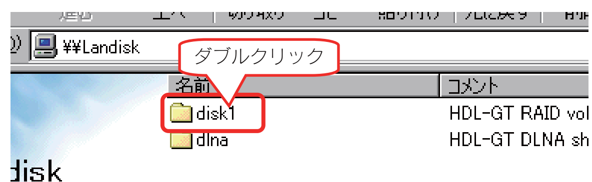



**3** 「Landisk」が検索されますので、ダブルクリックします。
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。

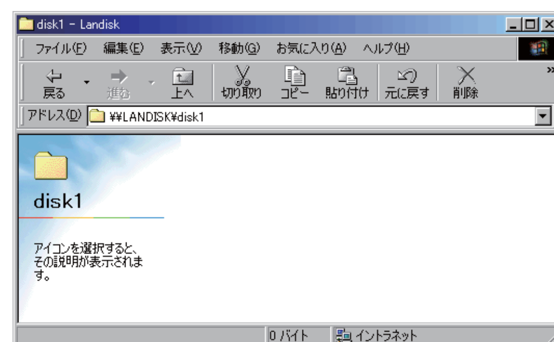



LANDISK が検索されない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の246ページ

**4** [disk1]フォルダをダブルクリックします。




**5** 表示された[disk1]フォルダ内にファイルを書き込むことができます。
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザと共有することができます。




正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

# Mac OS 環境での ネットワーク導入手順

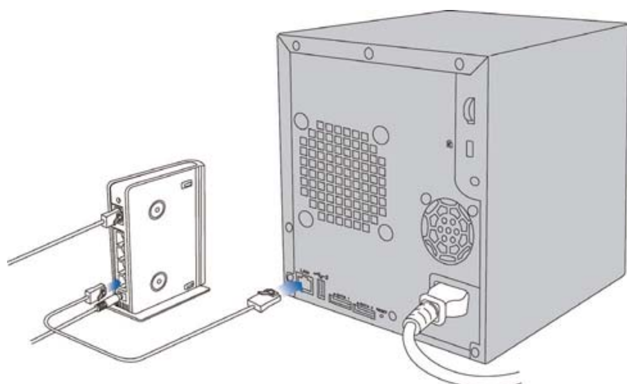
通常、ネットワーク内にブロードバンドルーターなどの「DHCP サーバー」となる機器がある場合は、ネットワークに接続すればそのまま本製品をご利用になれます。
ただし、ネットワーク内に DHCP サーバーとなる機器がない場合には、Macintosh パソコンを使って本製品の IP アドレスなどを変更する必要があります。

## STEP1 ネットワーク機器を確認する

ネットワーク内のパソコン、ルーター、アクセスポイントなどが正常に動作していることを確認します。

## STEP2 ネットワークにつなぐ

本製品の LAN ポートに添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をルーターやハブなどのネットワーク機器に接続します。



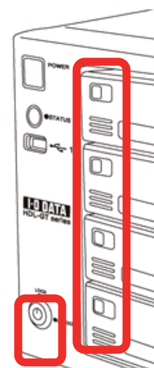
注意
●必ず LAN ケーブルを先に接続してください。
LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

## STEP3 電源を入れる

**1** 添付の「電源ケーブル」を本製品背面の[電源コネクター]に接続後、電源ケーブルを電源コンセントに接続します。
⇒電源コンセントに接続すると、前面の[POWER]ランプが赤色で点灯します。




**2** [カートリッジ固定ロック]が[LOCK]状態となっていること、また、4台の[カートリッジ]のすべてのスライドスイッチが左側の[LOCK]状態となっていることを確認します。



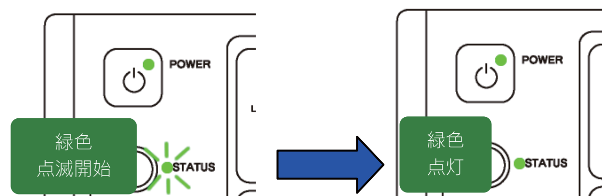
**3** 本製品前面の電源ボタンを押します。
「ピポッ」と音が鳴り[POWER]ランプが緑色に点灯します。

注意
●動作中に本製品のシャットダウンを完了せずに、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。

## STEP4 STATUS ランプを確認する

**1** しばらくすると、[STATUS]ランプが緑色で点滅し、約２分で緑色に点灯します。

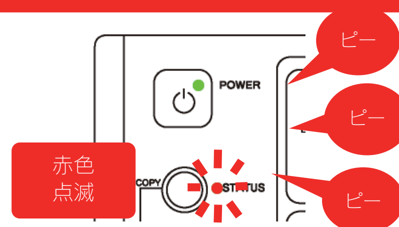
**2** 起動が完了すると、「ピー」と音が鳴ります。




### STATUS ランプが緑色で点灯している

以上でセットアップは完了です。これで、本製品を使用できる準備は整いました。
この後、以下の個所へお進みください。
【Mac OS から本製品にアクセスする】（31ページ）

### STATUS ランプが赤く点滅している




DHCP サーバーより IP アドレスを取得できない状態です。
以下の個所へお進みください。
【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（次ページ）

注意 ●ネットワーク内に DHCP サーバーがない場合、[STATUS]ランプは赤く点滅します。

ネットワーク内に DHCP サーバーがあるのに点滅している場合は、以下の手順を行ってみてください。

①いったん、本製品の[電源]ボタンを押して本製品の電源を切ります。
②DHCP サーバーが正しく動作していること、本製品とネットワーク機器が LAN ケーブルで正しく接続されていることを確認します。
③[電源]ボタンを押して、再度本製品の電源を入れます。
※DHCP サーバーがあるかどうかの確認方法については、別紙【必ずお読みください】裏面の【パソコンの IP アドレス】の項をご覧ください。

上記注意を確認しても改善されない場合は、【困ったときには】の以下の個所を参照してください。
【◆本製品起動時のトラブル】（227ページ）
【◆セットアップ時のトラブル（ネットワークへの導入時）】（231ページ）

注意 ●起動時の[ACCESS]・[STATUS]ランプの動作がおかしい場合、ブザーが鳴る場合については以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の【◆ランプやブザーについて】（257ページ）

# Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合

ネットワークに導入後（本製品起動後）、[STATUS]ランプが赤く点滅している場合は、本製品の IP アドレスは、Auto IP（169.254.xxx.xxx）に設定されています。

※Auto IP 環境のネットワークで本製品をご利用になる場合は、そのままご利用になれますが、固定 IP 環境のネットワークで本製品をご利用になる場合は、本製品にご利用のネットワークに応じた IP アドレスを設定する必要があります。設定画面は、設定用パソコンから Web ブラウザで本製品の IP アドレスを指定して開きます。[STATUS]ランプが赤く点滅している場合、本製品の IP アドレスは Auto IP[169.254.xxx.xxx]に設定されていますが、同時に[192.168.0.200]にも設定されています。以下の手順は、[192.168.0.200]の IP アドレスを使用して、設定画面を開き、ご利用のネットワークに応じた IP アドレスに設定する手順です。

## STEP1 本製品の IP アドレスを決める

**1** 現在ネットワークで使用している（IP アドレスを使用している）パソコンやネットワーク機器の IP アドレスとサブネットマスク・ルータ（アドレス）を確認し、メモします。（パソコンの IP アドレスの確認方法については、別紙【必ずお読みください】裏面の【パソコンの IP アドレス】をご覧ください。）

**2** 本製品の IP アドレスを決定し、メモします。（サブネットマスク、ルータ（アドレス）は上記で確認した値と同じ値をメモします。）

## STEP2 設定用パソコンのIPアドレスを一時的に変更する

本製品を設定するパソコンの IP アドレスを一時的に変更します。

本製品の IP アドレスを設定するために一時的に行うものです。
本製品の設定画面を開くには、パソコンの IP アドレスを本製品の IP アドレス（192.168.0.200）と同じセグメントで、かつ、別の IP アドレス（192.168.0.3 など）にする必要があるからです。
【STEP1】の手順で現在のパソコンの IP アドレスをメモしていなかった場合は、メモしておいてください。

**1** パソコンの[IP アドレス][サブネットマスク]を一時的に以下の値に変更します。
[IP アドレス]・・・192.168.0.xxx
(xxx には 200 を除く 1～254 のいずれかの値）
[サブネットマスク]・・・255.255.255.0

パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない
⇒以下の個所を参照してください。
【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】（279ページ）

注意 ●後で元の設定に戻しますので、必ず現在の[IP アドレス][サブネットマスク][（ルータ）アドレス]などはメモしておいてください。

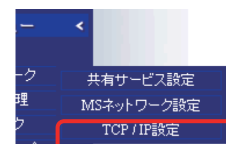
## STEP3 本製品のネットワーク設定をする

**1** 本製品の設定画面を開きます。
開き方については、以下の個所を参照してください。
【Macintosh パソコンから設定画面を開く】（40ページ）

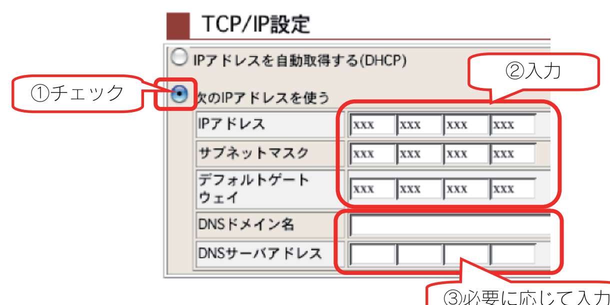
**2** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示 ＞ メニュー ＜ ログオフ

**3** [メニュー]の[ネットワーク]→[TCP/IP]を順にクリックします。




**4** [STEP 1]で決めた IP アドレスを設定します。
[次の IP アドレスを使う]をチェック後、本製品の[IP アドレス][サブネットマスク]の値を入力します。
[デフォルトゲートウェイ]には、メモした[ルータ(アドレス)]を入力します。入力後、[OK]ボタンをクリックします。




**5** [確認]画面で[OK]ボタンをクリックした後、[結果]画面が表示されたら、Web ブラウザを閉じます。

## STEP4 設定用パソコンのIPアドレスの設定を元に戻す

設定用パソコンの IP アドレスの設定を元に戻します。
設定用パソコンをネットワークに接続する場合は、変更した IP アドレス・サブネットマスク・ルータ（アドレス）を元に戻す必要があります。【STEP2】でメモした値に戻してください。

# Mac OS から本製品にアクセスする

ネットワークに導入した本製品にアクセスする方法を説明します。

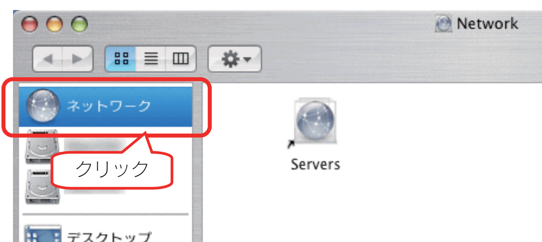
アクセス方法は OS により異なりますので、下記のご使用の OS を参照してください。


・Mac OS X(10.3 以降)から本製品にアクセスする（32ページ）
・Mac OS X(10.2.8 以前)から本製品にアクセスする（33ページ）
・Mac OS 8.1～9.2.2 から本製品にアクセスする（34ページ）

# Mac OS X(10.3 以降)から本製品にアクセスする

Mac OS X（10.3 以降）から本製品にアクセスする手順です。

**1** Finder を開き、[ネットワーク]をクリックします。




**2** しばらくすると[Local]アイコン（または[My Network]アイコン）が表示されます。
[Local]アイコン（または[My Network]アイコン）をダブルクリックします。



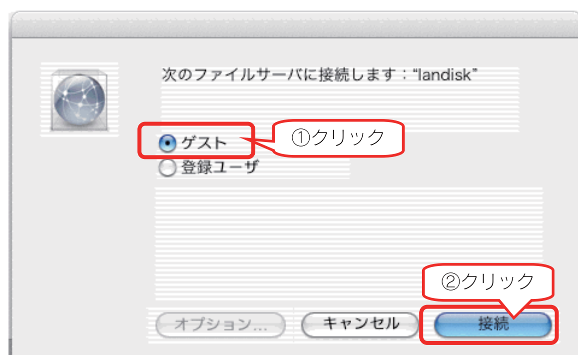

**3** 表示されている[landisk]アイコンをダブルクリックします。
何も表示されない場合は、しばらく待つと表示されます。
※本製品の[LANDISK の名前]を変更している場合は、設定した名前が表示されます。



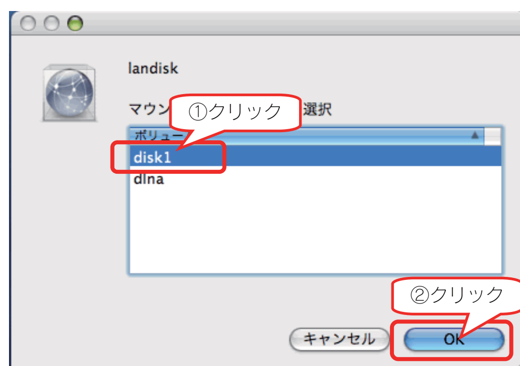



LANDISK が検索されない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の249ページ

**4** [ゲスト]を選択し、[接続]ボタンをクリックします。




**5** [disk1]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。




**6** デスクトップ上に[disk1]アイコンが表示されます。

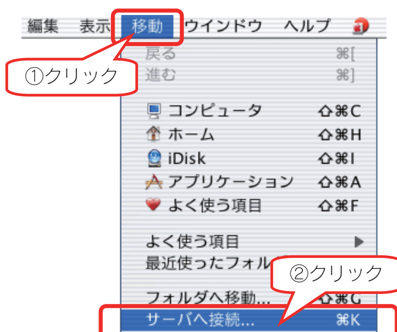



**7** [disk1]アイコンをダブルクリックすると、[disk1]フォルダのウィンドウが表示されます。
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザとファイルを共有することができます。

# Mac OS X(10.2.8 以前)から本製品にアクセスする

Mac OS X（10.2.8 以前）から本製品にアクセスする手順です。

**1** [移動]メニュー→[サーバへ接続]をクリックします。



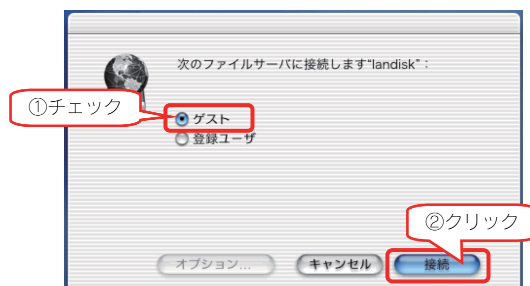

**2** 本製品に接続します。
①[サーバへ接続]画面で、[場所]で[ネットワーク]または[ローカルエリアネットワーク]を選択します。
②[Local]（または[ローカルネットワーク]）→[landisk]※をクリック後、[接続]ボタンをクリックします。
※本製品の[LANDISK の名前]を変更している場合は、設定した名前が表示されます。



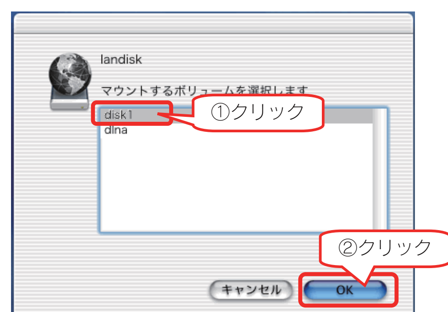



LANDISK が検索されない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の246ページ

**3** [ゲスト]を選択し、[接続]をクリックします。




**4** [disk1]を選択し、[OK]をクリックします。




**5** デスクトップ上に本製品の共有フォルダ（[disk 1]）がマウントされます。

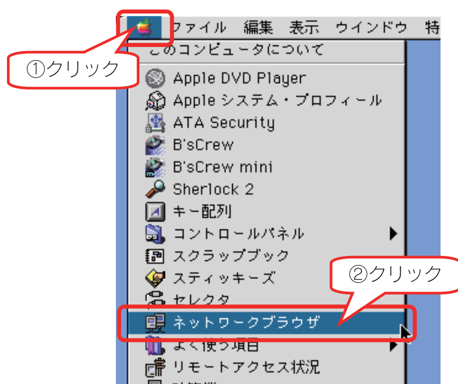



**6** [disk1]アイコンをダブルクリックすると、[disk1]フォルダのウィンドウが表示されます。
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザとファイルを共有することができます。

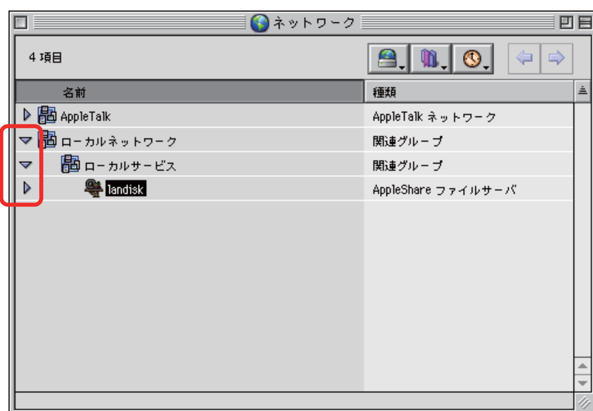
# Mac OS 8.1～9.2.2 から本製品にアクセスする

Mac OS 8.1～9.2.2 から本製品にアクセスする手順です。

**1** [アップルメニュー]→[ネットワークブラウザ]をクリックします。



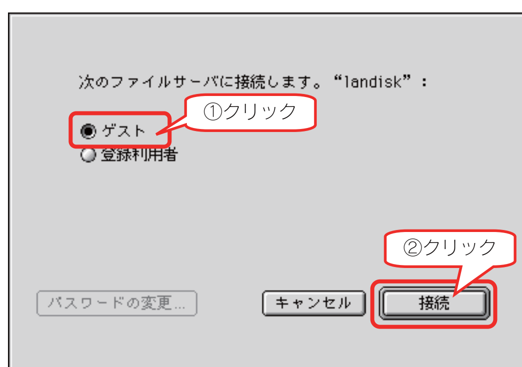

**2** [ローカルネットワーク]左の ▷ をクリックして、[ローカルサービス][landisk]を順に開きます。
※ご利用環境によっては[ローカルサービス]が表示されない場合もあります。



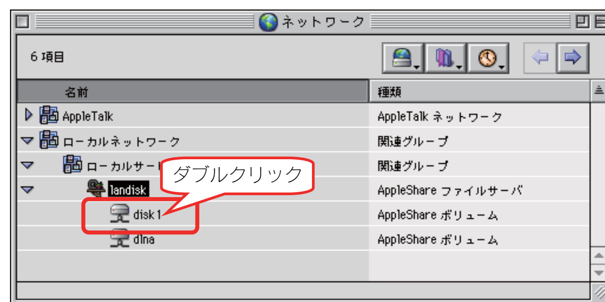



LANDISK が検索されない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の246ページ

**3** [ゲスト]を選択し、[接続]ボタンをクリックします。



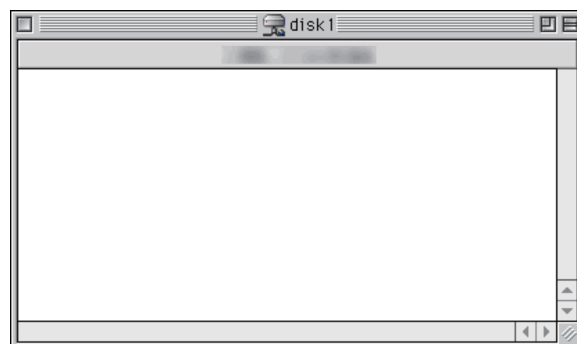

**4** [disk1]が表示されます。
[disk1]をダブルクリックします。




**5** デスクトップ上に[disk1]アイコンが表示されます。




**6** [disk1]アイコンをダブルクリックすると、[disk1]フォルダのウィンドウが表示されます。
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザとファイルを共有することができます。



# 本製品にファイルを読み書きする際の注意

本製品の[disk1]フォルダや新しく作成した共有フォルダ、あるいは、増設ハードディスクにファイルを読み書きする場合は、ご使用の前に、以下の項目を必ずご確認ください。

●本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。
（故障や万一に備えて定期的にバックアップをお取りください。）

●動作中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。

●本製品のファイルやフォルダに「読み取り専用」などの属性情報を設定することはできません。

●フォルダ名、ファイル名に使用できる文字の制限
本製品で使用できるフォルダ名やファイル名には制限があります。
また、増設ハードディスク内にすでに作成されているファイル名、フォルダ名によっては正しく表示されないものがあります。
詳細については、以下の個所を参照してください。
【文字制限一覧】（189ページ）

●各 OS でのファイルサイズによる制限
・Windows Me の場合、4GB 以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱えません。
・Windows 98（SE 含む）の場合、2GB 以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱えません。
・Mac OS(Clasic)の 場合、2GB 以上のファイルはネットワーク経由で扱えません。

●本製品にネットワーク経由で接続可能な Windows の端末数に制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。
・Windows の場合、推奨する同時接続台数は 16 台までとなります。
・Mac OS の場合、推奨する同時接続台数は 8 台までとなります。

●Windows 98 から本製品にファイルのコピー中に LAN ケーブルが抜けるなどして中断された場合、コピー途中のファイルが本製品上に残り消去できなくなる場合があります。この場合は、いったん本製品の電源を切り、再度起動してからコピー途中のファイルを削除し、コピーをやり直してください。

●Windows と Mac OS で共有してご利用になる場合、Windows 上から見ると、見覚えの無いファイル、フォルダが見える場合があります。これは、Mac OS で、フォルダを作成したりファイルをコピーした際は、作成したファイル（フォルダ）の他に、別のファイル（フォルダ）が作成されるためです。
このファイル（フォルダ）には、Mac OS ユーザ用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。

●NTFS 形式のハードディスクにネットワーク上から書き込みはできません。読み込み専用となります。
また、NTFS 形式の増設ハードディスクなど、読み込み専用設定の共有は、Mac ではアクセスすることはできません。

●共有フォルダを新規で作成できるのは、本製品内蔵ハードディスクのみです。
増設する FAT/NTFS 形式のハードディスクには作成できません。

●ファイルコピー中や動作中に増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
本製品の電源を切った後、増設用ハードディスクの ACCESS ランプを確認の上、電源を切ってください。

●増設ハードディスクに複数のパーティションがある場合、本製品で認識できるのは第 1 パーティションのみになります。

●[ごみ箱]機能を有効にした場合、[ごみ箱]フォルダ内のファイルは自動的には消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに[ごみ箱]フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に[ごみ箱]フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。

# 本製品の設定画面




▼[情報表示]メニュー

| 項目 | 表示内容 | 参照ページ |
|---|---|---|
| システム情報 | 本製品のシステムに関する各種情報を表示します。 | 195 |
| ネットワーク情報 | ネットワークに関する情報を表示します。 | 196 |
| ボリューム情報 | 内蔵および増設ハードディスクに関する情報を表示します。 | 197 |
| ログ情報 | ログ情報を表示します。 | 200 |

▼[メニュー]メニュー

| 項目 | 設定内容 | 参照ページ |
|---|---|---|
| ネットワーク | ネットワークに関する設定です。 | |
| 共有サービス設定 | ファイル共有、DLNA サーバ、FTP サービスの設定です。 | 201 |
| MS ネットワーク設定 | 本製品のネットワーク上での名前、ワークグループ、ドメインに関する設定です。 | 202 |
| TCP/IP 設定 | 本製品の IP アドレス、ジャンボフレームの設定です。 | 203 |
| 共有管理 | 共有に関する設定です。 | |
| 共有フォルダ管理 | 共有フォルダの作成、変更の設定です。 | 204 |
| ユーザ管理 | 本製品に登録するユーザの設定です。 | 207 |
| グループ管理 | 本製品に登録するグループの設定です。 | 208 |
| ディスク | ディスクに関する設定です。 | |
| ボリューム操作 | 各ボリュームのフォーマット、チェックディスクなどを操作する設定です。 | 209 |
| ボリューム設定 | 内蔵ボリュームの RAID モード、eSATA ディスクのミラーリングモード、USB ポート 1 のクイックコピーモードの設定です。 | 210 |
| アクティブリペア | アクティブリペアによるディスクチェックの設定です。 | 211 |
| ディスク省電力 | ディスク省電力の設定です。 | 212 |
| バックアップ | データのバックアップに関する設定です。 | |
| セルフバックアップ | 本製品上のデータを指定先の共有フォルダにバックアップする設定です。 | 213 |
| リモートバックアップ | ネットワーク上の共有フォルダのデータを本製品にバックアップする設定です。 | 214 |
| メール通知 | メール通知に関する設定です。 | |
| メール基本設定 | 本製品のログ情報などをメール送信するための基本的なメール設定です。 | 215 |
| メール通知設定 | システムログやバックアップログなどの各メール通知の設定です。 | 216 |
| 使用量通知設定 | 空き容量警告と使用量レポート通知の設定です。 | 217 |
| システム | 各種システム関連の設定です。 | |
| システム時刻 | 本製品の時刻の設定です。 | 218 |
| 起動スケジュール | 本製品の起動スケジュールの設定です。 | 218 |
| ランプの明るさ | 前面ランプの明るさの設定です。 | 219 |
| プリントバッファクリア | プリンタ使用時のプリントバッファクリアの設定です。 | 219 |
| UPS 設定 | UPS 装置使用時の設定です。 | 219 |
| シャットダウン | 本製品のシャットダウンの設定です。 | 219 |
| システム初期化 | システム初期化の設定です。 | 220 |
| ファームウェア更新 | ファームウェア更新の設定です。 | 220 |
| 定期警告 | 定期警告の設定です。 | 220 |
| メロディ | ランプとブザーにより本製品の位置を知らせる設定です。 | 220 |
| 管理者パスワード変更 | 本製品の管理者用のパスワード設定です。 | 221 |

▼[ヘルプ]ボタン

画面右上の本ボタンをクリックすることで、各設定画面の各項目のヘルプを表示させることができます。
再度、クリックすればこのヘルプ機能を終了することができます。

# 設定画面の開き方

本製品の設定画面の開き方を説明します。

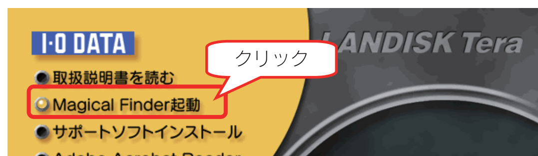
方法は OS により異なりますので、下記のご使用の OS をクリックしてください。

Windowsパソコンから設定画面を開く（38ページ）
Macintosh パソコンから設定画面を開く（40ページ）

# Windows パソコンから設定画面を開く

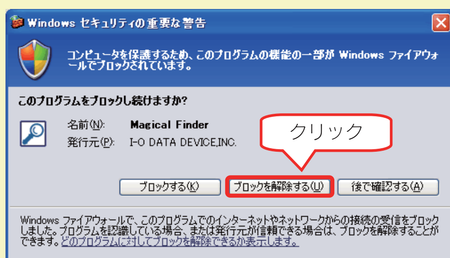
Windows パソコンからの本製品の設定画面の開き方を説明します。

**1** 添付 CD-ROM をセットし、起動してきたサポートソフトメニューの[MagicalFinder 起動]をクリックし、[MagicalFinder]を起動します。




注意

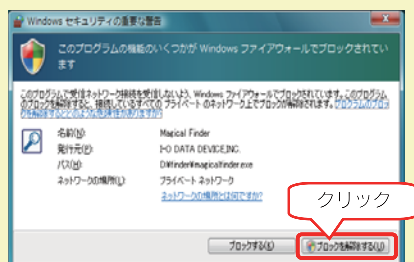
●Windows XP SP2 をお使いで以下の画面が表示された場合は、[ブロックを解除する]をクリックしてください。




●Windows Vista®をお使いで、CD-ROM を挿入すると、以下の画面が表示された場合、[Autorun.exe の実行]をクリックしてください。

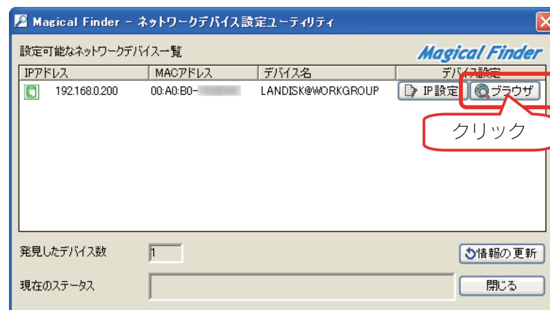



●Windows Vista®をお使いで、以下の画面が表示された場合、[ブロックを解除する]をクリックしてください。




サポートソフトメニューが表示されていない場合
①[マイコンピュータ]を開きます。
※Windows Vista®では[スタート]→[コンピュータ]をクリックします。
②HDL-GTRxxx」※アイコンをダブルクリックします。
※xxx にはサポートソフトのバージョンが表示されます。
(サポートソフトメニューが表示されない場合は、さらに[Autorun.exe]アイコンをダブルクリックしてください。)

**2** 自動で本製品が検索されますので、[ブラウザ]ボタンをクリックします。
※本製品の電源が ON になってから、検索されるまでに約 1～2 分かかる場合があります。




本製品が検索されない！

対処１：30 秒ほど待ってから[情報の更新]ボタンをクリックしてください。
対処２：以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の231ページ

**3** しばらくお待ちになると、以下の画面が表示されます。
[管理者用設定ページを開く]をクリックします。




ユーザー用設定ページを開く

管理者用設定ページを開く　クリック

**4** [管理者パスワードの入力]画面が表示されます。
管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、[OK]ボタンをクリックします。

**管理者パスワードの入力**

※管理者パスワードがわからない場合、CD-ROM内の取扱説明書をご参照く

OK　クリア

出荷時の場合は、何も入力しない

クリック



「管理者パスワードが違います」と表示された！

**管理者パスワードが違います**

対処：以下をご覧ください。
【困ったときには】の251ページ

**5** 本製品の設定画面が表示されます。

## システム情報

### システムの情報

| | |
|---|---|
| システムバージョン | 1.[illegible] |
| 現在時刻 | 2007年01月23日 10時30分10秒 |
| タイムサーバとの時刻同期 | 無効 |
| 有効な共有サービス | Microsoftネットワークファイル共有<br>AppleShareネットワークファイル共有<br>DLNA Server |
| 内蔵ボリューム1の動作モード | RAID5(分散パリティ) |
| クイックコピー | 有効 |
| セルフバックアップ | スケジュール無効 |
| リモートバックアップ | スケジュール無効 |
| ディスク省電力 | なし |
| ランプの明るさ | 明 |
| 起動スケジュール | 無効 |
| 筐体内温度 | 31 ℃ |
| メインFAN回転数 | [illegible] rpm |
| UPS接続状態 | 未接続 |
| UPSバッテリー充電容量 | 取得できません |
| UPS警告機能 | 無効 |

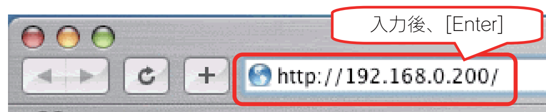
# Macintosh パソコンから設定画面を開く

Macintosh パソコンからの本製品の設定画面の開き方を説明します。

**1** Web ブラウザを起動して下記を入力し、[Enter]キーを押します。

http://本製品の IP アドレス/

▼本製品の IP アドレスが[192.168.0.200]の場合の例

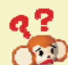



**●DHCP サーバーがある場合の「本製品の IP アドレス」**

DHCP サーバーから本製品に割り当てられている IP アドレスをご確認ください。
ご使用のブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーが、本製品に割り当てた IP アドレスの情報を記録している場合があります。詳しくは、DHCP サーバーとなっている機器の取扱説明書などをご覧ください。

**●DHCP サーバーがない場合の「本製品の IP アドレス」**

本製品に設定した IP アドレスを入力してください。



Mac と本製品を直接接続した後、設定画面が表示されない！

⇒以下の個所を参照してください。

【◆セットアップ時のトラブル（ネットワークへの導入時）】（228ページ）



本製品の IP アドレスを忘れてしまった！

ネットワーク内に Windows パソコンがある場合は、Windows パソコンから確認してください。
以下の個所を参照してください。

【本製品に設定されている IP アドレスを調べたい】（252ページ）

Mac OS パソコンしかない場合は、 確認する方法はありません。本製品から LAN ケーブルを取り外した後、RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定（192.168.0.200）に戻してください。
以下の個所を参照してください。

【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】（156ページ）

出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。

**2** しばらくお待ちになると、以下の画面が表示されます。[管理者用設定ページを開く]をクリックします。







**3** [管理者パスワードの入力]画面が表示されます。管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、[OK]ボタンをクリックします。

管理者パスワードの入力

※管理者パスワードがわからない場合、CD-ROM内の取扱説明書をご参照

出荷時の場合は、何も入力しない

OK　クリア

クリック



「管理者パスワードが違います」と表示された！

管理者パスワードが違います

対処：以下をご覧ください。

【困ったときには】の251ページ

**4** 本製品の設定画面が表示されます。

■ システム情報

■ システムの情報

| | |
|---|---|
| システムバージョン | 1. |
| 現在時刻 | 2007年01月23日 10時30分10秒 |
| タイムサーバとの時刻同期 | 無効 |
| 有効な共有サービス | Microsoftネットワークファイル共有<br>AppleShareネットワークファイル共有<br>DLNA Server |
| 内蔵ボリューム1の動作モード | RAID5(分散パリティ) |
| クイックコピー | 有効 |
| セルフバックアップ | スケジュール無効 |
| リモートバックアップ | スケジュール無効 |
| ディスク省電力 | なし |
| ランプの明るさ | 明 |
| 起動スケジュール | 無効 |
| 筐体内温度 | 31 ℃ |
| メインFAN回転数 | rpm |
| UPS接続状態 | 未接続 |
| UPSバッテリー充電容量 | 取得できません |
| UPS警告機能 | 無効 |

# RAID モードの変更

# 本製品で設定できるRAIDモード

本製品内蔵ハードディスク（４つのカートリッジ）は、出荷時 RAID5（分散パリティ）で構成されています。RAID モードは、設定画面で別の RAID モードに変更することもできます。本製品では、以下の４つの RAID モードに設定することができます。
※４つのハードディスクを別々のハードディスクとして使用することはできません。

注意 ●本製品で RAID 設定を変更すると、それまで RAID ボリュームに保存されていたデータはすべて失われます。
あらかじめ、データをバックアップしてから RAID 構成を変更するか、初期状態からすぐに構成変更してください。
●本製品のRAID構成されているハードディスクカートリッジは、障害発生時以外には取り外さないでください。
不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID構成が崩壊して全てのデータを失う危険性があります。
カートリッジを取り外す際は、【カートリッジの扱い方】（14ページ）をご確認ください。

| | |
|---|---|
| RAID0<br>（ストライピング） | 内蔵ディスク１～４で RAID0（ストライピング）を構成し、１つのボリュームとして使用できます。<br>ディスクの使用効率とシステムパフォーマンスが最も高いモードですが、データの保護機能はありません。 |
| RAID5<br>（分散パリティ） | 内蔵ディスク１～４で RAID5（分散パリティ）を構成し、１つのボリュームとして使用できます。<br>ディスクの使用効率とシステムパフォーマンス、およびデータの保護機能のバランスのよいモードです。 |
| RAID5<br>（分散パリティ）<br>＋FAT/NTFS | RAID5 のボリュームに加えて、内蔵ディスク４を取り外しが可能な FAT/NTFS モードで使用できます。パソコンとのデータのやり取りをカートリッジの交換をおこなうことによってできるので、大量のデータをネットワークに公開したい場合やカートリッジタイプの他製品とのデータ交換に便利です。内蔵ディスク１～３で RAID5（分散パリティ）を構成し、１つのボリュームとして使用できます。内蔵ディスク４を FAT/NTFS ディスク共有として使用できます。 |
| RAID1+0<br>（ミラーストライピング） | ディスクの利用効率は低いですが、データ保護機能が最も高いモードです。<br>内蔵ディスク１、３および内蔵ディスク２、４で２つのミラーリングペアを構成し、２つのミラーリングペアをさらにストライピングすることにより、１つのボリュームとして使用できます。<br>また、ディスクセットの保管機能により、内蔵ディスク１、２（上２つ）または内蔵ディスク３、４（下２つ）をディスクセットとして取り外し、内蔵ボリューム、及びシステム全体のバックアップとして保管することができます。<br>トラブル発生時は、保管したディスクセットを接続してシステムを起動すると、ディスクセットを保管した時点のシステムの状態（内蔵ボリュームの共有データ、登録ユーザ/グループ情報、その他各種設定）まで戻ることができます。 |

| <各 RAID モードの比較> | | RAID0<br>（ストライピング） | RAID5<br>（分散パリティ） | RAID5（分散パリティ）<br>＋FAT/NTFS | RAID1+0<br>（ミラーストライピング） |
|---|---|---|---|---|---|
| ディスクの使用効率 | | 高<br>（すべてデータ領域として使用） | 中<br>（3/4 がデータ領域、1/4 は保護領域） | 中<br>（2/3 がデータ領域、1/3 は保護領域） | 低<br>（2/4 がデータ領域、2/4 は保護領域） |
| システムパフォーマンス | | 高<br>（ストライピングによる高速化） | 低<br>（パリティ生成のオーバヘッド） | 低<br>（パリティ生成のオーバヘッド） | 中<br>（ストライピングの高速化とミラーリングのオーバーヘッド） |
| データの保護機能 | | なし<br>（1 台故障でボリューム崩壊） | 中<br>（1 台故障に対応、2 台故障でボリューム崩壊） | 中<br>（1 台故障に対応、2 台故障でボリューム崩壊） | 高<br>（最大 2 台故障に対応※1、3 台故障でボリューム崩壊） |
| 利用可能なディスク容量 | HDL-GT1.0 | 約 1TB | 約 750ＧＢ | 約 500GB※2 | 約 500GB |
| | HDL-GT1.6 | 約 1.6TB | 約 1.2TB | 約 795GB※2 | 約 795GB |
| | HDL-GT2.0 | 約 2TB | 約 1.5TB | 約 1TB※2 | 約 1TB |
| | HDL-GT3.0 | 約 3TB | 約 2.2TB | 約 1.5TB※2 | 約 1.5TB |
| | HDL-GT4.0 | 約 4TB | 約 3TB | 約 2TB※2 | 約 2TB |

※1 同じミラーリングペアが破損した場合は、ボリューム崩壊を招きます。
※2 スロット4のＦＡＴ／ＮＴＦＳドライブの容量を除いた容量です。

# RAID モードを変更する際の注意

## ●変更する前に

・RAID モードを切り替えるには、必ずカートリッジが４台とも接続されている必要があります。
・内蔵ハードディスク（４台）はすべてフォーマットされます。
RAID5+FAT/NTFS モードを他の RAID に切り替えると FAT データも消去されます。
本製品内にデータが保存されている場合は、RAID モード変更前に必ず必要なデータはバックアップしてください。

## ●変更時

・RAID モードを変更すると、RAID 構築に移ります。
・RAID モードの切り替え処理自体は数分で終わりますが、構築完了までにかなり時間がかかる場合があります。
・RAID 構築作業はバックグラウンドで実行されているため、構築中であっても本製品を通常通り使用できますが、構築中に以下の操作はできません。また、RAID 構築中は、データ保護されません。
1. eSATA ハードディスクとのミラーリング
2. RAID1+0 でのミラーセットの保管
3. アクティブリペア

＜RAID モード変更後の構築までの所要時間＞

| 変更する RAID モード | RAID0<br>（ストライピング） | RAID5<br>（分散パリティ） | RAID5（分散パリティ）<br>＋FAT/NTFS | RAID1+0<br>（ミラーストライピング） |
|---|---|---|---|---|
| RAID 構築までの時間※1 | 約２分※2 | 約４．５時間 | 約４．５時間 | 約１．５時間 |

※1 表示されている時間は、ネットワークに HDL-GT1.0 を接続し、ファイル共有などの操作をしない状態で測定した値です。
構築中に設定変更やファイル操作を行うと、上記以上の時間を要します。
また、HDL-GT2.0 の場合は、上記の約２倍の時間を要します。

※2 RAID0（ストライピング）の所要時間は、他の RAID モードから切り替えるときにかかる時間の実測値です。

# 現在の RAID モードを確認する

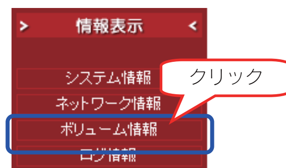
現在の RAID モードは、[システム情報]画面、[ボリューム情報]画面、[ボリューム設定]画面、[ボリューム操作]画面で確認することができます。

ここでは、[ボリューム情報]画面での確認手順について説明します。

**1** 本製品の設定画面の情報表示メニューをクリックします。




**2** 情報表示メニューの[ボリューム情報]をクリックします。




**3** 内蔵ハードディスクをクリックします。

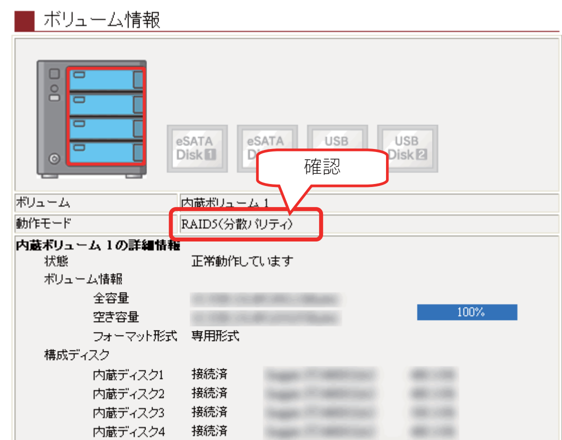



●表示色での各ディスク状態

| 色 | 状態 |
|---|---|
| 水色 | 接続済み、正常に動作中 |
| グレー | 接続済み、停止中 |
| 赤 | 接続済み、エラー発生 |
| 白 | 未接続 |

**4** [動作モード]欄に現在の RAID モードが表示されます。

▼RAID5 での表示例




●各 RAID モードでの動作モードの表示

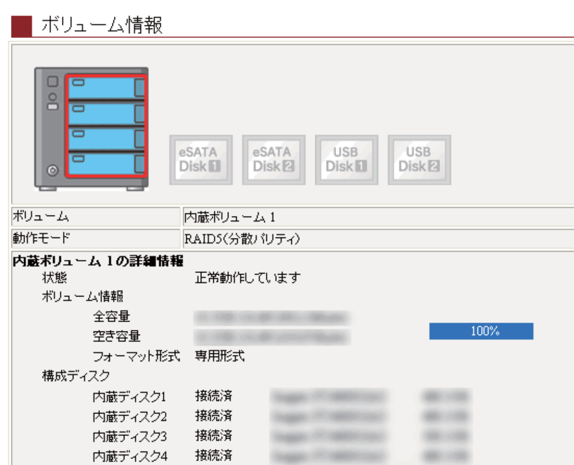
| RAID モード | 表示される[動作モード] |
|---|---|
| RAID5 | RAID5（分散パリティ） |
| RAID5+FAT/NTFS | RAID5（分散パリティ） |
| RAID1+0 | RAID1+0（ミラーストライピング） |
| RAID0 | RAID0（ストライピング） |

# RAID モードの各表示

RAID の動作モードによって、設定画面で表示される内容は異なります。
また、RAID5+FAT/NTFS の場合、ネットワーク上での表示は、他の RAID モードと異なります。

## ●RAID5 の場合(分散パリティ)

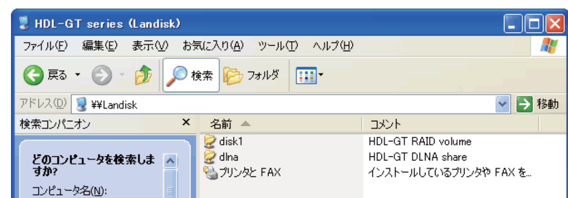
[ボリューム情報]の表示




[共有フォルダ]の表示

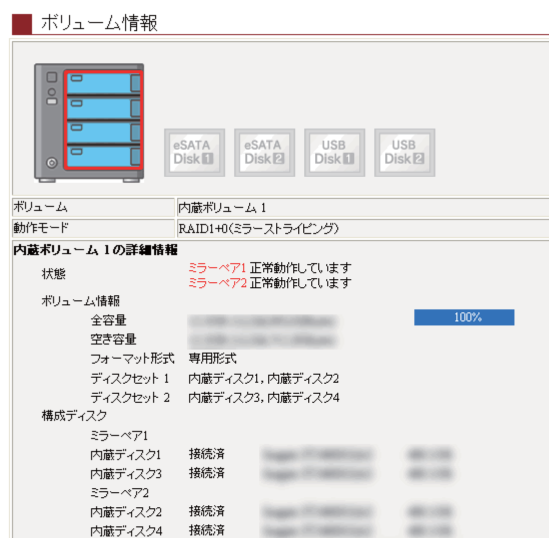



ネットワーク上での表示（Windows XP での表示例）




## ●RAID1+0 の場合（ミラーストライピング）

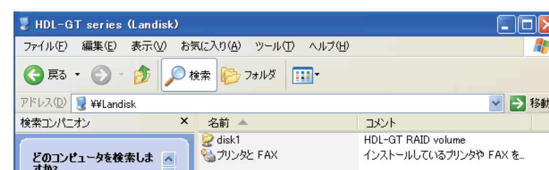
[ボリューム情報]の表示




[共有フォルダ]の表示



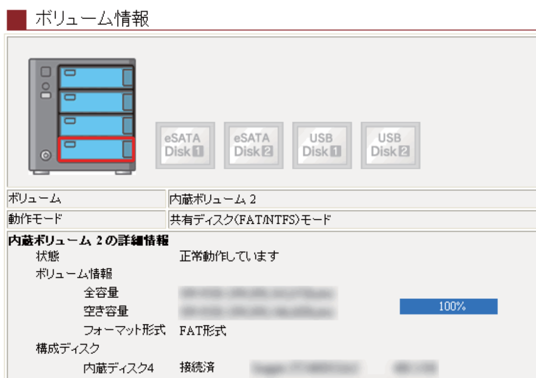

ネットワーク上での表示（Windows XP での表示例）



## ●RAID5+FAT/NTFS の場合（分散パリティ+FAT/NTFS）

[ボリューム情報]の表示

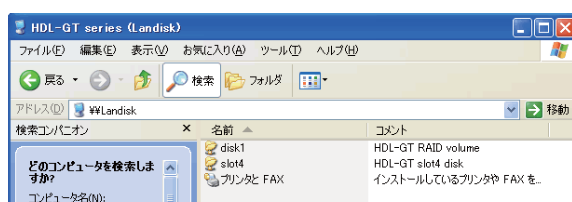



[共有フォルダ]の表示

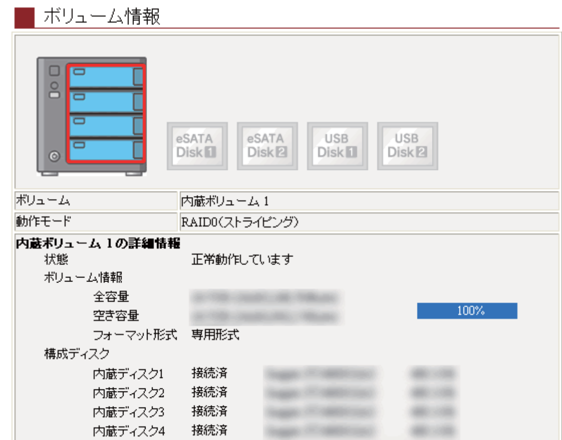



ネットワーク上での表示（Windows XP での表示例）




## ●RAID0 の場合（ストライピング）

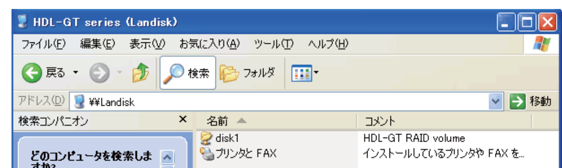
[ボリューム情報]の表示




[共有フォルダ]の表示




ネットワーク上での表示（Windows XP での表示例）



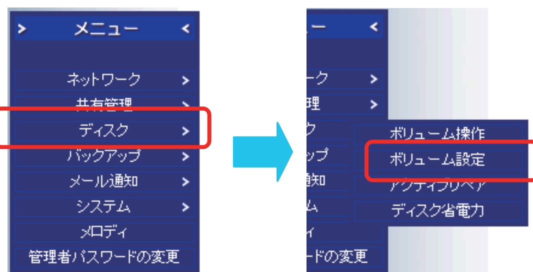
# RAIDモードを変更する

現在の RAID モードを他の RAID モードに変更することができます。
ここでは、出荷時の[RAID5]モードを[RAID5+FAT/NTFS]モードに切り替える手順について説明します。
※RAID モードを切り替えると、内蔵ボリュームすべてのデータが消去されます。ご注意ください。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



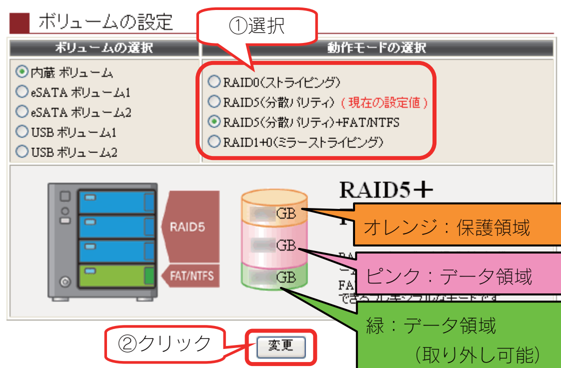

**2** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム設定]を順にクリックします。




**3** [内蔵ボリューム]での[動作モードの選択]で変更する RAID モードにチェック後、[変更]ボタンをクリックします。

以降、画面および操作は[RAID5+FAT/NTFS]（「RAID5（分散パリティ）+FAT/NTFS」）を選択した場合を例にします。

**ボリューム設定**




**4** [OK]ボタンをクリックします。

**ボリューム設定**

内蔵 ボリュームの設定を変更しようとしています。

内蔵 ボリュームの動作モードをRAID5(分散パリティ)+FAT/NTFSに変更します。
内蔵 ボリュームの動作モードを変更すると、現在の内蔵 ボリュームのすべてのデータが消去されます。
また、内蔵ディスク4はFAT32形式でフォーマットします。
必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。

変更してもよろしいですか

クリック　OK　戻る

削除される共有フォルダ一覧

**5** [OK]ボタンをクリックします。




**6** 数分後、[結果]画面が表示されます。

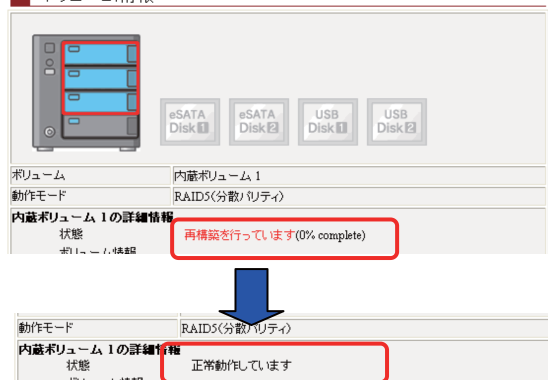
**結果**

内蔵 ボリュームの動作モードをRAID5(分散パリティ)+FAT/NTFSに変更しました

以上で RAID モードの変更は完了です。
変更した RAID モードに応じたディスクの構築が完了するまでに、かなり時間がかかる場合がありますが、ディスクの構築自体はバックグラウンドで実行されているため、操作上特に問題はありません。

注意
●構築が完了しないと RAID によるデータ保護はされません。
●RAID 0（ストライピング）の場合、構築作業はありません。

現在の構築状態は、[ボリューム情報]画面で確認することができます。[状態]が「正常動作しています」となれば構築完了です。




再度状態を確認するには、[情報表示]→[ボリューム情報]をクリックしてください。
一度開いた[ボリューム情報]画面の情報は、再度[ボリューム情報]画面を開かないと更新されません。

# 操作編

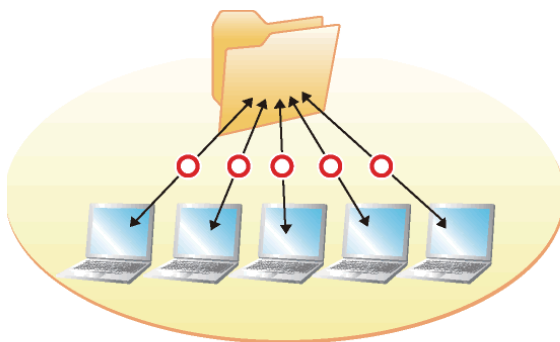
# 共有フォルダを使う

# 共有フォルダのアクセス権

本製品の設定画面上で作成できる「共有」（アクセス権限）には以下の３つ（全共有、ユーザ共有、グループ共有）の種類があります。

## 全共有　全てのユーザに許可

ネットワークに接続されている全てのパソコンから自由にファイルの読み書きができる共有です。
ネットワークにログイン時のユーザ名やパスワードに関係なく、そのままでアクセスできますので、ユーザ管理やグループ管理を行う必要がありません。
本製品に初期設定で登録されている「disk1」と「dlna」フォルダも全共有のフォルダになります。

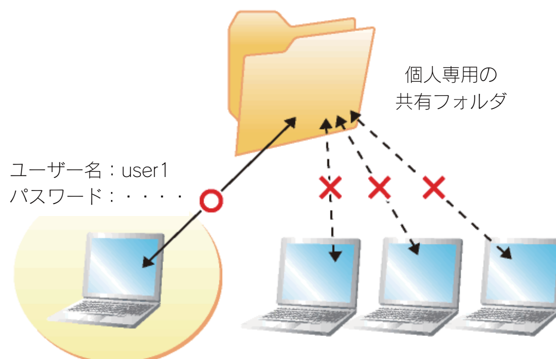


有効にできる共有サービス：

〇Microsoft ネットワークファイル共有
〇AppleShare ネットワークファイル共有
〇DLNA Server で公開
〇Anonymous FTP を許可
×User FTP を許可

## ユーザ共有　指定ユーザのみ許可

特定の単一ユーザのみが読み書きできる共有です。
この共有にアクセスするためには、ネットワークにログイン時に特定ユーザのユーザ名、パスワードの入力が必要です。
特定のユーザ以外でも共有フォルダの存在を知ることはできますが、中に入ってファイルを見たり、ファイルやフォルダを作成することはできません。
本製品でこの共有を作成するためには、まず本製品にユーザ登録が必要です。

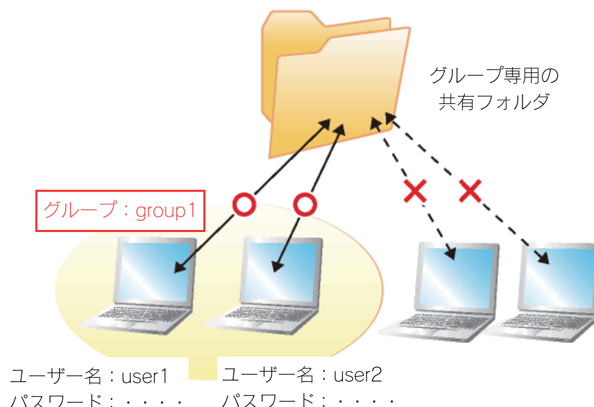



有効にできる共有サービス：

〇Microsoft ネットワークファイル共有
〇AppleShare ネットワークファイル共有
×DLNA Server で公開
×Anonymous FTP を許可
〇User FTP を許可

## グループ共有　指定グループのみ許可

特定の単一グループのみが読み書きできる共有です。
この共有にアクセスするためには、ネットワークにログイン時に特定ユーザのユーザ名、パスワードの入力が必要です。
特定のグループに登録されているユーザ以外でも共有フォルダの存在を知ることはできますが、中に入ってファイルを見たり、ファイルやフォルダを作成することはできません。
本製品でこの共有を作成するためには、まず本製品にユーザ登録、次にグループ登録が必要です。



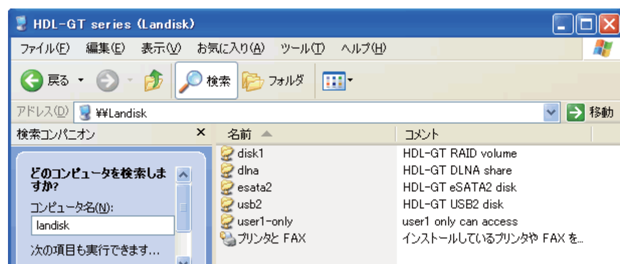

有効にできる共有サービス：

〇Microsoft ネットワークファイル共有
〇AppleShare ネットワークファイル共有
×DLNA Server で公開
×Anonymous FTP を許可
×User FTP を許可

# ネットワーク上での本製品の表示

本製品や本製品に接続した増設ハードディスクへのファイルの読み書き（アクセス）は、ネットワーク上から行います。
ネットワーク上から本製品に作成した、あるいは作成されている共有フォルダを通して、ネットワーク上の複数台のパソコンでファイルを共有することができます。
以下は、ネットワーク上から本製品にアクセスした場合に表示されている共有フォルダの例です。

▼Windows XP パソコンから
本製品の共有フォルダを表示させた例




▼Mac OS X パソコンから
本製品の共有フォルダを表示させた例




| 共有フォルダ名 | 説明 |
|---|---|
| disk1 | 本製品出荷時にすでに作成されている内蔵ハードディスクの共有フォルダです。<br>アクセス権限は[全てのユーザに許可]として作成されているため、すべてのユーザからアクセスできます。 |
| dlna | 本製品出荷時にすでに作成されている DLNA クライアント公開用の共有フォルダです。<br>DLNA で公開するコンテンツのみ入れてください。<br>アクセス権限は[全てのユーザに許可]として作成されているため、すべてのユーザからアクセスできます。 |
| esata2 | 本製品の[eSATA ポート２]に接続した eSATA ハードディスクです。<br>FAT あるいは NTFS 形式の場合は、接続すれば、この共有フォルダが表示されます。<br>※eSATA ハードディスクを[eSATA ポート１]に接続した場合は、[esata1]と表示されます。<br><br>増設ハードディスクの使い方については、以下の個所を参照してください。<br>【ハードディスクやプリンタを増設する】（69ページ） |
| usb2 | 本製品の[USB ポート２]に接続した USB ハードディスクです。<br>FAT あるいは NTFS 形式の場合は、接続すれば、この共有フォルダが表示されます。<br>※USB ハードディスクを[USB ポート１]に接続した場合は、[usb1]と表示されます。<br><br>増設ハードディスクの使い方については、以下の個所を参照してください。<br>【ハードディスクやプリンタを増設する】（69ページ） |
| user1-only | 本製品の設定画面（[共有フォルダ管理]画面）から新規で作成した共有フォルダの例です。<br>アクセス権限を[指定ユーザのみ許可]として作成した共有フォルダで、共有フォルダ作成時に指定したユーザのみからアクセスできます。<br>共有フォルダの作成方法については、以下の個所を参照してください。<br>【共有フォルダを作成する】（53ページ） |
| プリンタと FAX（プリンタ） | OS 標準のアイコンです。Windows XP/2000 のみ表示さます。（Windows 2000 の場合は、「プリンタ」と表示されます。）<br>削除することはできません。 |

# [ごみ箱]フォルダについて

ごみ箱機能が有効となっている共有フォルダからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、一旦[ごみ箱]フォルダに保管されます。
ごみ箱機能は、初期設定で無効となっています。
（設定は、[共有設定]→[共有フォルダ]画面で行います。新しく[ごみ箱機能]を有効・無効にする共有フォルダを作成したり、すでに作成済みの共有フォルダに[ごみ箱機能]を有効・無効に設定することもできます。）

| | | |
|---|---|---|
| 新規で[ごみ箱機能]を有効にする共有フォルダを作成する場合 | → | 【共有フォルダを作成する】（53ページ） |
| すでに作成済みの共有フォルダに[ごみ箱機能]を有効･無効にする場合 | → | 【共有フォルダの設定を変更する】（60ページ） |
| [ごみ箱]フォルダからファイルを戻す手順 | → | 【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（59ページ） |

▼[disk1]フォルダの[ごみ箱機能]が有効にされている例
（[disk1]フォルダ下のファイルを消去すると[ごみ箱]フォルダが自動で作成されます）







注意

●Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。

●[ごみ箱]フォルダ内のファイルは自動的には消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに[ごみ箱]フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に[ごみ箱]フォルダ内のファイルを削　除されることをお勧めします。

●[ごみ箱]フォルダ内のファイルを削除すると、該当ファイルはハードディスクから完全に消去されますのでご注意ください。

●[ごみ箱]フォルダは、ファイルを消去してはじめて表示されます。

●ご利用のアプリケーションによっては、その動作中にファイル作成→削除を繰り返すものがあります。
知らない内に[ごみ箱]フォルダにファイルが大量に存在している場合がありますので、定期的に[ごみ箱]フォルダ内を確認することをおすすめします。

# 共有フォルダを作成する

## ユーザを登録する

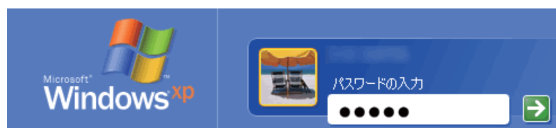
### STEP1 アクセスユーザを確認する

特定のユーザのみがアクセスできる共有フォルダを作成する場合は、そのユーザのネットワークにログオン時の[ユーザ名]と[パスワード]を確認しておく必要があります。（確認した[ユーザ名]と[パスワード]を、後で設定画面に登録します。）

**1** 作成する共有フォルダにアクセスさせるユーザのネットワークにログオン時の[ユーザ名]と[パスワード]を確認し、メモします。

この[ユーザ名]と[パスワード]を後で本製品の設定画面に登録します。

▼Windows XP でのネットワークログオン時の[ユーザ名]と[パスワード]







[ユーザ名][パスワード]を後で設定画面で登録しますが、設定できる文字には、以下の制限があります。
以下の個所を参照してください。
【文字制限一覧】（186ページ）

### STEP2 本製品にユーザを登録する

メモした[ユーザ名]と[パスワード]を、本製品の設定画面でユーザとして登録します。

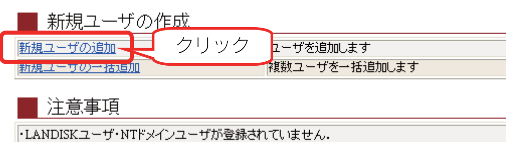
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



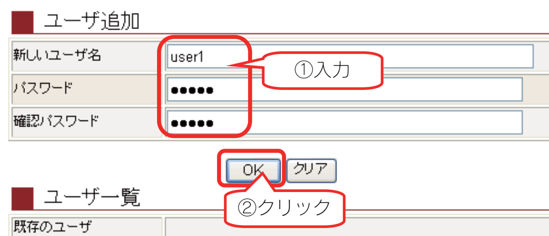

**2** [メニュー]の[共有管理]→[ユーザ管理]順にクリックします。




**3** [新規ユーザの追加]をクリックします。

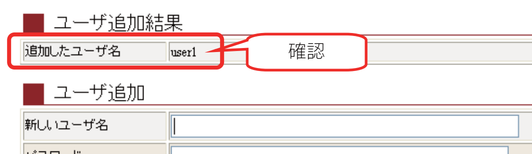



**4** 左の STEP1 の手順でメモした[ユーザ名]を[新しいユーザ名]欄に入力します。
メモした[パスワード]を、[パスワード]、[確認パスワード]欄に入力後、[OK]ボタンをクリックします。




**5** [ユーザ追加結果]の画面が表示されます。
ユーザが追加されていることをご確認ください。

これで、ユーザ：user1 が本製品に登録されました。



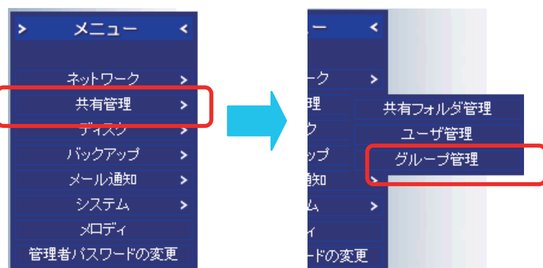

以上でユーザの登録は終了です。

# グループを登録する

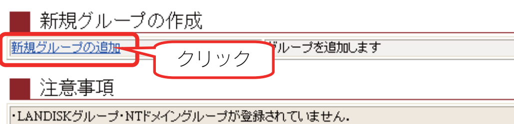
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[共有管理]→[グループ管理]順にクリックします。

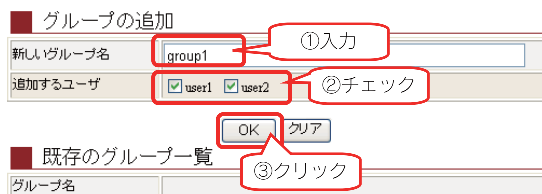



**3** [新規グループの追加]をクリックします。




**4** [新しいグループ名]にグループ名を入力後、[追加するユーザ]でグループに追加するユーザにチェックし、[OK]ボタンをクリックします。
※[新しいグループ名]として使用できる文字については、以下の【注意】をご覧ください。

▼以下は、"group1"というグループを登録する場合の例です。




注意

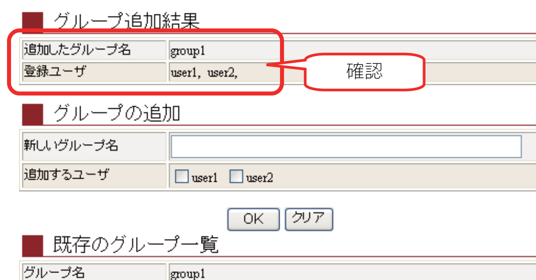
●ユーザ名とグループ名には同一の名称は使用できません。
（グループ名と共有フォルダ名には同一の名称が使用できます。）。

●1 グループに登録可能なユーザは 300 ユーザまでとなります。

●その他、グループ名で使用できる文字には、制限があります。
以下の個所を参照してください。
【文字制限一覧】（186ページ）

**5** [グループ追加結果]の画面が表示されます。
グループが追加されていることをご確認ください。

これで、グループ：group1 が本製品に登録されました。




以上でグループの登録は終了です。

# 共有フォルダを作成する

共有フォルダを作成します。
以下の例は、「指定ユーザ」用の共有フォルダを作成する例です。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示 | メニュー | ログオフ

**2** [メニュー]の[共有管理]→[共有フォルダ管理]を順にクリックします。




**3** [新規共有フォルダの追加]をクリックします。

新規共有フォルダの作成

新規共有フォルダの追加　クリック　共有フォルダを追加します

共有フォルダ一覧

| 内蔵ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| disk1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT RAID volume | Win Mac |
| dlna | 詳細 変更 削除 | HDL-GT DLNA share | Win Mac DLNA |

| eSATA ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA1 disk | Win Mac |

| eSATA ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA2 disk | Win Mac |

| USB ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| usb2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT USB2 disk | Win Mac |

**4** 作成する共有フォルダを設定します。
（設定項目の詳細な説明については、次ページを参照）

※以下は、"user1-only"という共有フォルダを
作成する場合の例です。

新規共有フォルダの追加

| | |
|---|---|
| 共有フォルダ名 | user1-only |
| 共有フォルダのコメント | user1 only can access<br>※「共有のコメント」は、Windowsの共有のみ有効となります。 |
| 共有フォルダの作成先 | 内蔵ボリューム1<br>※ 専用フォーマットされたディスクのみ選択できます。 |
| アクセス権の選択 | ○ 全てのユーザに許可<br>◉ 指定ユーザのみ許可 user1<br>○ 指定グループのみ許可 group1<br>☐ このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く) |
| サービスの選択 | ☑ Microsoftネットワークファイル共有<br>☑ AppleShareネットワークファイル共有<br>☐ DLNA Serverで公開<br>☐ Anonymous FTPを許可<br>☐ User FTPを許可 |
| ごみ箱機能 | ○ 有効 ◉ 無効<br>※「ごみ箱機能」は、Windowsの共有のみ利用可能です。 |

①設定

OK　クリック

**5** [結果]の画面が表示されます。
設定した内容をご確認ください。
これで、ユーザ：user1 専用の共有フォルダが作成されました。

結果

共有フォルダの設定情報

| | |
|---|---|
| 共有フォルダ名 | user1-only |
| コメント | user1 only can access |
| 使用ボリューム | 内蔵ボリューム1 |
| 対象ユーザ | user1（読み書き可能） |
| 対象サービス | Win Microsoftネットワーク ファイル共有<br>Mac AppleShareネットワーク ファイル共有 |
| ごみ箱機能 | 無効 |
| 状態 | 利用可能 |

## ◆[新規共有フォルダの追加]画面での設定内容

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">設定する内容</th></tr>
<tr><td>共有フォルダ名</td><td colspan="2">共有フォルダの名前を入力します。<br>この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク]や[ネットワークコンピュータ]など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダのコメント</td><td colspan="2">Windows 用です。<br>ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダの作成先</td><td colspan="2">共有フォルダを作成するハードディスクを選択します。<br>注意 FAT/NTFS 形式の増設ハードディスクに、新規に共有フォルダを作成することはできません。<br>（ドライブ全体がひとつの共有として認識されます。）</td></tr>
<tr><td>アクセス権の選択</td><td colspan="2">この共有フォルダにアクセスできるユーザやグループを選択します。<br>ここでは、[指定ユーザのみ許可]を選択し、ユーザ（画面例では本製品に登録した「user1」）を選択します。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">サービスの選択</td><td colspan="2">共有フォルダのサービスを選択します。<br>目的に応じて[Microsoft ネットワーク ファイル共有]と[AppleShare ネットワーク ファイル共有]のどちらかあるいは両方を選択します。</td></tr>
<tr><td>Microsoft ネットワーク ファイル共有</td><td>Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>AppleShare ネットワーク ファイル共有</td><td>Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>DLNA Server で公開</td><td>このアクセス権限では指定できません。</td></tr>
<tr><td>Anonymaous FTP を許可</td><td>このアクセス権限では指定できません。</td></tr>
<tr><td>User FTP を許可</td><td>User FTP をご利用する場合はこちらをチェックします。<br>FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。アクセス権が[指定ユーザのみ許可]の時のみ選択できます。<br>→同時に登録できる User FTP フォルダは 1 つのみとなります。User FTP 機能では FTP サービスを使ってファイルの読み書きが可能です。ファイル名が日本語の場合は、文字コード UTF-8 に対応する FTP クライアントソフトをご利用ください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注意 MS ドメインログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。</td></tr>
<tr><td>ごみ箱機能</td><td colspan="2">Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。<br>作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。<br>ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐに ファイルがなくなるわけではなく、一旦[ごみ箱]フォルダに保管されます。<br>[ごみ箱]フォルダ内のファイルは自動的には消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに[ごみ箱]フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に[ごみ箱]フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。<br>[ごみ箱]フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。<br>【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（59ページ）</td></tr>
</table>

# 共有フォルダにアクセスする

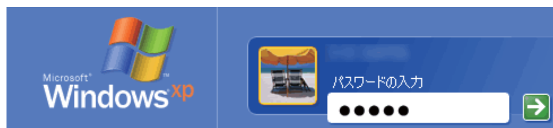
作成した共有フォルダにネットワーク上からアクセスします。

**1** ネットワークにログオンします。
「指定ユーザ」用、あるいは、「指定グループ」用の共有フォルダにアクセスする場合は、本製品にユーザ登録したユーザ（[ユーザ名][パスワード]）でログオンする必要があります。
「全てのユーザ」用の共有フォルダにアクセスする場合は、ご利用のユーザのまま、ネットワークにログオンします。

▼「指定ユーザ」用、あるいは、「指定グループ」用の共有フォルダにアクセスする場合（Windows Vista®の場合）



▼「指定ユーザ」用、あるいは、「指定グループ」用の共有フォルダにアクセスする場合（Windows XP の場合）




・共有フォルダにグループを登録した場合は、グループに登録したユーザ(ユーザ名、パスワード)でログオンします。

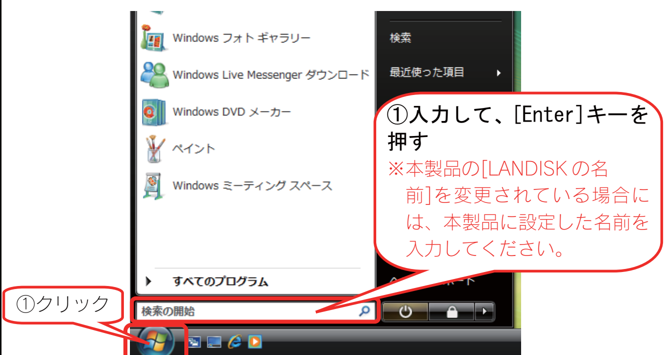
・別のユーザでログオンしている場合は、パソコンを再起動するか、ログオフして、本製品に登録したユーザ(ユーザ名、パスワード)でログオンし直してください。

**2** [スタート]→[マイネットワーク]→[コンピュータの検索]をクリックします。
Windows Vista®の場合は、右上をご覧ください。




●Windows Vista®の場合
[スタート]をクリックし、[検索の開始]をクリック後、「¥¥landisk」と入力し[Enter]キーを押します。
※本製品の「LANDISK の名前」を変更した場合は、¥¥の後に変更した名前を入力してください。

この後、**5** へお進みください。



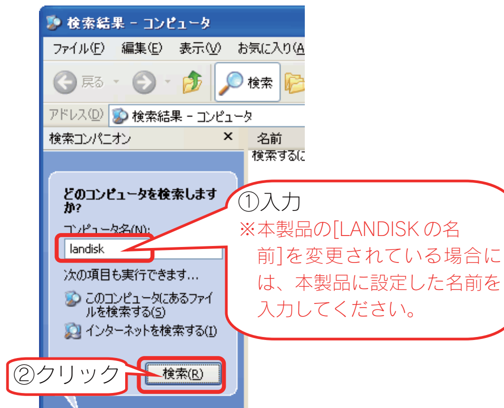

▼



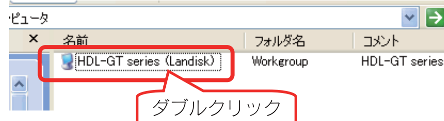



LANDISK が検索されない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の243ページ

**3** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、[検索]ボタンをクリックします。



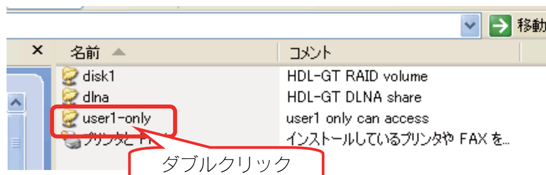

**4** 「HDL-GT series(Landisk)」が検索されますので、ダブルクリックします。
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。





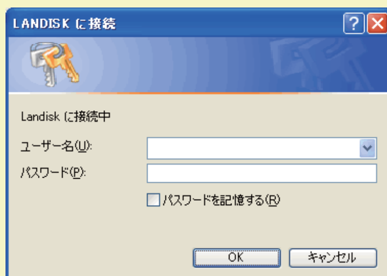

LANDISK が検索されない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の243ページ

**5** 作成した共有フォルダ（以下の例では[user1-only]）が表示されます。
共有フォルダ（[user1-only]）をダブルクリックします。

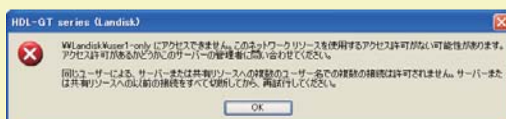





以下の画面が表示された！




または




⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の240ページ

**6** 表示された共有フォルダ内にファイルを書き込むことができます。

正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

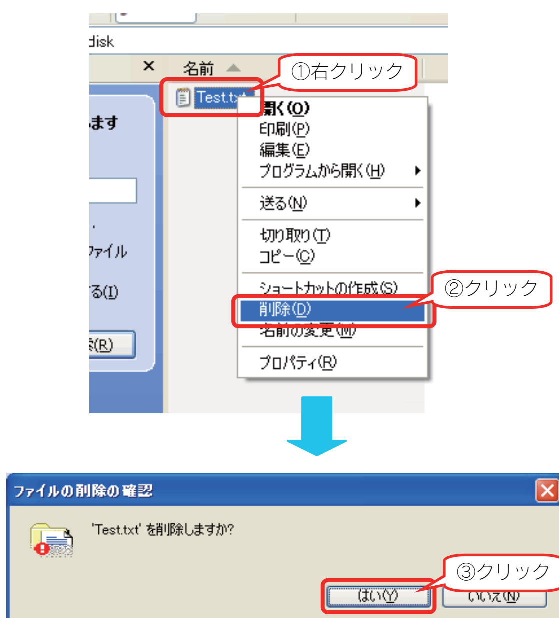
# [ごみ箱]フォルダからファイルを戻す

ここでは、「ごみ箱機能」を設定した[disk]フォルダからファイル（Test.txt）を削除後、[ごみ箱]フォルダから[disk]フォルダにファイル（Test.txt）を戻す手順について説明します。
※画面は Windows XP を例にしています。

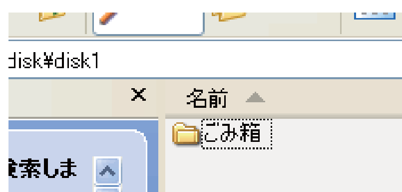
**1** ネットワーク上から本製品の[disk1]共有フォルダにアクセスします。




**2** ファイルを削除します。




**3** [disk1]フォルダからファイルが削除されると、[ごみ箱]フォルダが作成されます。
（表示されていない場合は[F5]キーを押して更新してください。）
[ごみ箱]フォルダをダブルクリックして、ファイルを移動（またはコピー）します。




**4** [ごみ箱]フォルダ内の削除したファイルを[disk1]フォルダに移動（またはコピー）します。




**5** [disk1]フォルダにファイルを戻すことができます。




以上で「ごみ箱機能」を設定した場合の[ごみ箱]フォルダの使い方は終了です。

# 共有フォルダの設定を変更する

作成した共有フォルダの設定（[共有フォルダ名]、[コメント]、[アクセス権]、[サービス]）を変更することができます。

以下は、"share1"という共有フォルダのアクセス権を"全てのユーザに許可"から"指定ユーザのみ許可"に変更する例です。

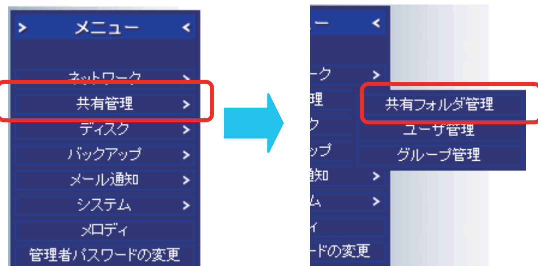



同時に[共有フォルダ名]、[コメント]、[アクセス権]、[サービス]を変更することはできません。
変更は、変更したい項目１つ１つ順に変更してください。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示　＞ メニュー ＜　ログオフ

**2** [メニュー]の[共有管理]→[共有フォルダ管理]を順にクリックします。




**3** 設定を変更したい共有フォルダのフォルダ名横の[変更]をクリックします。

新規共有フォルダの作成

| | |
|---|---|
| 新規共有フォルダの追加 | 共有フォルダを追加します |

共有フォルダ一覧

| 内蔵ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| disk1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT RAID volume | Win Mac |
| dlna | 詳細 変更 削除 | HDL-GT DLNA share | Win Mac DLNA |
| share1 | 詳細 変更 削除 | | Win Mac |
| user1-only | 詳細 変更 削除 | user1 only can access | Win Mac |

| eSATAボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA1 disk | Win Mac |

| eSATAボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA2 disk | Win Mac |

| USBボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| usb2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT USB2 disk | Win Mac |

クリック

**4** 変更する項目を選択し（どれか１つのみ選択できます）、その項目の設定を変更後、[変更]ボタンをクリックします。
（設定項目の詳細な説明については、次ページを参照）

共有フォルダの設定変更

| 変更する項目の選択 | 変更内容の設定 |
|---|---|
| ○共有フォルダ名を変更 | share1 |
| ○コメントを変更 | share for all user |
| ○アクセス権を変更 | ⦿全てのユーザに許可<br>○指定ユーザのみ許可 user1<br>○指定グループのみ許可 group1<br>☐このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く) |
| ○サービスを変更 | ☑Microsoftネットワークファイル共有<br>☑AppleShareネットワークファイル共有<br>☐DLNA Serverで公開<br>☐Anonymous FTPを許可<br>☐User FTPを許可 |
| ○ごみ箱機能を変更 | ⦿有効 ○無効 |

①変更
[変更]
②クリック

**5** ここからは、アクセス権の変更を例として説明します。

現在、[全てのユーザに許可]となっている設定を"user2"という[指定ユーザのみ許可]する設定に変更します。
①[指定ユーザのみ許可]をチェックします。
②[user2]を選択します。
③[変更]ボタンをクリックします。

| | |
|---|---|
| ○アクセス権を変更 | ⦿全てのユーザに許可<br>○指定ユーザのみ許可 user1<br>○指定グループのみ許可 group1<br>☐このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く) |

↓

| | |
|---|---|
| ⦿アクセス権を変更 | ○全てのユーザに許可<br>⦿指定ユーザのみ許可 user2<br>○指定グループのみ許可 group1<br>☐このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く) |

①チェック
②選択

↓

**注意**

共有の変更を開始しました。

STATUSランプの点滅が終了したら共有の変更は完了です。
完了したら自動的に結果画面を表示します。

**6** [結果]の画面が表示されます。
[対象ユーザ]が、user2のみに変更されています。

**結果**

共有フォルダの設定情報

| | |
|---|---|
| 共有フォルダ名 | share1 |
| コメント | share for all user |
| 使用ボリューム | 内蔵ボリューム1 |
| 対象ユーザ | user2(読み書き可能) |
| 対象サービス | Win Microsoftネットワーク ファイル共有<br>Mac AppleShareネットワーク ファイル共有 |
| ごみ箱機能 | 無効 |
| 状態 | 利用可能 |

確認

**7** 他の項目も変更する場合は、同様に **2** 更してください。

これで、共有フォルダの設定は変更されました。

## ◆[共有フォルダの設定変更]画面での設定内容

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">設定する内容</th></tr>
<tr><td>共有フォルダ名を変更</td><td colspan="2">共有フォルダの名前を変更できます。<br>この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク]や[ネットワークコンピュータ]など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>コメントを変更</td><td colspan="2">Windows 用です。<br>共有フォルダのコメントを変更できます。<br>ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">アクセス権を変更</td><td colspan="2">共有フォルダにアクセスする権限（アクセス権）を変更できます。</td></tr>
<tr><td>全てのユーザに許可</td><td>本製品にアクセスできるすべてのユーザがアクセスできる設定です。</td></tr>
<tr><td>指定ユーザのみ許可</td><td>本製品にユーザ登録したユーザの内、特定のユーザのみがアクセスできる設定です。</td></tr>
<tr><td>指定グループのみ許可</td><td>本製品にグループ登録したグループの内、特定のグループのみがアクセスできる設定です。</td></tr>
<tr><td>このフォルダを読み取り専用にする（FTP は除く）</td><td>本製品にアクセスできるすべてのユーザから読み取りのみできるようにする設定です。（書き込みを禁止します。）</td></tr>
<tr><td colspan="2">注意<br>NTFS 増設ハードディスクの場合は、上記設定にかかわらず、読み取り専用となります。<br>書き込みできる設定にすることはできません。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">サービスを変更</td><td colspan="2">共有フォルダのサービスを変更できます。</td></tr>
<tr><td>Microsoft ネットワーク ファイル共有</td><td>Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>AppleShare ネットワーク ファイル共有</td><td>Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>DLNA Server で公開</td><td>DLNA 準拠機器からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>Anonymaous FTP を許可</td><td>Anonymous（匿名）FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。<br>→同時に登録できる Anonymous FTP フォルダは 1 つのみとなります。Anounymous FTP 機能を利用してファイルを書き込むことはできません。（読み取りのみとなります。）</td></tr>
<tr><td>User FTP を許可</td><td>FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。共有フォルダのアクセス権がユーザ共有（単一のユーザのみがアクセスできる共有）の場合のみ指定できます。<br>→同時に登録できる User FTP フォルダは 1 つのみとなります。User FTP 機能では FTP サービスを使ってファイルの読み書きが可能です。ファイル名が日本語の場合は、文字コード UTF-8 に対応する FTP クライアントソフトをご利用ください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注意<br>MS ドメインログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。</td></tr>
<tr><td>ごみ箱機能</td><td colspan="2">Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。<br>作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。<br>ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐに ファイルがなくなるわけではなく、一旦[ごみ箱]フォルダに保管されます。<br>[ごみ箱]フォルダ内のファイルは自動的には消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに[ごみ箱]フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に[ごみ箱]フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。<br>[ごみ箱]フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。<br>【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（59ページ）</td></tr>
</table>

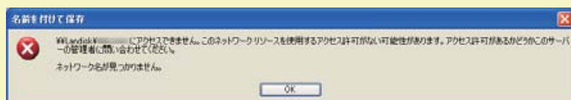
# 共有フォルダを削除する

作成した共有フォルダを削除することができます。

**注意**

●共有フォルダを削除すると、共有フォルダの中のデータも同時に削除されます。
必要なデータはあらかじめバックアップしてください。
管理者からのアクセス方法については、【管理者からの共有フォルダへのアクセス方法】（63ページ）を参照してください。

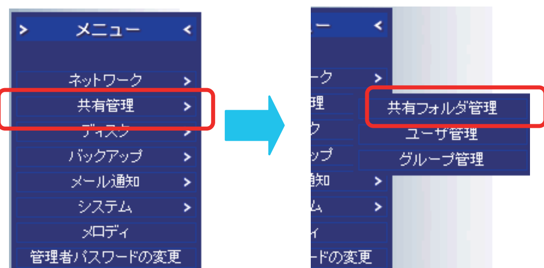
●削除しようとしている共有フォルダ内のファイルを編集などに使用している場合、削除後、以下のような保存先が見つからないなどのエラーとなります。
削除前に、削除する共有フォルダにアクセスしているユーザがいないかご確認ください。




**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[共有管理]→[共有フォルダ管理]を順にクリックします。




**3** [共有フォルダ一覧]から削除する共有フォルダ名横の[削除]をクリックします。

新規共有フォルダの作成

| | |
|---|---|
| 新規共有フォルダの追加 | 共有フォルダを追加します |

共有フォルダ一覧

| 内蔵ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| disk1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT RAID volume | Win Mac |
| dlna | 詳細 変更 削除 | HDL-GT DLNA share | Win Mac DLNA |
| share1 | 詳細 変更 削除 | sh | Win Mac |
| user1-only | 詳細 変更 削除 | user1 only can access | Win Mac |

| eSATA ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA1 disk | Win Mac |

| eSATA ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA2 disk | Win Mac |

| USB ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| usb2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT USB2 disk | Win Mac |

クリック

**4** 削除する共有フォルダを確認後、[OK]ボタンをクリックします。

**共有フォルダ削除の確認**

共有フォルダ「share1」を削除しようとしています。

共有フォルダの削除を行うと、フォルダ内のデータも同時に削除されますので、必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。

この共有を削除してもよろしいですか？




**5** [結果]の画面が表示されます。

**結果**

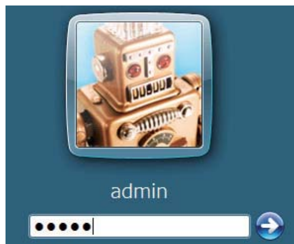
共有フォルダ「share1」を削除しました。

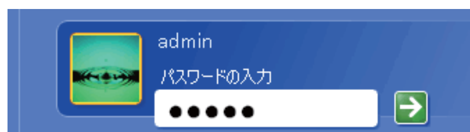
これで、共有フォルダが削除されました。

# 管理者からの共有フォルダへのアクセス方法

本製品の管理者は、すべての共有フォルダ（アクセス制限を設定した共有フォルダにも）にアクセスすることができます。（Windows パソコンからアクセスする場合のみ）

ネットワークにログインする際に、ユーザ名（admin）、本製品の管理者パスワード（出荷時は未設定）のユーザでログオンすれば、すべての共有フォルダにアクセスできます。
※管理者は、管理者以外の他のユーザ専用・グループ専用として作成した共有フォルダにもアクセスできます。




注意
●[管理者以外の場合も管理者用のユーザー名（admin）・パスワードが分かれば、すべての共有フォルダにアクセスできることになります。
必ず、設定画面を開く際のパスワードは変更してください。（ユーザ名[admin]は変更することはできません。）
【管理者パスワードを変更する】（147ページ）
●Macintosh パソコンから管理者権限で、すべての共有フォルダにアクセスすることはできません。
●本アクセスを行う場合は本製品をワークグループモードでご利用ください。ドメインモードでは全てのユーザーにアクセスを許可した共有フォルダ以外は、アクセスできません。

## STEP1 パスワードを設定する

**1** 設定画面を開く際のパスワードを設定します。（ユーザ名[admin]は変更することはできません。）
以下の個所を参照してください。
【管理者パスワードを変更する】（147ページ）

※すでに設定済みの場合は設定の必要はありません。

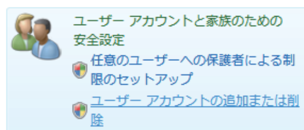
## STEP2 ユーザアカウントを作成する（Windows Vista®/XP/2000　のみ）

Windows Vista®/XP/2000 の場合、[step 1 ]でメモした[ユーザ名]と[パスワード]を、本製品の設定画面でユーザとして登録します。

**1** Windows XP/2000 の場合は、Windows XP/2000 に以下の[ユーザー名][パスワード]のログオンユーザを作成します。
ユーザー名：　admin
パスワード：　STEP1 の手順で設定したパスワード

### ●Windows Vista®の場合

[スタート]→[コントロールパネル]→[ユーザーアカウントと家族のための安全設定]→[ユーザアカウントの追加または削除]で上記ユーザーアカウントを作成します。







### ●Windows XP の場合

[スタート]→[コントロールパネル]→[ユーザーアカウント]で上記ユーザーアカウントを作成します。



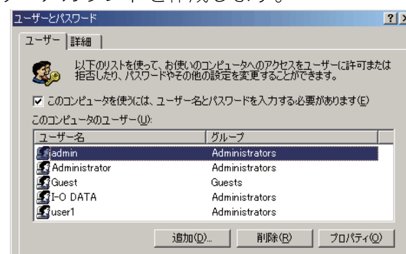




### ●Windows 2000 の場合

[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[ユーザーとパスワード]で上記ユーザーアカウントを作成します。



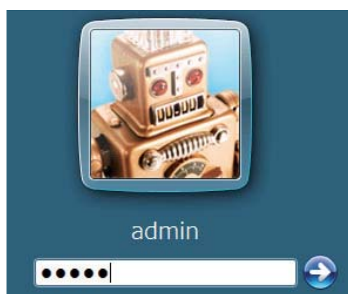
## STEP3 共有フォルダにアクセスする

それでは実際に管理者から共有フォルダにアクセスしてみましょう。
※Macintosh パソコンからすべての共有フォルダにアクセスすることはできません。

**1** 以下の admin ユーザでネットワークにログオンします。

| | |
|---|---|
| ユーザー名： | admin |
| パスワード： | STEP1 の手順で設定したパスワード |

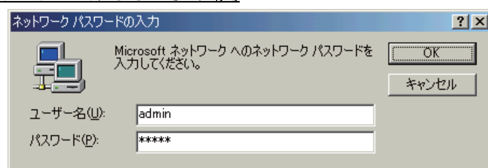
●Windows Vista®での例




●Windows XP での例




●Windows Me/98 での例




**2** 共有フォルダにアクセスします。
アクセス方法は、管理者がご利用の OS により異なりますので、下記のご使用の OS の個所へお進みください。

【Windows Vista®から本製品にアクセスする】（23ページ）
【Windows XP から本製品にアクセスする】（24ページ）
【Windows 2000 から本製品にアクセスする】（25ページ）
【Windows Me から本製品にアクセスする】（26ページ）
【Windows 98 から本製品にアクセスする】（27ページ）

以上で、管理者からの共有フォルダへのアクセスは終了です。

# ハードディスク
# をチェックする

# ハードディスクのチェック方法

ハードディスクのチェックを定期的に実行することで、ディスクのエラー発生を早期に発見し、対処することができます。
チェックには、アクティブリペアでのチェック、チェックディスクでのチェックの２つの方法があります。

## ●アクティブリペアを行う場合

※本製品は、ファームウェアバージョン 1.23 以降で、アクティブリペアのスケジュール実行を有効に設定しており、毎週日曜日午前 2 時 00 分よりアクティブリペアが自動的に開始されます。

[アクティブリペア]では、内蔵ハードディスクまたはミラーリングしているディスク（内蔵ハードディスク＋eSATA ハードディスク）の一部に不良セクタが発見された場合、他の正常なディスクからデータを読み込んで、異常のあるディスクに書き込むことにより、ディスク不良によるデータ損失を未然に防止する機能です。［アクティブリペア］でのチェックには、以下の特徴があります。

・内蔵あるいはミラーリングしているディスクに何らかのエラーが発生している場合、検出あるいは修復を行うことができます。
・アクティブリペア中、設定画面その他の動作が遅くなる場合があります。
・アクティブリペア実行中は、外部からの操作等を行っていない状態でも、アクセス LED がすべて点滅した状態になります。
・アクティブリペア結果（正常終了やディスクエラーの状況）をメール送信できます。
・アクティブリペアは、バックグラウンドで処理を行うため、アクティブリペア中に本製品の他の操作を行うことができます。
ただし、アクティブリペア中に［電源］ボタンで本製品の電源を切った場合、処理が中断されます。
・アクティブリペア実行中にスケジュールシャットダウン時刻になってもアクティブリペアが完了するまでスケジュールシャットダウンが開始されません。
・アクティブリペア実行中に、スケジュールバックアップ開始時間になった場合、スケジュールバックアップは開始されますが、アクティブリペアとバックアップの所要時間が長くなります。アクティブリペア時間とスケジュールバックアップが同時実行されないように設定することをおすすめします。
・アクティブリペアには、ネットワークからのアクセスおよびバックアップの処理がない状態で、おおよそ 10G/1 分かかります。
例えば、RAID5 構成の HDL-GT1.0 の場合、おおよそ 750÷10=75 分かかります。※あくまで目安の時間です。
・スケジュールを設定して指定した時間にアクティブリペアを実行することができます。
・本製品は、アクティブリペアのスケジュール実行を有効に設定しており、毎週日曜日午前 2 時 00 分よりアクティブリペアが自動的に開始されます。（ファームウェアバージョン 1.23 以降）
・アクティブリペアのスケジュール実行時刻に本製品の電源が OFF の場合、アクティブリペアのスケジュール実行は行われませんので、スケジュール実行時刻には本製品を起動しておいてください。




●［アクティブリペア］でチェックできるハードディスクは、RAID5、RAID1+0、Encrypted RAID5、Encrypted RAID1+0、のいずれかのモードで動作中の以下のハードディスクのみです。（RAID0 モードのハードディスクの不良セクタの修復は行えません。）
・内蔵ハードディスク
・ミラーリングしているディスク（内蔵ハードディスク＋eSATA ハードディスク）
●RAID 崩壊モードの場合、アクティブリペアは実行できません。

## ●チェックディスクを行う場合

[チェックディスク]でのチェックには、以下の特徴があります。
・チェックディスクは、ボリュームを構成したいるファイルシステムに論理的な障害が発生していないか検査し、修復を行います。
・チェックディスク中に電源を切ることはできません。完了するまでお待ちください。
・チェックディスク中は、本製品の他の操作を行うことができません。
・チェックディスクには、[エラーチェックのみを行う]と[エラーチェックと自動修復を行う]があります。
[エラーチェックのみを行う]の場合、購入初期の正常な HDL-GT1.0 の場合で約 2 分ほどかかります。
[エラーチェックと自動修復を行う]の場合、購入初期の正常な HDL-GT1.0 の場合で約 3 分ほどかかります。




[チェックディスク]でチェックできるハードディスクは、以下のハードディスクのみです。
・内蔵ハードディスク
・ミラーリングしているディスク（内蔵ハードディスク＋eSATA ハードディスク）
FAT 形式や NTFS 形式の増設ハードディスクをチェックするときは、パソコンに増設ハードディスクを接続してチェックディスクを行ってください。方法は、OS 側のヘルプ等をご確認ください。

# [アクティブリペア]でチェックする

ここでは、[アクティブリペア]でハードディスクの状態をチェックする方法について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ディスク]→[アクティブリペア]を順にクリックします。




**3** [アクティブリペア機能]欄の[開始]ボタンをクリックします。
→アクティブリペアを開始します。

アクティブリペア設定

アクティブリペア

| | |
|---|---|
| 現在の状態 | アクティブリペアは実行していません |
| 最終実行時刻 | |
| アクティブリペア機能 | 開始 クリック |

アクティブリペア機能を開始すると、内蔵ディスクおよび eSATA ディスク 1 の不良セクタの検出、および自動修復を行います。
アクティブリペア機能で不良セクタが検出された場合、必要なデータのバックアップを行うことを推奨します。また、自動修復に失敗した場合でも、フォーマットを行うとエラーの回復を試みることができます。
ディスクエラーのメール通知を設定すると、アクティブリペアの開始/終了時にメール通知を行います。

アクティブリペアのスケジュール実行

| | |
|---|---|
| スケジュール実行機能 | ⦿ 使用する ○ 使用しない<br>曜日指定：☑ 日 □ 月 □ 火 □ 水 □ 木 □ 金 □ 土<br>時刻指定：2 時 0 分 |

スケジュール実行機能を設定しておくと、指定した時間にアクティブリペアを実行します。
ディスク故障の早期発見に役立ちます。

OK

**注意**

●アクティブリペア中にも本製品の他の操作を行うことができます。
アクティブリペアは、バックグラウンドで処理を行うため、アクティブリペア中に本製品の他の操作を行うことができますが、設定画面その他の動作が遅くなる場合があります。
また、アクティブリペア中に[電源]ボタンで本製品の電源を切った場合、処理が中断されます。

●アクティブリペアには、ネットワークからのアクセスおよびバックアップの処理がない状態で、おおよそ 10G/ 1 分かかります。
例えば、RAID5 構成の HDL-GT1.0 の場合、おおよそ 750÷10=75 分かかります。
※あくまで目安の時間です。

●異常があった場合は、システムログやログメールを参照してください。

**4** [結果]の画面が表示されます。

結果

アクティブリペアを開始しました。

再度、[アクティブリペア]の画面を開くと、[現在の状態]に「アクティブリペア実行中」と表示され、現在の進行状態のパーセント状態を確認できます。

アクティブリペア設定

アクティブリペア

| | |
|---|---|
| 現在の状態 | アクティブリペア実行中 17% 完了 |
| 最終実行時刻 | 2006年8月14日 11:02:25に開始 |
| アクティブリペア機能 | 開始 停止 |

アクティブリペア機能を開始すると、内蔵ボリューム1 の不良セクタの検出、および自動修復を行います。
アクティブリペア機能で不良セクタが検出された場合、必要なデータのバックアップを行うことを推奨します。
また、自動修復に失敗した場合でも、内蔵ボリューム1 のフォーマットを行うとエラーの回復を試みることができます。
ディスクエラーのメール通知を設定すると、不良セクタの検出、および自動修復時にメール通知を行います。

**5** [アクティブリペア]終了後、アクティブリペアが正常終了すると、「エラーは発見されませんでした」と表示されます。

アクティブリペア設定

アクティブリペア

| | |
|---|---|
| 現在の状態 | エラーは発見されませんでした |
| 最終実行時刻 | 2006年8月14日 11:03:56に終了 |
| アクティブリペア機能 | 開始 停止 |

アクティブリペア機能を開始すると、内蔵ボリューム1 の不良セクタの検出、および自動修復を行います。
アクティブリペア機能で不良セクタが検出された場合、必要なデータのバックアップを行うことを推奨します。

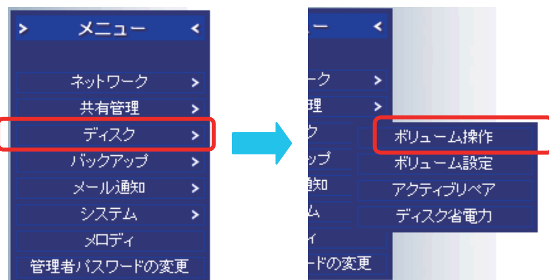
# [チェックディスク]でチェックする

ここでは、[チェックディスク]でのハードディスクの状態をチェックする方法について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム操作]を順にクリックします。




**3** チェックするハードディスク横の[操作]欄で、[チェックディスク]を選択後、 [実行] ボタンをクリックします。

ボリューム情報

| | | |
|---|---|---|
| 内蔵 ボリューム1 | 動作モード | RAID5(分散パリティ) |
| | 状態 | 正常動作しています |
| | 操作 | チェックディスク 実行 |
| | 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム1 | 動作モード | |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム2 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 正常動作しています |
| | 操作 | フォーマット(FAT32) 実行 |
| | 詳細情報 | |
| USB ボリューム1 | 動作モード | クイックコピー |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| USB ボリューム2 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |

①選択　②クリック

**4** [チェックディスク方法選択]欄でチェック方法を選択後、[OK] ボタンをクリックします。
→チェックディスクを開始します。

チェックディスクの設定

| | |
|---|---|
| 選択ディスク | 内蔵 ボリューム1 |
| チェックディスク方法選択 | ◉エラーチェックのみ行う<br>○エラーチェックと自動修復を行う |

注意
チェックディスクは、ディスクの容量や状態によって数十時間かかる場合があります。
チェックディスクを開始したら、完了するまで一切の操作を行わないでください。

①選択

OK　②クリック

注意

チェックディスクを開始しました。

STATUSランプ の点滅が終了したらチェックディスクは完了です。
完了したら自動的に結果画面を表示します。
チェックディスクが完了するまで一切の操作を行わないでください。

| ▼チェックディスク方法選択 | |
|---|---|
| エラーチェックのみ行う | ファイルシステムのチェックのみを行います。<br>異常が無い場合は早くチェックが終わります。<br><br>※本製品の内蔵ハードディスクの場合、本製品の状態および容量により異なりますが、購入初期の正常なＨDL-GT1.0 の場合で約２分ほどかかります。（時間は、保存されているファイル数、容量によって大きく変動します。） |
| エラーチェックと自動修復を行う | ファイルシステムのチェックとハードディスクの論理的なチェックと自動修復を行います。<br><br>※本製品の内蔵ハードディスクの場合、状態および容量により異なりますが、購入初期の正常なＨDL-GT1.0 の場合で約３分ほどかかります。（時間は、保存されているファイル数、容量によって大きく変動します。） |

注意

●チェックディスクを中断することはできません。
チェックディスク中に電源を切るなどして中断しないでください。
システムが破損する恐れがあります。

●FAT/NTFS でフォーマットされているハードディスクは選択できません。
（直接パソコンに接続し、Windows 上などでエラーチェックを行ってください。）

**5** [結果]の画面が表示されます。

結果

チェックディスクが終了しました。
特に異常な箇所は見つかりませんでした。

以上でハードディスクのチェックは終了です。

# ハードディスクや
# プリンタを増設する

# 増設できる機器（ハードディスクとプリンタ）




増設ハードディスク（eSATA ハードディスク）で、HDL-GT シリーズ本体とミラーリングを構築してご利用になる場合は、以下の個所を参照してください。
【ミラーリングする】（113ページ）

## ●USB ポートに増設できるハードディスクについて

本製品に USB ポートに増設できるハードディスクは、以下のハードディスクです。
本製品の USB ポートに、LANDISK シリーズ（HDL シリーズ、HDL-W シリーズ、HDL-G シリーズ、HDL-GW シリーズ、HDL-GZ シリーズ、HDL-GX、HDL-GT シリーズ、HDL-AV シリーズ）を接続することはできません。
※最新の対応機器については、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。

| 本製品の USB ポートで使用できる動作確認済みのハードディスク | | |
|---|---|---|
| ・HDZ-UE シリーズ | ・HDH-U シリーズ | ・HDPX-SU シリーズ |
| ・HDW-UE シリーズ | ・HDH-UL シリーズ | ・HDC-U シリーズ |
| ・HDW-UES シリーズ | ・HDH-UEH シリーズ | ・HDC-UX シリーズ |
| ・HDX-UE シリーズ | ・HDH-US シリーズ | ・HDH-SU シリーズ |
| ・HDA-iU シリーズ | ・HDH-USR シリーズ | ・RHD-UX シリーズ |
| ・HDOT-U シリーズ | ・HDA-iUM シリーズ | ・RHD2-U シリーズ |
| ・HDOT-UE シリーズ | ・HDPX-U シリーズ | ・USB2-iVDR シリーズ |

※iSPIS 対応ハードディスクを本製品でご利用いただく場合、iSPIS 機能は使用できません。
※バスパワーモードのハードディスクは、使用できません。
ハードディスクはセルフパワーモードでご利用ください。
※HDOT-U シリーズ、HDOT-UE シリーズのワンタッチボタンは利用できません。
※本製品には、2TB（2,199,023,255,040byte）より大きいディスク容量のハードディスクは接続できません。
※本製品には、パーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT)のハードディスクは接続できません。

## ●eSATA ポートに増設できるハードディスクについて

本製品に eSATA ポートに増設できるハードディスクは、以下のハードディスクです。
※最新の対応機器については、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。

| 本製品の eSATA ポートで使用できる動作確認済みのハードディスク | |
|---|---|
| ・HDC-UX シリーズ | ・RHD-UX シリーズ |

※本製品には、2TB（2,199,023,255,040byte）より大きいディスク容量のハードディスクは接続できません。
※本製品には、パーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT)のハードディスクは接続できません。

## ●USB ポートに増設できるプリンタについて

動作確認済みプリンタについては、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)の製品情報をご覧ください。
※プリンタは、背面の[USB ポート 2]にのみ接続できます。
※プリンタの双方向機能（インク残量確認など）には対応しておりません。
※複合機（プリンタ以外にスキャナ機能やリーダライタ機能を有するもの）をお使いの場合、本製品ではプリンタ機能にのみ対応します。

# 増設ハードディスクのフォーマット形式と使い方

増設するハードディスクのフォーマット形式によって使い方に制限があります。

| | 対応フォーマット※1 | |
|---|---|---|
| | FAT※2 | NTFS※3 |
| 本製品での対応 | ○<br>（読み書き可） | △<br>（読み込みのみ可）<br>※書き込み不可 |
| パソコンに接続した場合 | ○<br>（読み書き可） | ○<br>（読み書き可） |
| 主な用途 | ・本製品の容量増設用<br>・データバックアップ用 | データ参照用 |
| 本製品からの取り外し | ○<br>（取り外し可） | |
| ネットワーク上からのファイルの読み書き | ○<br>（読み書き可） | △<br>（読み込みのみ可）<br>※書き込み不可 |
| 共有フォルダの作成 | ×<br><br>※本製品に接続後、初期状態で以下の共有フォルダが作成されます。<br>・USB ポート１に接続したハードディスク→「usb1」<br>・USB ポート２に接続したハードディスク→「usb2」<br>・eSATA ポート１に接続したハードディスク→「esata1」<br>・eSATA ポート２に接続したハードディスク→「esata2」 | |
| ユーザ・グループ別アクセス制限 | ○ | |

※1　OS により、ネットワーク上で扱えるファイルサイズには制限があります。
以下の個所を参照してください。
【各 OS で使用できるファイルサイズについて】（185ページ）

※2　本製品で FAT32 にフォーマットする場合は以下の個所をご覧ください。
【増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする】（80ページ）
オプション品の「RHD シリーズ」をパソコンでフォーマットする際は、別売の SerialATA 対応 5 インチベイ用内蔵ユニット[RHD-IN/SA]をご用意ください。

※3　NTFS でフォーマットする場合は、ハードディスクをパソコンに接続し、パソコン上からフォーマットしてください。
（方法については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。）
なお、[RHD シリーズ]を NTFS でフォーマットするには、別売の SerialATA 対応 5 インチベイ用内蔵ユニット[RHD-IN/SA]を使用し、Windows パソコンからフォーマットしてください。
ただし、Macintosh から、NTFS 形式でフォーマットされた増設ディスクを共有フォルダとして利用することはできません。

※4 本製品には、パーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT)のハードディスクは接続できません。

# 接続と取り外しに関する注意

## ●接続時

・本製品の USB ポート（1、2）や eSATA ポート（1、2）には、対応の機器以外の機器は接続しないでください。
（USB ハブや SATA ポートマルチプライヤーも接続できません。最新の対応 USB 機器および eSATA 機器は、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。）
本製品の USB ポートに増設できる USB 機器については、【増設できる USB 機器】（182ページ）もご覧ください。
本製品の eSATA ポートに増設できる eSATA 機器については、【増設できる eSATA 機器】（183ページ）もご覧ください。
・バスパワーで動作する弊社製 EasyDisk などの USB メモリーは、前面の[USB ポート 1]にのみ接続できます。
・バスパワーで動作するハードディスクは使用できません。必ずセルフパワーで接続してご利用ください。
・FAT/NTFS 形式の増設ハードディスクは、そのまま接続すれば使用できます。
本製品に接続後、本製品で FAT32 形式にフォーマットすることもできます。
NTFS でフォーマットする場合は、Windows Vista®/XP/2000 のパソコンに直接接続してフォーマットしてください。
・NTFS でフォーマットされたハードディスクは、読み込みのみ可能です。
・[USB ポート 1 ]の出荷時の動作モードは、[クイックコピー]用となっています。
・増設ハードディスクで HDL-GT シリーズ本体とミラーリングを行う場合は、[eSATA ポート 1 ]を使用する必要があります。
・弊社製 HDC-UX シリーズの接続ケーブルを切り替える場合は、一度、HDC-UX シリーズの電源ケーブルを抜いてください。
・FAT/NTFS 以外の増設ハードディスク（未フォーマット、あるいは、Macintosh でフォーマットしたハードディスクなど）を本製品に接続すると、[STATUS]ランプが赤く点滅し、ブザーが鳴ります。Windows パソコンでフォーマットするか、本製品に接続後、フォーマットを行ってください。ただし、増設ハードディスク内のデータはすべて消去されます。

## ●取り外し時

・ファイルコピー中に、USB ポートに接続した機器の接続や取り外しをしたり、本製品やハードディスクの電源を切らないでください。
コピーの処理が正常に行われません。
・取り外し時は、必ず[ディスクの取り外し]操作を行ってください。
以下の個所を参照してください。
【増設ハードディスクを取り外す】（78ページ）

# プリンタ使用時の注意

本製品でご利用になる場合は、以下にご注意ください。

- プリンタは本製品のUSBポート2でのみご利用になれます。
  他のUSBポートにプリンタを接続してもご利用いただけません。

- プリンタの電源は、本製品の電源のON/OFFに関係なく、プリンタの電源をON/OFFすることができます。
  （本製品は、プリンタのホットプラグに対応しています。）
  ただし、プリンタの電源をONにした後、印刷可能となるまでにしばらく時間がかかる場合があります。

- 本製品に接続したプリンタは、本製品の電源が入っている状態でも取り外すことができます。
  プリンタを使用していないことを確認後、本製品からUSBケーブルを取り外してください。

- Windowsパソコン同士のみ共有プリンタとして使用できます。
  Mac OSでは使用できません。

- 本製品でプリンタを使用するすべてのパソコンにプリンタドライバをインストールする必要があります。
  各パソコンにプリンタに添付されているCD-ROMなどをご利用の上、あらかじめプリンタドライバのインストールを行ってください。（詳細はプリンタの取扱説明書を参照してください。）

- プリンタの双方向機能には対応しておりません。

- 複合機（プリンタ機能以外にスキャナ機能やリーダライタ機能等を有するもの）をお使いの場合、プリンタ機能にのみ対応します。

- Microsoft Windows Printing System(WPS)専用プリンタ、プリンタメーカーが独自に採用しているプリンティングシステムのプリンタでは、その仕様上プリントサーバ機能はご利用いただけません。

- 本製品にプリンタは1台のみ接続できます。プリンタを2台以上接続することはできません。

- 本製品の内蔵ハードディスクに空き容量が必要です。
  本製品を通して印刷時、プリントデータを本製品の内蔵ハードディスクにスプールするため、スプールデータ用の空き容量が必要になります。
  本製品の空き容量に関しては、設定画面の【ボリューム情報】をご確認ください。
  【情報表示】→【ボリューム情報】（197ページ）

  印刷できなかった場合は、不要なデータを削除して空き容量を増やしてください。

# USB ポート 1 (前面)の設定について

出荷時[USB ポート 1 ]の動作モードは、[クイックコピー]に設定されています。
その場合、増設するハードディスクを[USB ポート 1 ]に接続してもそのままでは共有ディスクとして使用できません。
USB ポート 1 で増設ハードディスクを使用できるようにするためには、動作モードを[共有ディスク (FAT/NTFS) ]に変更する必要があります。
以下は、[USB ポート 1 ]の動作モードを[共有ディスク（FAT/NTFS）]に変更する手順です。

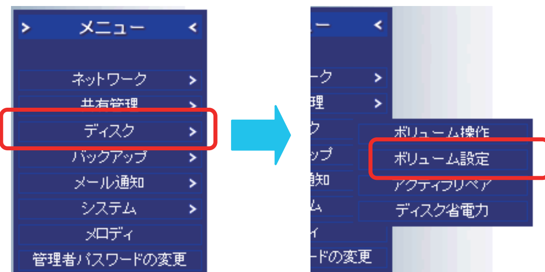
> クイックコピーとは・・・
> 本製品前面の[COPY]ボタンの機能です。
> クイックコピーでは、EasyDisk やデジカメを[USB ポート 1 ]に接続した後、前面の[COPY]ボタンを押せば、自動的に EasyDisk やデジカメのデータをあらかじめ指定されている本製品の共有フォルダ内にコピーすることができます。
> クイックコピー機能は、本製品前面の[USB ポート 1 ]でのみ機能します。また、USB ポート 1 の動作モードが[クイックコピー]となっている場合のみ機能します。

## USB ポート 1 を増設用に変更する

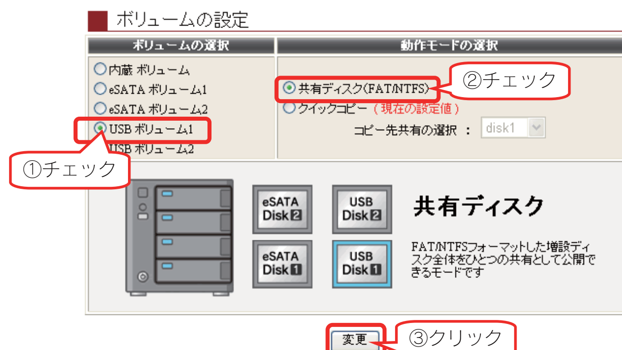
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム設定]を順にクリックします。




**3** [USB ボリューム 1 ]をチェック後、[動作モードの選択]で[共有ディスク（FAT/NTFS）]にチェック後、[変更]ボタンをクリックします。



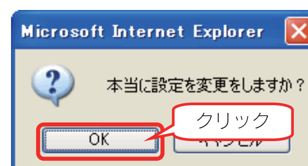

**4** [OK]ボタンをクリックします。

**ボリューム設定**

USB ボリューム1の設定を変更しようとしています。
USB ボリューム1の動作モードを共有ディスク(FAT/NTFS)に変更します。
変更してもよろしいですか

クリック　OK　戻る

**5** [OK]ボタンをクリックします。




**6** [結果]画面が表示されます。

**結果**

USB ボリューム1の動作モードを共有ディスク(FAT/NTFS)に変更しました

これで、USB ポート 1 で増設ハードディスクを使用できるようになりました。

# ハードディスクを増設する

## ハードディスクを接続する

FAT32 形式や NTFS 形式のハードディスクは、接続すればそのままご利用になれます。

注意

●本製品の USB ポート、e SATA ポートに増設できるハードディスクは、FAT/NTFS 形式のハードディスクのみです。

●本製品に接続後、FAT32 形式でフォーマットすることもできます。
FAT32 形式以外の増設ハードディスクを FAT32 形式にフォーマットする場合は、接続後、[ボリューム操作]画面にてフォーマットすることができます。
詳細については、以下の個所を参照してください。
【増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする】（84ページ）

●本製品に接続して NTFS 形式にフォーマットすることはできません。
NTFS 形式にフォーマットする場合は、パソコンに直接接続してフォーマットしてください。詳細については、ハードディスクの取扱説明書を参照してください。
オプション品の「RHD シリーズ」を NTFS フォーマット形式で使用する場合は、別売の「RHD-IN/SA」を使用し、Windows パソコンからフォーマットしてください。

●HDC-UX シリーズのケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、一度 HDC-UX シリーズの電源ケーブルをコンセントから抜き差ししてください。
パソコンや本製品の USB ポートでご利用になっていた HDC-UX シリーズの USB ケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、切り替える前に一度 HDC-UX シリーズの電源ケーブルの抜き差しを行ってください。
電源ケーブルの抜き差しを行わずに eSATA ケーブルに切り替えて本製品の[eSATA ポート]に接続しても、本製品に認識されない場合があります。

●Macintosh パソコンから NTFS フォーマットのハードディスクにアクセスすることはできません。
NTFS フォーマットのハードディスクを接続しても Macintosh パソコンから共有ディスクとしてご利用になることはできません。

**1** 本製品の電源が入っていることを確認します。

注意

●本製品の電源が入っている状態でハードディスクを接続できます。

**2** 増設ハードディスクの電源を ON にします。
増設ハードディスクの電源の入れ方については、増設ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

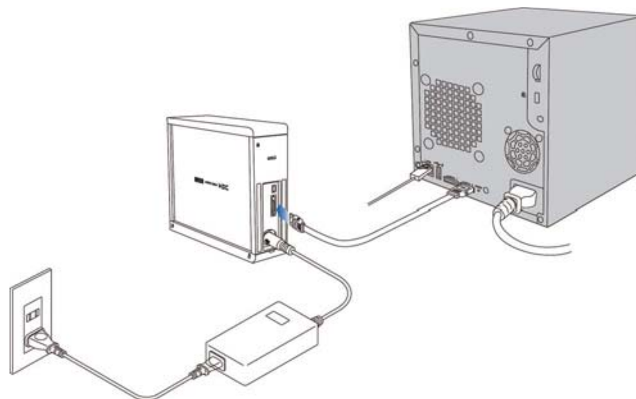
電源連動機能ハードディスクの場合は、電源ボタン（スイッチ）を[AUTO]または[ON]にします。本製品に接続するまで増設ハードディスクの電源は入りませんが、問題ありません。
※電源連動機能については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

注意

●増設ハードディスクの電源を入れてから、本製品に接続してください。

**3** 本製品の USB ポートまたは eSATA ポートに増設用ハードディスクを接続します。

▼[eSATA ポート２]に弊社 HDC-UX シリーズを接続する例



注意

●本製品の[STATUS]ランプが点滅中は、増設ハードディスクを接続しないでください。
本製品の電源が入っている状態で接続できますが、[STATUS]ランプが点滅中（設定画面操作中）や、本製品にアクセス中（[ACCESS]ランプが点滅中）に増設ハードディスクを接続しないでください。
本製品にすでに別の増設ハードディスクを接続している場合にも、そのハードディスクのランプをご確認ください。

●ブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS]ランプが赤く点滅した場合は、ハードディスクが FAT/NTFS 形式ではありません。
本製品の設定画面でフォーマットするか、Windows パソコンに直接接続してフォーマットしてください。

以下をご覧になり、接続を確認してください。
【ハードディスクの接続を確認する】（次ページ）

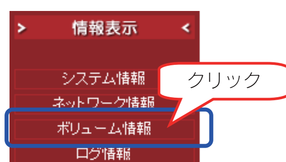
# ハードディスクの接続を確認する

正しく FAT32 あるいは NTFS ハードディスクが接続できているかを確認します。

**1** 本製品の設定画面の情報表示メニューをクリックします。




**2** 情報表示メニューの[ボリューム情報]をクリックします。

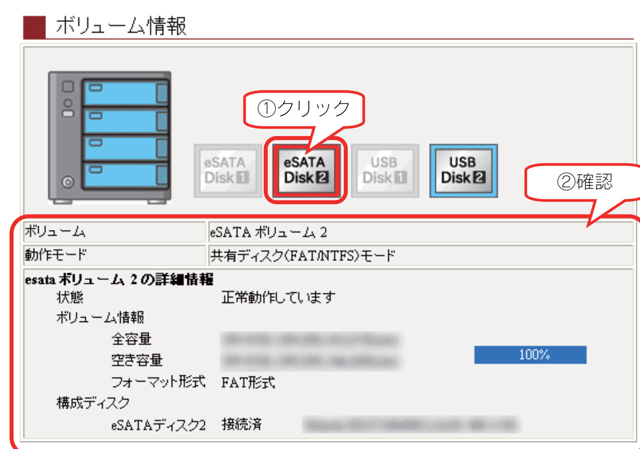



**3** 接続されているハードディスクの接続状況が表示されます。




※画面は、[eSATA ポート 2]に eSATA ハードディスク、[USB ポート 2]に USB ハードディスクの２台の増設ハードディスクを接続している例です。

**4** 確認したいハードディスクをクリックすれば、各ハードディスクの詳細情報が表示されます。




以上で確認は終了です。

ネットワーク上から増設ハードディスクにアクセスする場合は、以下をご覧になり、確認してください。

【増設ハードディスクにアクセスする】（次ページ）



eSATA ハードディスクを接続しても「停止」と表示される！

⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の262ページ

| | | |
|---|---|---|
| ▼ボリューム | | |
| 選択したボリュームの名前を表示します。 | | |
| eSATA ボリューム１ | 外付け eSATA ドライブの内、背面の[eSATA ポート 1]に接続されているドライブです。 | |
| eSATA ボリューム２ | 外付け eSATA ドライブの内、背面の[eSATA ポート 2]に接続されているドライブです。 | |
| USB ボリューム１ | 外付け USB ドライブの内、前面の[USB ポート 1]に接続されているドライブです。 | |
| USB ボリューム２ | 外付け USB ドライブの内、背面の[USB ポート 2]に接続されているドライブです。 | |
| ▼動作モード | | |
| ボリュームの動作モードを表示します。 | | |
| 共有ディスク（FAT/NTFS）モード | 接続された FAT/NTFS 形式のディスクが、共有ディスクとして使用できることを示します。 | |
| ミラーリング | （[eSATA ボリューム１]のみ）<br>HDL-GT シリーズ本体と eSATA ハードディスクでミラーリング機能が利用可能なことを示します。 | |
| クイックコピー | （[USB ボリューム 1]のみ）<br>USB クイックコピー機能が利用可能なことを示します。 | |
| ▼詳細情報 | | |
| 状態 | このボリュームの状態を表示します。 | |
| | 正常動作しています | ボリュームは正常に動作しています。 |
| | 停止 | ドライブは取り外しできる状態にあります。 |
| | 未使用 | 未フォーマットか、FAT/NTFS/専用形式以外のボリュームです。 |
| | 未接続 | 該当ポートにドライブが接続されていません。 |
| | 再構築を行っています（XX% complete） | （[eSATA ボリューム１]のみ）<br>ミラーリングのための再構築を行っています。 |
| | eSATA ディスク１で単体動作中 | （[eSATA ボリューム１]のみ）<br>ミラーリング中の内蔵ボリューム１と eSATA ハードディスクのミラー情報に不整合があり、eSATA ハードディスクから起動した場合の表示です。 |
| | クイックコピー可能 | 前面の[COPY]ボタンでクイックコピーが実行可能です。 |
| ボリューム情報 | このボリュームの容量について表示します。 | |
| | 全容量 | ボリューム全体の容量を表示します。<br>（1Kbyte ＝ 1000byte にて算出しています。） |
| | 空き容量 | ボリュームの空き容量を表示します。%は空き容量の占める割合です。<br>（1Kbyte ＝ 1000byte にて算出しています。） |
| フォーマット形式 | このボリュームのフォーマット形式を表示します。 | |
| | FAT 形式 | Windows でそのまま利用可能な FAT 形式でフォーマットされています。<br>このボリュームを取り外して Windows パソコンに接続すれば、そのまま読み書きが可能です。 |
| | NTFS 形式 | Windows で NTFS 形式としてフォーマットされています。<br>このボリュームは本製品では読み込み専用となります。 |
| | 専用形式 | （[eSATA ボリューム１]のみ）<br>ミラーリング時の形式です。 |
| | 不明な形式 | 上記以外の形式です。 |
| 構成ディスク | このボリュームを構成しているドライブです。 | |

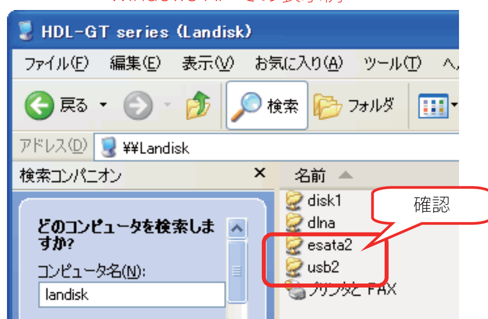
# 増設ハードディスクにアクセスする

増設したハードディスクにアクセスする手順について説明します。
※以下は、Windows XP での確認例です。
　ここでは、USB 接続ハードディスクと eSATA 接続ハードディスクの２台を、それぞれ[USB ポート２]、[eSATA ポート２]に接続した場合の確認例を説明します。

**1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。
手順については、以下の個所を参照してください。
・Windows から本製品にアクセスする場合
　【Windows から本製品にアクセスする】（22ページ）
・Mac OS から本製品にアクセスする場合
　【Mac OS から本製品にアクセスする】（31ページ）

**2** USB 接続ハードディスクの場合は、一覧に共有フォルダ[usbx]が表示されます。
eSATA 接続ハードディスクの場合は、一覧に共有フォルダ[esatax]が表示されます。
これが増設ハードディスクです。
[usbx]および[esatax]をダブルクリックします。
※ x には増設ハードディスクを接続した本製品の[USB ポート]または[eSATA ポート]番号が表示されます。

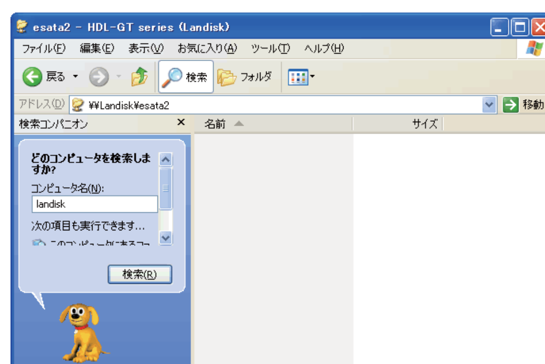
▼Windows XP での表示例




●ネットワーク上での各ハードディスクの表示

| ハードディスクの接続先 | | ネットワーク上での表示 |
|---|---|---|
| 内蔵ハードディスク | → | disk1 |
| USB ポート１接続 | → | usb1 |
| USB ポート２接続 | → | usb2 |
| eSATA ポート１接続 | → | esata1 |
| eSATA ポート２接続 | → | esata2 |

**3** 正常にウィンドウが表示されましたら、増設ハードディスクのデータを使用できます。




注意

●NTFS フォーマットの増設ハードディスクは、読み込み専用です。
ネットワーク上から NTFS フォーマットのハードディスクのデータを読み込むことはできますが、書き込むことはできません。
●ハードディスクを複数パーティションに分割していた場合は、先頭のパーティションのみしか表示されません。
●Mac OS から NTFS フォーマットの増設ハードディスクや読み取り専用の共有にアクセスすることはできません。
●Mac OS でお使いになる場合、本製品では、AFP over TCP/IP による接続のみをサポート対象とします。

# 増設ハードディスクを取り外す

FAT32/NTFS 形式の増設ハードディスクを取り外す手順について説明します。

FAT32/NTFS 形式の増設ハードディスクを取り外す場合は、本製品の設定画面で[ディスクの取り外し]操作を行う必要があります。

取り外し時は、本製品の電源が入っている状態で取り外すことができます。
取り外し後、バックアップ用として保管したり、パソコンの USB ポートや eSATA ポートに接続してそのまま使用することができます。

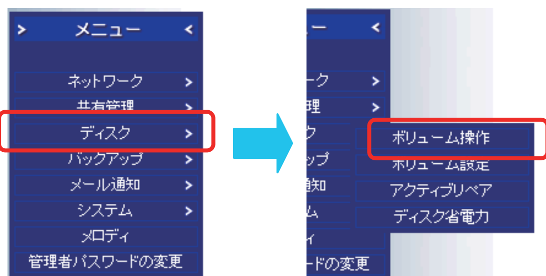
下記の手順にしたがって取り外しを行ってください。
（以下の例は、[eSATA ポート 2]に接続したハードディスクを取り外す手順です。）

**注意**
●本製品動作中に以下の手順を行わずに、USB ケーブルや eSATA ケーブルを取り外すと、データの破損や本製品や増設ハードディスクの故障の原因になります。
何らかの理由で、増設ハードディスクにアクセスが行われている最中に、USB ケーブルや eSATA ケーブルを取り外すとデータが破損するばかりか、本製品や増設ハードディスクの故障の原因になります。
必ず以下の手順を行ってください。
●本製品をシャットダウンし、本製品の電源を切った後に取り外すこともできます。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム操作]を順にクリックします。




**3** 取り外すボリューム欄の[操作]欄で[ディスクの取り外し]を選択後、[実行]ボタンをクリックします。
※以下の画面は[eSATA ボリューム 2]の増設ハードディスクを取り外す場合の画面例です。

■ボリューム情報

| | | |
|---|---|---|
| 内蔵 ボリューム1 | 動作モード | RAID5(分散パリティ) |
| | 状態 | 正常動作しています |
| | 操作 | フォーマット(専用) 実行 |
| | 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム1 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム2 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 正常動作しています |
| | 操作 | ディスクの取り外し 実行 |
| | 詳細情報 | |
| USB ボリューム1 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| USB ボリューム2 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 正常動作しています |
| | 操作 | フォーマット(FAT32) 実行 |
| | 詳細情報 | |

①選択 ②クリック

**4** 取り外すハードディスクを確認後、[OK]ボタンをクリックします。

■ディスク取り外しの確認

警告：eSATA ボリューム2 の取り外しを実行しようとしています。
eSATA ボリューム2 の取り外しを実行してもよろしいですか？

OK　クリック

**5** 結果の画面が表示されますので、Web ブラウザを終了します。

■結果

eSATA ボリューム2 の取り外しを行いました。
eSATA ボリューム2 のケーブルを抜いてください。
STATUSランプ の点滅が停止後、ファイル共有が再開されます。

**6** 取り外し手順を行った増設ハードディスクの USB ケーブルまたは eSATA ケーブルを本製品から取り外します。

**注意**
●本製品の電源が入っている状態で本製品から取り外すことができます。

**7** 増設ハードディスクの電源を切ります。
電源連動機能ハードディスクの場合は、USB ケーブルおよび eSATA ケーブルを取り外した時点で、電源が切れます。

※増設ハードディスクの電源の切り方については、増設ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。
※電源連動機能については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

以上で作業は完了です。

# ハードディスク取り外し後、パソコンで使用時の注意

本製品で使用した増設ハードディスクを、パソコンに直接接続して使用する場合について説明します。

## ●本製品から取り外す場合

必ず取り外し手順を行う必要があります。

【増設ハードディスクを取り外す】（前ページ）参照

## ●Windows と MacOS で共有して利用していた場合

Windows パソコンに直接接続してハードディスク内を見ると、見覚えの無いファイル、フォルダが見える場合があります。

これは、Mac OS で、フォルダを作成したりファイルをコピーした際は、作成したファイル（フォルダ）の他に、別のファイル（フォルダ）が作成されるためです。

このファイル（フォルダ）には、Mac OS ユーザ用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。

# 増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする

増設ハードディスクを本製品で FAT32 形式にフォーマットする手順について説明します。

**注意**

●フォーマットするとデータはすべて消去されます。
増設ハードディスク内に必要なデータがある場合は、事前にパソコンなどにバックアップしておいてください。

●フォーマット中は電源を切ることはできません。
完了するまでにお待ちください。

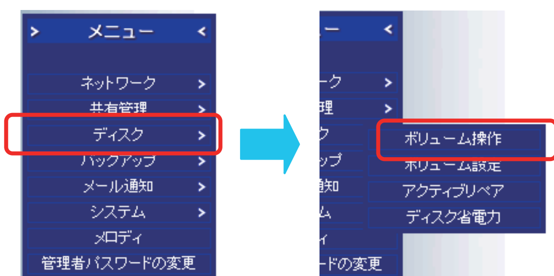
●FAT32 形式にできるのは、増設ハードディスクのみです。
内蔵ハードディスクは、本製品専用フォーマットです。FAT32 形式にすることはできません。
ただし、[RAID5＋FAT/NTFS]モード時のカートリッジ４のみ FAT32 にフォーマットすることができます。

●本製品で NTFS 形式にすることはできません。
増設ハードディスクを NTFS 形式にする場合は、Windows パソコンに直接接続してフォーマットしてください。
詳細については、ハードディスクの取扱説明書を参照してください。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示　> メニュー <　ログオフ

**2** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム操作]を順にクリックします。




**3** フォーマットするボリューム欄の[操作]欄で[フォーマット(FAT32)]を選択後、[実行]ボタンをクリックします。
※以下の画面は[eSATA ボリューム 2]の増設ハードディスクをフォーマットする場合の画面例です。

■ ボリューム情報

| | | |
|---|---|---|
| 内蔵 ボリューム1 | 動作モード | RAID5(分散パリティ) |
| | 状態 | 正常動作しています |
| | 操作 | フォーマット(専用) 実行 |
| | ▶ 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム1 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | ▶ 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム2 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 正常動作しています |
| | 操作 | フォーマット(FAT32) 実行 |
| | ▶ 詳細情報 | |
| USB ボリューム1 | 動作モード | ［…］TFS)モード |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | ▶ 詳細情報 | |
| USB ボリューム2 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 正常動作しています |
| | 操作 | フォーマット(FAT32) 実行 |
| | ▶ 詳細情報 | |

①選択　②クリック

**4** [OK]ボタンをクリックします。

■ フォーマットの確認

警告：eSATA ボリューム2をフォーマットしようとしています。

フォーマットを実行すると、eSATA ボリューム2 のすべてのデータ、共有が消去され、
ディスクはFAT32形式のフォーマットになります。
必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。

eSATA ボリューム2 をフォーマットしますか？

OK　クリック

■ 削除される共有フォルダ一覧

| 共有名 | コメント | アクセス権 | サービス |
|---|---|---|---|
| esata2 | HDL-GT eSATA2 disk | すべてのユーザ | Win Mac |

**5** [OK]ボタンをクリックします。




**6** 結果の画面が表示されるまでお待ちください。

■ 注意

eSATA ボリューム2 のフォーマットを開始しました。

STATUSランプ の点滅が終了したらフォーマットは完了です。
完了したら自動的に結果画面を表示します。

■ 結果

eSATA ボリューム2 のフォーマットが完了しました。

以上で作業は完了です。

# プリンタを増設する

## プリンタを使用できるようにする

本製品にプリンタを接続して、パソコンからネットワーク経由で印刷するには、パソコン側でプリンタドライバをインストールした後、プリンタ用の設定を行えば印刷できるようになります。

プリンタを使用できる設定を行います。

### STEP1 プリンタドライバをインストールする

お使いのパソコンに、使用するプリンタのプリンタドライバをインストールします。

プリンタの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。



プリンタドライバのインストールがうまくできない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の262ページ

インストール後、本製品にプリンタを接続します。

### STEP2 プリンタを接続する

本製品でプリンタを使用できるように最初に本製品にプリンタを接続します。



必ず、[USB ポート2]（背面ポート）に接続してください。
USB ポート１にプリンタを接続してもご利用いただけません。

**1** 本製品の電源が入っていることを確認します。



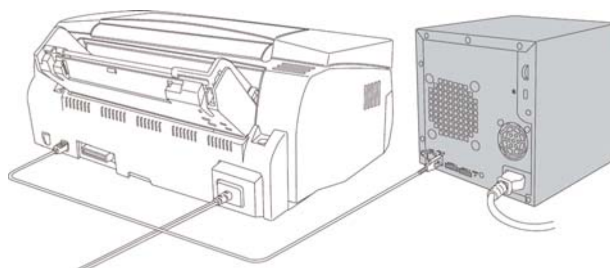
本製品の電源が入っている状態で接続できます。

**2** プリンタの電源を入れ、プリンタが起動することを確認します。



プリンタの電源を入れてから本製品に接続します。

**3** 本製品背面の USB ポート２にプリンタを接続します。
※USB ポート１ではご利用になれません。



以上で接続は完了です。
次に正しくプリンタが接続されているかを設定画面で確認します。

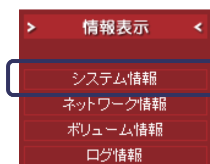
## STEP3 プリンタの接続を確認する

接続したプリンタの接続を設定画面で確認します。

**1** 本製品の設定画面の情報表示メニューをクリックします。




**2** 情報表示メニューの[システム情報]をクリックします。



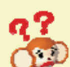

**3** [有効な共有サービス]に[プリントサーバ]が表示されていることを確認します。

### システム情報

#### システムの情報

| | |
|---|---|
| システムバージョン | 1.11 |
| 現在時刻 | 2007年01月23日 10時32分11秒 |
| タイムサーバとの時刻同期 | 無効 |
| 有効な共有サービス | Microsoftネットワークファイル共有<br>AppleShareネットワークファイル共有<br>DLNA Server<br>プリントサーバ |
| 内蔵ボリューム1の動作モード | RAID5(分散パリティ) |
| クイックコピー | 有効 |
| セルフバックアップ | スケジュール無効 |
| リモートバックアップ | スケジュール無効 |
| ディスク省電力 | なし |
| ランプの明るさ | 明 |
| 起動スケジュール | 無効 |
| 筐体内温度 | 32 ℃ |
| メインFAN回転数 | 2085 rpm |
| UPS接続状態 | 未接続 |
| UPSバッテリー充電容量 | 取得できません |
| UPS警告機能 | 無効 |

確認



何も表示されていない！

⇒プリンタの情報を読み取るのに時間がかかる場合があります。

プリンタが正常に起動していることを確認後、しばらくしてから、再度、[システム情報]画面を開いてみてください。

以上で本製品への接続の確認は終了です。
次にパソコンに、本製品に接続したプリンタ用の設定を行います。

## STEP4 接続したプリンタから印刷する

本製品に接続したプリンタ用に、パソコンのプリンタ設定で[ポートの追加]を行います。
設定が終了すれば印刷できるようになります。

印刷方法はOSにより異なりますので、次のご使用のOSのページをご覧ください。


・Windows Vista®の場合（次ページ）
・Windows XP/2000の場合（次ページ）
・Windows Me/98の場合（87ページ）

# Windows Vista®での印刷用設定

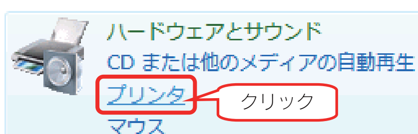
ここでは、Windows Vista®パソコンで本製品に接続したプリンタ用の設定を行います。
設定がすべて終了すれば、印刷できます。

**1** お使いのパソコンに、使用するプリンタのプリンタドライバをインストールしていない場合は、インストールします。

プリンタの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。

**2** 本製品にプリンタが接続されていることを確認します。
取り外していた場合は、接続してください。

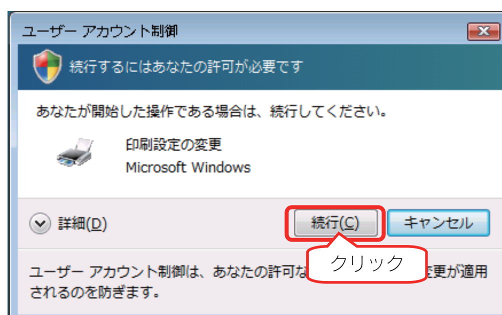
**3** [スタート]→[コントロールパネル]→[ハードウェアとサウンド]→[プリンタ]を順にクリックします。



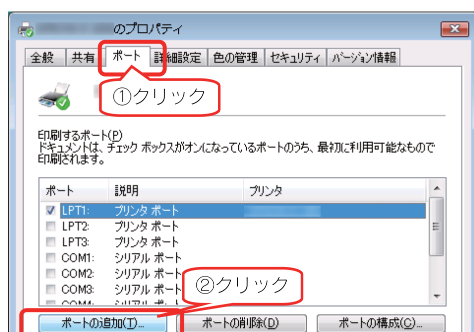

**4** 1 の手順でインストールしたプリンタアイコンを右クリックし、表示されたメニューの[管理者として実行]→[プロパティ]をクリックします。



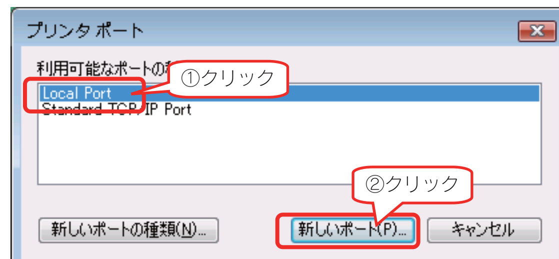

**5** ユーザアカウント制御の画面が表示されますので、[続行]をクリックしてください。




**6** [ポート]タブをクリック後、[ポートの追加]ボタンをクリックします。



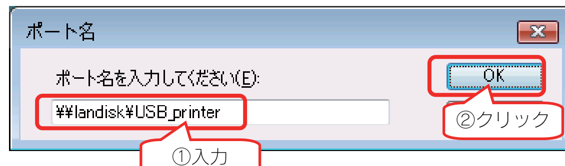

**7** [Local Port]をクリック後、[新しいポート]ボタンをクリックします。




**8** 以下のように[ポート名]を入力後、[OK]ボタンをクリックします。

\\landisk\USB_printer

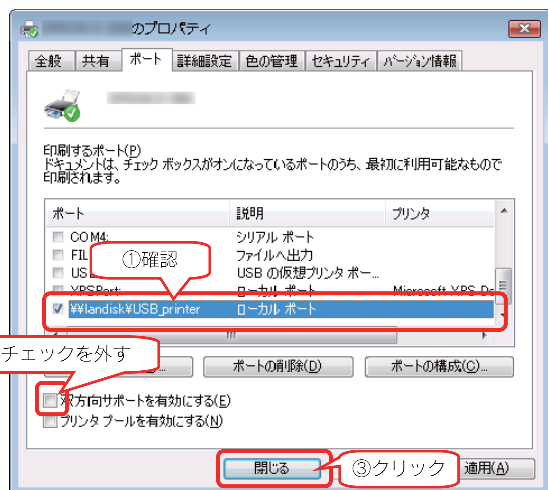
※上記の"landisk"の個所は出荷時の本製品の[LANDISK の名前]です。
[LANDISK の名前]を変更している場合は、"landisk"の個所をその変更した名前で入力してください。




**9** [閉じる]ボタンをクリックします。



| 10 | 正しく設定されると以下の画面となります。<br>表示を確認後、[双方向サポートを有効にする]のチェックを外した後、[閉じる]ボタンをクリックします。<br>※本製品はプリンタの双方向機能には対応しておりません。チェックは外してください。（グレー表示となっている場合は設定の必要はありません。） |
|---|---|




●エラー画面が表示された場合は、正しく入力されていないか、本製品の[LANDISK の名前]が異なっている可能性があります。
入力および[LANDISK の名前]を再度ご確認ください。
本製品の[LANDISK の名前]を指定してもエラーが出る場合は、本製品の IP アドレスを入力してご確認ください。
（*IP アドレスを指定する場合は、本製品の IP アドレスを「TCP/IP 設定」で「次の IP アドレスを使う」にて固定にすることをおすすめします。）

| 11 | スタート]→[コントロールパネル]→[ハードウェアとサウンド]→[プリンタ]をクリックし、プリンタの状態が「準備完了」になっていることを確認します。 |
|---|---|




●プリンタの状態が[オフライン]になっている場合は、アイコンを右クリック後、[プリンタをオフラインで使用する]をクリックしてください。

これで、設定は完了です。
本製品を利用して実際に印刷できるかお試しください。



印刷ができない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の263ページ

# Windows XP/2000 での印刷用設定

ここでは、Windows XP/2000 パソコンで本製品に接続したプリンタ用の設定を行います。
設定がすべて終了すれば、印刷できます。

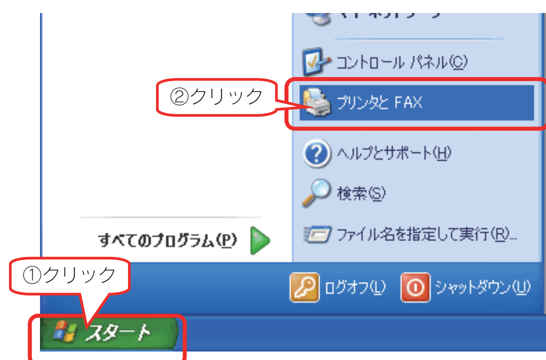
**1** お使いのパソコンに、使用するプリンタのプリンタドライバをインストールしていない場合は、インストールします。

プリンタの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。

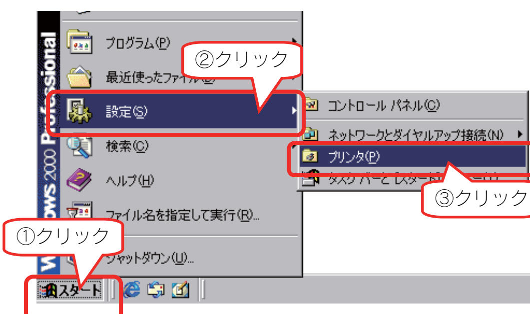
**2** 本製品にプリンタが接続されていることを確認します。
取り外していた場合は、接続してください。

**3** [スタート]→[プリンタと FAX]を順にクリックします。
（Windows 2000 の場合は、[スタート]→[設定]→[プリンタ]を順にクリック）

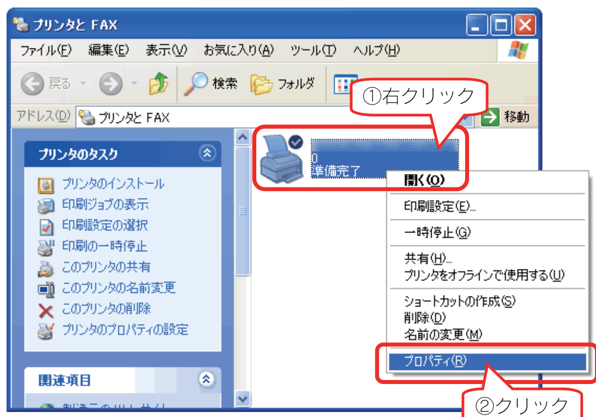
▼Windows XP の場合



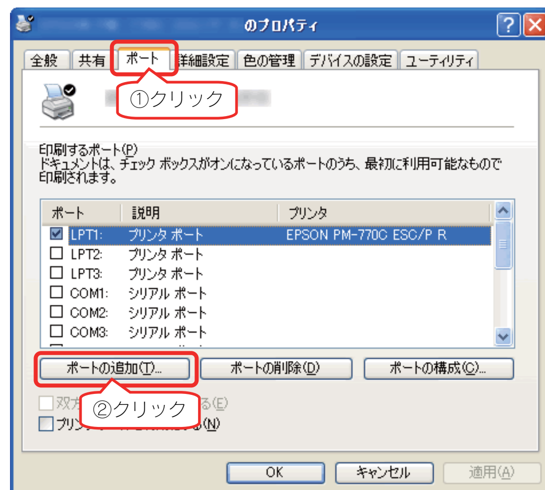

▼Windows 2000 の場合



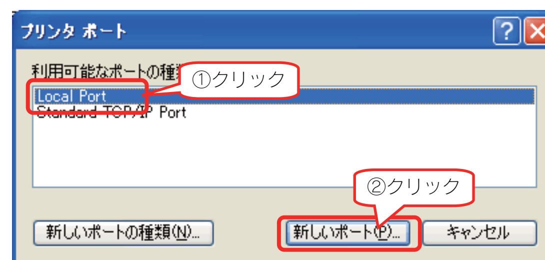

**4** **1** 手順でインストールしたプリンタアイコンを右クリックし、表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。




**5** [ポート]タブをクリック後、[ポートの追加]ボタンをクリックします。



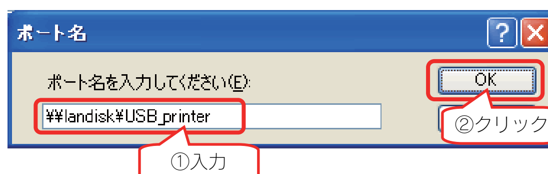

**6** [Local Port]をクリック後、[新しいポート]ボタンをクリックします。



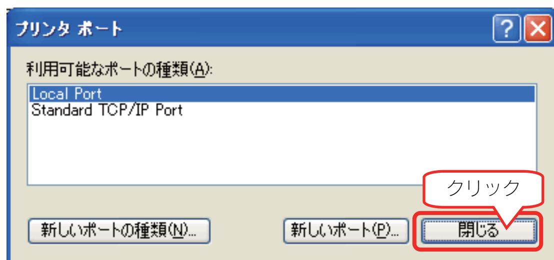

**7** 以下のように[ポート名]を入力後、[OK]ボタンをクリックします。

\\landisk\USB_printer

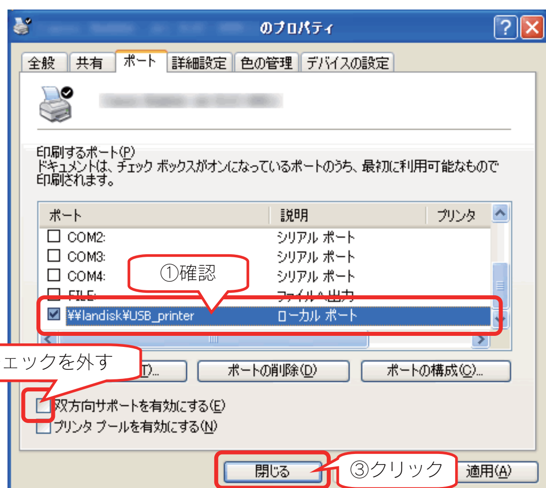
※上記の"landisk"の個所は出荷時の本製品の[LANDISK の名前]です。
[LANDISK の名前]を変更している場合は、"landisk"の個所をその変更した名前で入力してください。



| 8 | [閉じる]ボタンをクリックします。 |
|---|---|




| 9 | 正しく設定されると以下の画面となります。<br>表示を確認後、[双方向サポートを有効にする]のチェックを外した後、[閉じる]ボタンをクリックします。<br><br>※本製品はプリンタの双方向機能には対応しておりません。チェックは外してください。（グレー表示となっている場合は設定の必要はありません。） |
|---|---|



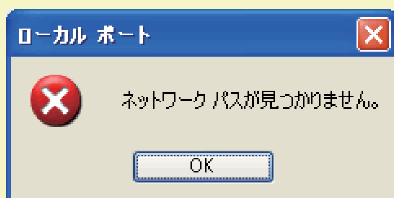

注意

●以下のエラー画面が表示された場合は、正しく入力されていないか、本製品の[LANDISK の名前]が異なっている可能性があります。

入力および[LANDISK の名前]を再度ご確認ください。

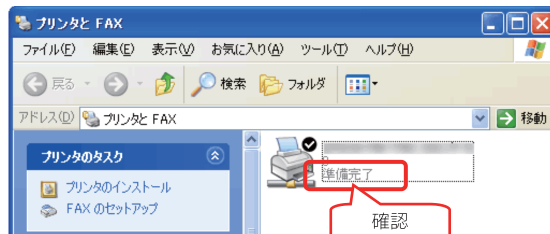
本製品の[LANDISK の名前]を指定してもエラーが出る場合は、本製品の IP アドレスを入力してご確認ください。

（*IP アドレスを指定する場合は、本製品の IP アドレスを「TCP/IP 設定」で「次の IP アドレスを使う」にて固定にすることをお奨めいたします。）

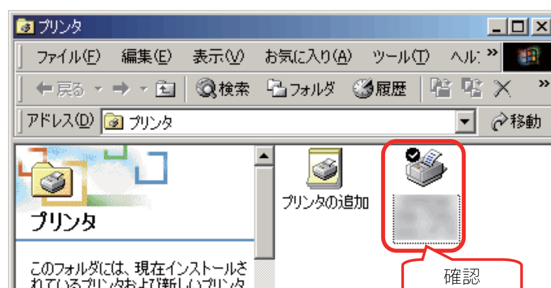



| 10 | [プリンタの状態が[準備完了]となっていることを確認します。<br>※Windows 2000 の場合は、アイコンがアクティブになっていることを確認します。 |
|---|---|

▼Windows XP の場合



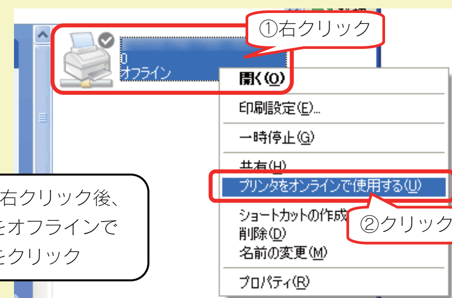

▼Windows 2000 の場合




注意

●プリンタの状態が[オフライン]になっている場合は、アイコンを右クリック後、[プリンタをオフラインで使用する]をクリックしてください。




アイコンを右クリック後、[プリンタをオフラインで使用する]をクリック

これで、設定は完了です。
本製品を利用して実際に印刷できるかお試しください。

印刷ができない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の266ページ

# Windows Me/98 での印刷用設定

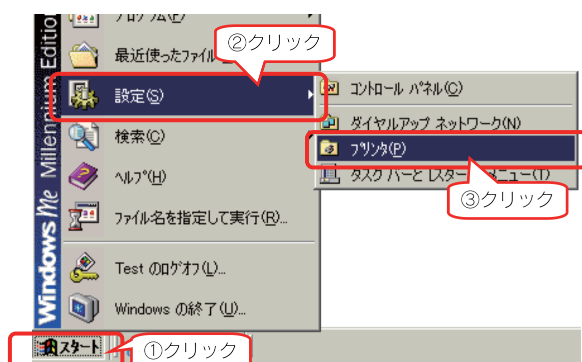
ここでは、Windows Me/98 パソコンで本製品に接続したプリンタ用の設定を行います。
設定がすべて終了すれば、印刷できます。

**1** お使いのパソコンに、使用するプリンタのプリンタドライバをインストールしていない場合は、インストールします。

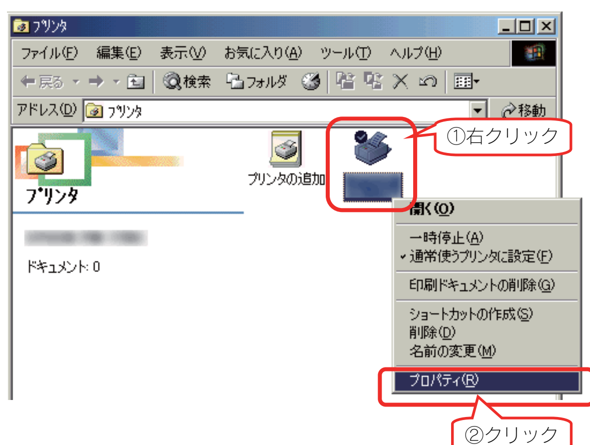
プリンタの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。

**2** 本製品にプリンタが接続されていることを確認します。
取り外していた場合は、接続してください。

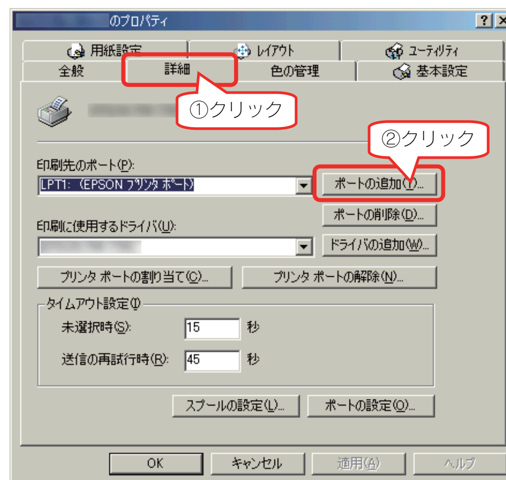
**3** [スタート]→[設定]→[プリンタ]を順にクリックします。



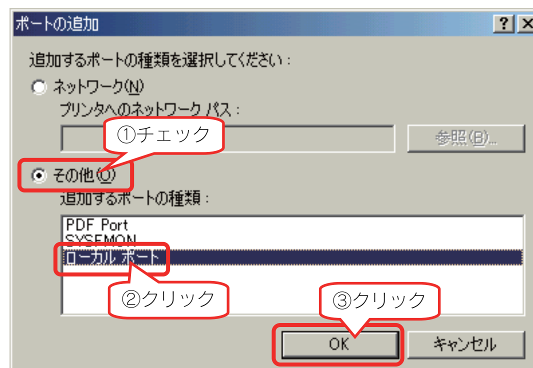

**4** 1 の手順でインストールしたプリンタアイコンを右クリックし、表示されたメニューの[プロパティ]をクリックします。




**5** [詳細]タブをクリック後、[ポートの追加]ボタンをクリックします。



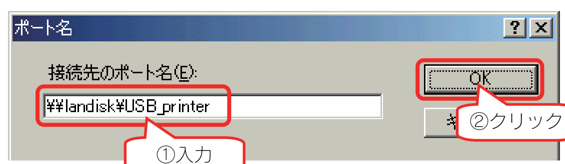

**6** [その他]をチェックし、[ローカルポート]をクリック後、[OK]ボタンをクリックします。



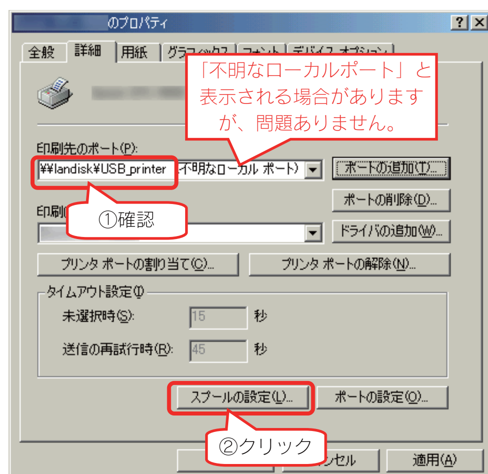

**7** 以下のように[接続先のポート名]を入力後、[OK]ボタンをクリックします。

\\landisk\USB_printer

※上記の"landisk"の個所は出荷時の本製品の[LANDISK の名前]です。
[LANDISK の名前]を変更している場合は、"landisk"の個所をその変更した名前で入力してください。



**8** 正しく設定されると以下の画面となります。
表示を確認後、[スプールの設定]ボタンをクリックします。





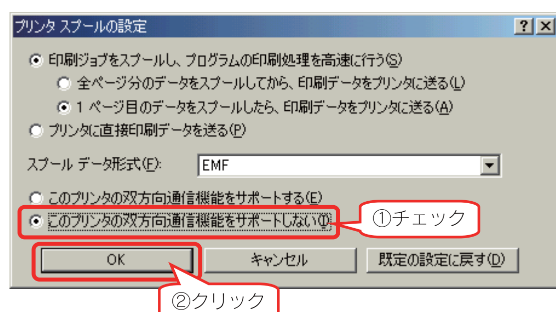


●以下のエラー画面が表示された場合は、正しく入力されていないか、本製品の[LANDISK の名前]が異なっている可能性があります。
入力および[LANDISK の名前]を再度ご確認ください。
本製品の[LANDISK の名前]を指定してもエラーが出る場合は、本製品の IP アドレスを入力してご確認ください。
（*IP アドレスを指定する場合は、本製品の IP アドレスを「TCP/IP 設定」で「次の IP アドレスを使う」にて固定にすることをお奨めいたします。）




**9** [このプリンタの双方向通信機能をサポートしない]をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。

※本製品はプリンタの双方向機能には対応しておりません。サポートしないの方をチェックしてください。（グレー表示となっている場合は設定の必要はありません。）




これで、設定は完了です。
本製品を利用して実際に印刷できるかお試しください。



印刷ができない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の263ページ

# バックアップする

# データのバックアップについて

万一に備えて定期的にデータはバックアップすることをおすすめします。
本製品では、以下のバックアップを行うことができます。

| | |
|---|---|
| クイックコピー | 本製品前面の[COPY]ボタンの機能です。<br>クイックコピーでは、EasyDisk やデジカメを[USB ポート 1 ]に接続した後、前面の[COPY]ボタンを押せば、自動的に EasyDisk やデジカメのデータをあらかじめ指定されている本製品の共有フォルダ内にコピーすることができます。<br>クイックコピー機能は、本製品前面の[USB ポート 1 ]でのみ機能します。また、USB ポート 1 の動作モードが[クイックコピー]となっている場合のみ機能します。 |
| セルフバックアップ | 本製品上に作成した共有フォルダの内容を指定した共有フォルダへバックアップすることができます。<br>ユーザー、グループの情報や、各共有フォルダのアクセス権設定等は保存することができません。<br>・本製品の内蔵ハードディスクのデータを増設ハードディスクにバックアップする。<br>・増設ハードディスクのデータを本製品の内蔵ハードディスクにバックアップする。<br>・複数増設ハードディスクを接続している場合は、増設ハードディスク同士でバックアップする。 |
| リモートバックアップ | 指定したネットワーク上の共有フォルダの内容を､本製品上の指定した共有フォルダへバックアップすることができます。<br>登録ユーザーやグループの情報や、各共有フォルダのアクセス権設定等は保存することができません。<br>バックアップ元には、最大 10 個指定することができます。<br>・同一 LAN 内にある Windows パソコンの共有フォルダのデータを本製品の内蔵ハードディスクまたは、増設ハードディスクにバックアップする。<br>・他の LANDISK の共有フォルダのデータを本製品の内蔵ハードディスクまたは、増設ハードディスクにバックアップする。 |

注意

●[クイックコピー]、[セルフバックアップ]および[リモートバックアップ]はデータのみのバックアップです。
本製品のシステムも含めてバックアップを行う場合は、ミラーリングを構築後、ミラーリングしたディスクを保管するという方法にてバックアップすることができます。【ミラーリングする】（114ページ）
●[クイックコピー]、[セルフバックアップ]および[リモートバックアップ]を同時に実行することはできません。
●バックアップ中、ファイル共有などが遅くなる場合があります。
●リモートバックアップ元にはネットワーク上の共有フォルダを 10 個まで指定できます。
●Windows パソコンの共有フォルダをバックアップするには、事前にパソコン側で共有設定しておく必要があります。
手順については、パソコンの取扱説明書を参照してください。
●Macintosh パソコンの共有フォルダをリモートバックアップすることはできません。
●リモートバックアップは、ドメインコントローラが存在する環境で、かつ、LANDISK がドメインに参加している場合ではご利用いただけません。

# クイックコピーで使用できるデジカメや EasyDisk

デジカメや弊社製 EasyDisk のデータを、本製品前面の[COPY]ボタンでまるごと本製品や増設ハードディスクにコピーすることができます。

| 使用できるデジカメや EasyDisk について |
| --- |
| 動作確認済みデジカメや EasyDisk については、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)の製品情報をご覧ください。<br>使用できるデジカメや EasyDisk は以下のものです。<br><br>・USB マスストレージクラスの転送に対応し、かつ、そのモードに設定されているデジカメ<br>・FAT または NTFS 形式のデジカメ、または EasyDisk |

| 本製品でご利用になる場合の注意 |
| --- |
| 本製品でご利用になる場合は、以下にご注意ください。<br><br>・デジカメや EasyDisk は本製品の USB ポート 1 でのみご利用になれます。<br>他の USB ポートにデジカメや EasyDisk を接続してもご利用いただけません。<br>・コピー先のディスクに空き容量が十分あることをご確認ください。<br>・コピー先が FAT32 形式の場合、ファイルシステムの制限のため、ファイルサイズが 4G バイト以上のファイルはバックアップできません。<br>・コピー先に NTFS 形式の増設ハードディスクを選択してもコピーすることはできません。<br>NTFS 形式のハードディスクに書き込みはできません。<br>・[USB ポート 1 ]で増設ハードディスクを使用するために[USB ポート 1 ]の設定を変更した場合は、クイックコピーの設定に戻す必要があります。<br>【USB ポート 1 (前面)の設定について】（93ページ） |




●すでに[USB ポート 1 ]に USB 機器を接続している場合は、その USB 機器の取り外し処理を行う必要があります。
【増設ハードディスクを取り外す】（78ページ）参照

# セルフ／リモート バックアップする際の注意

バックアップする前に、以下をご確認ください。

●バックアップ元ディスクとバックアップ先ディスクは別々にすることをおすすめします。
万一、ディスクが故障した場合でもどちらかのデータを取り出すことができます。

●バックアップ中はバックアップ元、先の共有フォルダへアクセスしないでください。
データ不整合、バックアップ失敗の原因となります。

●バックアップ中は Web 設定画面操作や、本製品のボタン操作などは行わないでください。

●バックアップ元の共有のサブフォルダには半角英数字を使用してください。
半角英数字以外は、フォルダ選択画面でうまく表示されない場合があり、保証対象外となります。（株）やⅡなどの機種依存文字は正常に表示できませんのでご注意ください。
※リモートバックアップ元にはサブフォルダは指定できません。

●増設ハードディスクにバックアップする場合は、事前に増設ハードディスクを接続しておいてください。
【ハードディスクやプリンタを増設する】（69ページ）

●NTFS 形式の増設ハードディスクをバックアップ先に指定することはできません。

●バックアップ可能な最大ファイルサイズは、バックアップ先のファイルシステムの仕様に依存します。（内蔵ハードディスク上の共有フォルダの場合のみ無制限です。）
バックアップ先が、FAT32 形式の場合、ファイルシステムの制限のため、ファイルサイズが４G バイト以上のファイルはバックアップできません。
そのファイルを含むバックアップ元フォルダはバックアップエラーとなり、不完全なバックアップデータとなります。

●セルフバックアップしたデータは以下の手順で確認できます。
【セルフバックアップしたデータを確認する】（101ページ）

●バックアップログメール送信機能を使用する場合は、[メール通知]→[メール基本設定]を行っておく必要があります。
【メール基本設定】（215ページ）

●リモートバックアップは、同一 LAN 内の LANDISK および Windows パソコンのデータのみバックアップできます。
ルーターを越えた（別セグメントの）パソコンおよび LANDISK のデータをバックアップすることはできません。
リモートバックアップ元にはネットワーク上の共有フォルダを 10 個まで指定できます。

●リモートバックアップでは、ネットワークを介して通信するため、その時のネットワーク上のパソコンやトラフィックなどの通信状態により、正常に完了しないことがあります。
正常にバックアップされたかは、毎回ご確認することをおすすめします。
【リモートバックアップしたデータを確認する】（110ページ）

●リモートバックアップのバックアップ先は、本製品（あるいは本製品に接続した増設ハードディスク）のみです。
リモートバックアップでは、本製品（および本製品に接続した増設ハードディスク）のデータを、他の LANDISK やパソコンへバックアップすることはできません。

# USB ポート 1 (前面) の設定について

出荷時[USB ポート 1 ]の動作モードは、[クイックコピー]に設定されていますが、増設ハードディスク用に動作モードを[共有ディスク（FAT/NTFS）]に変更した場合は、[クイックコピー]に戻す必要があります。
以下は、[USB ポート 1 ]の動作モードを[クイックコピー]に変更する手順です。
※[USB ポート 1 ]の動作モードを出荷時から変更していない場合は、以下の手順を行う必要はありません。
※[クイックコピー]に設定すると、USB ポート 1 のネットワークへの公開は行われなくなります。

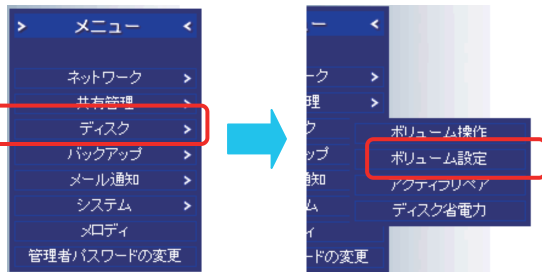
## USB ポート 1 をクイックコピー用に設定する

USB ポート 1 で増設ハードディスク用に変更した設定を、USB クイックコピー用に戻します。

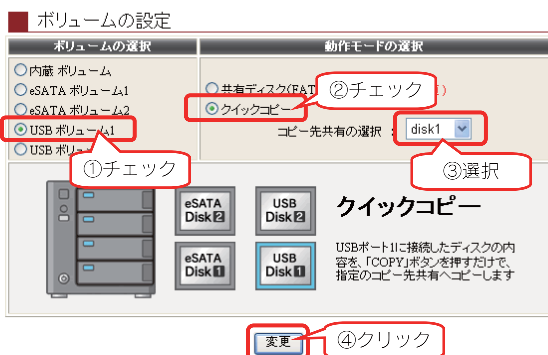
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム設定]を順にクリックします。




**3** [USB ボリューム 1 ]をチェック後、[動作モードの選択]で[クイックコピー]にチェック後、[コピー先共有の選択]でコピー先を選択後、[変更]ボタンをクリックします。




| コピー先 | [コピー先共有の選択]で表示される共有フォルダ名 |
|---|---|
| 内蔵ボリューム 1 | disk1 |
| 内蔵ボリューム 2 | slot4 |
| eSATA ボリューム 1 | esata1 |
| eSATA ボリューム 2 | e sata2 |
| USB ボリューム 2 | usb2 |




●コピー先に[usb1]（USB ポート 1 ）は選択できません。
●NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクはコピー先に選択できません。

**4** [OK]ボタンをクリックします。

ボリューム設定

USB ボリューム 1の設定を変更しようとしています。
USB ボリューム1の動作モードをクイックコピーに変更します。
USB ボリューム1の動作モードを変更すると、現在のUSB ボリューム1のすべての共有情報が消去され、ディスクは取り外すことができます。
USB1ポートは「クイックコピー」機能のコピー元ディスクの接続ポートになります。
「クイックコピー」モードでは、USB1ポートに接続したディスクはネットワークに公開されません。
変更してもよろしいですか

クリック　OK　戻る

削除される共有フォルダ一覧

| 共有名 | コメント | アクセス権 | サービス |
|---|---|---|---|
| usb1 | HDL-GT USB1 disk | すべてのユーザ | Win Mac |

**5** [OK]ボタンをクリックします。




**6** [結果]画面が表示されます。

結果

USB ボリューム 1の動作モードをクイックコピーに変更しました

これで、USB ポート 1 をクイックコピー用に使用できるようになりました。

# クイックコピー

## デジカメや EasyDisk の データをコピーする

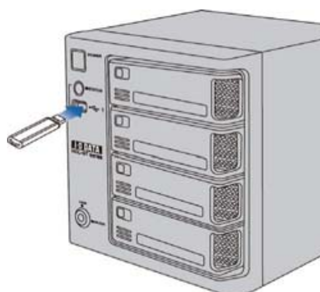
[COPY]ボタンを使えば、本製品にデジカメや EasyDisk のデータをコピーすることができます。

注意
●必ず、USB ポート 1 に接続してください。
USB ポート 2 にデジカメや EasyDisk を接続しても[COPY]ボタンは使用できません。

●出荷時のコピー先は、内蔵ハードディスクの[disk1]共有フォルダに設定されています 。
他の共有フォルダや増設ハードディスクに切り替えたい場合は、以下の個所を参照してください。
【コピー先を変更する】(95ページ)

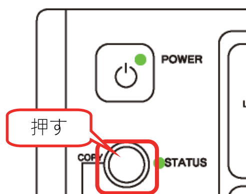
**1** 本製品前面の USB ポート 1 にデジカメや EasyDisk を接続します。
[STATUS]ランプが点滅し、しばらくすると点灯します。
※他の USB ポートではご利用になれません。

▼EasyDisk を接続する例

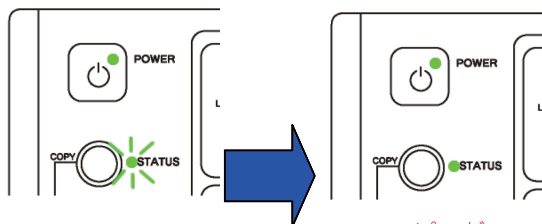


注意
●必ず、USB ポート 1 に接続してください。
他の USB ポートにデジカメや EasyDisk を接続しても[COPY]ボタンは使用できません。

**2** 本製品前面の[COPY]ボタンを押します。
→コピーを開始します。




**3** コピー中は、STATUS ランプが点滅します。
“ピッピッピッ”と音が鳴り、点滅が点灯に変わったらコピー完了です。




コピーが
終了した状態

以上でコピーは完了です。コピー完了後は、そのままデジカメや EasyDisk を取り外すことができます。
ネットワーク上からコピーしたデータを確認する場合は、以下をご覧になり、確認してください。
【コピーしたデータを確認する】(次ページ)

### ●データコピー先について

データは、コピー先(出荷時は内蔵ハードディスクの[disk1])の共有フォルダの下に、自動で作成される[quickcopy]フォルダ内にコピーされます。さらにその下に順に「コピー時点の[年月日-時刻]を元にしたフォルダ」→[usb1]フォルダを作成し、そのフォルダ内に接続したデジカメや EasyDisk のデータがコピーされます。

[指定したディスク共有フォルダ]-
[quickcopy]-[年月日-時刻]-[usb1]フォルダ

複数のデジカメ・EasyDisk をコピーする場合にも、データは[年月日-時刻]フォルダで区別されますので、上書きされることはありません。
以下は、コピー先に内蔵ハードディスクを指定した例です。

▼コピー後に作成されたフォルダ例

disk1 - HDL-GT series (Landisk)
quickcopy
20060810-150145
usb1

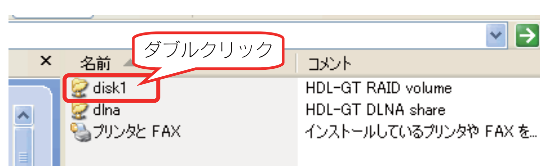
# コピーしたデータを確認する

デジカメや EasyDisk のデータが正しくコピーされているかを確認します。

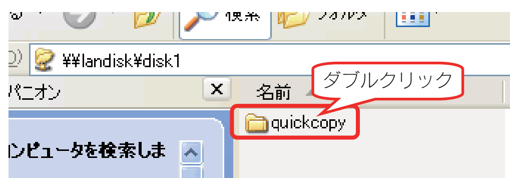
※以下は、Windows XP での確認例です。
　データを本製品内蔵ハードディスクの[disk1]共有フォルダにコピーした場合での確認例を説明します。

**1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。
手順については、以下の個所を参照してください。
・Windows から本製品にアクセスする場合
【Windows から本製品にアクセスする】（22ページ）
・Mac OS から本製品にアクセスする場合
【Mac OS から本製品にアクセスする】（31ページ）

**2** [disk1]フォルダをダブルクリックします。

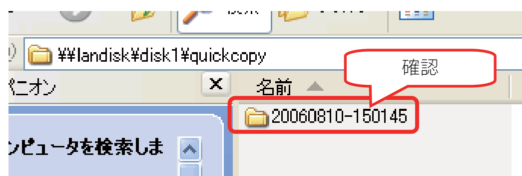



**3** [quickcopy]フォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



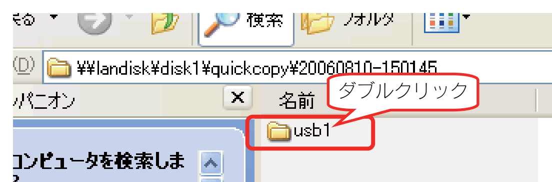

[quickcopy]フォルダについて･･･
[COPY]ボタンでコピーする手順を行った場合に自動で作成されるフォルダです。

**4** 年月日-時刻のフォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックし、ファイルがコピーされているかご確認ください。



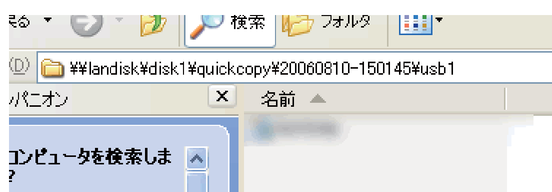

年月日-時刻フォルダについて･･･
[COPY]ボタンでコピーする手順を行った場合に、[quickcopy]フォルダの下に、デジカメ・EasyDisk のデータコピーを開始した年月日・時刻をもとにして、自動で作成されるフォルダです。
上記画面例（[20060810-150145]）は、2006 年 08 月 10 日 15 時 01 分 45 秒にコピーを開始したときに作成した例です。

**5** [usb1]フォルダをダブルクリックします。




[usb1]フォルダについて･･･
自動で作成されるフォルダです。

**6** コピーしたファイルやフォルダが表示されます。




以上で確認は終了です。

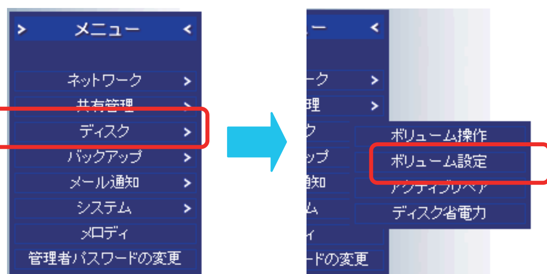
# コピー先を変更する

コピー先を出荷時の[disk1]から変更する場合の手順です。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム設定]を順にクリックします。




**3** [USB ボリューム 1 ]をチェック後、[動作モードの選択]で[クイックコピー]がチェックされていることを確認後、[コピー先共有の選択]でコピー先を選択後、[変更]ボタンをクリックします。

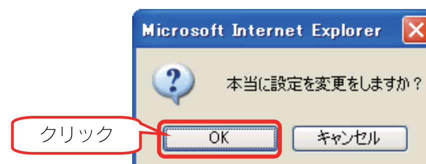



| コピー先 | [コピー先共有の選択]で表示される共有フォルダ名 |
|---|---|
| 内蔵ボリューム 1 | disk1 |
| 内蔵ボリューム 2 | slot4 |
| eSATA ボリューム 1 | esata1 |
| eSATA ボリューム 2 | e sata2 |
| USB ボリューム 2 | usb2 |




●コピー先に[usb1]（USB ポート 1 ）は選択できません。
●NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクはコピー先に選択できません。

**4** [OK]ボタンをクリックします。




**5** [OK]ボタンをクリックします。

Microsoft Internet Explorer
本当に設定を変更をしますか？
クリック
OK　キャンセル

**6** [結果]画面が表示されます。

結果
クイックコピーのコピー先共有を「esata2」に変更しました

これで、クイックコピーのコピー先の変更は終了です。

# セルフバックアップ

## 今すぐセルフバックアップする

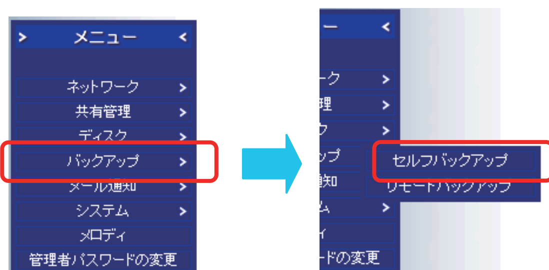
今すぐセルフバックアップを行う場合の設定について説明します。

以下の例は、本製品内蔵ハードディスク内の[disk1]共有フォルダのデータを、[USB ポート 2]に接続した増設ハードディスクにバックアップする例です。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示 | メニュー | ログオフ

**2** [メニュー]の[バックアップ]→[セルフバックアップ]を順にクリックします。




**3** バックアップ元を指定します。

[バックアップ元フォルダ指定]横の[選択]ボタンをクリックし、[バックアップ元フォルダの選択]画面でバックアップ元（ここでは[disk1]）をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。

■ セルフバックアップの設定

| | | |
|---|---|---|
| バックアップ元フォルダ指定 | 0個のフォルダ指定済 | 選択 |
| バックアップ先共有指定 | 保存先が未指定です | |

①クリック

■ バックアップ元フォルダの選択

| ボリューム名 | | 共有フォルダ名選択 |
|---|---|---|
| 内蔵ボリューム1 | ☑ | disk1 |
| 内蔵ボリューム1 | ☐ | dlna |
| eSATA ボリューム1 | ☐ | esata1 |
| eSATA ボリューム2 | ☐ | esata2 |
| USB ボリューム1 | ☐ | usb1 |
| USB ボリューム2 | ☐ | usb2 |

②選択（チェック） OK クリア ③クリック

接続されていない増設ハードディスクはグレー表示となります。（選択しないでください。）

**注意**
- ●バックアップ元には 300 までの共有フォルダを指定することができます。複数の増設ハードディスクも選択できます。
- ●バックアップ元にフォルダを指定する場合は、2 階層下のフォルダまで指定できます。
  以下の例では「フォルダ１」まで指定可能です。
  「フォルダ２」は指定できません。

disk1 - HDL-GT series (Landisk)
フォルダ1
フォルダ2

**4** バックアップ先を指定します。

[バックアップ先共有指定]横の[選択]ボタンをクリックし、[バックアップ先共有フォルダの選択]画面でバックアップ先（ここでは[usb2]）をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。

■ セルフバックアップの設定

| | | |
|---|---|---|
| バックアップ元フォルダ指定 | 1個のフォルダ指定済 | 選択 |
| バックアップ先共有指定 | 保存先が未指定です | 選択 |
| バックアップ方式 | ○毎回上書き(backupフォルダ)<br>◉履歴(日付時刻フォルダ) | |

①クリック

■ バックアップ先共有フォルダの選択

| ボリューム名 | | 共有フォルダ名 |
|---|---|---|
| 内蔵ボリューム1 | ○ | disk1 |
| 内蔵ボリューム1 | ○ | dlna |
| eSATA ボリューム1 | ○ | esata1 |
| eSATA ボリューム2 | ○ | esata2 |
| USB ボリューム1 | ○ | usb1 |
| USB ボリューム2 | ◉ | usb2 |

②選択（チェック） OK クリア ③クリック

**注意**
- ●バックアップ元ディスクとバックアップ先ディスクは別にすることをおすすめします。
  万一、ディスクが故障した場合でもどちらかのデータを取り出すことができます。
- ●バックアップ先に複数の共有フォルダを指定することはできません。
- ●NTFS フォーマットの増設ハードディスクをバックアップ先に指定することはできません。
  バックアップ元に指定することはできます。

## 5 [バックアップ方式]を選択（チェック）します。

■ セルフバックアップの設定

| | |
|---|---|
| バックアップ元フォルダ指定 | 1個のフォルダ指定済 選択 |
| バックアップ先共有指定 | 選択 |
| バックアップ方式 | ○毎回上書き(backupフォルダ)<br>◉履歴(日付時刻フォルダ) 全て 残す |
| バックアップオプション | □設定と同時にバックアップを開始する<br>□バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする |
| | ○使用する ◉使用しない |

選択

| バックアップ方式 | |
|---|---|
| バックアップの方式を選択します。 | |
| 毎回上書き | バックアップするごとに backup フォルダに上書きします。 |
| 履歴 | 常に指定した回数分のバックアップを[日付時刻]フォルダに残します。<br>指定回数を超えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。 |
| ※バックアップを実行すると、本製品は[バックアップ先共有指定]で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。<br>その際、[毎回上書き]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[backup]フォルダを作成し、さらにその下に[backup]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。<br>[履歴]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[backup]フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した[日付時刻]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。 | |

## 6 [設定と同時にバックアップを開始する]をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。

①チェック

| | |
|---|---|
| バックアップオプション | ☑設定と同時にバックアップを開始する<br>□バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする |
| スケジュールバックアップ機能 | ○使用する ◉使用しない<br>曜日指定：□日 □月 □火 □水 □木 □金 □土<br>時刻指定：0 時 0 分 |
| バックアップログメール送信機能 | ○使用する ◉使用しない<br>送信先メールアドレス |

②クリック OK クリア

## 7 [バックアップ実行時の注意]の画面が表示されます。
内容を確認後、[今すぐバックアップ実行]をクリックします。
→バックアップを開始します。本製品のブザー音が「ピッ」と鳴り、[STATUS]ランプが緑点滅状態になります。

■ バックアップ実行時の注意

バックアップ設定内容を有効にします。以下の点に注意してください。

・バックアップ実行中はWEB設定画面は使用できません。
・バックアップ先に十分な容量がある事を確認してください。
・バックアップ実行時間はバックアップするファイルの容量や、装置へのアクセス状況により非常に長くなる場合があります。
・装置の電源ボタンを1秒押してシャットダウンすると強制中断可能ですが、バックアップデータは保証されません。
・装置の時刻を正確にあわせてください。
・バックアップ元にアプリケーションやOSなどが使用中のファイルがある場合は、バックアップが正常に行えなかったり、エラー終了する場合があります。
・バックアップしたファイルは必ずお客様にて正常にバックアップされた事を確認してください。

クリック 今すぐバックアップ実行 戻る

■ 注意

現在セルフバックアップを実行中です。

装置のSTATUSランプが点滅中は他の操作を行なわないでください。
完了したら自動的に結果画面を表示します。

注意
- バックアップ中は、[STATUS]ランプが点滅しますので、点滅が停止するまで設定画面にアクセスしないでください。
- バックアップ中はバックアップ元、先の共有フォルダへアクセスしないでください。

バックアップにかかる時間は？
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の265ページ

## 8 [結果]の画面が表示されます。

■ 結果

スケジュール設定、およびバックアップが完了しました。

バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピッピッピ」となります。これでバックアップは完了です。実際にバックアップしたデータは、以下の個所を参照して確認してください。
【セルフバックアップしたデータを確認する】（101ページ）

ブザーが「ピーピーピー」と鳴って、[STATUS]ランプが赤点滅し、バックアップエラーになる！
⇒[COPY]ボタンを押して[STATUS]ランプが緑点灯に変わることを確認します。その後以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の266ページ

# セルフバックアップをスケジュールする

スケジューリングを行ってバックアップする場合の設定について説明します。

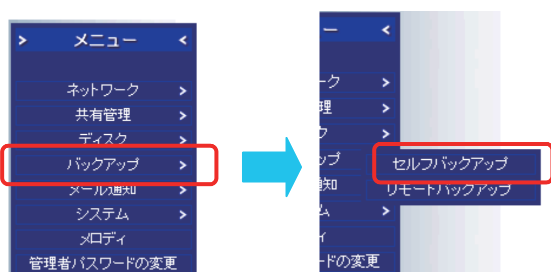
ここではスケジュールのみの設定を行います。（今すぐバックアップは実行しません。）

以下の例は、指定した日時に、本製品内蔵ハードディスク内の[disk1]共有フォルダのデータを、[USB ポート 2]に接続した増設ハードディスクにバックアップする例です。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

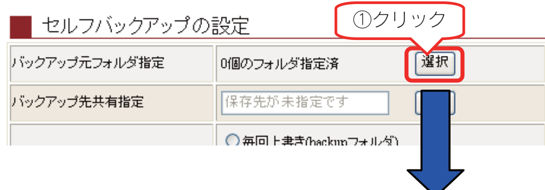



**2** [メニュー]の[バックアップ]→[セルフバックアップ]を順にクリックします。




**3** バックアップ元を指定します。

[バックアップ元フォルダ指定]横の[選択]ボタンをクリックし、[バックアップ元フォルダの選択]画面でバックアップ元（ここでは[disk1]）をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。







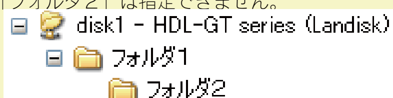
②選択（チェック）　OK　クリア　③クリック

接続されていない増設ハードディスクはグレー表示となります。（選択しないでください。）

**注意**

●バックアップ元には 300 までの共有フォルダを指定することができます。複数の増設ハードディスクも選択できます。

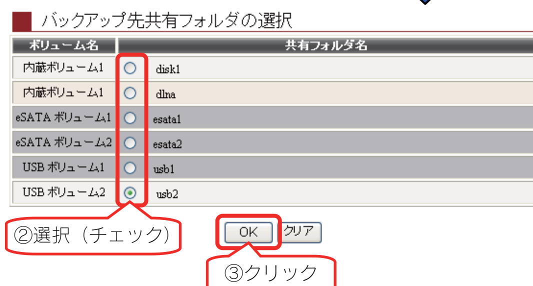
●バックアップ元にフォルダを指定する場合は、２階層下のフォルダまで指定できます。
以下の例では「フォルダ１」まで指定可能です。
「フォルダ２」は指定できません。




**4** バックアップ先を指定します。

[バックアップ先共有指定]横の[選択]ボタンをクリックし、[バックアップ先共有フォルダの選択]画面でバックアップ先（ここでは[usb2]）をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。




**注意**

●バックアップ元ディスクとバックアップ先ディスクは別にすることをおすすめします。
万一、ディスクが故障した場合でもどちらかのデータを取り出すことができます。

●バックアップ先に複数の共有フォルダを指定することはできません。

●NTFS フォーマットの増設ハードディスクをバックアップ先に指定することはできません。
バックアップ元に指定することはできます。

## 5 [バックアップ方式]を選択（チェック）します。

■ セルフバックアップの設定

| | |
|---|---|
| バックアップ元フォルダ指定 | 1個のフォルダ指定済 選択 |
| バックアップ先共有指定 | 選択 |
| バックアップ方式 | ○毎回上書き(backupフォルダ)<br>◉履歴(日付時刻フォルダ) 全て 残す |
| バックアップオプション | □設定と同時にバックアップを開始する<br>□バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする |
| | ○使用する ◉使用しない |

選択

| バックアップ方式 | |
|---|---|
| バックアップの方式を選択します。 | |
| 毎回上書き | バックアップするごとに backup フォルダに上書きします。 |
| 履歴 | 常に指定した回数分のバックアップを[日付時刻]フォルダに残します。<br>指定回数を超えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。 |
| ※バックアップを実行すると、本製品は[バックアップ先共有指定]で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。<br>その際、[毎回上書き]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[backup]フォルダを作成し、さらにその下に[backup]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。<br>[履歴]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[backup]フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した[日付時刻]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。 | |

## 6 [スケジュールバックアップ機能]で[使用する]をチェック後、バックアップする曜日と時刻を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

| | |
|---|---|
| バックアップオプション | □設定と同時にバックアップを開始する<br>□バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする |
| スケジュールバックアップ機能 | ◉使用する ○使用しない<br>曜日指定 ☑日 □月 □火 □水 □木 □金 □土<br>時刻指定 12 時 0 分 |
| バックアップログメール送信機能 | ○使用<br>送信先メ |

①チェック

②設定

③クリック

OK　クリア

| スケジュールバックアップ機能 | |
|---|---|
| 設定したスケジュールでバックアップを行う場合に[使用する]をチェックします。 | |
| 曜日指定 | バックアップする曜日を指定します。<br>※複数の指定が可能です。 |
| 時刻指定 | バックアップする時刻を指定します。<br>24 時間制で指定します。<br>例）午後 9 時の場合は、[21]時[0]分 |

注意

●他のスケジュール設定と重ならないようご注意ください。

## 7 [バックアップ実行時の注意]の画面が表示されます。
内容を確認後、[スケジュール設定保存]をクリックします。
→スケジュール設定を保存します。

■ バックアップ実行時の注意

バックアップ設定内容を有効にします。以下の点に注意してください。

・バックアップ実行中はWEB設定画面は使用できません。
・バックアップ先に十分な容量がある事を確認してください。
・バックアップ実行時間はバックアップするファイルの容量や、装置へのアクセス状況により非常に長くなる場合があります。
・装置の電源ボタンを1秒押してシャットダウンすると強制中断可能ですが、バックアップデータは保証されません。
・装置の時刻を正確にあわせてください。
・バックアップ元にアプリケーションやOSなどが使用中のファイルがある場合は、バックアップが正常に行えなかったり、エラー終了する場合があります。
・バックアップしたファイルは必ずお客様にて正常にバックアップされた事を確認してください。

クリック　スケジュール設定保存　戻る

## 8 [結果]の画面が表示されます。

■ 結果

スケジュール設定を完了しました。

戻る

これでスケジュールの設定は完了です。
バックアップ中は[STATUS]ランプが緑点滅になります。バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピッピッピッ」と鳴り、[STATUS]ランプが緑点灯に変わります。

・設定したスケジュールでバックアップが実施されているかを確認する場合は、バックアップログを確認します。[バックアップログを確認する]（111ページ）
・バックアップしたデータは、次をご覧ください。【セルフバックアップしたデータを確認する】（101ページ）



ブザーが「ピー・ピーピーピー」と鳴り、[STATUS]ランプが赤点滅し、バックアップエラーになる！
⇒[COPY]ボタンを押して[STATUS]ランプが緑点灯に変わることを確認します。その後以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の266ページ



バックアップにかかる時間は？
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の265ページ

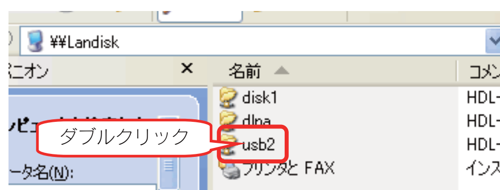
# セルフバックアップしたデータを確認する

セルフバックアップしたデータを確認します。

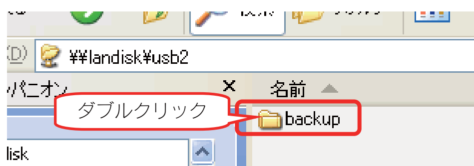
※以下は、Windows XP での確認例です。
ここでは、内蔵ハードディスクの[disk1]共有フォルダのデータを[USB ポート 2]の増設ハードディスクにバックアップした場合の確認例を説明します。

**1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。
手順については、以下の個所を参照してください。
・Windows から本製品にアクセスする場合
【Windows から本製品にアクセスする】（22ページ）
・Mac OS から本製品にアクセスする場合
【Mac OS から本製品にアクセスする】（31ページ）

**2** バックアップした先のフォルダをダブルクリックします。
ここでは、[usb2]フォルダをダブルクリックします。



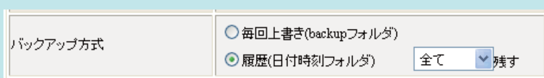

**3** [backup]フォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



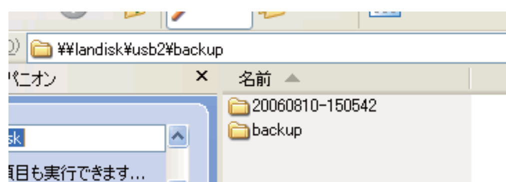

[backup]フォルダについて・・・
セルフバックアップを行った場合に自動で作成されるフォルダです。

**4** セルフバックアップ時に設定した[バックアップ方式]に応じたフォルダをダブルクリックします。

▼セルフバックアップ設定時の[バックアップ方式]の選択画面




▼以下は[毎回上書き]でのバックアップと[履歴]でのバックアップの両方を行った場合の画面です。

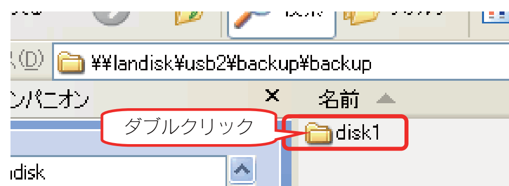



[backup]フォルダについて・・・
セルフバックアップを行った場合に、[バックアップ方式]で[毎回上書き（backup フォルダ）]を選択した場合に自動で作成されるフォルダです。
このフォルダに毎回上書きされます。

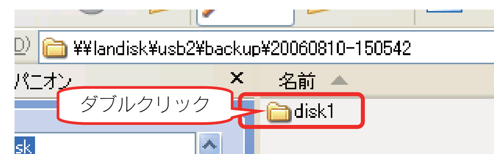
日付時刻フォルダについて・・・
セルフバックアップを行った場合に、[バックアップ方式]で[履歴（日付時刻フォルダ）]を選択した場合に、セルフバックアップを開始した年月日・時刻をもとにして、自動で作成されるフォルダです。
画面例（[20060810-150542]）は、2006 年 08 月 10 日 15 時 05 分 42 秒にバックアップを開始したときに作成した例です。

**5** バックアップしたバックアップ元のフォルダが表示されますので、ダブルクリックします。
ここでは、[disk1]フォルダをダブルクリックします。

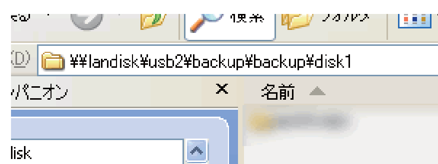
●[毎回上書き（backup フォルダ）]を選択した場合




●[履歴（日付時刻フォルダ）]を選択した場合




**6** バックアップしたファイルやフォルダが表示されます。




以上で確認は終了です。



バックアップデータを見せないようできますか？
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の269ページ

# リモートバックアップ

## 今すぐ<br>リモートバックアップする

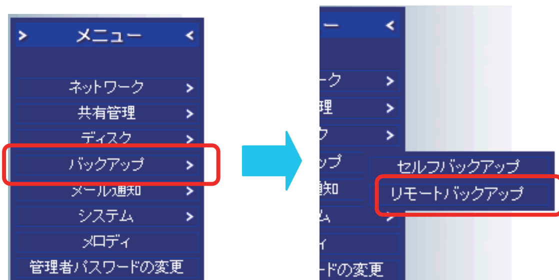
今すぐリモートバックアップを行う場合の設定について説明します。

以下の例は、同一ネットワーク上の他の LANDISK の内蔵ハードディスク内の[disk]共有フォルダのデータやパソコン内の共有フォルダのデータを、本製品の[disk1]共有フォルダにバックアップする例です。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[バックアップ]→[リモートバックアップ]を順にクリックします。



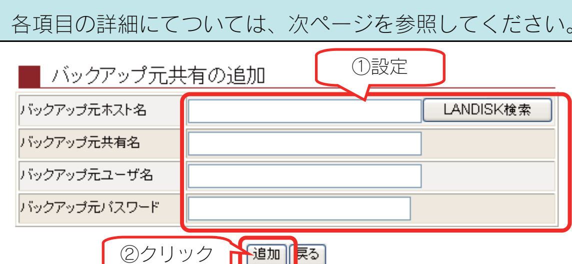

**3** バックアップ元を指定します。

[バックアップ元共有指定]欄にバックアップ元（ネットワーク上の他の LANDISK や Windows パソコン）を指定します。
(最大 10 個まで指定できます。)
[詳細]ボタンをクリックします。




**4** [バックアップ元ホスト名]、[バックアップ元共有名][バックアップ元ユーザ名][バックアップ元パスワード]を指定後、[追加]ボタンをクリックします。

各項目の詳細にてついては、次ページを参照してください。




**注意**

DHCP サーバより IP アドレスを自動取得にしてご利用の場合、DHCP サーバとなっている機器を再起動したり、あるいは、バックアップ元の LANDISK やパソコンを再起動すると IP アドレスが変更される可能性があります。

IP アドレスを指定する場合は、リモートバックアップを行う前に、毎回バックアップ元の IP アドレスをご確認ください。

●ネットワーク上の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR シリーズからバックアップする場合の[バックアップ元ホスト名]

■ バックアップ元共有の追加

①クリック

| | |
|---|---|
| バックアップ元ホスト名 | LANDISK検索 |
| バックアップ元共有名 | |
| バックアップ元ユーザ名 | |
| バックアップ元パスワード | |

追加 戻る

▼ネットワーク上に他の HDL-GT が 1 台ある場合の例

■ リモートバックアップ元LANDISKの検索結果

| 選択 | 名前 | IPアドレス | MACアドレス |
|---|---|---|---|
| ◉ | LANDISK | 192.168.0.4 | 00:a0:b0: |

②クリック OK クリア

■ バックアップ元共有の追加

| | |
|---|---|
| バックアップ元ホスト名 | LANDISK検索 |
| バックアップ元共有名 | |
| バックアップ元ユーザ名 | |
| バックアップ元パスワード | |

③入力

④クリック 追加 戻る

| | |
|---|---|
| バックアップ元ホスト名 | バックアップ元ホスト名を指定します。<br><br>上記手順のように、[LANDISK 検索]ボタンをクリックしホスト名を指定することができます。 |
| バックアップ元共有名 | バックアップ元共有フォルダを指定します。<br>※バックアップ元に指定できる共有名（フォルダ）は最大１０個までです。 |
| バックアップ元ユーザ名 | アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、ユーザー名は任意のものを使用できます。ただし、【文字制限一覧】(189ページ)で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。 |
| バックアップ元パスワード | アクセス権設定をしていない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、[バックアップ元に設定する場合は、パスワードは任意に設定してください。ただし、【文字制限一覧】(189ページ）で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。 |

注意

ネットワーク上に他の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR シリーズが見つからない場合は、以下の画面が表示されます。

■ リモートバックアップ元LANDISKの検索結果

LANDISKは見つかりませんでした。
「OK」ボタンをクリックすると前画面に戻ります。

OK クリア

他の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR シリーズがあるのにこの画面が表示された場合は、他の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR シリーズの以下をご確認ください。

・電源が入っていること
・LAN ケーブルでネットワークに接続されていること
・同一ネットワーク内にあること

●ネットワーク上の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR シリーズ以外の LANDISK やネットワーク上の Windows パソコンからバックアップする場合の[バックアップ元ホスト名]

■ バックアップ元共有の追加

| | |
|---|---|
| バックアップ元ホスト名 | LANDISK検索 |
| バックアップ元共有名 | |
| バックアップ元ユーザ名 | |
| バックアップ元パスワード | |

①入力

②クリック 追加 戻る

| | | |
|---|---|---|
| バックアップ元ホスト名 | バックアップ元ホスト名を指定します。 | |
| | LANDISK の場合 | バックアップ元の LANDISK の名前か、IP アドレスを入力します。 |
| | バックアップ元が Windows XP/2000 パソコンの場合 | パソコンの[コンピュータ名]か、IP アドレスを入力します。 |
| | バックアップ元が Windows Me/98 パソコンの場合 | パソコンの[コンピュータ名]を入力します。<br>（IP アドレスではご利用いただけません。） |
| バックアップ元共有名 | バックアップ元共有フォルダを指定します。<br>※バックアップ元に指定できる共有名（フォルダ）は最大１０個までです。 | |
| バックアップ元ユーザ名 | アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、ユーザー名は任意のものを使用できます。ただし、【文字制限一覧】(175 ページ)で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。 | |
| バックアップ元パスワード | アクセス権設定をしていない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、[バックアップ元に設定する場合は、パスワードは任意に設定してください。ただし、【文字制限一覧】(189ページ）で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。 | |

**5** 設定を確認後、[OK]ボタンをクリックします。

[バックアップ元共有の一覧]に設定した内容が追加されていることを確認します。
バックアップ元の追加が無い場合は、[戻る]ボタンをクリックして次に進んでください。
別の共有をバックアップ元に追加する場合は、[追加]ボタンで同様に追加してください。（最大 10 個まで追加できます。）
※ブラウザの[戻る]ボタンを押して戻らないでください。
設定が正しく反映されません。

**6** 次に、バックアップ先を指定します。

[バックアップ先共有指定]横の[選択]ボタンをクリックし、[バックアップ先共有フォルダの選択]画面でバックアップ先（ここでは[disk1]）をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。

接続されていない増設ハードディスクはグレー表示となります。（選択しないでください。）




●NTFS フォーマットの増設ハードディスクをバックアップ先に指定することはできません。

**7** [バックアップ方式]を選択（チェック）します。

| バックアップ方式 | |
|---|---|
| バックアップの方式を選択します。 | |
| 毎回上書き | バックアップするごとに backup フォルダに上書きします。 |
| 履歴 | 常に指定した回数分のバックアップを[日付時刻]フォルダに残します。<br>指定回数を超えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。 |

※バックアップを実行すると、本製品は[バックアップ先共有指定]で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。
その際、[毎回上書き]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[netbackup]フォルダを作成し、さらにその下に[backup]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。
[履歴]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[netbackup]フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した[日付時刻]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。

**8** [設定と同時にバックアップを開始する]をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。

**9** [バックアップ実行時の注意]の画面が表示されます。
内容を確認後、[今すぐバックアップ実行]をクリックします。
→バックアップを開始します。本製品のブザー音が「ピッ」と鳴り、[STATUS]ランプが緑点滅状態になります。

■ リモートバックアップ実行時の注意

リモートバックアップ設定内容を有効にします。
以下の点に注意してください。

・バックアップ実行中はWEB設定画面は使用できません。
・バックアップ先に十分な容量がある事を確認してください。
・バックアップ実行時間はバックアップするファイルの容量や、ネットワークのトラフィック、装置へのアクセス状況により非常に長くなる場合があります。
装置の電源ボタンを1秒押してシャットダウンすると強制中断可能ですが、バックアップデータは保証されません。
・装置の時刻を正確にあわせてください。
・バックアップ元との通信が非常に遅い場合や、LINKが切れた場合は正常にバックアップ完了できません。
・バックアップ元にアプリケーションやOSなどが使用中のファイルがある場合は、バックアップが正常に行えなかったり、エラー終了する場合があります。
・バックアップしたファイルは必ずお客様にて正常にバックアップされた事を確認してください。

クリック　[今すぐバックアップ実行]　[戻る]



■ 注意

現在リモートバックアップを実行中です。

装置のSTATUSランプが点滅中は他の操作を行なわないでください。
完了したら自動的に結果画面を表示します。




●バックアップ中は、[STATUS]ランプが点滅しますので、点滅が停止するまで設定画面にアクセスしないでください。
●バックアップ中はバックアップ元、先の共有フォルダへアクセスしないでください。
データ不整合、バックアップ失敗の原因となります。

**10** [結果]の画面が表示されます。

■ 結果

スケジュール設定、およびバックアップが完了しました。

バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピッピッピッ」となります。これでバックアップは完了です。実際にバックアップしたデータは、次をご覧ください。
【リモートバックアップしたデータを確認する】（110ページ）



ブザーが「ピーピーピー」鳴って[STATUS]ランプが赤点滅でバックアップエラーになる！
⇒[COPY]ボタンを押して[STATUS]ランプが緑点灯に変わることを確認します。その後以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の269ページ



バックアップにかかる時間は？
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の268ページ

# リモートバックアップをスケジュールする

スケジューリングを行ってバックアップする場合の設定について説明します。

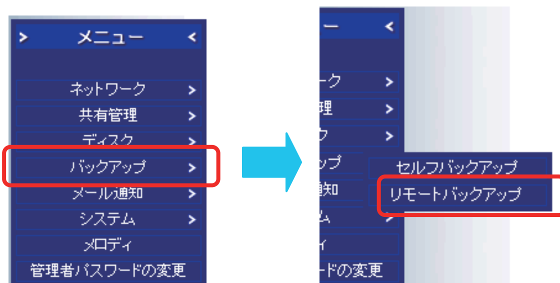
ここではスケジュールのみの設定を行います。（今すぐバックアップは実行しません。）

以下の例は、指定した日時に、同一ネットワーク上のLANDISKの内蔵ハードディスク内の[disk]共有フォルダのデータを、本製品の[disk1]共有フォルダにバックアップする例です。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

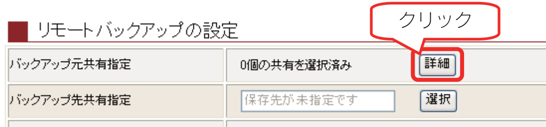



**2** [メニュー]の[バックアップ]→[リモートバックアップ]を順にクリックします。



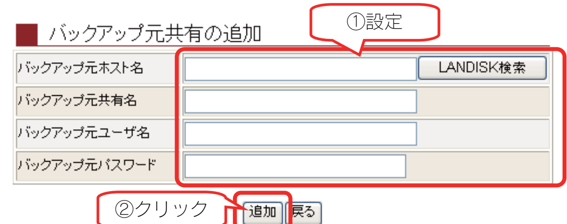

**3** バックアップ元を指定します。

[バックアップ元共有指定]欄にバックアップ元（ネットワーク上の他のLANDISKやWindowsパソコン）を指定します。（最大10個まで指定できます。）
[詳細]ボタンをクリックします。




**4** [バックアップ元ホスト名]、[バックアップ元共有名][バックアップ元ユーザ名][バックアップ元パスワード]を指定後、[追加]ボタンをクリックします。

各項目の詳細にてついては、次ページを参照してください。




注意

DHCPサーバよりIPアドレスを自動取得にしてご利用の場合、DHCPサーバとなっている機器を再起動したり、あるいは、バックアップ元のLANDISKやパソコンを再起動するとIPアドレスが変更される可能性があります。

IPアドレスを指定する場合は、リモートバックアップを行う前に、毎回バックアップ元のIPアドレスをご確認ください。

●ネットワーク上の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR シリーズからバックアップする場合の[バックアップ元ホスト名]

■ バックアップ元共有の追加

| | |
|---|---|
| バックアップ元ホスト名 | LANDISK検索 |
| バックアップ元共有名 | |
| バックアップ元ユーザ名 | |
| バックアップ元パスワード | |

追加 戻る

①クリック

▼ネットワーク上に他の HDL-GT が 1 台ある場合の例

■ リモートバックアップ元LANDISKの検索結果

| 選択 | 名前 | IPアドレス | MACアドレス |
|---|---|---|---|
| ◉ | LANDISK | 192.168.0.4 | 00:a0:b0: |

②クリック OK クリア

■ バックアップ元共有の追加

| | |
|---|---|
| バックアップ元ホスト名 | LANDISK検索 |
| バックアップ元共有名 | |
| バックアップ元ユーザ名 | |
| バックアップ元パスワード | |

③入力

④クリック 追加 戻る

| | |
|---|---|
| バックアップ元ホスト名 | バックアップ元ホスト名を指定します。<br><br>上記手順のように、[LANDISK 検索]ボタンをクリックしホスト名を指定することができます。 |
| バックアップ元共有名 | バックアップ元共有フォルダを指定します。<br>※バックアップ元に指定できる共有名（フォルダ）は最大１０個までです。 |
| バックアップ元ユーザ名 | バックアップ元共有フォルダにアクセス権を設定してあるユーザ名を入力します。<br>アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、ユーザ名は任意のものを使用できます。 |
| バックアップ元パスワード | アクセス権設定をしていない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、[バックアップ元に設定する場合は、パスワードは任意に設定してください。ただし、【文字制限一覧】(189ページ）で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。 |

注意 ネットワーク上に他の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR シリーズが見つからない場合は、以下の画面が表示されます。

■ リモートバックアップ元LANDISKの検索結果

LANDISKは見つかりませんでした。
「OK」ボタンをクリックすると前画面に戻ります。

OK クリア

他の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR シリーズがあるのにこの画面が表示された場合は、他の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR シリーズの以下をご確認ください。

・電源が入っていること
・LAN ケーブルでネットワークに接続されていること
・同一ネットワーク内にあること

●ネットワーク上の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR シリーズ以外の LANDISK やネットワーク上の Windows パソコンからバックアップする場合の[バックアップ元ホスト名]

■ バックアップ元共有の追加

| | |
|---|---|
| バックアップ元ホスト名 | LANDISK検索 |
| バックアップ元共有名 | |
| バックアップ元ユーザ名 | |
| バックアップ元パスワード | |

①入力

②クリック 追加 戻る

<table>
<tr><td rowspan="4">バックアップ元ホスト名</td><td colspan="2">バックアップ元ホスト名を指定します。</td></tr>
<tr><td>LANDISK の場合</td><td>バックアップ元の LANDISK の名前か、IP アドレスを入力します。</td></tr>
<tr><td>バックアップ元が Windows XP/2000 パソコンの場合</td><td>パソコンの[コンピュータ名]か、IP アドレスを入力します。</td></tr>
<tr><td>バックアップ元が Windows Me/98 パソコンの場合</td><td>パソコンの[コンピュータ名]を入力します。<br>（IP アドレスではご利用いただけません。）</td></tr>
<tr><td>バックアップ元共有名</td><td colspan="2">バックアップ元共有フォルダを指定します。<br>※バックアップ元に指定できる共有名（フォルダ）は最大１０個までです。</td></tr>
<tr><td>バックアップ元ユーザ名</td><td colspan="2">バックアップ元共有フォルダにアクセス権を設定してあるユーザ名を入力します。<br>アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、ユーザ名は任意のものを使用できます。</td></tr>
<tr><td>バックアップ元パスワード</td><td colspan="2">アクセス権設定をしていない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、[バックアップ元に設定する場合は、パスワードは任意に設定してください。ただし、【文字制限一覧】(189ページ）で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。</td></tr>
</table>

**5** 設定を確認後、[OK]ボタンをクリックします。

[バックアップ元共有の一覧]に設定した内容が追加されていることを確認します。
バックアップ元の追加が無い場合は、[戻る]ボタンをクリックして次に進んでください。
別の共有をバックアップ元に追加する場合は、[追加]ボタンで同様に追加してください。（最大 10 個まで追加できます。）
※ブラウザの[戻る]ボタンを押して戻らないでください。
設定が正しく反映されません。

以下のリモートバックアップ元共有指定を追加しようとしています。

| ホスト名 | |
|---|---|
| 共有名 | |
| ユーザ名 | |

この指定を追加してもよろしいですか？

①クリック　OK

バックアップ元共有の追加

| | |
|---|---|
| バックアップ元ホスト名 | LANDISK検索 |
| バックアップ元共有名 | |
| バックアップ元ユーザ名 | |
| バックアップ元パスワード | |

追加　戻る　②クリック

バックアップ元共有の一覧

| ホスト名 | 共有名 | 操作 |
|---|---|---|
| | | 削除 |

**6** 次に、バックアップ先を指定します。

[バックアップ先共有指定]横の[選択]ボタンをクリックし、[バックアップ先共有フォルダの選択]画面でバックアップ先（ここでは[disk1]）をチェック後、[OK]ボタンをクリックします。

リモートバックアップの設定

| | |
|---|---|
| バックアップ元共有指定 | 1個の共有を選択済み　詳細 |
| バックアップ先共有指定 | 保存先が未指定です　選択　①クリック |
| バックアップ方式 | 毎回上書き(backupフォルダ) |

バックアップ先共有フォルダの選択

| ボリューム名 | | 共有フォルダ名 |
|---|---|---|
| 内蔵ボリューム1 | ◉ | disk1 |
| 内蔵ボリューム1 | ○ | dlna |
| eSATA ボリューム1 | ○ | esata1 |
| eSATA ボリューム2 | ○ | esata2 |
| USB ボリューム1 | ○ | usb1 |
| USB ボリューム2 | ○ | usb2 |

②選択（チェック）　OK　③クリック

接続されていない増設ハードディスクはグレー表示となります。
（選択しないでください。）

注意 ●NTFS フォーマットの増設ハードディスクをバックアップ先に指定することはできません。

**7** [バックアップ方式]を選択（チェック）します。

リモートバックアップの設定

| | |
|---|---|
| バックアップ元共有指定 | 1個の共有を選択済み　詳細 |
| バックアップ先共有指定 | disk　選択 |
| バックアップ方式 | ○毎回上書き　◉履歴(日付時刻フォルダ)　全て　残す |
| バックアップオプション | □設定と同時にバックアップを開始する　□バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする |

選択

| バックアップ方式 | |
|---|---|
| バックアップの方式を選択します。 | |
| 毎回上書き | バックアップするごとに backup フォルダに上書きします。 |
| 履歴 | 常に指定した回数分のバックアップを[日付時刻]フォルダに残します。<br>指定回数を超えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。 |

※バックアップを実行すると、本製品は[バックアップ先共有指定]で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。
その際、[毎回上書き]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[netbackup]フォルダを作成し、さらにその下に[backup]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。
[履歴]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[netbackup]フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した[日付時刻]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。

**8** [スケジュールバックアップ機能]で[使用する]をチェック後、バックアップする曜日と時刻を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

| | |
|---|---|
| バックアップオプション | □設定と同時にバックアップを開始する　□バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする |
| スケジュールバックアップ機能 | ◉使用する　○使用しない<br>曜日指定：☑日 □月 □火 □水 □木 □金 □土<br>時刻指定：12 時 0 分 |
| バックアップログメール送信機能 | ○使用する　◉使用しない<br>送信先メールアドレス |

①チェック　②設定　③クリック　OK　クリア

| スケジュールバックアップ機能 | |
|---|---|
| 設定したスケジュールでバックアップを行う場合に[使用する]をチェックします。 | |
| 曜日指定 | バックアップする曜日を指定します。<br>※複数の指定が可能です。 |
| 時刻指定 | バックアップする時刻を指定します。<br>24 時間制で指定します。<br>例）午後 9 時の場合は、[21]時[0]分 |

注意 ●他のスケジュール設定と重ならないようご注意ください。

**9** [リモートバックアップ実行時の注意]の画面が表示されます。内容を確認後、[スケジュール設定保存]をクリックします。
→スケジュール設定を保存します。

リモートバックアップ実行時の注意

リモートバックアップ設定内容を有効にします。
以下の点に注意してください。

・バックアップ実行中はWEB設定画面は使用できません。
・バックアップ先に十分な容量がある事を確認してください。
・バックアップ実行時間はバックアップするファイルの容量や、ネットワークのトラフィック、装置へのアクセス状況により非常に長くなる場合があります。
装置の電源ボタンを1秒押してシャットダウンすると強制中断可能ですが、バックアップデータは保証されません。
・装置の時刻を正確にあわせてください。
・バックアップ元との通信が非常に遅い場合や、LINKが切れた場合は正常にバックアップ完了できません。
・バックアップ元にアプリケーションやOSなどが使用中のファイルがある場合は、バックアップが正常に行えなかったり、エラー終了する場合があります。
・バックアップしたファイルは必ずお客様にて正常にバックアップされた事を確認してください。

クリック　[スケジュール設定保存] [戻る]

[結果]の画面が表示されます。

**結果**

スケジュール設定を完了しました。

[戻る]

これでスケジュールの設定は完了です。
バックアップ中は[STATUS]ランプが緑点滅になります。バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピッピッピッ」と鳴り、[STATUS]ランプが緑点灯に変わります。

注意 ●指定した時間に本製品の電源が off になっている場合はバックアップは行われません。

・設定したスケジュールでバックアップが実施されているかを確認する場合は、バックアップログを確認します。[バックアップログを確認する]（111ページ）
・バックアップしたデータは、以下の個所を参照してください。
【リモートバックアップしたデータを確認する】（次ページ）


ブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS]ランプが赤点滅し、バックアップエラーになる！
⇒[COPY]ボタンを押して[STATUS]ランプが緑点灯に変わることを確認します。その後以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の269ページ


バックアップにかかる時間は？
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の268ページ

注意 リモートバックアップでは、ネットワークを介して通信するため、その時のネットワーク上のパソコンやトラフィックなどの通信状態により、正常に完了しないことがあります。
正常にバックアップされたかは、毎回ご確認することをおすすめします。

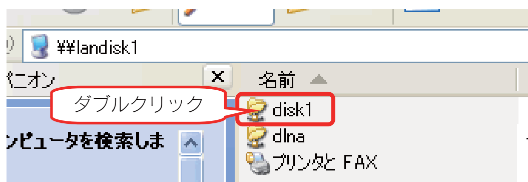
# リモートバックアップしたデータを確認する

リモートバックアップしたデータを確認します。

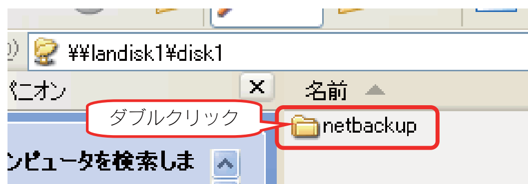
※以下は、Windows XP での確認例です。
ここでは、データを本製品の[disk1]共有フォルダにバックアップした場合の確認例を説明します。

**1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示します。
手順については、以下の個所を参照してください。
・Windows から本製品にアクセスする場合
【Windows から本製品にアクセスする】（22ページ）
・Mac OS から本製品にアクセスする場合
【Mac OS から本製品にアクセスする】（31ページ）

**2** バックアップした先のフォルダをダブルクリックします。
ここでは、[disk1]フォルダをダブルクリックします。



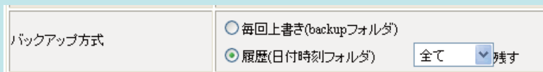

**3** [netbackup]フォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



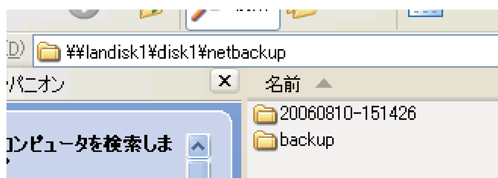

[netbackup]フォルダについて
リモートバックアップを行った場合に自動で作成されるフォルダです。

**4** リモートバックアップ時に設定した[バックアップ方式]に応じたフォルダをダブルクリックします。

▼リモートバックアップ設定時の[バックアップ方式]の選択画面




▼以下は[毎回上書き]でのバックアップと[履歴]でのバックアップの両方を行った場合の画面です。

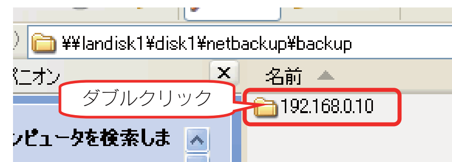



[backup]フォルダについて・・・
リモートバックアップを行った場合に、[バックアップ方式]で[毎回上書き（backup フォルダ）]を選択した場合に自動で作成されるフォルダです。
このフォルダに毎回上書きされます。

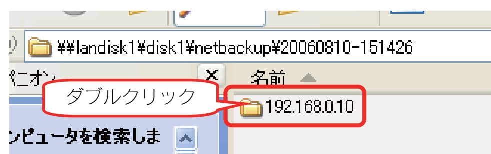
日付時刻フォルダについて・・・
リモートバックアップを行った場合に、[バックアップ方式]で[履歴（日付時刻フォルダ）]を選択した場合に、セルフバックアップを開始した年月日・時刻をもとにして、自動で作成されるフォルダです。
画面例（[20060810-151426]）は、2006 年 08 月 10 日 15 時 14 分 26 秒にバックアップを開始したときに作成した例です。

**5** バックアップしたバックアップ元の IP アドレスのフォルダが表示されますので、ダブルクリックします。
画面例は、バックアップ元の IP アドレスが[192.168.0.10]での例です。

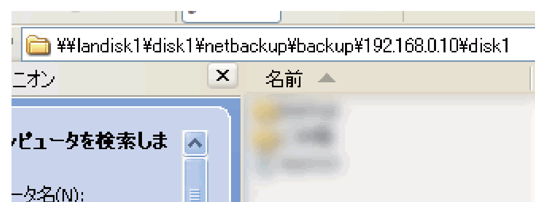
●[毎回上書き（backup フォルダ）]を選択した場合




●[履歴（日付時刻フォルダ）]を選択した場合




**6** バックアップしたファイルやフォルダが表示されます。




以上で確認は終了です。

バックアップデータを見せないようできますか？
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の269ページ

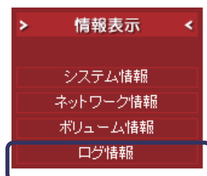
# バックアップログを確認する

設定画面の[情報表示]→[ログ情報]でバックアップログを確認します。

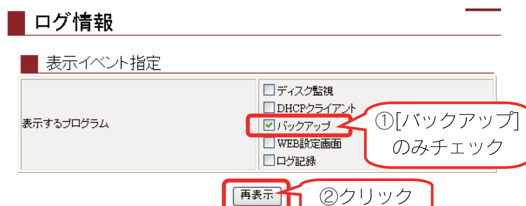
**1** 本製品の設定画面の情報表示メニューをクリックします。




**2** 情報表示メニューの[ログ情報]をクリックします。




**3** [表示イベント指定]で、[バックアップ]以外のチェックを外し、[再表示]ボタンをクリックします。




画面は一例です。

**4** [ログ]欄にバックアップログが表示されます。

▼セルフバックアップを行った場合の画面例

ログ

| 日時 | プログラム | 内容 |
|---|---|---|
| 8月10日 19:15:04 | バックアップ | セルフバックアップ開始(20060810-191503) |
| 8月10日 19:15:04 | バックアップ | セルフバックアップ正常終了 |

<table>
<tr><td>日時</td><td colspan="2">バックアップを開始、終了した日時を表示します。</td></tr>
<tr><td>プログラム</td><td colspan="2">バックアップ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">内容</td><td colspan="2">バックアップの状態を表示します。</td></tr>
<tr><td>セルフバックアップ開始</td><td>セルフバックアップを開始した日付と時刻を表示します。</td></tr>
<tr><td>セルフバックアップ正常終了</td><td>セルフバックアップが正常終了したことを表します。</td></tr>
</table>

注意 ログ情報は、以下のような状況のときに削除されます。
- ログのサイズが一定のサイズを超えた場合
- 本製品をシャットダウンした場合
- 「システムログのメール送信」を[有効]にしていて、ログメールが送信された後

※システムログをメール送信する設定については、【システムログをメール送信する】（151ページ）をご覧ください。

これでバックアップログの確認は終了です。

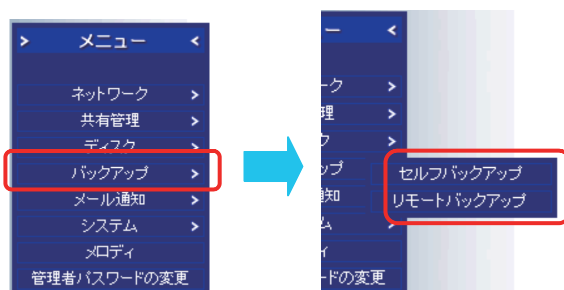
# スケジュールバックアップ設定を無効にする

スケジュールしていたバックアップ設定を無効にする設定について説明します。

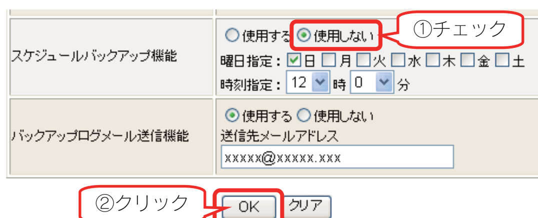
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[バックアップ]メニューでスケジュール設定しているバックアップ設定（[セルフバックアップ]または[リモートバックアップ]）を順にクリックします。




**3** [スケジュールバックアップ機能]欄の[使用しない]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。




**4** [OK]ボタンをクリックします。

バックアップ設定を無効に設定します。
よろしいですか？




**5** [結果]の画面が表示されます。

結果

バックアップ設定を無効に設定しました。




これでスケジュールしていたバックアップ設定を無効にする設定は終了です。

# バックアップログを メール送信する

バックアップログ情報のメール送信設定を行います。

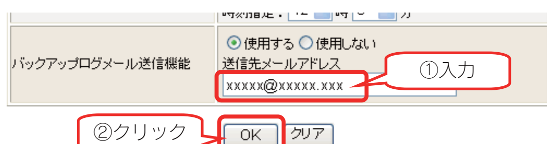
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[バックアップ]で設定しているバックアップ設定（[セルフバックアップ]または[リモートバックアップ]）を順にクリックします。




**3** [バックアップログメール送信機能]欄で、[使用する]にチェックし、[送信先メールアドレス]を入力後、[OK]ボタンをクリックします。




| | |
|---|---|
| 送信先メールアドレス | バックアップログを送信する送信先のメールアドレスを入力します。<br>※メール送信先は、1 宛先のみです。 |

**4** メール送信機能全般の設定をします。
[メニュー]の[メール通知]→[メール基本設定]を順にクリックします。




**5** [メール通知機能]の[有効]をチェックし、[SMTP サーバ][SMTP ポート番号][差出人メールアドレス]を入力および設定します。
必要に応じて、[メール送信時認証設定]を設定します。
すべて設定後、[設定保存]ボタンをクリックします。

| メール基本設定 | |
|---|---|
| メール通知機能 | ログ情報やバックアップ完了通知などをメールで送信するかどうかを設定します。 |
| SMTP サーバ | メール送信に利用する SMTP サーバを設定します。プロバイダや会社のメールサーバなど、送りたいメールアドレスに合致するサーバ名を入力してください。 |
| SMTP ポート番号 | メール送信に利用する TCP ポート番号を指定します。（初期値：25）<br>ご利用のプロバイダがセキュリティ上の理由で 25 番ポートでのメール送信を遮断している場合は、適切な番号に変更してください。 |
| 差出人メールアドレス | 送信するメールアドレスの差出人を設定することができます。送信メールサーバが差出人チェックを実行している場合や、どこから送られてきているのかを明確にしたい場合などに設定します。 |
| メール送信時認証設定 | |
| 認証方式 | メール送信時の認証方式を選択できます。<br>指定する SMTP サーバがサポートしている認証方式を設定してください。 |
| POP サーバ | POP サーバ名を入力します。（POP before SMTP 時のみ） |
| ユーザ名 | メール受信に使用するユーザ名を入力します。 |
| パスワード | メール受信に使用するパスワードを入力します。 |

**6** ”メール設定を保存しました”と表示されます。

メール通知

メール設定を保存しました

**7** 画面下の[メール通知テスト]で、正しく設定されたかを確認します。
[送信先メールアドレス]を入力後、[テストメール送信]ボタンをクリックします。
→テストメールを送信します。

メール通知テスト
送信先メールアドレス xxxxx@xxxxx.xxx ①入力
上記の設定でメールが届くかどうか、テストすることができます。
ここで入力するメールアドレスは、メール通知テストでのみ使用されます。
実際の宛先は、各機能で別々の宛先を設定することができます。
②クリック テストメール送信

| メール通知テスト | |
|---|---|
| 送信先メールアドレス | 送信先のメールアドレスを入力します。 |

**8** 正しく送信されると以下の画面となります。

メール通知

メール送信のテストを行いました
メールの送信に成功しました。宛先にメールが届いてるか確認して下さい。



以下のようなエラーが表示された！

メール通知

メールの送信のテストを行いました
メール送信サーバとの接続に失敗しました。

⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の271ページ

**9** メール受信側のパソコンでは、以下のようなメールが届きます。
※表示はお使いのメーラーにより異なります。

▼件名

件名 差出人 送信日時
[landisk] メール通知テスト

▼内容

差出人： LANDISK 宛先：
件名： [landisk] メール通知テスト 日時： Mon, 1
テストメールです

これでバックアップログ情報のメール送信設定は終了です。



バックアップログメールが送信されない！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の265ページ

# 弊社製 EasySaver LE を使う

本製品は、オートバックアップソフト「EasySaverLE」の無料ダウンロード対象製品です。
EasySaverLE は弊社ホームページ「サポートライブラリ」からダウンロードできます。

＜サポートライブラリ＞
http://www.iodata.jp/lib/

弊社製 EasySaver LE を使用して、パソコンのデータを本製品にバックアップしたり、逆に本製品のデータをパソコンにバックアップしたりすることができます。
詳細は、EasySaver LE の取扱説明書を参照してください。

注意

●EasySaverLE を使用してバックアップする場合、バックアップ元（先）に使用する本製品、あるいは、増設ハードディスクを事前にネットワークドライブに割り当てておく必要があります。
【（Windows）ネットワークドライブの割り当て方法がわからない】（274ページ）

●増設ハードディスクをバックアップで使用する場合は、事前に増設ハードディスクを接続しておいてください。
【ハードディスクやプリンタを増設する】（65ページ）

# ミラーリングする
## (eSATA ハードディスクを増設する、RAID モード[RAID1+0]に変更する)

# ミラーリングに使用できる増設ハードディスク

本製品本体とeSATAハードディスクでミラーリングを構築することができます。
ミラーリングとして増設できるハードディスク（ミラーディスク）は、以下のハードディスクです。
※最新の対応機器については、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。

<table>
<tr><td>ミラーリングで使用できる動作確認済みのハードディスク</td><td>以下の弊社製ハードディスクが対応しています。<br>・HDC-UXシリーズ、・RHD-UXシリーズ</td></tr>
<tr><td>ミラーリングで接続する本製品のポート</td><td>背面の[eSATAポート１]に接続する必要があります。<br><br>本製品の[eSATAポート2]、あるいは、[USBポート１または２]に接続してもミラーリングを構築することはできません。<br>すでに[eSATAポート１]に、ミラーリングを構築する以外の増設ハードディスクを接続している場合は、一度取り外す必要があります。<br>【増設ハードディスクを取り外す】(78ページ)</td></tr>
<tr><td>ミラーリングに必要な増設ハードディスクの容量</td><td>
<table>
<tr><td></td><td colspan="4">現在のRAIDモード</td></tr>
<tr><td></td><td>RAID0</td><td>RAID1+0</td><td>RAID5</td><td>RAID5+FAT/NTFS※1</td></tr>
<tr><td>HDL-GT1.0とミラーリングを行う場合</td><td>約1TB</td><td>約500ＧＢ</td><td>約750GB</td><td>約500GB</td></tr>
<tr><td>HDL-GT1.6とミラーリングを行う場合</td><td>約1.6TB</td><td>約800ＧＢ</td><td>約1.2TB</td><td>約800GB</td></tr>
<tr><td>HDL-GT2.0とミラーリングを行う場合</td><td>約2TB</td><td>約1TB</td><td>約1.5TB</td><td>約1TB</td></tr>
</table>
※1 RAID 5ボリュームのみがミラーリング対象となります。<br>スロット４のＦＡＴ／ＮＴＦＳドライブはミラーリングされません。<br>※2 2007年2月時点で、HDL-GT1.6、HDL-GT2.0とミラーリングできる容量のHDC-UXシリーズ、RHD-UXシリーズはありません。
</td></tr>
</table>

# eSATA ハードディスクでミラーリングを構築する

## ミラーリングを構築する

本製品に eSATA ハードディスクを[eSATA ポート 1 ]に接続して、本製品と eSATA ハードディスクでミラーリングを構築することができます。
構築するには、ミラーリングにする eSATA ハードディスクを接続後、[eSATA ポート 1 ]の動作モードを[ミラーリング]に設定すれば構築できます。（HDL-GT3.0/4.0 では eSATA ミラーリング機能は利用できません。）

### STEP1 eSATA ハードディスクを eSATA1 に接続する

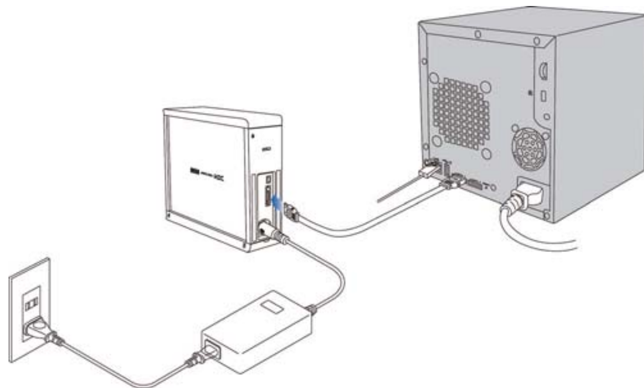
ミラーリングにする eSATA ハードディスクを本製品の eSATA ポートに接続します。

**1** 本製品の電源が入っていることを確認します。

注意 本製品の電源が入っている状態で接続できます。

**2** eSATA ハードディスクの電源ケーブルを電源コンセントに接続します。

**3** 本製品の[eSATA ポート 1 ]に eSATA ハードディスクを接続します。
eSATA ハードディスクは、本製品に接続してはじめて電源が入ります。（電源連動機能）
※eSATA ハードディスクの電源連動機能については、eSATA ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。



以上で接続は完了です。
次に、eSATA ポート 1 の動作モードを[ミラーリング]に設定します。

注意

●HDC-UX シリーズのケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、一度 HDC-UX シリーズの電源ケーブルをコンセントから抜き差ししてください。
パソコンや本製品の USB ポートでご利用になっていた HDC-UX シリーズの USB ケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、切り替える前に一度 HDC-UX シリーズの電源ケーブルの抜き差しを行ってください。
電源ケーブルの抜き差しを行わずに eSATA ケーブルに切り替えて本製品の[eSATA ポート]に接続しても、本製品に認識されない場合があります。

●本製品のランプが点滅中は、HDC-UX シリーズを接続しないでください。
本製品の電源が入っている状態で接続できますが、[STATUS]ランプが点滅中（設定画面操作中）や、本製品にアクセス中（[ACCESS]ランプが点滅中）に HDC-UX シリーズを接続しないでください。
本製品にすでに別の増設ハードディスクを接続している場合にも、そのハードディスクのランプをご確認ください。

●以前に[ミラーディスクの保管]を行った後、別の HDC-UX シリーズを接続すると、ミラーリングを開始します。
以前に[ミラーディスクの保管]を行い、HDC-UX シリーズを取り外した場合、[eSATA ポート 1 ]の動作モードは[ミラーリングモード]のままです。
[eSATA ポート 1 ]に HDC-UX シリーズを取り付けると、FAT/NTFS フォーマットでデータがある場合のみ、そのままではミラーリングを開始しませんが、それ以外のフォーマット形式の HDC-UX シリーズの場合、接続後、自動的にミラーリングの構築を開始します。（以前の HDC-UX シリーズのデータは消去されます。）

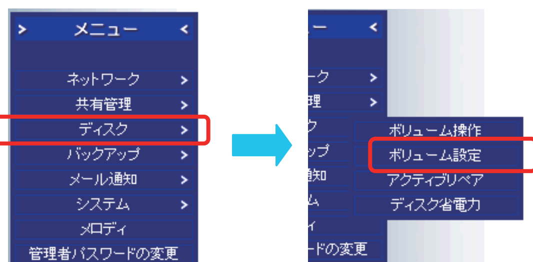
## STEP2 動作モードを[ミラーリング]に設定する

eSATA ハードディスクを接続した[eSATA ポート１]の動作モードを[ミラーリング]に設定します。
設定後、自動的にミラーリングの構築を開始します。

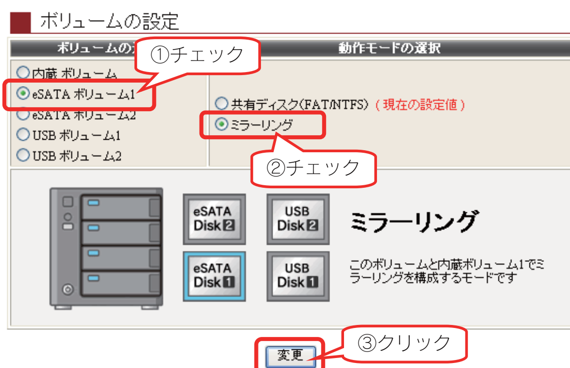
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム設定]を順にクリックします。




**3** [eSATA ボリューム１]をチェック後、[ミラーリング]をチェックし、[変更]ボタンをクリックします。




**4** [OK]ボタンをクリックします。

### ボリューム設定

eSATA ボリューム1の設定を変更しようとしています。

eSATA ボリューム1の動作モードをミラーリングに変更します。
eSATA ボリューム1の動作モードを変更すると、現在のeSATA ボリューム1のすべてのデータが消去され、内蔵ボリュームとミラーリングを開始します。

変更してもよろしいですか

クリック　OK　戻る

### 削除される共有フォルダー一覧

| 共有名 | コメント | アクセス権 | サービス |
| --- | --- | --- | --- |
| esata1 | HDL-GT eSATA1 disk | すべてのユーザ | Win Mac |

**5** [OK]ボタンをクリックします。




**6** 本製品の[STATUS]ランプが点灯し、[結果]画面が表示されたら、ミラーリング設定完了です。

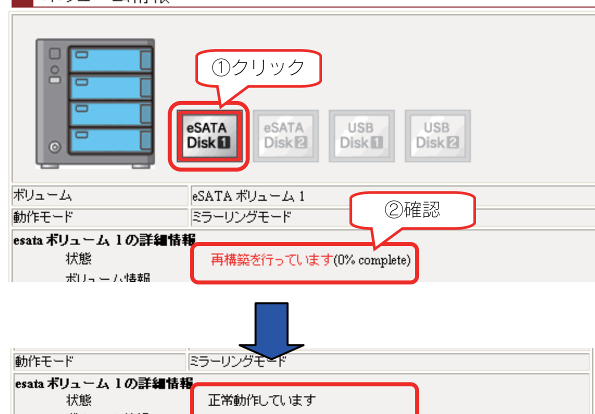
### 結果

eSATA ボリューム1の動作モードをミラーリングに変更しました

**7** 続けてミラーリング再構築が行われます。
再構築が完了すれば、ミラーリング設定はすべて完了です。

構築中は、[STATUS]ランプが緑点灯、４つの[ACCESS]ランプはすべて青点滅します。

構築状況は、[情報表示]の[ボリューム情報]画面の[eSATA Disk1]の[状態]情報で確認することができます。
[再構築を行っています]の表示が、[正常動作しています]の表示となれば、構築終了です。




再度状態を確認するには、[情報表示]→[ボリューム情報]をクリックしてください。
一度開いた[ボリューム情報]画面の情報は、再度[ボリューム情報]画面を開かないと更新されません。

以上でミラーリングの構築は完了です。

# ミラーディスクを保管する

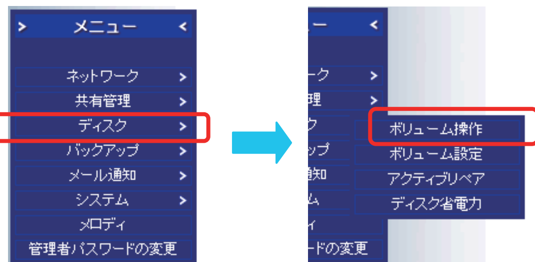
本製品と eSATA ハードディスクでミラーリング運用中に eSATA ハードディスクを「ミラーディスクの保管」機能で取り外すことができます。

取り外した eSATA ハードディスクは、取り外した時点のミラーリング上に作成した共有データ、および、登録ユーザー、グループ情報やネットワーク設定などすべての設定情報が記録された、ミラーディスクとして保管することができます。
本製品に接続する eSATA ハードディスクを定期的に交換することで、ミラーリングを行いながら、ミラーリングしたディスク上に作成した共有データ、すべての設定情報を一定期間バックアップとして保管するといった運用も可能になります。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム操作]を順にクリックします。




**3** [eSATA ボリューム 1 ]の[操作]欄で[ミラーディスクの保管]を選択後、[実行]ボタンをクリックします。




**4** [OK]ボタンをクリックします。

**確認**

「ミラーディスクの保管」を実行しようとしています。

「ミラーディスクの保管」を実行した場合、システムシャットダウンが開始されます。
本装置の電源が完全にOFFになった後、本装置よりeSATA HDD1を取り外し、システムおよび内蔵ボリューム1上のデータのバックアップディスクとして保管することができます。

「ミラーディスクの保管」を実行しますか？




**5** [OK]ボタンをクリックします。




**6** 結果の画面が表示されますので、Web ブラウザを終了します。

**結果**

「ミラーディスクの保管」のため、シャットダウン処理を開始しました

本装置の電源が完全にOFFになった後、本装置よりeSATA HDD1を取り外すことができます。

ブラウザを終了してください。

**7** 本製品が自動的にシャットダウンを開始します。
シャットダウンが終了し、本製品の電源が切れること（[POWER]ランプが赤点灯すること）を確認します。

**8** eSATA ハードディスクの eSATA ケーブルを本製品の eSATA ポートから取り外します。




●保管後、[eSATA ポート 1 ]の動作モードは、[ミラーリング]のままです。

別の eSATA ハードディスクで、再度ミラーリングを構築する場合は、その eSATA ハードディスクを接続するだけで、構築を開始します。

ただし、FAT/NTFS フォーマットで、かつ、データのある eSATA ハードディスクの場合は、接続後、[ディスク]→[ボリューム操作]画面から[eSATA ボリューム 1 ]の[操作]欄で[ミラーリング開始]を実行する必要があります。

[eSATA ポート 1 ]で FAT/NTFS ハードディスクとして使用したい場合は、[eSATA ポート 1 ]の動作モードを[共有ディスク（FAT/NTFS）]に設定する必要があります。

以上でミラーディスクの保管は完了です。

# ミラーディスクから復旧する

HDL-GT シリーズ本体のシステムを、[ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクのシステムに戻す（復旧する）ことができます。
以下のステップにしたがって作業を行います。

STEP1 ：カートリッジをすべて取り外す
STEP2 ：eSATA ハードディスクを接続する
STEP3 ：システムを起動させる
STEP4 ：カートリッジを戻す
STEP5 ：システムを復旧させる

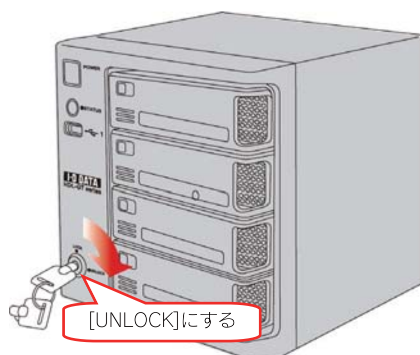
## STEP1 カートリッジをすべて取り外す

本製品の電源を切った状態で、内蔵ハードディスクの４台のカートリッジすべてを取り外します。

**1** 本製品の電源が入っている場合は、[電源]ボタンを押して、電源を切ります。
⇒本製品の電源が切れていることを確認します。
（[POWER]ランプが赤点灯していることを確認します。）

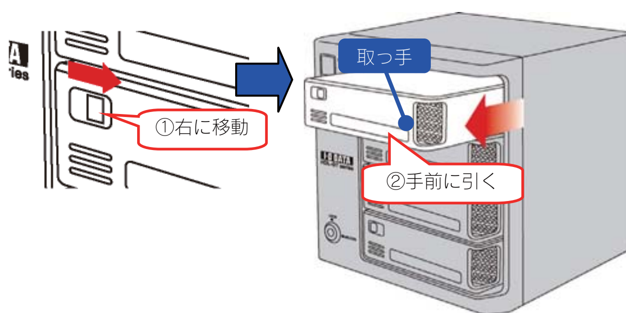
**2** LOCK キーの LOCK を解除します。
添付のロックキーで LOCK を
時計周りにまわして、
[UNLOCK]にします。

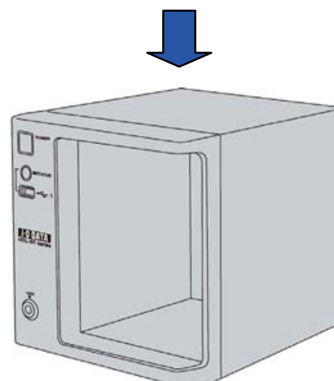





**3** カートリッジ４台すべて取り外します。

①カートリッジの[スライドスイッチ]を右に移動
（[UNLOCK]）します。
②カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを
取り出します。
４台のカートリッジすべてを取り外します。
※どのカートリッジから取り外しても構いません。



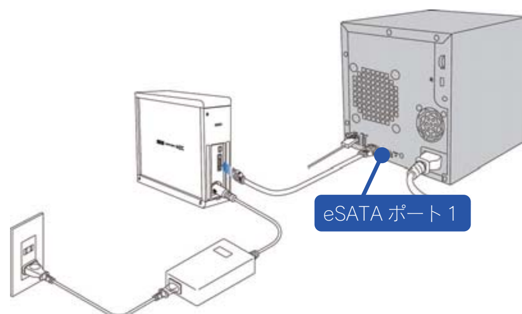



## STEP2 eSATA ハードディスクを接続する

[ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクを本製品の[eSATA ポート１]に接続します。

**1** [ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクの電源ケーブルを電源コンセントに接続します。

**2** 本製品の[eSATA ポート１]に eSATA ハードディスクを接続します。
eSATA ハードディスクは、本製品の電源を入れて、はじめて電源が入ります。（電源連動機能）
※eSATA ハードディスクの電源連動機能については、eSATA ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。




次に、eSATA ハードディスクからシステム起動させせます。

## STEP3 システムを起動させる

本製品の電源を入れて、eSATA ハードディスクからシステムを起動させせます。

**1** 本製品の[電源]ボタンを押します。
⇒[STATUS]ランプが緑点滅を開始します。




**2** [STATUS]ランプが緑色に点灯すれば、起動完了です。
※「IP アドレス自動取得する(DHCP)」の設定で使用中で、LAN ケーブルを接続していない等で DHCP サーバから IP アドレスが取得できない状態の場合であれば、[STATUS]ランプが赤点滅になります。



電源を入れると、[STATUS]ランプが赤点滅し、ブザーが鳴り続ける！
⇒[COPY]ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、以下の個所を参照してください。
【[ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクから起動できない】（235ページ）

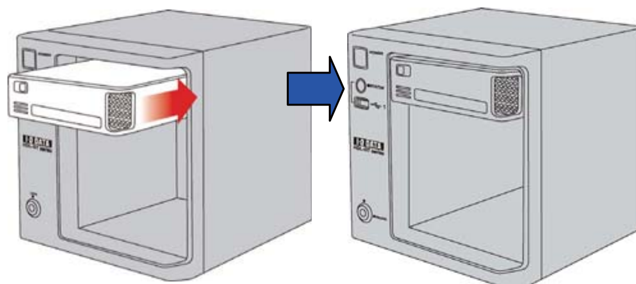
## STEP4 カートリッジを戻す

取り外していた４台のカートリッジを１台ずつ、すべて元に戻します。



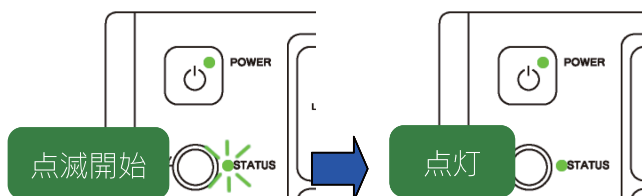
●同時に複数台取り付けないでください。
必ず、１台ずつ[STATUS]ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

**1** カートリッジを１台ずつ順に取り付けます。
カートリッジをスロットの奥まで挿入します。



**2** 取り付けたカートリッジの[スライドスイッチ]を左側（[LOCK]）に移動させます。
→[STATUS]ランプが点滅しますので、点灯するまでお待ちください。



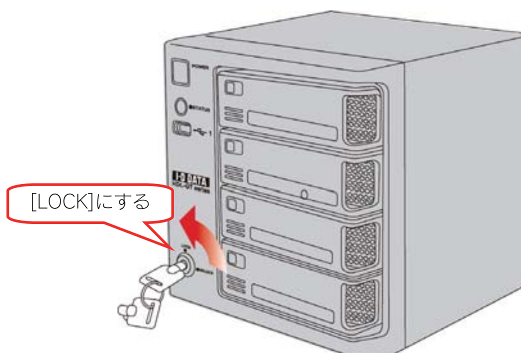






●必ずカートリッジ１台ずつ行ってください。
[STATUS]ランプが点滅したまま、別のカートリッジをセットすると、正しく構築できない場合があります。
必ず、１台ずつ[STATUS]ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

**2** ２台目以降のカートリッジも同様に取り付け、４台ともすべて取り付けます。

**3** 添付のロックキーで LOCK を反時計周りにまわして、[LOCK]にします。



# STEP5 システムを復旧させる

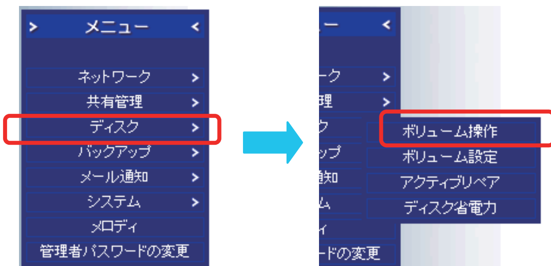
[ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクのシステムを本製品の内蔵ハードディスクに復旧させます。

**1** [STATUS]ランプが緑点灯となっていることを確認後、本製品の設定画面を開きます。

**2** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示 ＞ メニュー ＜ ログオフ

**3** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム操作]を順にクリックします。




**4** [内蔵ボリューム１]の[操作]欄で[eSATA ディスク１からミラーリング開始]を選択後、[実行]ボタンをクリックします。

ボリューム情報

| | | |
|---|---|---|
| 内蔵 ボリューム1 | 動作モード | RAID5(分散パリティ) |
| | 状態 | 停止 |
| | 操作 | eSATAディスク1からミラーリング開始 [実行] |
| | 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム1 | 動作モード | |
| | 状態 | eSATAディスク1で単体動作中 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム2 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| USB ボリューム1 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| USB ボリューム2 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |

①選択 ②クリック




●ミラーリングの再構築にはディスク容量および処理中の本製品の使用状況にもよりますが、目安として RAID５構成の HDL-GT1.0 において約１２時間要します。
再構築中はミラーリングによるデータ保護が有効ではありませんのでご注意ください。

**5** [OK]ボタンをクリックします。

ミラーリング開始の確認

警告:「ミラーリング開始」を実行しようとしています。

現在「内蔵ボリューム1」は「eSATAディスク1」のみで単体動作していますが、「ミラーリング開始」を実行すると、現在の「内蔵ボリューム1」の内容を保持したまま、「内蔵ディスク1」「内蔵ディスク2」「内蔵ディスク3」「内蔵ディスク4」の内容をすべて消去して「内蔵ボリューム1」に組み込み、再構築を開始します。必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。

「ミラーリング開始」を実行しますか？

クリック [OK]

**6** [OK]ボタンをクリックします。




**7** 本製品の[STATUS]ランプが点灯し、[結果]画面が表示されたら、ミラーリング設定完了です。

結果

ミラーリングを開始しました

**8** 続けてミラーリング再構築が行われます。
再構築が完了すれば、システムの復旧はすべて完了です。

構築中は、[STATUS]ランプが緑点灯、４つの[ACCESS]ランプはすべて青点滅します。

構築状況は、[情報表示]の[ボリューム情報]画面の[eSATA Disk1]の[状態]情報で確認することができます。[再構築を行っています]の表示が、[正常動作しています]の表示となれば、構築終了です。

ボリューム情報

①クリック eSATA Disk1 eSATA Disk2 USB Disk1 USB Disk2

| | |
|---|---|
| ボリューム | eSATA ボリューム 1 |
| 動作モード | ミラーリングモード |
| esata ボリューム 1 の詳細情報 状態 | 再構築を行っています(66% complete) |

②確認

↓

| | |
|---|---|
| ボリューム | eSATA ボリューム 1 |
| 動作モード | ミラーリングモード |
| esata ボリューム 1 の詳細情報 状態 | 正常動作しています |

再度状態を確認するには、[情報表示]→[ボリューム情報]をクリックしてください。
一度開いた[ボリューム情報]画面の情報は、再度[ボリューム情報]画面を開かないと更新されません。

以上の操作で eSATA ハードディスクからのシステムは復旧されます。

# RAID(1+0)でミラーリングを構築する

RAID（1+0）（ミラーストライピング）は、ディスクの利用効率は低いですが、データ保護機能が最も高いモードです。
内蔵ディスク１、３および内蔵ディスク２、４で２つのミラーリングペアを構成し、２つのミラーリングペアをさらにストライピングすることにより、１つのボリュームとして使用できます。
また、ディスクセットの保管機能により、内蔵ディスク１、２（上２つ）または内蔵ディスク３、４（下２つ）をディスクセットとして取り外し、内蔵ボリューム、及びシステム全体のバックアップとして保管することができます。
トラブル発生時は、保管したディスクセットを接続してシステムを起動すると、ディスクセットを保管した時点のシステムの状態（内蔵ボリュームの共有データ、登録ユーザ/グループ情報、その他各種設定）まで戻ることができます。

## ミラーリングを構築する

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム設定]を順にクリックします。




**3** [内蔵ボリューム]をチェック後、[RAID1+0（ミラーストライピング）]をチェックし、[変更]ボタンをクリックします。




**4** [OK]ボタンをクリックします。

ボリューム設定

内蔵 ボリュームの設定を変更しようとしています。

内蔵 ボリュームの動作モードをRAID1+0(ミラーストライピング)に変更します。
内蔵 ボリュームの動作モードを変更すると、現在の内蔵 ボリュームのすべてのデータが消去されます。
必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。

変更してもよろしいですか

クリック　OK　戻る

削除される共有フォルダー一覧

**5** [OK]ボタンをクリックします。




以上の操作でミラーリングを設定できます。

# ディスクセットを保管する

RAID1+0（ミラーストライピング）している内蔵ハードディスクのディスクセット（上段２つのカートリッジ、または、下段２つのカートリッジ）を取り外し、システムのバックアップとして保管することができます。
取り外し後､取り外した位置に新しいディスクセットをセットする必要があります。

> **注意**
> ディスクセットの保管後、同一容量の新しいカートリッジ２台をセットする必要があります。
> 保管前に、別売オプション品をご購入ください。
> 【オプション品について】（280ページ）

## STEP1 [ディスクセットの保管]を実行する

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示　メニュー　ログオフ

**2** [メニュー]の[ディスク]→[ボリューム操作]を順にクリックします。




**3** [内蔵ボリューム１]の[操作]欄で、[ディスクセット１の保管]または[ディスクセット２の保管]を選択し、[実行]ボタンをクリックします。

ボリューム情報

| | | |
|---|---|---|
| 内蔵 ボリューム1 | 動作モード | RAID1+0(ミラーストライピング) |
| | 状態 | 正常動作しています |
| | 操作 | ディスクセット2の保管　実行 |
| | 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム1 | 動作モード | ...TFS)... |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |

①選択　②クリック

**4** [OK]ボタンをクリックします。

確認

「ディスクセット2の保管」を実行しようとしています

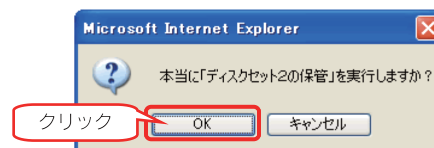


「ディスクセット2の保管」を実行した場合、システムシャットダウンが開始されます。
本装置の電源が完全にOFFになった後、本装置より「ディスクセット2」を構成する内蔵ディスク3と内蔵ディスク4を取り外し、システムおよび内蔵ボリューム1のバックアップディスクセットとして保管することができます。

「ディスクセット2の保管」を実行しますか？

OK　クリック

**5** [OK]ボタンをクリックします。




**6** 結果の画面が表示されます。

結果

「ディスクセット2の保管」のため、シャットダウン処理を開始しました

本装置の電源が完全にOFFになった後、本装置より内蔵ディスク3と内蔵ディスク4を取り外すことができます。

ブラウザを終了してください。

**7** しばらくすると、本製品がシャットダウンします。
→[POWER]ランプが赤く点灯するまでお待ちください。

## STEP2 ディスクセットを取り外す

[ディスクセットの保管]で指定したディスクセット１または２を取り外します。

- ディスクセット１の場合→カートリッジ１と２
- ディスクセット２の場合→カートリッジ３と４

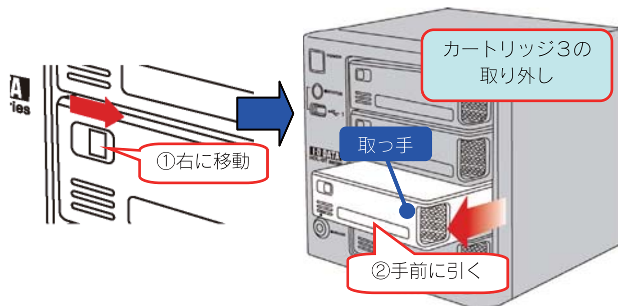
**1** LOCK キーの LOCK を解除します。
添付のロックキーで LOCK を時計周りにまわして、[UNLOCK]にします。





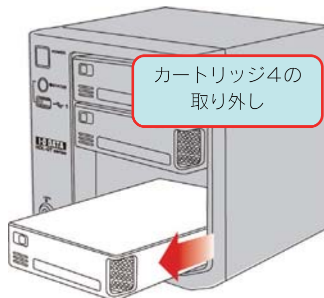
| 2 | ディスクセット（上段または下段２つのカートリッジ）を取り外します。<br><br>①取り外すカートリッジの[スライドスイッチ]を右側（[UNLOCK]）に移動します。<br>②カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り外します。<br>同様にもう１台のカートリッジを取り外します。 |
|---|---|

▼下段２つのカートリッジ（3、4）を取り外す例




注意

取り外したカートリッジを混同しないよう、添付の[インデックスシール]を貼るなどの区別をした上で保管してください。




## STEP3 システムを起動させる

本製品の電源を入れて、ディスクセットからシステムを起動させます。

| 1 | 本製品の[電源]ボタンを押します。<br>⇒[STATUS]ランプが緑点滅を開始します。 |
|---|---|

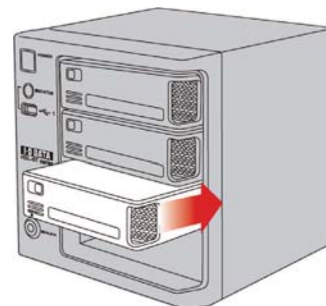
| 2 | [STATUS]ランプが緑色に点灯すれば、起動完了です。<br>※「IP アドレス自動取得する(DHCP)」の設定で使用中で、LAN ケーブルを接続していない等で DHCP サーバから IP アドレスが取得できない状態の場合であれば、[STATUS]ランプが赤点滅になります。 |
|---|---|

## STEP4 ディスクセットを取り付ける

取り外した位置に新しいカートリッジ２台を取り付けます。

注意 ●同時に２台のカートリッジ取り付けないでください。
必ず、１台ずつ[STATUS]ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

| 1 | 新しいカートリッジ２台を１台ずつ順に取り付けます。<br><br>１台目の新しいカートリッジをスロットの奥まで挿入します。 |
|---|---|



| 2 | 取り付けたカートリッジの[スライドスイッチ]を左側（[LOCK]）に移動させます。<br>→[STATUS]ランプが点滅しますので、点灯するまでお待ちください。 |
|---|---|




点滅開始　POWER　STATUS　→　点灯　POWER　STATUS

注意 ●必ずカートリッジ１台ずつ行ってください。
[STATUS]ランプが点滅したまま、別のカートリッジをセットすると、正しく構築できない場合があります。
必ず、１台ずつ[STATUS]ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

| 3 | 同様にもう１台のカートリッジを取り付けます。 |
|---|---|

| 4 | 添付のロックキーで LOCK を反時計周りにまわして、[LOCK]にします。 |
|---|---|

以上の操作でディスクセットの保管は終了です。

# ディスクセットから復旧する

HDL-GT シリーズ本体のシステムを、[ディスクセットの保管]を行った２台のカートリッジのシステムに戻す（復旧する）ことができます。
以下のステップにしたがって作業を行います。

STEP1 ：カートリッジをすべて取り外す
STEP2 ：ディスクセットを取り付ける
STEP3 ：システムを起動させる
STEP4 ：残りのカートリッジを取り付ける

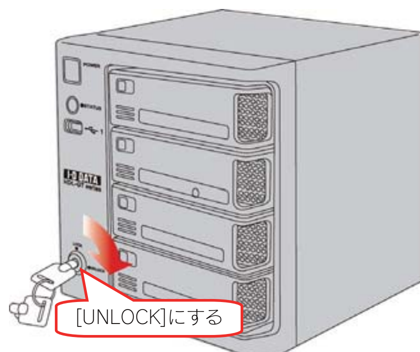
## STEP1 カートリッジをすべて取り外す

本製品の電源を切った状態で、内蔵ハードディスクの４台のカートリッジすべてを取り外します。

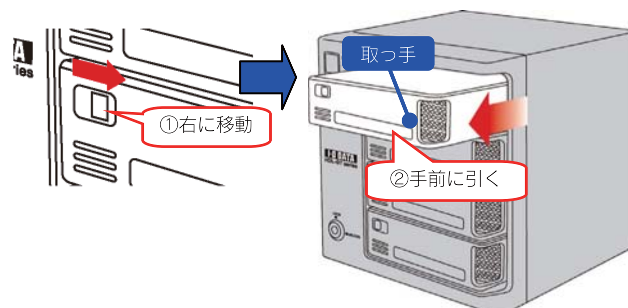
| | |
|---|---|
| 1 | 本製品の電源が入っている場合は、[電源]ボタンを押して、電源を切ります。<br>⇒本製品の電源が切れていることを確認します。<br>（[POWER]ランプが赤点灯していることを確認します。） |

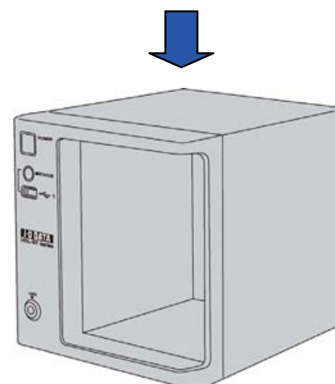
| | |
|---|---|
| 2 | LOCK キーの LOCK を解除します。<br>添付のロックキーで LOCK を時計周りにまわして、[UNLOCK]にします。 |






| | |
|---|---|
| 3 | カートリッジ４台すべて取り外します。<br><br>①カートリッジの[スライドスイッチ]を右に移動（[UNLOCK]）します。<br>②カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り外します。<br>４台のカートリッジすべてを取り外します。<br>※どのカートリッジから取り外しても構いません。 |



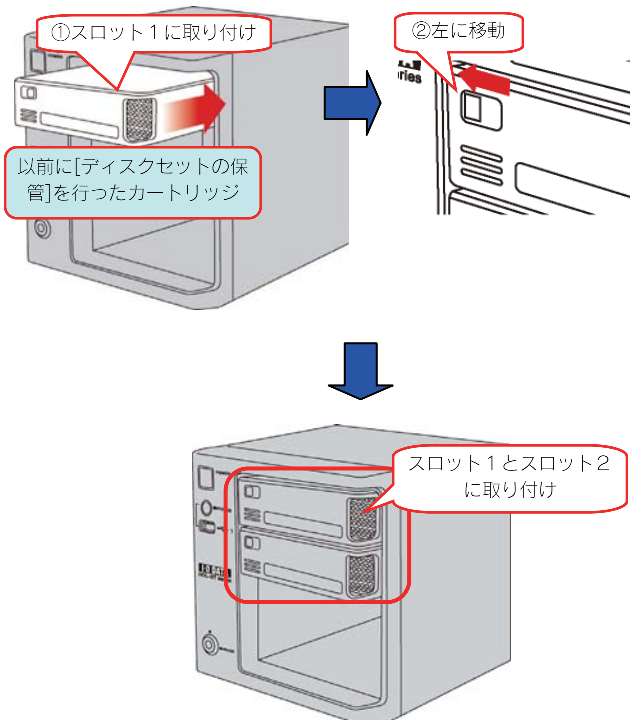
## STEP2 ディスクセットを取り付ける

[ディスクセットの保管]を行ったディスクセット（カートリッジ2台）のみを取り付けます。




●必ずスロット１とスロット2に取り付けてください。
●[ディスクセットの保管]を行った２台のカートリッジは、とちらをスロット１とスロット2に取り付けても構いません。

| | |
|---|---|
| 1 | 本製品の電源が切れている状態で、[ディスクセットの保管]を行ったカートリッジ2台を取り付けます。<br>※必ずスロット１とスロット2に取り付けてください。<br><br>①カートリッジをスロット１の奥まで挿入します。<br>②[スライドスイッチ]を左側（[LOCK]）に移動させます。<br>同様にもう１台のカートリッジをスロット２に取り付けます。 |




## STEP3 システムを起動させる

本製品の電源を入れて､ディスクセットからシステムを起動させます｡

| | |
|---|---|
| 1 | 本製品の[電源]ボタンを押します。<br>⇒[STATUS]ランプが緑点滅を開始します。 |

| | |
|---|---|
| 2 | [STATUS]ランプが緑色に点灯すれば、起動完了です。<br>※「IP アドレス自動取得する(DHCP)」の設定で使用中で、LAN ケーブルを接続していない等で DHCP サーバから IP アドレスが取得できない状態の場合であれば、[STATUS]ランプが赤点滅になります。 |

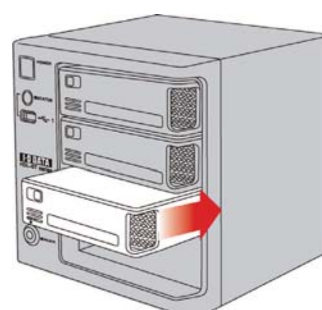
## STEP4 残りのカートリッジを取り付ける

残りの２台のカートリッジを１台ずつ、すべて元に戻します。



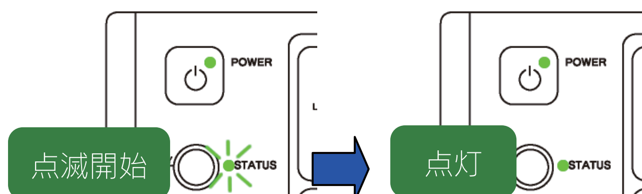

●取り付けるカートリッジの以前のデータは消去されます。
●同時に残り２台を取り付けないでください。
必ず、１台ずつ[STATUS]ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

| | |
|---|---|
| 1 | 残りのカートリッジ２台を１台ずつ順に取り付けます。<br><br>カートリッジをスロット３の奥まで挿入します。 |



| | |
|---|---|
| 2 | 取り付けたカートリッジの[スライドスイッチ]を左側（[LOCK]）に移動させます。<br>→[STATUS]ランプが点滅しますので､点灯するまでお待ちください。 |







●必ずカートリッジ１台ずつ行ってください。
[STATUS]ランプが点滅したまま、別のカートリッジをセットすると、正しく構築できない場合があります。
必ず、１台ずつ[STATUS]ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

| | |
|---|---|
| 3 | 同様にもう１台のカートリッジを取り付けます。 |

| | |
|---|---|
| 4 | 添付のロックキーで LOCK を反時計周りにまわして、[LOCK]にします。 |

以上の操作でディスクセットからの復旧は終了です。

# UPS 装置を接続する

# UPS 装置の接続を確認する

UPS 装置を本製品の USB ポートに接続し、UPS 装置の接続を確認します。

## STEP1 UPS を接続する

本製品で UPS を使用できるように接続します。

注意
●本製品の電源が入っていても入っていなくても接続できます。
●本製品に接続できる UPS 装置については、弊社ホームページをご覧ください。（http://www.iodata.jp/）

**1** UPS の電源を入れ、UPS が起動することを確認します。

**2** 本製品背面の USB ポートに UPS を接続します。

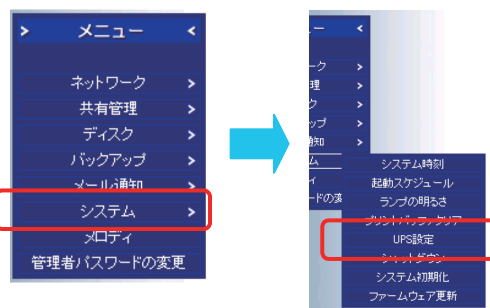
以上で接続は完了です。
次に正しく接続されているかを確認します。

## STEP2 接続を確認する

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示　メニュー　ログオフ

**2** [メニュー]の[システム]→[UPS 設定]を順にクリックします。




**3** [UPS 接続状態]を確認します。

UPS状態

| | |
|---|---|
| UPS接続状態 | 接続中 |
| UPSバッテリー充電容量 | 100.0 % |

確認

UPS警告

| | |
|---|---|
| UPS警告機能 | ◉ 有効 ○ 無効 |
| 「UPS警告機能」を有効に設定すると、UPSの接続が確認できない、または停電状態を検出すると、ブザー音とSTATUSランプ（赤点滅）でお知らせします | |

シャットダウン条件

| | |
|---|---|
| 停電後の経過時間 | 10分後にシャットダウン |
| UPSバッテリー充電容量 | 10%以下でシャットダウン |
| UPS接続中に停電状態を検出すると、上記のシャットダウン条件のいずれかに一致した時点でシャットダウン処理を開始します | |

OK

以上で完了です。

注意
●エラーメッセージが表示された場合

「UPS が電源に接続されていません。UPS のバッテリー電源で動作している可能性があります。
UPS の電源接続を確認してください。この警告が不要な場合は、「UPS 警告機能」を無効に設定してください。」
→ UPS が正常に接続され、UPS から「電源断」信号を受信した場合に表示します。

「本製品に UPS が接続されていません。
UPS の接続を確認してください。この警告が不要な場合は、「UPS 警告機能」を無効に設定してください。」
→ UPS 警告機能が有効になっているが、UPS が接続されてい

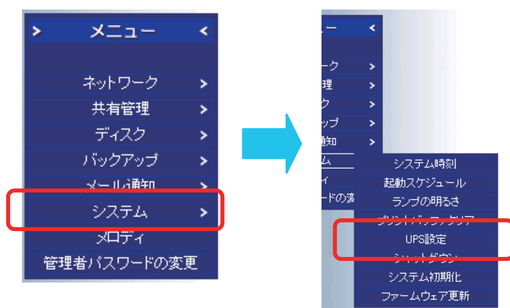
# UPS 警告機能を有効にする

本製品の USB ポートに接続した UPS 装置の状況によって警告メッセージを表示させるようにします。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[システム]→[UPS 設定]を順にクリックします。




**3** [UPS 警告機能]の[有効]にチェックを付け、[シャットダウン条件]を選択してから、[OK]ボタンをクリックします。

UPS状態

| | |
|---|---|
| UPS接続状態 | 接続中 |
| UPSバッテリー充電容量 | 100.0 % |

UPS警告

| | |
|---|---|
| UPS警告機能 | ◉ 有効 ○ 無効 |

「UPS警告機能」を有効に設定すると、UPSの接続が確認できない、または停電状態を…とSTATUSランプ(赤点滅…す

①チェック

シャットダウン条件

| | |
|---|---|
| 停電後の経過時間 | 10分後にシャットダウン |
| UPSバッテリー充電容量 | 10%以下でシャットダウン |

UPS接続中に停電状態を検出すると、上記のシャットダウン条件のいずれかに一致し…処理を開始します

②設定

③クリック OK

以上で完了です。

# DLNA サーバ・FTP サーバ機能を利用する

# DLNA サーバ

## 本製品を DLNA サーバとして使用する場合の注意

「DLNA 対応ネットワークメディアプレーヤー」などの DLNA クライアント※1 なら、ネットワーク経由で本製品内のコンテンツをテレビなどで楽しむことができます※2。

※1　DLNA 対応版の弊社製 AVeL LinkPlayer や各家電メーカー製の DLNA ガイドライン準拠「ネットワークメディアプレーヤー」

※2　本製品は DLNA の策定するデジタル機器の相互接続性の標準設計ガイドライン「Home Network Device Interoperability Guidelines v1.0」に対応しています。

ご利用になる前に、以下をご確認ください。



- ●ライブラリとして公開できる共有フォルダは、共有フォルダのアクセス権が[全てのユーザに許可]となっている共有フォルダのみです。
- ●本製品で再生できるファイルフォーマットは以下を参照してください。
  【メディアプレーヤーで再生できるファイルフォーマット】（次ページ）
- ●本製品は工場出荷時状態で、DLNA サーバ機能が有効となっています。本機能を利用しない場合は、[共有サービス設定]の[DLNA Server]機能は無効に設定してください。【共有サービス設定】（198ページ）参照
- ●公開しているフォルダ内のファイル数は、合計 1 万ファイル以内でご利用ください。
- ●公開しているフォルダ内のファイルに変化があると、データベースの構築が行われます。この間、クライアントから再生できない場合があります。
  また、DLNA サーバで公開している共有フォルダへのファイルコピーは、公開していないものより遅くなります。
- ●パスワード機能はありません。
- ●FAT フォーマットの増設ハードディスクのファイルを再生する場合、再生できるファイルサイズは 4G-1 バイトまでとなります。
- ●本製品の設定中は、ネットワークメディアプレーヤーから接続しないでください。
- ●ネットワークメディアプレーヤーで再生中に本製品上の再生中のファイルや、ファイルのある共有フォルダを削除したり移動させたりしないでください。
- ●同時再生を行ったり、再生中にパソコンから本製品へファイルコピーなどの操作をした場合やバックアップ処理などが起動している場合、再生するファイルによっては動画がコマ落ちしたり、音とびしたりすることがあります。
- ●公開する共有に含まれるファイル数が多い場合には、DLNA クライアントからの接続に時間がかかります。
  また、公開中の共有にファイルをコピーしたり削除した場合にも、データベース構築が行われるため、時間がかかる場合があります。ファイル数によっては、数時間かかることもあります。
- ●本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。
  故障や万一に備えて定期的にデータをバックアップしてください。
- ●Windows Vista®のネットワークに表示されるアイコンについて
  本製品の DLNA Server 機能を有効に設定している場合、Windows Vista®の「スタート」ー「ネットワーク」で開いた画面に追加アイコンが表示されます。ダブルクリックするとメディアプレイヤーが起動する場合がありますが、お使いの PC のメディアプレイヤーが DLNA に準拠していない場合は、本製品の共有フォルダ内のコンテンツの再生はできません。

# メディアプレーヤーで再生できるファイルフォーマット

DLNA クライアントで再生できるファイルのファイルサイズによる制限はありませんが、本製品は以下のファイル拡張子のファイルにのみ対応しています。
※最新の対応情報は弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。

| 種類 | ファイル拡張子 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 動画 | mpg | mpeg | mpa | mpeg2 | vob |
| | wmv | asf | avi | | |
| 写真 | jpeg | jpg | png | bmp | |
| 音楽 | mp3 | wma | wav | pcm | lpcm |

※ファイルによっては、上記ファイル拡張子でも再生できない場合もあります。



●ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）で本製品内のファイルを再生する場合、本製品およびネットワークメディアプレーヤーの両方が対応しているファイルフォーマットである必要があります。
お使いのネットワークメディアプレーヤーが対応しているファイルかを、ネットワークメディアプレーヤーの取扱説明書などで確認してください。

# メディアプレーヤーから参照できるようにする

ここでは、DLNA 対応ネットワークメディアプレーヤーから本製品内のデータを参照できるようにする手順について説明します。

参照できるようにするには、参照させる共有フォルダに[DLNA Server で公開]設定する必要があります。
※本製品には、出荷時すでに[DLNA Server で公開]設定されている[dlna]フォルダがあります。

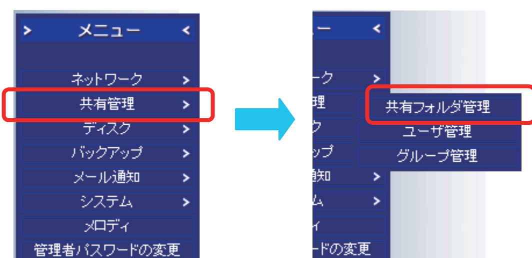
## STEP 1 公開する共有フォルダを設定する

ネットワークメディアプレーヤーから参照できる共有フォルダを設定します。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[共有管理]→[共有フォルダ管理]を順にクリックします。




**3** ネットワークメディアプレーヤーで見ることができるようにする共有フォルダのフォルダ名横の[変更]をクリックします。

新規共有フォルダの作成

| | |
|---|---|
| 新規共有フォルダの追加 | 共有フォルダを追加します |

共有フォルダ一覧

| 内蔵ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| disk1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT RAID volume | Win Mac |
| dlna | 詳細 変更 削除 | HDL-GT DLNA share | Win Mac DLNA |

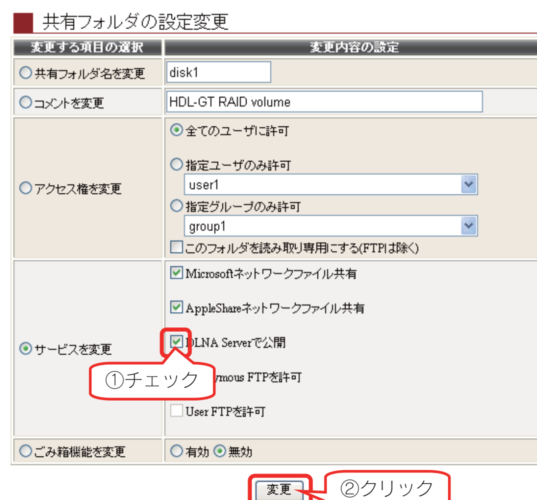
| eSATA ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA1 disk | Win Mac |

| eSATA ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA2 disk | Win Mac |

| USB ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| usb2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT USB2 disk | Win Mac |

クリック

**4** [DLNA Server で公開]をチェック後、[変更]ボタンをクリックします。




注意

●ライブラリとして公開できる共有フォルダは、共有フォルダのアクセス権が[全てのユーザに許可]となっている共有フォルダのみです。

●この[共有フォルダの設定変更]画面で変更できるのは、同時に 1 つの項目のみです。
公開するために他の設定も変更する場合は、[DLNA Server で公開]設定の後で再度この画面を開いて他の項目を変更してください。

**5** [結果]の画面が表示されます。
[対象サービス]に[DLNA Server で公開]が表示されていることをご確認ください。

結果

共有フォルダの設定情報

| | |
|---|---|
| 共有フォルダ名 | disk1 |
| コメント | HDL-GT RAID volume |
| 使用ボリューム | 内蔵ボリューム1 |
| 対象ユーザ | すべてのユーザ(読み書き可能) |
| 対象サービス | Win Microsoftネットワーク ファイル共有<br>Mac AppleShareネットワーク ファイル共有<br>DLNA DLNA Serverで公開 |
| ごみ箱機能 | 無効 |
| 状態 | 利用可能 |

確認

**6** 他の共有フォルダも公開したい場合は、同様に **2** から変更してください。

以上でネットワークメディアプレーヤーで見ることができる共有フォルダの設定は完了です。
次に実際にネットワークメディアプレーヤーからアクセスできるかを確認します。

## STEP2 ネットワークメディアプレーヤーからアクセスする

ネットワークメディアプレーヤーからのアクセス方法については、お持ちの「ネットワークメディアプレーヤー」の取扱説明書を参照してください。

以下は、弊社製 AVeL LinkPlayer（DLNA 対応版）からのアクセス手順の例です。

●ネットワークメディアプレーヤーで本製品が表示されない！

⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の263ページ

●ネットワークメディアプレーヤーに表示されない、あるいは、再生できないファイルがある！

⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の263ページ

## 参考：DLNA 対応の AVeL LinkPlayer からのアクセス手順

ここでは、DLNA 対応の AVeL LinkPlayer からのアクセス手順を例として説明します。

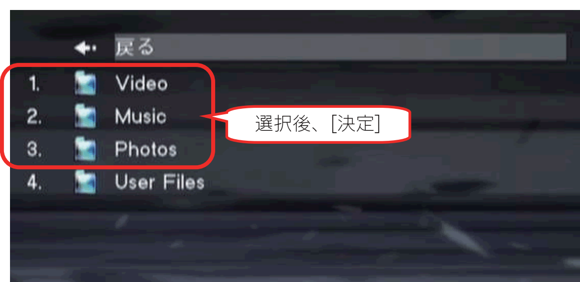
**1** AVeL LinkPlayer をネットワークに接続します。
※詳細については、AVeL LinkPlayer の取扱説明書を参照してください。

**2** AVeL LinkPlayer を起動すると自動的に「LANDISK」を認識します。
表示された本製品を選択後、リモコンの[決定]ボタンを押します。




▲設定されている本製品の名前が表示されます。

**3** 再生したい種類（[Video][Music][Photos]）を選択後、リモコンの[決定]ボタンを押します。




**4** [DLNA Server で公開]設定した共有フォルダ内のデーター一覧が表示されます。

注意

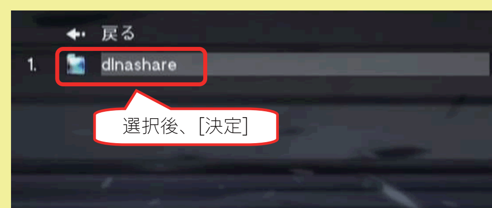
●弊社製 AVeL LinkPlayer でのムービーの再生方法などについては、弊社製 AVeL LinkPlayer の取扱説明書をご覧ください。

●複数の共有フォルダを[DLNA Server で公開]設定した場合は、それらすべての共有フォルダ内のデーター覧として表示されます。（共有フォルダ別には表示されません。）

●共有フォルダの一覧表示にしたい場合・・・

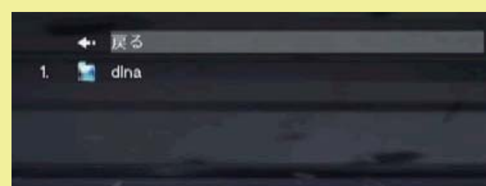
①共有フォルダ毎にデータを確認したい場合は、上記 **3** 手順の[User Files]で確認できます。

②以下の画面が表示されますので、[dlnashare]を選択後、リモコンの[決定]ボタンを押します。




③本製品で公開した共有フォルダ一覧が表示されます。

▼製品出荷状態の表示例




以上ですべての設定は終了です。

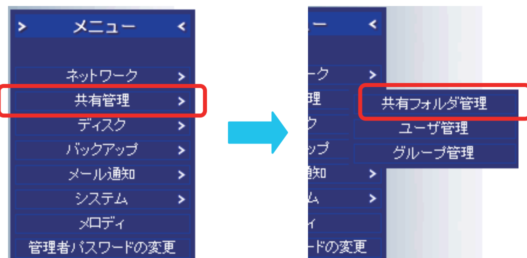
# 参照できる共有フォルダを追加・削除する

ネットワークメディアプレーヤーからの本製品内のデータの参照は、共有フォルダ単位での設定で行います。
ここでは、参照できる共有フォルダを追加したり、逆に参照できなくする手順について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示　> メニュー <　ログオフ

**2** [メニュー]の[共有管理]→[共有フォルダ管理]を順にクリックします。




**3** 現在、ネットワークメディアプレーヤーに公開されている共有フォルダを確認します。
[サービス]欄に[DLNA]と表示されている共有フォルダがネットワークメディアプレーヤーに公開されている共有フォルダです。

■ 新規共有フォルダの作成

| | |
|---|---|
| 新規共有フォルダの追加 | 共有フォルダを追加します |

■ 共有フォルダ一覧

| 内蔵ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| disk1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT RAID volume | Win Mac DLNA |
| dlna | 詳細 変更 削除 | HDL-GT DLNA share | Win Mac DLNA |
| share1 | 詳細 変更 削除 | share for all user | Win Mac |

| eSATA ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA1 disk | Win Mac |

| eSATA ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA2 disk | Win Mac |

| USB ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| usb2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT USB2 disk | Win Mac |

確認

**4** 追加して公開したい、あるいは、公開させなくする共有フォルダ名横の[変更]ボタンをクリックします。

■ 新規共有フォルダの作成

| | |
|---|---|
| 新規共有フォルダの追加 | 共有フォルダを追加します |

■ 共有フォルダ一覧

| 内蔵ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| disk1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT RAID volume | Win Mac DLNA |
| dlna | 詳細 変更 削除 | HDL-GT DLNA share | Win Mac DLNA |
| share1 | 詳細 変更 削除 | share for all user | Win Mac |

| eSATA ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA1 disk | Win Mac |

| eSATA ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA2 disk | Win Mac |

| USB ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| usb2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT USB2 disk | Win Mac |

クリック

**4** 公開させる場合は、[DLNA Server で公開]をチェックします。
公開をやめる場合は、[DLNA Server で公開]のチェックを外します。
設定後、[変更]ボタンをクリックします。
※ネットワークメディアプレーヤーに公開できる共有は、アクセス権設定が「全てのユーザに許可」の場合のみ選択できます。

■ 共有フォルダの設定変更

| 変更する項目の選択 | 変更内容の設定 |
|---|---|
| ○共有フォルダ名を変更 | share1 |
| ○コメントを変更 | share for all user |
| ○アクセス権を変更 | ◉全てのユーザに許可<br>○指定ユーザのみ許可 user1<br>○指定グループのみ許可 group1<br>☐このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く) |
| ◉サービスを変更 | ☑Microsoftネットワークファイル共有<br>☑AppleShareネットワークファイル共有<br>☑DLNA Serverで公開　①設定<br>☐Anonymous FTPを許可<br>☐User FTPを許可 |
| ○ごみ箱機能を変更 | ○有効 ◉無効 |

変更　②クリック




この[共有フォルダの設定変更]画面で変更できるのは、同時に1つの項目のみです。
公開するために他の設定も変更する場合は、[DLNA Server で公開]設定の後で再度この画面を開いて他の項目を変更してください。

**5** [結果]の画面が表示されます。
[対象サービス]に[DLNA Server で公開]が表示されていること（公開設定した場合）、あるいは、[DLNA Server で公開]が表示されていないこと（公開設定した場合）をご確認ください。

▼公開設定した場合の例

■ 結果

■ 共有フォルダの設定情報

| | |
|---|---|
| 共有フォルダ名 | share1 |
| コメント | share for all user |
| 使用ボリューム | 内蔵ボリューム1 |
| 対象ユーザ | すべてのユーザ(読み書き可能) |
| 対象サービス | Win Microsoftネットワーク ファイル共有<br>Mac AppleShareネットワーク ファイル共有<br>DLNA DLNA Serverで公開 |
| ごみ箱機能 | 無効 |
| 状態 | 利用可能 |

確認

以上でネットワークメディアプレーヤーで見ることができる、あるいは、見えなくさせる共有フォルダの設定は完了です。

# アクセスできるメディアプレーヤーを制限する

一部の「ネットワークメディアプレーヤー」で再生できなくする（アクセスできなくする）手順について説明します。

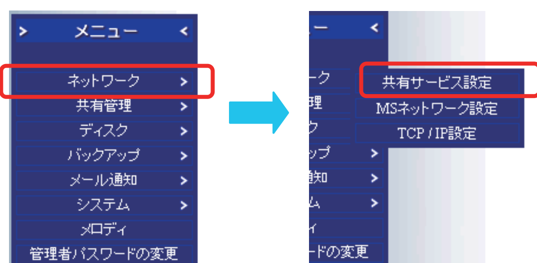
本製品の「DLNA Server」設定を有効にした場合、同一ネットワーク内のすべての「ネットワークメディアプレーヤー」からデータを再生できるように設定されます。
一部の「ネットワークメディアプレーヤー」で再生できなくする（アクセスできなくする）には以下の手順を行います。

> **注意**　アクセス制限を行うには、「ネットワークメディアプレーヤー」から事前に一度本製品にアクセスしておく必要があります。

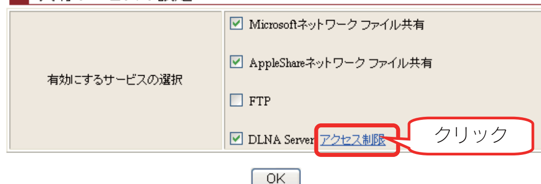
**1**　本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示　メニュー　ログオフ

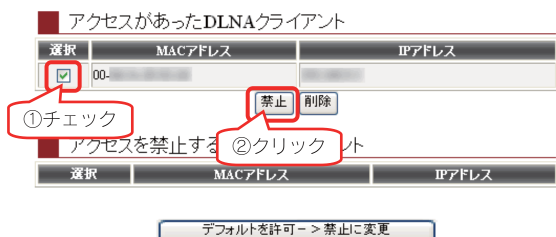
**2**　[メニュー]の[ネットワーク]→[共有サービス設定]を順にクリックします。



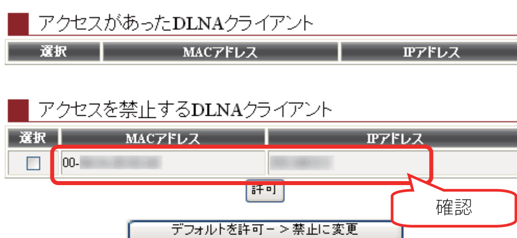

**3**　[DLNA Server]横の[アクセス制限]をクリックします。




**4**　「アクセスがあった DLNA クライアント」一覧からアクセスを禁止する DLNA クライアント（ネットワークメディアプレーヤー）の[選択]をチェック後、[禁止]ボタンをクリックします。




**5**　選択した DLNA クライアントが、[アクセスを禁止する DLNA クライアント]一覧に移動したことを確認します。




> **注意**　上記設定変更後は、ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）を起動しなおしてください。

これで、選択したネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）からは本製品にアクセスできなくなります。

※アクセスを禁止したネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）を元に戻す（アクセスを許可させる）場合は、画面の禁止したネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）横の[選択]ボタンをチェック後、[許可]ボタンをクリックすれば戻ります。

初期設定をアクセス禁止にする設定にしたい場合は、以下の個所を参照してください。
【初期設定をアクセスを禁止する設定にする場合】（次ページ）

# 初期設定をアクセスを禁止する設定にする場合

複数のネットワークメディアプレーヤーの内、アクセス禁止よりも、アクセス許可のネットワークメディアプレーヤーの方が少ない場合には、初期設定をアクセス禁止（デフォルトを禁止）にし、許可するネットワークメディアプレーヤーのみを選択することもできます。

**1**

上記アクセス設定画面の[デフォルトを許可->禁止に変更]ボタンをクリックします。
ボタンが[デフォルトを禁止->許可に変更]になります。

これで、今後本製品にアクセスする新規のネットワークメディアプレーヤーはすべてアクセス禁止になります。

※以前にアクセスを許可したネットワークメディアプレーヤーは、[アクセスを許可する DLNA クライアント]欄に表示され、許可した設定のままとなります。

アクセス制限（デフォルト許可）

アクセスがあったDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |

アクセスを禁止するDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |
| ☐ | 00- | |

許可

クリック　デフォルトを許可－＞禁止に変更

アクセス制限（デフォルト禁止）

アクセスがあったDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |

アクセスを許可するDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |
| ☐ | 00- | |

禁止

デフォルトを禁止－＞許可に変更

**2**

以前にアクセス許可をしたネットワークメディアプレーヤーを禁止に変更する場合は、[アクセスを許可する DLNA クライアント]一覧から禁止する DNLA クライアント横の[選択]ボタンをチェック後、[禁止]ボタンをクリックすれば禁止となります。

アクセス制限（デフォルト禁止）

アクセスがあったDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |

アクセスを許可するDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |
| ☑ | 00- | |

①チェック　禁止　②クリック

デフォルトを禁止－＞許可に変更

右上へ

左下より

アクセス制限（デフォルト禁止）

アクセスがあったDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |
| ☐ | 00- | |

確認

許可　削除

アクセスを許可するDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |

デフォルトを禁止－＞許可に変更

**3**

アクセス禁止しているネットワークメディアプレーヤーを許可に変更する場合は、[アクセスがあった DLNA クライアント]一覧から許可する DNLA クライアント横の[選択]ボタンをチェック後、[許可]ボタンをクリックすれば許可となります。

アクセス制限（デフォルト禁止）

アクセスがあったDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |
| ☑ | 00- | |

①チェック　許可　削除　②クリック

アクセスを許可するDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |

デフォルトを禁止－＞許可に変更

アクセス制限（デフォルト禁止）

アクセスがあったDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |

アクセスを許可するDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
| --- | --- | --- |
| ☐ | 00- | |

確認

禁止

デフォルトを禁止－＞許可に変更

上記設定変更後は、ネットワークメディアプレーヤーを起動しなおしてください。

# FTP サーバ

## 本製品での FTP サーバ機能

本製品の FTP サーバ機能としては、Anonymous FTP と User FTP サービスの２通りの設定ができます。

| | |
|---|---|
| Anonymous FTP<br><br>（次ページ参照） | FTP クライアントソフトでユーザ名を「anonymous」にして接続することで、どのユーザからでも FTP での「ダウンロード」のみが可能になります。<br><br>Anonymous FTP サービスをご利用の場合<br>FTP クライアントから接続するには、下記のユーザ名、パスワードでログインしてください。<br>ユーザ名：anonymous<br>パスワード：任意<br>Anonymous FTP 機能はダウンロード専用であり、本製品へのアップロードはできません。ダウンロード方法については、各 FTP ソフトの使い方をご覧ください。<br><br>《Anonymous FTP サービス使用上の注意》<br>・本サービスは、全共有（全てのユーザがアクセス可能な共有）フォルダに対してのみ設定できます。<br>・Anonymous FTP 機能ではファイルのアップロードはできませんので、あらかじめ Windows ネットワークファイル共有または AppleShare ネットワークファイル共有機能を利用してファイルをコピーしてください。<br>・インターネットへ FTP サービスを公開した場合、誰でもファイルのダウンロードが可能となります。お使いのルータの設定（ファイアウォールなどのセキュリティ）は、充分にご留意ください。 |
| User FTP<br><br>（142ページ参照） | あらかじめ本製品にユーザを登録し、そのユーザに限り FTP での「ダウンロード」のほか「アップロード」も可能となります。<br><br>User FTP サービスをご利用の場合<br>FTP クライアントから接続するには、下記のユーザ名、パスワードでログインしてください。<br>ユーザ名：許可したユーザ名<br>パスワード：設定したパスワード<br>User FTP 機能では、ダウンロード、アップロードが可能です。ダウンロード・アップロード方法については、各 FTP ソフトの使い方をご覧ください。<br><br>《User FTP サービス使用上の注意》<br>・本サービスは、ユーザ共有（単一のユーザのみアクセス可能な共有）フォルダに対してのみ設定できます。<br>・インターネットへ FTP サービスを公開した場合、お使いのルータの設定（ファイアウォールなどのセキュリティ）は、充分にご留意ください。 |

ここでは、本製品で Anonymous FTP を使用する手順について説明します。

本製品で Anonymous FTP を使用するには、本製品の[FTP サービス]を有効にした後、新規作成あるいは既存の共有フォルダに Anonymous FTP 設定すれば、その共有フォルダで Anonymous FTP を使用することができます。
以下のステップに従って FTP 設定します。

## STEP1 FTP サービスを有効にする

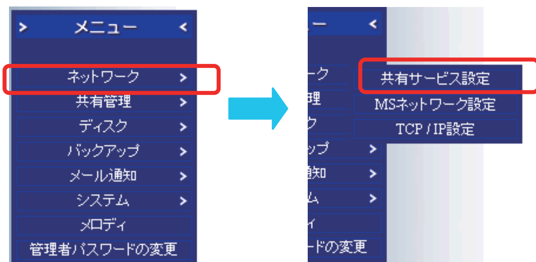
設定画面の[サービス設定]で[FTP]を有効にします。

注意
●本サービスを有効にするため作成する共有フォルダはネットワークの全ユーザより読み書き可能となります。
●インターネットへ FTP サービスを公開した場合、誰でもファイルのダウンロードが可能となります。
お使いのルータの設定（ファイアウォールなどのセキュリティ）は、充分にご留意ください。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ネットワーク]→[共有サービス設定]を順にクリックします。




**3** [FTP]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。




**4** [結果]画面が表示されます。
[FTP]が[有効]となっていることをご確認ください。

結果

サービス設定

| | |
|---|---|
| Microsoftネットワーク | 有効 |
| AppleShareネットワーク | 有効 |
| FTP | 有効 |
| DLNA Server | 有効 |

確認

次に、共有フォルダに Anonymous FTP 設定します。

## STEP2 共有フォルダに Anonymous FTP 設定する

共有フォルダに Anonymous FTP の設定をします。
ここでは、新規で Anonymous FTP 用の共有フォルダを作成する場合を例に説明します。

注意
すでにすべてのユーザからアクセスできる共有フォルダを作成済みの場合、その共有フォルダを Anonymous FTP 設定にすることもできます。
その場合は、以下の個所を参照して、共有フォルダの[Anonymous FTP を許可]を有効にしてください。
【共有フォルダの設定を変更する】（60ページ）参照

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[共有管理]→[共有フォルダ管理]を順にクリックします。




**3** [新規共有フォルダの追加]をクリックします。

新規共有フォルダの作成

新規共有フォルダの追加　クリック　共有フォルダを追加します

共有フォルダ一覧

| 内蔵ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| disk1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT RAID volume | Win Mac |
| dlna | 詳細 変更 削除 | HDL-GT DLNA share | Win Mac DLNA |

| eSATA ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA1 disk | Win Mac |

| eSATA ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA2 disk | Win Mac |

| USB ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| usb2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT USB2 disk | Win Mac |

## 4 作成する共有フォルダを設定します。

（設定項目の詳細な説明については、次ページを参照）

※以下は、"ftp-all"というすべてのユーザーにアクセスを許可する共有を作成する例です。
「Anonymous FTP」でご利用いただく場合には、「サービスの選択」項目で「Anonymous を許可」にチェックを付けてください。

設定

■ 新規共有フォルダの追加

| | |
|---|---|
| 共有フォルダ名 | ftp-all |
| 共有フォルダのコメント | FTP for all user (anonymous)<br>※「共有のコメント」は、Windowsの共有のみ有効となります。 |
| 共有フォルダの作成先 | 内蔵ボリューム1<br>※ 専用フォーマットされたディスクのみ選択できます。 |
| アクセス権の選択 | ◉ 全てのユーザに許可 （チェック）<br>○ 指定ユーザのみ許可 user1<br>○ 指定グループのみ許可 group1<br>☐ このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く) |
| サービスの選択 | ☑ Microsoftネットワークファイル共有 （チェック）<br>☑ AppleShareネットワークファイル共有<br>☐ DLNA Serverで公開<br>☑ Anonymous FTPを許可 （チェック）<br>☐ User FTPを許可 |
| ごみ箱機能 | ○ 有効 ◉ 無効<br>※「ごみ箱機能」は、Windowsの共有のみ利用可能です。 |

OK （クリック）

## 5 [結果]の画面が表示されます。

設定した内容をご確認ください。

■ 結果

■ 共有フォルダの設定情報

| | |
|---|---|
| 共有フォルダ名 | ftp-all |
| コメント | FTP for all user (anonymous) |
| 使用ボリューム | 内蔵ボリューム1 |
| 対象ユーザ | すべてのユーザ（読み書き可能） |
| 対象サービス | Win Microsoftネットワーク ファイル共有<br>Mac AppleShareネットワーク ファイル共有<br>FTP Anonymous FTPを許可 |
| ごみ箱機能 | 無効 |
| 状態 | 利用可能 |

これで、本製品内に Anonymous FTP 用の共有フォルダが作成されます。
FTP クライアントからのご利用については、以下の個所を参照してください。
【FTP クライアントから接続する】（145ページ）




●Anonymous FTP 用の共有フォルダは 1 つだけ設定できます。
新しく Anonymous FTP 共有フォルダを設定すると、以前の Anonymous FTP 共有設定はクリアされます。

◆[新規共有フォルダの追加]画面での設定内容

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">設定する内容</th></tr>
<tr><td>共有フォルダ名</td><td colspan="2">共有フォルダの名前を入力します。<br>この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク]や[ネットワークコンピュータ]など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダのコメント</td><td colspan="2">Windows 用です。<br>ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダの作成先</td><td colspan="2">共有フォルダを作成するハードディスクを選択します。<br>注意 FAT/NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクに、新規に共有フォルダを作成することはできません。<br>（ドライブ全体がひとつの共有として認識されます。）</td></tr>
<tr><td>アクセス権の選択</td><td colspan="2">この共有フォルダのアクセスできるユーザやグループを選択します。<br>ここでは、[全てのユーザに許可]を選択します。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">サービスの選択</td><td colspan="2">共有フォルダのサービスを選択します。<br>目的に応じて[Microsoft ネットワーク ファイル共有]と[AppleShare ネットワーク ファイル共有]のどちらかあるいは両方を選択します。</td></tr>
<tr><td>Microsoft ネットワーク ファイル共有</td><td>Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>AppleShare ネットワーク ファイル共有</td><td>Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>DLNA Server で公開</td><td>DLNA 準拠機器からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>Anonymous FTP を許可</td><td>Anonymous FTP をご利用する場合はこちらをチェックします。<br>Anonymous（匿名）FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。<br>→同時に登録できる Anonymous FTP フォルダは 1 つのみとなります。Anonymous FTP 機能を利用してファイルを書き込むことはできません。（読み取りのみとなります。）</td></tr>
<tr><td>User FTP を許可</td><td>User FTP は、ユーザ共有（単一のユーザのみがアクセスできる共有）の場合のみ指定できます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注意 MS ドメインログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。</td></tr>
<tr><td>ごみ箱機能</td><td colspan="2">Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。<br>作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。<br>ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐに ファイルがなくなるわけではなく、一旦[ごみ箱]フォルダに保管されます。<br>[ごみ箱]フォルダ内のファイルは自動的には消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに[ごみ箱]フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に[ごみ箱]フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。<br>[ごみ箱]フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。<br>【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（59ページ）</td></tr>
</table>

ここでは、本製品で User FTP を使用する手順について説明します。

本製品で User FTP を使用するには、本製品の[FTP サービス]を有効にした後、新規作成あるいは既存の共有フォルダに User FTP 設定すれば、その共有フォルダで User FTP を使用することができます。

以下のステップに従って FTP 設定します。

注意 User FTP でご利用になる場合、事前に本製品の設定画面で User FTP で使用できるユーザを登録しておく必要があります。
【共有フォルダを作成する】（53ページ）

## STEP1 FTP サービスを有効にする

設定画面の[サービス設定]で[FTP]を有効にします。

注意 インターネットへ FTP サービスを公開した場合、お使いのルータの設定（ファイアウォールなどのセキュリティ）は、充分にご留意ください。

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




2 [メニュー]の[ネットワーク]→[共有サービス設定]を順にクリックします。




3 [FTP]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。




4 [結果]画面が表示されます。
[FTP]が[有効]となっていることをご確認ください。

結果

サービス設定

| | |
|---|---|
| Microsoftネットワーク | 有効 |
| AppleShareネットワーク | 有効 |
| FTP | 有効 |
| DLNA Server | 有効 |

確認

次に、共有フォルダに User FTP 設定します。

## STEP2 共有フォルダに User FTP 設定する

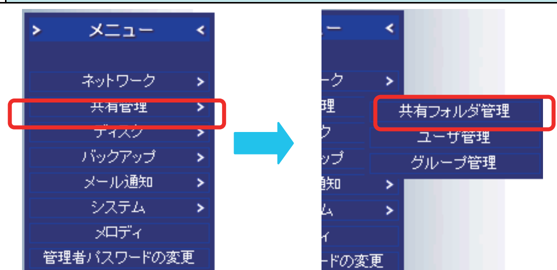
共有フォルダに User FTP の設定をします。
ここでは、新規で User FTP 用の共有フォルダを作成する場合を例に説明します。

注意
- User FTP でご利用になる場合、事前に本製品の設定画面で User FTP で使用できるユーザを登録しておく必要があります。
【共有フォルダを作成する】（53ページ）
- すでにユーザ専用としている共有フォルダを作成済みの場合、その共有フォルダを User FTP 設定にすることもできます。
その場合は、以下の個所を参照して、共有フォルダの[User FTP を許可]を有効にしてください。
【共有フォルダの設定を変更する】（60ページ）参照

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




2 [メニュー]の[共有管理]→[共有フォルダ管理]を順にクリックします。




3 [新規共有フォルダの追加]をクリックします。

新規共有フォルダの作成

新規共有フォルダの追加　クリック　フォルダを追加します

共有フォルダ一覧

| 内蔵ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| disk1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT RAID volume | Win Mac |
| dlna | 詳細 変更 削除 | HDL-GT DLNA share | Win Mac DLNA |

| eSATA ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA1 disk | Win Mac |

| eSATA ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA2 disk | Win Mac |

| USB ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| usb2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT USB2 disk | Win Mac |

## 4 作成する共有フォルダを設定します。

（設定項目の詳細な説明については、次ページを参照）

※以下は、"user1"というユーザーに User FTP サービスを許可する場合の例です。
「UserFTP を許可」でご利用いただく場合には「サービスの選択」項目で「UserFTP を許可」にチェックを付けてください。

**新規共有フォルダの追加**

| | |
|---|---|
| 共有フォルダ名 | ftp-user |
| 共有フォルダのコメント | FTP for user1<br>※「共有のコメント」は、Windowsの共有のみ有効となります。 |
| 共有フォルダの作成先 | 内蔵ボリューム1<br>※専用フォーマットされたディスクのみ選択できます。 |
| アクセス権の選択 | ○ 全てのユーザに許可<br>◉ 指定ユーザのみ許可 user1<br>○ 指定グループのみ許可 group1<br>☐ このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く) |
| サービスの選択 | ☑ Microsoftネットワークファイル共有<br>☑ AppleShareネットワークファイル共有<br>☐ DLNA Serverで公開<br>☐ Anonymous FTPを許可<br>☑ User FTPを許可 |
| ごみ箱機能 | ○ 有効 ◉ 無効<br>※「ごみ箱機能」は、Windowsの共有のみ利用可能です。 |

OK

設定
設定
チェック
チェック
クリック

## 5 [結果]の画面が表示されます。

設定した内容をご確認ください。

**結果**

**共有フォルダの設定情報**

| | |
|---|---|
| 共有フォルダ名 | ftp-user |
| コメント | FTP for user1 |
| 使用ボリューム | 内蔵ボリューム1 |
| 対象ユーザ | user1（読み書き可能） |
| 対象サービス | Win Microsoftネットワーク ファイル共有<br>Mac AppleShareネットワーク ファイル共有<br>FTP User FTPを許可 |
| ごみ箱機能 | 無効 |
| 状態 | 利用可能 |

これで、本製品内に User FTP 用の共有フォルダが作成されます。
FTP クライアントからのご利用については、以下をご覧ください。

【FTP クライアントから接続する】（145ページ）




●User FTP 用の共有フォルダは、1ユーザにつき、1つだけ設定できます。

## ◆[新規共有フォルダの追加]画面での設定内容

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">設定する内容</th></tr>
<tr><td>共有フォルダ名</td><td colspan="2">共有フォルダの名前を入力します。<br>この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク]や[ネットワークコンピュータ]など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダのコメント</td><td colspan="2">Windows 用です。<br>ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>共有フォルダの作成先</td><td colspan="2">共有フォルダを作成するハードディスクを選択します。<br>注意 FAT/NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクに、新規に共有フォルダを作成することはできません。（ドライブ全体がひとつの共有として認識されます。）</td></tr>
<tr><td>アクセス権の選択</td><td colspan="2">この共有フォルダのアクセスできるユーザやグループを選択します。<br>ここでは、[指定ユーザのみ許可]を選択し、ユーザを選択します。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">サービスの選択</td><td colspan="2">共有フォルダのサービスを選択します。<br>目的に応じて[Microsoft ネットワーク ファイル共有]と[AppleShare ネットワーク ファイル共有]のどちらかあるいは両方を選択します。</td></tr>
<tr><td>Microsoft ネットワーク ファイル共有</td><td>Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>AppleShare ネットワーク ファイル共有</td><td>Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>DLNA Server で公開</td><td>このアクセス権限では指定できません。</td></tr>
<tr><td>Anonymaous FTP を許可</td><td>このアクセス権限では指定できません。</td></tr>
<tr><td>User FTP を許可</td><td>User FTP をご利用する場合はこちらをチェックします。<br>FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。アクセス権が[指定ユーザのみ許可]の時のみ選択できます。<br>→同時に登録できる User FTP フォルダは 1 つのみとなります。User FTP 機能では FTP サービスを使ってファイルの読み書きが可能です。ファイル名が日本語の場合は、文字コード UTF-8 に対応する FTP クライアントソフトをご利用ください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注意 MS ドメインログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。</td></tr>
<tr><td>ごみ箱機能</td><td colspan="2">Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。<br>作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。<br>ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐに ファイルがなくなるわけではなく、一旦[ごみ箱]フォルダに保管されます。<br>[ごみ箱]フォルダ内のファイルは自動的には消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに[ごみ箱]フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に[ごみ箱]フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。<br>[ごみ箱]フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。<br>【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（59ページ）</td></tr>
</table>

# FTP クライアントから接続する

## ●FTP クライアントからのご利用について

・Anonymous FTP をご利用になる場合

作成した Anonymous FTP フォルダに保存されているファイルを FTP 経由でダウンロードできます。
作成された Anonymous FTP 用の共有フォルダは、ネットワーク経由で誰でもデータを参照できるようになります。
FTP クライアントから接続するには、下記のユーザ名、パスワードでログインしてください。

| | |
|---|---|
| ユーザ名 | anonymous |
| パスワード | 任意 |

・User FTP をご利用になる場合

作成したフォルダに保存されているファイルを FTP 経由でダウンロード/アップロードできます。
作成された User FTP の共有フォルダは、アクセスを許可設定したユーザに限りアクセスできます。
設定したユーザ以外からのデータの参照はできませんので、ご注意ください。
FTP クライアントから接続するには、下記のユーザ名、パスワードでログインしてください。

| | |
|---|---|
| ユーザ名 | 設定したユーザ名 |
| パスワード | 設定したパスワード |

## ●FTP クライアントソフトについて

LAN 内や外部から FTP でアクセスするには、FTP クライアントソフトが必要となりますので、別途ご用意ください。
なお、Windows 標準の FTP 機能を使用する場合は、以下のように接続してください。
（Windows 標準の FTP 機能の詳細な操作方法や不明点は、パソコンメーカー様へお問い合せください。）




本製品の FTP サービスを利用して日本語ファイル名を取り扱う場合は、文字コード UTF-8 に対応した FTP クライアントソフトをご利用ください。
UTF-8 に対応していない FTP クライアントソフトをご利用する場合、日本語ファイル名が文字化けします。

## ●Windows 標準の FTP 機能を使用する場合

※Windows 標準の FTP 機能の詳細な操作方法や不明点は、パソコンメーカー様へお問い合せください。

①[スタート]-[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
②「名前」欄に、以下のように入力し、[OK]ボタンをクリックします。

ftp://xxx.xxx.xxx.xxx

※「xxx.xxx.xxx.xxx」の部分は、同一 LAN 内から接続する場合は本製品の IP アドレスを入力します。
外部から接続する場合は、ルーターの WAN 側 IP アドレス、または、ダイナミック DNS サービス等で設定したホスト名を入力します。

③「Anonymous FTP」の場合、設定した Anonymous FTP 用の共有フォルダが開きます。
「User FTP」の場合、[ファイル] -[ ログイン方法]をクリックして、本製品で登録したユーザー名とパスワードを入力してログオンすると、「User FTP」用の共有フォルダが開きます。）

外部から FTP でアクセスする場合に、「ブロードバンドルーター」を使用している環境では、ブロードバンドルーターで「ポート開放」の設定も行ってください。
（ポート開放手順は、お使いのルーターの取扱説明書等をご覧ください。）
※「ポート開放」時のセキュリティ確保については、十分にご注意ください。



FTP サーバー機能を使用すると、フォルダやファイル名が文字化けしてしまう！
⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の271ページ

# システムを管理する

# 管理者パスワードを変更する

管理者は本製品の設定すべてや、全ての共有（全共有、ユーザ共有、グループ共有）にアクセスできる権限を持っています。
※全ての共有にアクセスできるのは Windows パソコンからのみです。他の人にパスワードが漏れないようしっかり管理し、定期的にパスワードを変更するようにしましょう。

※管理者パスワードは以下の場合に使用します。



●パスワードは忘れないようしっかり管理しましょう。
設定したパスワードを忘れた場合、確認する方法はありません。
設定したパスワードを忘れてしまった場合には、本製品背面の[RESET]ボタンでリセットしないと使用できなくなります。
【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】（156ページ）参照
●出荷時、パスワードは設定されていません。

・本製品の設定画面を開く場合

管理者パスワードの入力

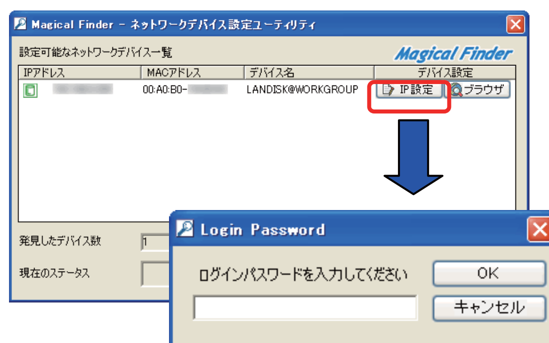
※管理者パスワードがわからない場合、CD-ROM内の取扱説明書をご参照ください。

OK クリア

・管理者として共有フォルダにアクセスする際のパスワード
※全ての共有にアクセスできるのは Windows パソコンからのみです。

admin
パスワードの入力

・Windows 用ユーティリティー「Magical Finder」から「IP 設定」画面を開く場合




ここでは、管理者用の本製品設定時のパスワードの設定手順について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** 左に表示される[メニュー]の[管理者パスワードの変更]をクリックします。




**3** 「現在のパスワード」と「新パスワード」「確認パスワード」を設定後、[OK]ボタンをクリックします。

■ 管理者パスワード設定

| | |
|---|---|
| 現在のパスワード | |
| 新パスワード | |
| 確認パスワード | |

①入力

②クリック　OK　クリア

| | |
|---|---|
| 現在のパスワード | 管理者の現在のパスワードを入力します。<br>※出荷時の場合は、設定されていません。（空欄のままにします。） |
| 新パスワード | 管理者の新しいパスワードを入力します。<br>注意<br>●パスワードで使用できる文字には、以下の制限があります。<br>【文字制限一覧】（186ページ）を参照してください。<br>●入力するパスワードは、「●●●●●」と表示され、確認できませんので、お間違えないようご注意ください。 |
| 確認パスワード | 確認のため管理者の新しいパスワードをもう一度入力します。 |

**4** [結果]の画面が表示されます。

以上で管理者用パスワードの設定は終了です。

# ファームウェアを更新する

ファームウェアは弊社ホームページよりダウンロードできます。

http://www.iodata.jp/lib

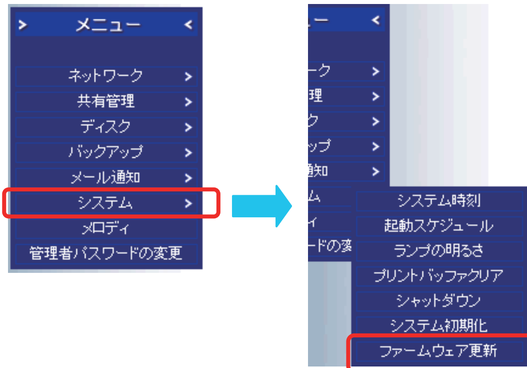
ファームウェアの更新（アップデート）には、新しい機能の追加のほかにも装置の修正など、重要な更新が含まれます。
定期的に弊社サポート・ライブラリ（http://www.iodata.jp/lib）を確認し、最新のファームウェアで本製品をご利用ください。

ここでは、ファームウェアの更新手順について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[システム]→[ファームウェア更新]を順にクリックします。




**3** [参照]ボタンをクリックして、ダウンロードしたファームウェアのファイル名(update.tgz)を設定し、[更新]ボタンをクリックします。




**4** 本製品の[STATUS]ランプが点滅を開始します。
更新後、本製品が再起動します。

※ファームウェアのファイルサイズおよび本製品の状態により変化しますが、2～3 分程度かかります。

以上でファームウェアの更新（アップデート）は終了です。

**注意**

●ファームウェアを更新する際は、パソコンのファイアーウォールの設定を解除してください。
解除されていないと、正常に更新できない場合があります。

●ファームウェアの更新中は本製品の電源を切らないでください。
更新中に電源を切ると、本製品を破損する恐れがあります。

●ファームウェアの更新後、本製品は自動的に再起動します。
再起動完了時、DHCP サーバのあるネットワーク環境では、[STATUS]ランプ（緑色）が点灯します。
DHCP サーバのないネットワーク環境や、DHCP サーバからの IP アドレス取得に失敗すると、[STATUS]ランプが赤く点滅します。
DHCP サーバがあるのに、[STATUS]ランプが赤く点滅している場合には、以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の232ページ

●完全にファームウェアを更新するために、本製品にアクセスしているユーザがいないことを確認するか、パソコンと本製品を 1 対 1 で接続して実行してください。

●ファームウェアバージョンを以前のバージョンに戻すことはできません。

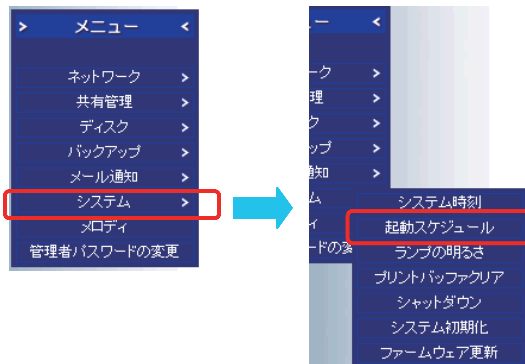
●ファームウェアを更新後、設定画面が変更される場合がありますので、ブラウザのキャッシュのクリアを行ってください。

# 起動スケジュールを設定する

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[システム]→[起動スケジュール]を順にクリックします。




**3** [起動スケジュール機能]の[有効]をチェック後、[起動スケジュール表の設定]を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

■ 起動スケジュール機能　①チェック

起動スケジュール機能　◉有効　○無効

「起動スケジュール機能」の設定で「無効」を選択した場合、「起動スケジュール表」で設定を行っても起動スケジュール機能は動作しません。

■ 起動スケジュール表の設定　②設定

設定方法の選択

○毎日指定時刻に起動・終了

○平日の指定時刻に起動・終了

◉曜日個別の指定時刻に起動・終了

| 曜日 | 起動設定 | 起動時刻指定 | 終了設定 | 終了時刻指定 |
|---|---|---|---|---|
| 日曜日 | ☐有効 | 0 : 0 | ☐有効 | 0 : 0 |
| 月曜日 | ☑有効 | 8 : 0 | ☑有効 | 22 : 0 |
| 火曜日 | ☑有効 | 8 : 0 | ☑有効 | 22 : 0 |
| 水曜日 | ☑有効 | 8 : 0 | ☑有効 | 22 : 0 |
| 木曜日 | ☑有効 | 8 : 0 | ☑有効 | 22 : 0 |
| 金曜日 | ☑有効 | 8 : 0 | ☑有効 | 22 : 0 |
| 土曜日 | ☐有効 | 0 : 0 | ☐有効 | 0 : 0 |

OK　③クリック

| ▼起動スケジュール機能 | |
|---|---|
| 起動スケジュール機能 | 起動スケジュールの有効・無効を設定します。 |
| **▼起動スケジュール表の設定** | |
| 毎日指定時刻に起動・終了 | 毎日、同じ起動時刻、同じ終了時刻で設定する場合に選択します。 |
| 平日の指定時刻に起動・終了 | 月～金曜日で曜日毎に設定する場合に選択します。<br>（土曜、日曜日は無効となります。） |
| 曜日個別の指定時刻に起動・終了 | 各曜日を個別に設定したい場合に選択します。 |

**4** [結果]画面が表示されます。

■ 結果

起動スケジュール設定を有効にしました。

■ 起動スケジュール表

| 曜日 | 起動設定 | 起動時刻指定 | 終了設定 | 終了時刻指定 |
|---|---|---|---|---|
| 日曜日 | 無効 | 0時0分 | 無効 | 0時0分 |
| 月曜日 | 有効 | 8時0分 | 有効 | 22時0分 |
| 火曜日 | 有効 | 8時0分 | 有効 | 22時0分 |
| 水曜日 | 有効 | 8時0分 | 有効 | 22時0分 |
| 木曜日 | 有効 | 8時0分 | 有効 | 22時0分 |
| 金曜日 | 有効 | 8時0分 | 有効 | 22時0分 |
| 土曜日 | 無効 | 0時0分 | 無効 | 0時0分 |

以上で起動スケジュールの設定は終了です。

注意

●起動スケジュール設定を使用する場合は、電源コンセントに常に接続した状態（電源を切った場合は[POWER]ランプが赤点灯の状態：スタンバイ状態）にしておいてください。、

電源コンセントから電源ケーブルを取り外した状態では、起動スケジュール機能は動作しません。

●起動スケジュールによる終了（シャットダウン）に関して、指定した終了時間にアクティブリペア、バックアップ、リビルドが行われている場合、処理が完了するまで終了しません。また、処理中に指定した起動時刻をすぎた場合も終了しません。

# システムログを確認する

設定画面の[情報表示]→[ログ情報]でシステムログを確認することができます。
※システムログの一覧は、以下の個所を参照してください。
【ログ一覧】（190ページ）

**1** 本製品の設定画面の情報表示メニューをクリックします。




**2** 情報表示メニューの[ログ情報]をクリックします。




**3** [ログ]欄にシステムログが表示されます。




※画面は一例です。
ご利用環境により、表示される内容は異なります。

| | |
|---|---|
| ▼表示イベント指定 | |
| 表示するプログラム | 記録されたログの種類のうち、表示するイベントを選択できます。<br>→[再表示]ボタンを押すとチェックをつけた項目のみが表示されます。 |
| [再表示]ボタン | [表示するプログラム]設定に応じて、再度ログを表示します。 |
| ▼ログ | |
| 日時 | ログを記録した日時を表示します。 |
| プログラム | イベント名を表示します。 |
| 内容 | ログ内容を表示します。<br>ログ内容の詳細については【ログ一覧】（190ページ）をご覧ください。 |

注意

ログ情報は、以下のような状況のときに削除されます。
・ログのサイズが一定のサイズを超えた場合
・本製品をシャットダウンした場合
・「システムログのメール送信」を[有効]にしていて、ログメールが送信された後

※システムログをメール送信する設定については、【システムログをメール送信する】（151ページ）をご覧ください。

これでシステムログの確認は終了です。

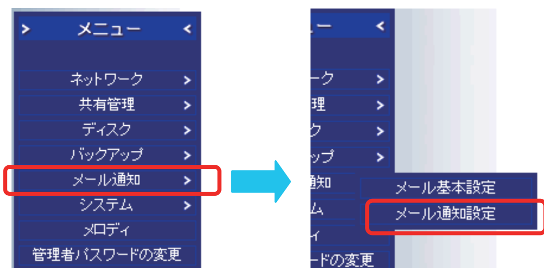
# システムログをメール送信する

システムログ情報をメール送信することができます。
※システムログの一覧は、以下の個所を参照してください。【ログ一覧】（190ページ）

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[メール通知]→[メール通知設定]を順にクリックします。




**3** [システムログ]欄で、[有効]にチェックし、[送信先メールアドレス]を入力後、[OK]ボタンをクリックします。

■ メール通知

注意
「メール基本設定」の「メール通知機能」が「無効」に設定されています。
「メール通知機能」を使用するには、「メール通知機能」を「有効」に設定してください。

■ メール通知設定

| 内容 | メール通知 | 送信先メールアドレス |
|---|---|---|
| セルフバックアップログ | 有効 | |
| リモートバックアップログ | 有効 | |
| システムログ | 有効 | |
| システム起動 | 有効 | |
| システム温度エラー通知 | 有効 | |
| ディスクエラー通知 | 有効 | |

①チェック
②入力
OK ③クリック

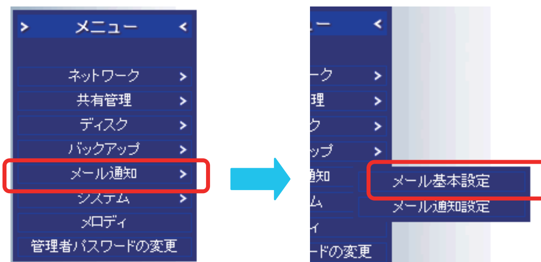
■ メール通知

メール通知設定を保存しました

注意
「メール基本設定」の「メール通知機能」が「無効」に設定されています。
「メール通知機能」を使用するには、「メール通知機能」を「有効」に設定してください。

| | |
|---|---|
| 送信先メールアドレス | システムログを送信する送信先のメールアドレスを入力します。<br>※メール送信先は、1宛先のみです。 |

**4** メール送信機能全般の設定をします。
[メニュー]の[メール通知]→[メール基本設定]を順にクリックします。




**5** [メール通知機能]の[有効]をチェックし、[SMTP サーバ][SMTP ポート番号][差出人メールアドレス]を入力および設定します。
必要に応じて、[メール送信時認証設定]を設定します。
すべて設定後、[設定保存]ボタンをクリックします。

■ メール通知

■ メール基本設定

| | |
|---|---|
| メール通知機能 | 有効 無効 |
| SMTP サーバ | |
| SMTP ポート番号 | 25 |
| 差出人メールアドレス | |

①チェック
②入力および設定
③必要に応じて設定

■ メール送信時認証設定

| | |
|---|---|
| 認証方式 | 無効 |

設定保存 ④クリック

■ メール通知テスト

| | |
|---|---|
| 送信先メールアドレス | |
| メールエンコード | ISO-2022-JP UTF-8 |

テストメール送信

| メール基本設定 | |
|---|---|
| メール通知機能 | ログ情報やバックアップ完了通知などをメールで送信するかどうかを設定します。 |
| SMTP サーバ | メール送信に利用する SMTP サーバを設定します。プロバイダや会社のメールサーバなど、送りたいメールアドレスに合致するサーバ名を入力してください。 |
| SMTP ポート番号 | メール送信に利用するTCPポート番号を指定します。（初期値：25）<br>ご利用のプロバイダがセキュリティ上の理由で 25 番ポートでのメール送信を遮断している場合は、適切な番号に変更してください。 |
| 差出人メールアドレス | 送信するメールアドレスの差出人を設定することができます。送信メールサーバが差出人チェックを実行している場合や、どこから送られてきているのかを明確にしたい場合などに設定します。 |

| メール送信時認証設定 | |
| --- | --- |
| 認証方式 | メール送信時の認証方式を選択できます。<br>指定する SMTP サーバがサポートしている認証方式を設定してください。 |
| POP サーバ | POP サーバ名を入力します。（POP before SMTP 時のみ） |
| ユーザ名 | メール受信に使用するユーザ名を入力します。 |
| パスワード | メール受信に使用するパスワードを入力します。 |

**6** ”メール設定を保存しました”と表示されます。

**メール通知**

メール設定を保存しました

**7** 画面下の[メール通知テスト]で、正しく設定されたかを確認します。
[送信先メールアドレス]を入力後、[テストメール送信]ボタンをクリックします。
→テストメールを送信します。

メール通知テスト

送信先メールアドレス　xxxxx@xxxxx.xxx　①入力

上記の設定でメールが届くかどうか、テストすることができます。
ここで入力するメールアドレスは、メール通知テストでのみ使用されます。
実際の宛先は、各機能で別々の宛先を設定することができます。

テストメール送信　②クリック

| メール通知テスト | |
| --- | --- |
| 送信先メールアドレス | 送信先のメールアドレスを入力します。 |

**8** 正しく送信されると以下の画面となります。

**メール通知**

メール送信のテストを行いました
メールの送信に成功しました。宛先にメールが届いてるか確認して下さい。



以下のようなエラーが表示された！

**メール通知**

メールの送信のテストを行いました
メール送信サーバとの接続に失敗しました。

⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の272ページ

**9** メール受信側のパソコンでは、以下のようなメールが届きます。
※表示はお使いのメーラーにより異なります。

▼件名

件名　差出人　送信日時
[landisk] メール通知テスト

▼内容

差出人: LANDISK　宛先:
件名: [landisk] メール通知テスト　日時: Mon, 1

テストメールです

これでシステムログ情報のメール送信設定は終了です。




●UTF-8 対応のメールソフトをご使用ください。
●システムログは、LANDISK 内のログが一定の大きさを超えた場合に送信されます。

# 省電力機能を使う

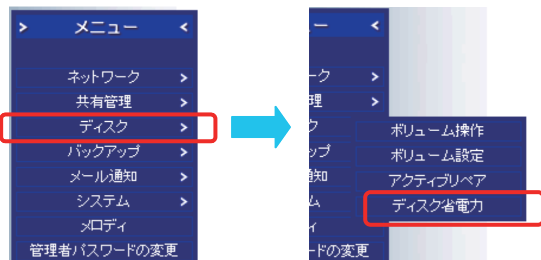
ここでは、ハードディスクの省電力機能の設定について説明します。

ハードディスクを省電力設定にすることにより、一定時間アクセスがなければ内蔵ハードディスクの回転を停止します。
これにより電力消費を抑えることができます。また、本製品の省電力機能に対応しているドライブを増設ハードディスクとして使用することにより増設ハードディスクも同時に省電力モードに設定することができます。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ディスク]→[ディスク省電力]を順にクリックします。




**3** [時間選択]で時間を設定後、省電力機能を設定したいドライブの[有効]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

## ディスク省電力

### ディスク省電力開始時間設定

| | |
|---|---|
| 時間選択 | 30分後 ①設定 |

本装置に接続した内蔵、eSATAおよびUSBディスクにアクセスがなかった場合、ディスクの省電力モード(スピンダウン)を開始するまでの時間を選択します。

### ボリュームごとの省電力設定

| | |
|---|---|
| 内蔵 ボリューム | ◉有効 ○無効 |
| eSATA ボリューム1 | ○有効 ◉無効 ②選択 |
| eSATA ボリューム2 | ○有効 ◉無効 |
| USB ボリューム1 | ○有効 ◉無効 |
| USB ボリューム2 | ○有効 ◉無効 |

各ボリュームを構成するディスクに対して省電力設定を有効するかどうかを設定します。
上記の設定を有効に設定しても、接続するディスクによっては正常に省電力設定が機能しない場合があります。

OK ③クリック

| ▼ディスクの省電力設定 | |
|---|---|
| 時間選択 | 一定時間、本製品や増設ハードディスクにアクセスがない場合に、ハードディスクの動作を停止させる機能です。この停止までの時間を変更できます。「1 分後」、「2 分後」、「3 分後」、「5 分後」、「10 分後」、「15 分後」、「20 分後」、「30 分後」、「1 時間後」、「なし」から選択できます。（初期値は「なし」です。） |

| ▼ボリュームごとの省電力設定 | |
|---|---|
| 内蔵ボリューム<br>eSATA ボリューム 1<br>eSATA ボリューム 2<br>USB ボリューム 1<br>USB ボリューム 2 | 省電力機能を設定したいドライブは「有効」を選択します。増設ドライブは必ず省電力機能に対応しているドライブをご利用の時のみ「有効」を選択してください。 |

**注意**

- eSATA ポート、USB ポートに接続した増設ハードディスクの省電力機能は、省電力機能に対応している場合のみ省電力機能が有効となります。
- 増設ハードディスクの省電力機能の動作確認済み機種は、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/）をご覧ください。
- 設定時間内にハードディスクにアクセスしなくても、本製品のシステムがハードディスクにアクセスした場合は、ハードディスクは停止しません。
  また、ハードディスク停止中に本製品にアクセスしていなくても、本製品のシステムがハードディスクにアクセスした場合は、ハードディスクが回転する場合があります。
- 冷却ファンは停止しません。

**4** [結果]の画面が表示されます。

## 結果

### ディスク省電力設定

| | |
|---|---|
| 省電力開始時間 | 30分後 |
| 内蔵 ボリューム | 有効 |
| eSATA ボリューム1 | 無効 |
| eSATA ボリューム2 | 無効 |
| USB ボリューム1 | 無効 |
| USB ボリューム2 | 無効 |

以上でハードディスクの省電力機能の設定は終了です。

**注意**

本製品を DHCP クライアントモードでご使用の場合、アドレスを更新する際に、内蔵ディスクがスピンアップします。
また、ネットワークの通信中やシステム処理のためにディスクアクセスすることがあります。
DHCP サーバのリース時間を長く設定すると、アドレス更新によるスピンアップ間隔も長くできます。

# 出荷時設定に戻す

# 出荷時設定への戻し方

次のような場合、設定を出荷時設定（初期設定）に戻してください。

・本製品の IP アドレスがわからなくなった場合
・管理者の情報（[パスワード]など）がわからなくなった場合

## 本製品の出荷時設定への戻し方

本製品の出荷時設定への戻し方には 2 通りの方法があります。

### ●方法 1：IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す

→手順については【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】（次ページ）参照

本製品背面の[RESET]ボタンで初期化します。
万一本製品に設定した IP アドレスを忘れた場合や本製品設定時の管理者パスワードを忘れてしまった場合に行います。

初期化される項目は下記の３つのみです。

| | |
|---|---|
| IP アドレス | [DHCP クライアント]設定を[on]にします。<br>IP アドレスを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。 |
| 管理者パスワード | 「なし」に設定します。<br>管理者パスワードを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。 |
| ジャンボフレーム | 「未使用（mtu:1500）」に設定します。 |




●上記以外のすべての設定情報は変更されません。
●ハードディスク内のデータは残ります。（消去されません。）

### ●方法 2：本製品のすべての設定を出荷時状態に戻す

→手順については【本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す】（157ページ）参照

設定画面の[システム初期化]で本製品のすべての設定の初期化、および、内蔵ハードディスクをフォーマットします。
※HDL-GT1.0 の場合で約 3 分かかります。　（時間は本製品の容量によって変化します。）

初期化される項目は下記のとおりです。

・すべての装置設定
・内蔵ハードディスクの全データ




事前にハードディスク内のデータをバックアップしてください。
（増設ハードディスクのデータも事前にバックアップしてください。）

方法１

# IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す

本製品背面の[RESET]ボタンで IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す（初期化する）ことができます。
万一本製品に設定した IP アドレスを忘れた場合や本製品設定時の管理者パスワードを忘れてしまった場合に行います。

●初期化項目

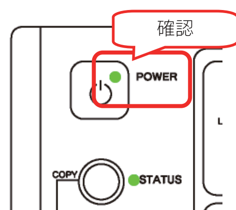
初期化される項目は下記の３つのみです。
※他の設定は初期化されません。

| | |
|---|---|
| IP アドレス | [DHCP クライアント]設定を[on]にします。<br>IP アドレスを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。 |
| 管理者パスワード | 「なし」に設定します。<br>管理者パスワードを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。 |
| ジャンボフレーム | 「未使用（mtu：1500）」に設定します。 |




●初期化処理中は、本製品の電源を切らないでください。
●ハードディスク内のデータは残ります。（消去されません。）
●ネットワークに接続したまま行うことができます。

**1** 本製品の電源が入っていること（[POWER]ランプが点灯していること）を確認します。
電源が入っていない場合は、電源を入れます。

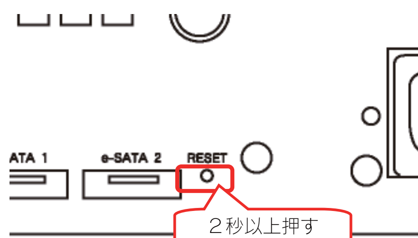




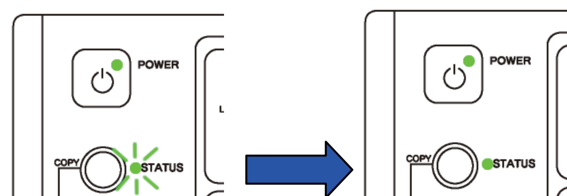


●初期化は、本製品の電源が入っている状態で行います。
●ACCESS ランプ点灯・点滅中には、初期化しないでください。

**2** 背面の RESET ボタンを先の細いもので約 2 秒以上、STATUS ランプが点滅し、「ピッ」と音が鳴るまで押します。




**3** [STATUS]ランプが緑色点灯（DHCP サーバーがある場合）、または、赤色点滅（DHCP サーバーがない場合）すれば、初期化完了です。




IP アドレスと管理者パスワードが初期値となりますので、再度設定をやり直してください。

## 方法2

# 本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す

設定画面の[システム初期化]で本製品のすべての設定を出荷時設定にもどし（初期化）、さらに、内蔵ハードディスクをフォーマットします。

●初期化項目

初期化される項目は下記の項目です。

・すべての装置設定

・内蔵ハードディスクの全データ

注意

●事前にハードディスク内のデータをバックアップしてください。
（増設ハードディスクのデータも事前にバックアップしてください。）

●増設ハードディスクのデータは消去されませんが、取り外しておくことをおすすめします。

●内蔵ハードディスクの4つのカートリッジはすべて接続しておく必要があります。

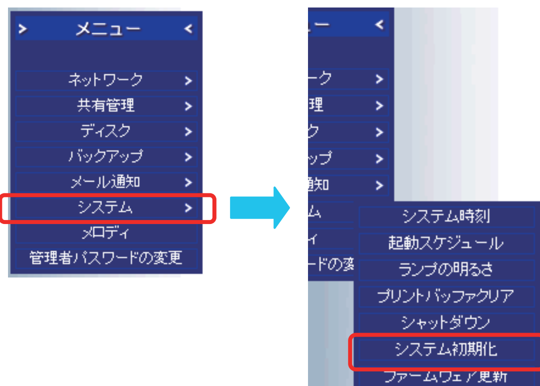
●[システム初期化]を行うと、以前の RAID モードに関係なく、RAID5（分散パリティ）になります。

●動作モードもすべて初期設定に戻ります。
eSATA ハードディスクを[ミラーリングモード]でご利用の場合、先に[ミラーディスクの保管]を行ってください。
【ミラーディスクを保管する】（117ページ）

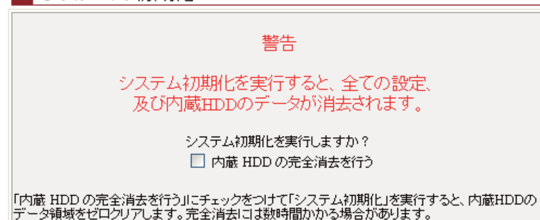
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示　メニュー　ログオフ

**2** [メニュー]の[システム]→[システム初期化]を順にクリックします。



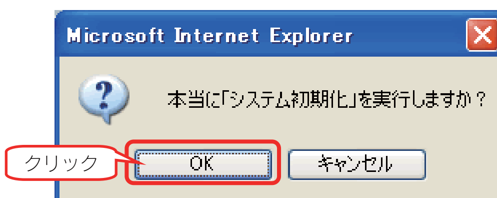

**3** [OK]ボタンをクリックします。




注意

●[内蔵 HDD の完全消去を行う]をチェックした場合、内蔵ハードディスクをフォーマットした後、全てのデータ領域に 0（ゼロ）を書き込みます。
本製品を廃棄や譲渡される場合にチェックしてください。（本処理には、目安として、1G バイトあたり約 1 分ほど要します。）

**4** [OK]ボタンをクリックします。




**5** [結果]画面が表示されます。

結果

本装置のシステム初期化を開始しました。

システム初期化には数分間掛かります。

システム初期化が完了するとすべての設定は出荷時設定に戻ります。
アクセスできるようパソコンの設定を変更して、Webブラウザでアクセスし直してください。

注意

●[結果]画面が表示された後、自動的に本製品が再起動しますが、再起動後にもシステム初期化処理を続行しています。
[STATUS]ランプが緑点灯または赤点滅状態になるまでそのまましばらくお待ちください。

●システム初期化処理中に電源を切ったり、カートリッジを取り外したりすると、本製品が正常に起動しなくなります。
[STATUS]ランプが緑点灯または赤点滅状態になるまで、何も操作しないでください。

すべての設定が初期値となりますので、再度設定をやり直してください。

# RAIDが崩壊したときには

# RAIDが崩壊したときには

本製品使用中に以下の状態の場合、内蔵ボリューム１に異常が発生し、RAID が崩壊した状態（RAID 崩壊モード）となっています。
一旦、RAID 崩壊モードとなった場合、バックアップを行っていた場合はバックアップしていた状態に戻すか、あるいは、強制的に内蔵ボリューム１を再設定※（RAID を再構成）するしかありません。

※強制的に再設定を行うと、内蔵ボリューム１を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム１上の共有フォルダの設定、および共有フォルダ内のデータは失われます。ただし、それ以外のユーザ、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができます。

### ▼RAID 崩壊モードの状態

| ランプやブザー | 状態 | 補足 |
|---|---|---|
| [STATUS]ランプ | 赤点滅 | |
| [ACCESS]ランプ | 赤点灯 | スライドスイッチが LOCK されているすべてのカートリッジが赤点灯します。（未接続、あるいは、UNLOCK のカートリッジは消灯状態です。） |
| ブザー | 「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている | 前面の[COPY]ボタンを押すとブザーは停止します |

RAID 崩壊モードとなった場合、以下のいずれかの対処を行ってください。
※ブザーは、前面の[COPY]ボタンを押せば止まります。

## ●対処１：保管したミラーディスクから復旧する

以前に eSATA ハードディスクに「ミラーディスクの保管」を行い、システムのバックアップがある場合は、その eSATA ハードディスクからシステムを復旧することができます。
手順については、以下の個所を参照してください。
【ミラーディスクから復旧する】（119ページ）

## ●対処２：保管したディスクセットから復旧する

以前に「ディスクセットの保管」を行ったディスクセット（カートリッジ２台）がある場合は、その eSATA ハードディスクからシステムを復旧することができます。
手順については、以下の個所を参照してください。
【ディスクセットから復旧する】（125ページ）

## ●対処３：RAID を再構成する

設定画面の[メンテナンス]操作で RAID を再構成することができます。
ただし、[メンテナンス]での RAID の再構成では、ユーザ、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリューム１を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム１上に作成した共有フォルダ、および共有フォルダ内のデータはすべて失われます。
手順については、以下の個所を参照してください。
【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】（次ページ）

# RAID 崩壊モードから RAID を再構成する

ここでは、RAID 崩壊状態から内蔵ボリューム 1 の RAID を再構成する方法として、設定画面の[メンテナンス]での方法について説明します。

**注意**

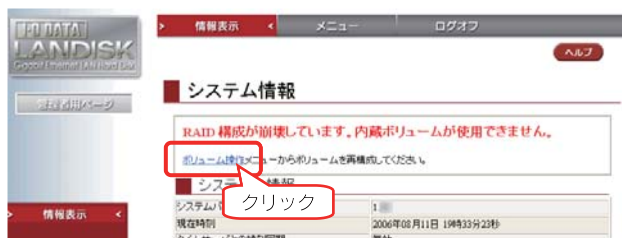
●以下の[メンテナンス]での RAID の再構成では、ユーザ、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリューム 1 を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム 1 上に作成した共有フォルダ、および共有フォルダ内のデータはすべて失われます。

●[メンテナンス]での RAID の再構成は現在の RAID モードでの再構成です。
設定画面の[メニュー]→[ディスク]→[ボリューム設定]で、別の[RAID モード]に変更することも可能です。
ただし、[メンテナンス]操作同様、ユーザ、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリューム 1 を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム 1 上に作成した共有フォルダ、および共有フォルダ内のデータはすべて失われます。

●RAID 崩壊状態になった後、一旦本製品の電源を切る（シャットダウン）すると、以下の手順ができなくなります。
万一、電源を切った場合には、以下の個所を参照してください。
【強制的に RAID を再構成する】（次ページ）

**1** 本製品の設定画面を開きます。
開き方については、以下の個所を参照してください。
【設定画面の開き方】（37ページ）

**2** 設定画面を開くと、[システム情報]に、「RAID 構成が崩壊しています」と表示されています。
画面上の[ボリューム操作]をクリックします。




**3** [操作]欄で[メンテナンス]を選択後、[実行]ボタンをクリックします。

ボリューム操作

ボリューム情報

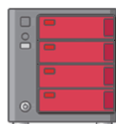
| | | |
|---|---|---|
| 内蔵 ボリューム1 | 動作モード | RAID5(分散パリティ) |
| | 状態 | 崩壊 |
| | 操作 | メンテナンス　実行 |
| | 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム1 | 動作モード | |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |

①選択　②クリック

**4** [OK]ボタンをクリックします。

内蔵 ボリューム1のメンテナンス

「内蔵 ボリューム1」は動作モードの再設定が必要です



「内蔵 ボリューム1」はクラッシュしました。
「内蔵 ボリューム1」上に保存されたデータはすでに失われています。

再設定を実行すると、「内蔵ディスク1」「内蔵ディスク2」「内蔵ディスク3」「内蔵ディスク4」は「内蔵 ボリューム1」のRAID5(分散パリティ)構成ディスクとして組み込みます。
現在の「内蔵ディスク1」「内蔵ディスク2」「内蔵ディスク3」「内蔵ディスク4」上のデータは消去されます。

「内蔵 ボリューム1」の再設定を実行しますか？

OK　クリック

**5** [OK]ボタンをクリックします。




**6** 数分後、以下の画面となります。

結果

内蔵 ボリュームの動作モードをRAID5(分散パリティ)に変更しました

以上で RAID の再構成は終了です。

他の RAID モードに変更する場合は、以下の個所を参照してください。
【RAID モードの変更】（41ページ）

# 強制的に RAID を再構成する

ここでは、RAID を構成するカートリッジを誤って FAT32 フォーマットにしたために、あるいは、RAID 崩壊後、本製品の電源を入れなおした場合など、正常な RAID が構成されていないために、本製品を起動できなくなった場合の再構成を行う手順について説明します。



注意
●本操作を行うと、ユーザ、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリューム１を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム１上に作成した共有フォルダ、および共有フォルダ内のデータはすべて失われます。
●RAID システムの入っていない（FAT32 フォーマット等）カートリッジだけで RAID を再構築することはできません。

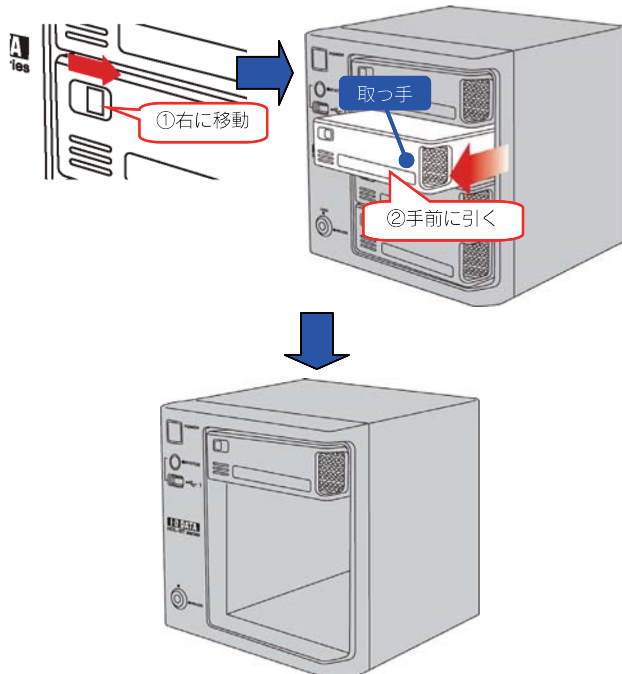
## STEP1 カートリッジ１以外を取り外す

**1** 本製品の電源が入っている場合は、[電源]ボタンを押して、電源を切ります。
⇒本製品の電源が切れていることを確認します。
（[POWER]ランプが赤点灯していることを確認します。）

**2** LOCK キーの LOCK を解除します。
添付のロックキーで LOCK を時計周りにまわして、[UNLOCK]にします。



**3** RAID システムの入っているスロット１のカートリッジ１台だけを残して、残りのカートリッジ３台すべて取り外します。
①カートリッジの[スライドスイッチ]を右に移動（[UNLOCK]）します。
②カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り出します。
スロット２～４の３台のカートリッジを取り外します。
※どのカートリッジから取り外しても構いません。

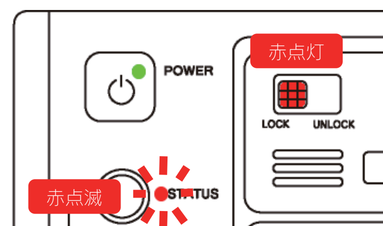



## STEP2 システムを起動させる

１台のカートリッジで本製品のシステムを起動させます。

**1** 本製品の[電源]ボタンを押します。

**2** しばらくすると、ブザーが「ピーピーピー」と繰り返し鳴り、[STATUS]ランプが赤点滅、[ACCESS]ランプが赤点灯します。
※本製品は起動途中で停止している状態です。




**3** [COPY]ボタンを押して、まずブザーを止めます。

## STEP3 設定用パソコンの IP アドレスを一時的に変更する

本製品起動途中の停止画面を開き、この後の作業を行います。
ただし、ネットワーク内に DHCP サーバのあり、なしにかかわらず、本製品は「192.168.0.200」の固定の IP アドレスで起動しているため、パソコン側も一時的に「192.168.0」と同じセグメントで「192.168.0.200」以外に設定する必要があります。

**1** パソコンの[IP アドレス][サブネットマスク]を一時的に以下の値に変更します。
[IP アドレス]・・・192.168.0.xxx
（xxx には 200 を除く 1～254 のいずれかの値）
[サブネットマスク]・・・255.255.255.0



パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない
⇒以下の個所を参照してください。
【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】（276ページ）

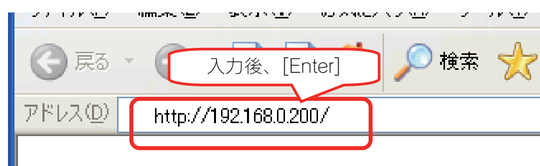


注意
●後で元の設定に戻しますので、必ず現在の[IP アドレス][サブネットマスク][デフォルトゲートウェイ][（ルータ）アドレス]などはメモしておいてください。
●停止画面を「Magical Finder」から開くことはできません。

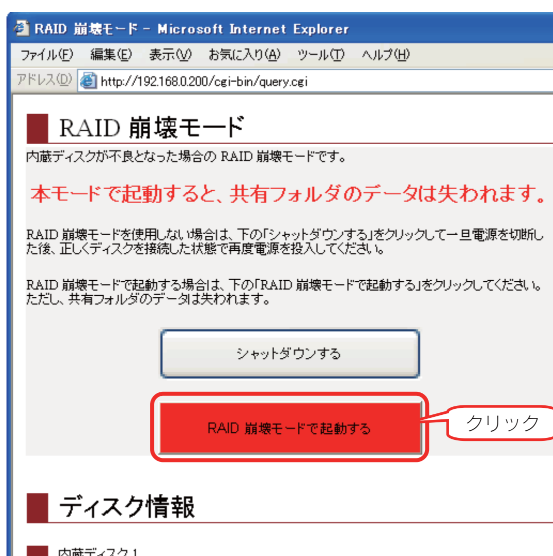
## STEP4 停止画面を開く

**1** Web ブラウザを起動して下記を入力し、[Enter]キーを押します。

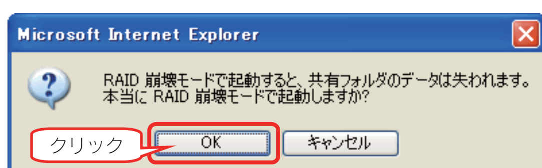
http://192.168.0.200/




**2** 以下の画面が表示されます。
[RAID 崩壊モードで起動する]をクリックします。




**3** [OK]ボタンをクリックします。




**4** 以下の画面が表示され、本製品は「RAID 崩壊モード」で起動します。
→この後、本製品の IP アドレスは、以前に使用していた IP アドレス環境での IP アドレスで起動します。

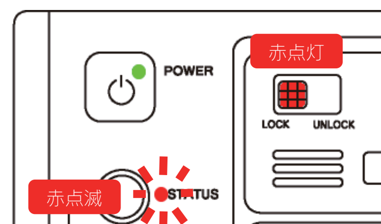
システム起動

内蔵ディスク 1が起動ディスクとして選択されました。

現在本起動中です。

起動後の IP アドレスは、内蔵ディスク 1に保存されている設定値になります。このため、現在のアドレス (192.168.0.200) と異なる場合があります。

**5** しばらくすると、ブザーが「ピーピーピー」と３回鳴り、[STATUS]ランプが赤点滅、[ACCESS]ランプが赤点灯します。

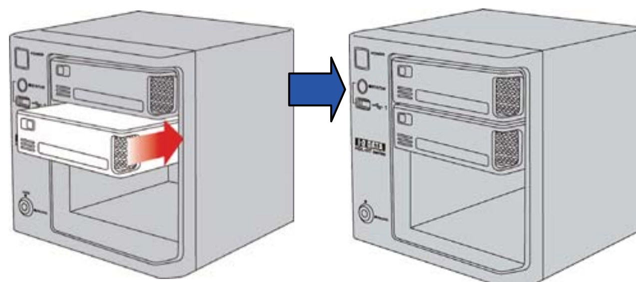



## STEP5 カートリッジを戻す

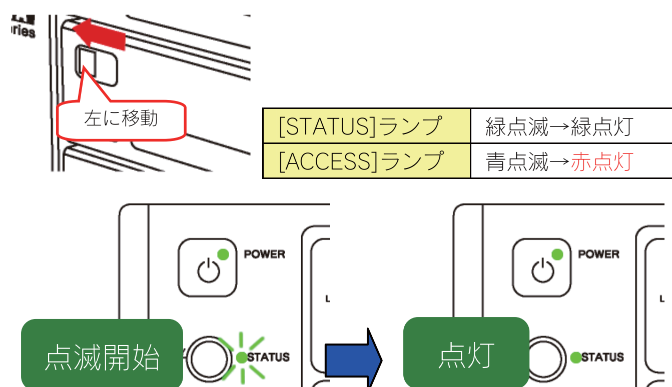
取り外していた３台のカートリッジを１台ずつ、すべて元に戻します。

注意 ●同時に複数台取り付けないでください。
必ず、１台ずつ[STATUS]ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

**1** カートリッジを１台ずつ順に取り付けます。
カートリッジをスロットの奥まで挿入します。



**2** 取り付けたカートリッジの[スライドスイッチ]を左側（[LOCK]）に移動させます。
[STATUS]ランプが緑点滅から緑点灯に変わり、「ピー」とブザーが鳴るまでお待ちください。
[ACCESS]ランプは赤く点灯します。



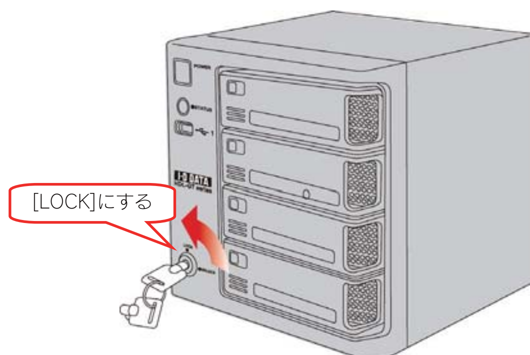

| | |
|---|---|
| [STATUS]ランプ | 緑点滅→緑点灯 |
| [ACCESS]ランプ | 青点滅→赤点灯 |

**3** ３台目以降のカートリッジも同様に取り付け、４台ともすべて取り付けます。




●必ずカートリッジ１台ずつ行ってください。
[STATUS]ランプが点滅したまま、別のカートリッジをセットすると、正しく構築できない場合があります。
必ず、１台ずつ[STATUS]ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

**4** 添付のロックキーで LOCK を反時計周りにまわして、[LOCK]にします。




## STEP6 RAID を再構成する

設定画面上から RAID の再構成を開始させます。

**1** [STEP3]で変更したパソコンの[IP アドレス][サブネットマスク][デフォルトゲートウェイ][（ルータ）アドレス]などをすべて以前使用していた値に戻します。

**2** 本製品の設定画面を開きます。
開き方については、以下の個所を参照してください。
【設定画面の開き方】（37ページ）

設定画面を開くと、[システム情報]に、「RAID 構成が崩壊しています」と表示されています。




この後の手順は、RAID 崩壊モードから RAID を再構成する手順と同様です。
以下をご覧ください。
【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】（160ページ）

# ランプ表示別の対応

# ランプ表示別の対応

ランプやブザーによって、現在の状態や操作が正常か、あるいは、エラーが発生しているかを知ることができます。通常以下のようになります。

| | | |
|---|---|---|
| [STATUS]ランプ | 正常時 | 緑点灯、緑点滅 |
| | エラー時 | 赤点滅 |
| [ACCESS]ランプ | 正常時 | 青点灯、青点滅 |
| | エラー時 | 赤点灯、赤点滅 |
| ブザー | 正常時 | 「ピッ」または「ピー」が１回<br>「ピポパポ」 |
| | エラー時 | 「ピー」「ピー」「ピー」と３回鳴る、または、鳴り続けている<br>「ピーポーピーポー」と鳴り続けている |

※エラー状況によってはブザーが鳴り続けます。一旦ブザーを止める場合は、前面の[COPY]ボタンを押してください。

| 状態・操作 ＼ ランプ・ブザー | | POWER | STATUS | ACCESS （※1） | | | | ブザー | 対応 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | CT1 | CT2 | CT3 | CT4 | | |
| 電源コンセントに接続時 | | 赤点灯 | 消灯 | 消灯 | 消灯 | 消灯 | 消灯 | | |
| 起動後 | 正常 | 緑点灯 | 緑点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピー」と１回鳴る | ご利用になれます。 |
| | エラー１ | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」と３回鳴る | 起動エラー状態です。<br>以下の個所を参照してください。<br>【【補足１：起動エラー１】】（168ページ） |
| | エラー２ | 緑点灯 | 赤点滅 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 「ピーピーピー…」と鳴り続けている | 起動停止状態です。<br>以下の個所を参照してください。<br>【【補足２：起動エラー２】】（168ページ） |
| | エラー３ | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ドレミドレミ…」と鳴り続けている | UPS 警告機能が有効で、UPS が未接続の状態です。<br>【UPS 装置の接続を確認する】（128ページ） |
| システムシャットダウン後 | | 赤点灯 | 消灯 | 消灯 | 消灯 | 消灯 | 消灯 | | |
| 使用中に RAID 崩壊 | | 緑点灯 | 赤点滅 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 「ピーポーピーポーピーポー…」と鳴り続けている | RAID 崩壊状態です。<br>以下の個所を参照してください。<br>【【補足３：使用中エラー】】（168ページ） |
| 使用中にディスク構成異常 | | 緑点灯 | 赤点滅 | 赤点滅（※3） | 赤点滅（※3） | 赤点滅（※3） | 赤点滅（※3） | 「ピ、ピ、ピ…」と鳴り続けている | RAID 構成ディスクに障害が発生した状態です。 |
| 定期警告 | ディスク構成異常警告 | 緑点灯 | 赤点滅 | 赤点滅／消灯（※4） | 赤点滅／消灯（※4） | 赤点滅／消灯（※4） | 赤点滅／消灯（※4） | 「ピ、ピ、ピ…」と鳴り続けている | RAID 構成ディスクに障害が発生したかディスクを取り外した状態です。 |
| | 空き容量警告 | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピピ、ピピ、ピピ…」と鳴り続けている | 空き容量が少なくなっています。不要なファイルを削除してください。 |
| | UPS 警告 | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ドレミ、ドレミ…」と鳴り続けている | UPS 警告機能が有効で、UPS が未接続の状態です。【UPS 装置の接続を確認する】（128ページ） |
| カートリッジ取り外し操作（スライドスイッチ[UNLOCK]操作）（※2） | 正常（取り外し可能） | 緑点灯 | 緑点灯 | 消灯（※5） | 消灯（※5） | 消灯（※5） | 消灯（※5） | 「ピー」と１回鳴る | カートリッジを取り外しできる状態です。 |
| | 取り外し不可 | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」と３回鳴る | カートリッジを取り外すことはできません。<br>スライドスイッチを必ず LOCK の状態に戻してください。<br>このカートリッジはシステムで使用されている状態ですので、無理に取り外すとボリュームが崩壊しデータを失う場合があります。 |

※1　カートリッジが接続してあり、スライドスイッチが［LOCK］されているもののみです。カートリッジが未接続または、スライドスイッチが［UNLOCK］のものは消灯しています。
※2　スライドスイッチが［UNLOCK］時の状態を示しています。
※3　障害が発生したカートリッジのみ［赤点滅］になります。正常に動作しているカートリッジについては、［青点灯］のままです。
※4　障害が発生したカートリッジのみ［赤点滅］し、カートリッジが未接続またはスライドスイッチが［UNLOCK］のものは消灯しています。正常に動作しているカートリッジについては、[青点灯]のままです。
※5　カートリッジが接続してあり、スライドスイッチが［LOCK］されているもは［青点灯］のままです。

| ランプ・ブザー／状態・操作 | | POWER | STATUS | ACCESS　（※1） | | | | ブザー | 対応 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | CT1 | CT2 | CT3 | CT4 | | |
| カートリッジ取り付け操作（スライドスイッチ[LOCK]操作） | 正常 | 緑点灯 | 緑点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピー」と１回鳴る | ご利用になれます。<br>再構築が必要な場合は再構築が自動的に始まり、[ACCESS]ランプは細かく青点滅します。 |
| | 取り付け失敗１ | 緑点灯 | 赤点滅 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 「ピーピーピー」と３回鳴る | 以下の個所を参照してください。<br>【【補足４：カートリッジ取り付け時エラー１】】（169ページ） |
| | 取り付け失敗２ | 緑点灯 | 赤点滅 | 赤点滅 | 赤点滅 | 赤点滅 | 赤点滅 | 「ピーピーピー」と鳴り続けている | システムが取り付けを拒否しました。カートリッジを取り付けて使用することはできません。<br>スライドスイッチを必ずUNLOCKの状態に戻してください。（再び[STATUS]ランプが点滅しますので、[ACCESS]ランプが消灯するまでお待ちください。）<br>以下の個所を参照してください。<br>【【補足５：カートリッジ取り付け時エラー２】】（169ページ） |
| 共有ディスク（FAT/NTFS）モード時の増設ハードディスクの接続時 | 正常 | 緑点灯 | 緑点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピー」と１回鳴る | 増設ハードディスクを使用できる状態です。 |
| | 接続失敗 | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」と３回鳴る | FAT/NTFS 形式以外のフォーマット形式のディスクを接続しています。<br>この場合、一旦ケーブルを抜いて FAT/NTFS 形式にパソコンなどでフォーマットしてから再度接続する必要があります。<br>または、接続したまま WEB 操作画面「フォーマット（FAT32）」を実行することで、FAT32 形式にフォーマットすることができます。 |
| ミラーリングモード時のeSATA ハードディスクの接続時 | 正常 | 緑点灯 | 緑点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピー」と１回鳴る | ｅSATA ハードディスクとミラーリングできる状態です。 |
| | 接続失敗 | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」と３回鳴る | FAT/NTFS 形式でフォーマットされ、データが入っている場合などは、接続してもミラーリングできません。<br>以下の個所を参照してください。<br>【【補足６：eSATA 接続エラー（ミラーリング時）】】（169ページ） |
| クイックコピーモード時のUSB メモリー等の接続時 | 正常 | 緑点灯 | 緑点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピー」と１回鳴る | クイックコピーを実行可能な状態になりました。<br>[COPY]ボタンを長押しすることでクイックコピーを実行できます。 |
| | 接続失敗 | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」と３回鳴る | クイックコピーはできません。<br>ＦＡＴ／ＮＴＦＳ形式以外のフォーマット形式の USB メモリーや USB マスストレージクラスの転送に対応していないデジカメ等を接続しています。 |

※1　カートリッジが接続してあり、スライドスイッチが[LOCK]されているもののみです。
カートリッジが未接続または、スライドスイッチが[UNLOCK]のものは消灯しています。

| ランプ・ブザー / 状態・操作 | | POWER | STATUS | ACCESS　（※1） | | | | ブザー | 補足 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | CT1 | CT2 | CT3 | CT4 | | |
| ボリューム設定変更を実行時 | 正常 | 緑点灯 | 緑点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピー」<br>と１回鳴る | システムがボリューム設定処理を正常完了しました。<br>この後、必要があれば再構築が自動的に始まります。 |
| | エラー | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」<br>と３回鳴る | システムがボリューム設定処理を失敗しています。<br>もう一度操作をやり直す必要があります。 |
| フォーマット | 正常 | 緑点灯 | 緑点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピー」<br>と１回鳴る | 正常にフォーマットが終了しました。 |
| | エラー | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」<br>と３回鳴る | 何らかのエラーが発生しています。<br>[ログ情報]をご確認ください。 |
| チェックディスク | 正常 | 緑点灯 | 緑点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピー」<br>と１回鳴る | 正常にチェックディスクが終了しました。 |
| | エラー | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」<br>と３回鳴る | 何らかのエラーが発生しています。<br>[ログ情報]をご確認ください。 |
| メンテナンス | 正常 | 緑点灯 | 緑点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピー」<br>と１回鳴る | 正常にメンテナンスが終了しました。 |
| | エラー | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」<br>と３回鳴る | 何らかのエラーが発生しています。<br>[ログ情報]をご確認ください。 |
| eSATA ディスク１からミラーリング開始 | 正常 | 緑点灯 | 緑点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピー」<br>と１回鳴る | 正常に終了しました。 |
| | エラー | 緑点灯 | 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」<br>と３回鳴る | 何らかのエラーが発生しています。<br>[ログ情報]をご確認ください。 |

※1　カートリッジが接続してあり、スライドスイッチが[LOCK]されているもののみです。
カートリッジが未接続または、スライドスイッチが[UNLOCK]のものは消灯しています。

## 【補足１：起動エラー１】

| | | | | | ブザー |
|---|---|---|---|---|---|
| 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」と３回鳴る |

上記のように、[STATUS]ランプが赤点滅している（[ACCESS]ランプは青点灯）場合は、DHCP サーバより IP アドレスを取得できていない状態です。
以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の【本製品の電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと３回鳴った】（227ページ）

## 【補足２：起動エラー２】

| | | | | | ブザー |
|---|---|---|---|---|---|
| 赤点滅 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 「ピーピーピー」と鳴り続けている |

上記のように、本製品起動時に、[STATUS]ランプが赤点滅し、[ACCESS]ランプがすべて赤点灯、かつ、ブザーが「ピーピーピー」と鳴り続けている場合は、何らか理由により、システムを起動できない状態です。（本製品はシステム停止中です。）
[COPY]ボタンを押して、一旦ブザーを止め、以下の手順で起動時の停止画面を開いてください。
以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の【起動時に[ACCESS]ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている】（228ページ）

## 【補足３：使用中エラー】

| | | | | | ブザー |
|---|---|---|---|---|---|
| 赤点滅 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている |

上記のように、本製品使用中に[STATUS]ランプが赤点滅し、[ACCESS]ランプがすべて赤点灯、かつ、ブザーが「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている場合は、何らか理由により、本製品の RAID が崩壊している状態です。
[COPY]ボタンを押して、一旦ブザーを止め、以下の手順で起動時の停止画面を開いてください。
以下の個所を参照してください。
【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】（160ページ）

## 【補足４：カートリッジ取り付け時エラー１】

| | | | | | ブザー |
|---|---|---|---|---|---|
| 赤点滅 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 赤点灯 | 「ピーピーピー」<br>と３回鳴る |

上記のように、カートリッジ取り付け時（スライドスイッチを[LOCK]状態にした後）、[STATUS]ランプが赤点滅し、取り付けたカートリッジの[ACCESS]ランプが赤点灯した場合は、そのままではそのカートリッジを使用できません。
以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の【カートリッジの取り付け（スライドスイッチを[LOCK]した）後に、LOCK したカートリッジの ACCESS ランプが赤く点灯している】（259ページ）

## 【補足５：カートリッジ取り付け時エラー２】

| | | | | | ブザー |
|---|---|---|---|---|---|
| 赤点滅 | 赤点滅 | 赤点滅 | 赤点滅 | 赤点滅 | 「ピーピーピー」<br>と鳴り続けている |

上記のように、カートリッジ取り付け時（スライドスイッチを[LOCK]状態にした後）、[STATUS]ランプが赤点滅し、取り付けたカートリッジの[ACCESS]ランプが赤点滅した場合は、そのままではそのカートリッジを使用できません。
以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の【カートリッジの取り付け（スライドスイッチを[LOCK]した）後に、LOCK したカートリッジの ACCESS ランプが赤く点滅している】（260ページ）

## 【補足６：eSATA 接続エラー（ミラーリング時）】

| | | | | | ブザー |
|---|---|---|---|---|---|
| 赤点滅 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 青点灯 | 「ピーピーピー」<br>と３回鳴る |

上記のように、本製品が[ミラーリングモード]中に、eSATA ハードディスクを接続して使用時起動時に、[STATUS]ランプが赤点滅した場合は、ミラーリングできない eSATA ハードディスクの可能性があります。
以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の【ｅＳＡＴＡハードディスクを[eSATA ポート１]に接続すると、STATUS ランプが赤く点滅し、ブザーが「ピーピーピー」と鳴った】（262ページ）

# MS ドメインログオン 機能を使う

# 本製品でのMSドメインログオン機能を使用する際の注意

本製品でMSドメインログオン機能を使用する際には、以下にご注意ください。

●MSドメインログオン機能は、ドメインユーザ数1000人、およびグループ数1000グループの環境で動作確認を行っております。
それ以上の規模のドメインでは、本製品の応答が著しく遅くなることがあります。

●ActiveDirectoryでは混在モードでご使用ください。
（ActiveDirectoryのネイティブモードには対応していません。）

●Mac OSの場合は、利用できません。

●ワークグループモードからドメインモードへ切り替えると、それまでワークグループモードで利用していた 本製品内の登録ユーザ・登録グループにアクセス権が設定されている共有が、Windowsから利用できなくなります。
あらかじめデータをバックアップした後にドメインモードへ移行してください。

●ドメインモードからワークグループモードへ切り替えると、それまでドメインモードで利用していたアクセス権が設定されている共有が利用できなくなります。
あらかじめデータをバックアップした後にワークグループモードへ移行してください。

# MS ドメインログオン機能を使う

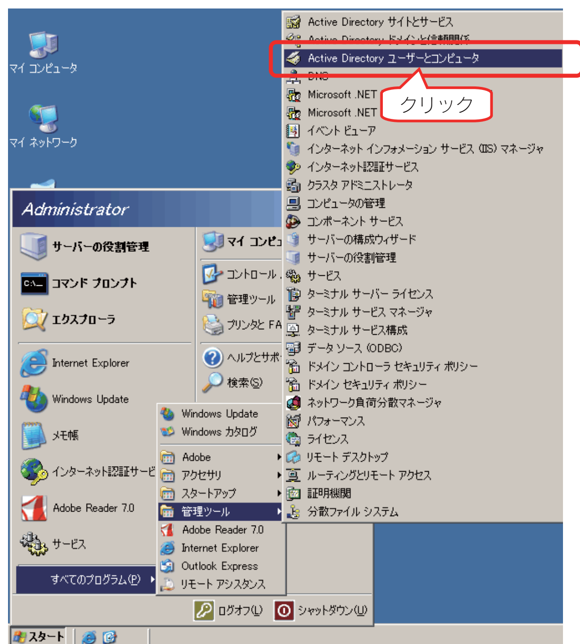
ここでは、本製品でＭＳドメインログオン機能を使用する手順について説明します。

ＭＳドメインログオン機能を利用する場合は、前もってサーバへの本製品の登録が必要です。
ここでは、Windows Server 2003 の例を示します。
Windows Server 2003 に本製品を登録後、本製品のドメインを設定します。

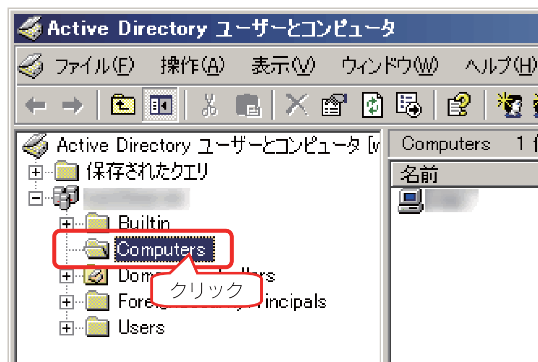
## STEP1 Windows Server 2003 に本製品を登録する

本製品を Windows　Server　2003 に本製品を登録します。

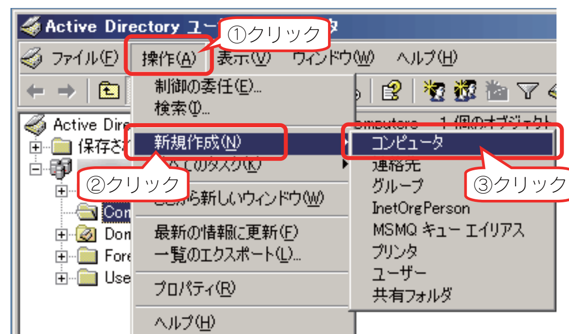
**1** [スタート]→[プログラム]→[管理ツール]→[Active Directory ユーザーとコンピュータ]をクリックします。



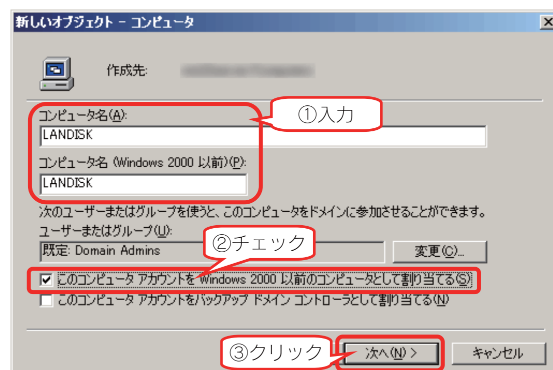

**2** 表示された画面で[Computers]をクリックします。




**3** [操作]→[新規作成]→[コンピュータ]をクリックします。




**4** サーバに本製品を登録します。
①[コンピュータ名]に本製品の名前を入力します。
②[このコンピュータアカウントを Windows 2000 以前のコンピュータとして割り当てる]にチェックを付けます。
③[次へ]ボタンをクリックします。




**5** 本製品が登録されます。

以上でサーバにコンピュータが追加されます。
これで、サーバの設定は終了です。
次に本製品にドメインの設定をします。

# STEP2 本製品のドメインを設定する

本製品のドメインを設定します。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ネットワーク]→[MS ネットワーク]を順にクリックします。




**3** 以下を設定し、[OK]ボタンをクリックします。
①[参加方法の選択]で[NT ドメイン]を選択します。
②[ドメイン名]を入力します。
③[ドメインコントローラの名前]に、アクセス先のドメインサーバの名前を入力します。

## MSネットワーク設定

### 名称の設定

| | |
|---|---|
| LANDISKの名前 | LANDISK |
| コンピュータの説明 | HDL-GT series |

### ネットワーク参加方法の設定

| | |
|---|---|
| 参加方法の選択 | ○ワークグループ ◉NTドメイン ①チェック |
| ドメイン名 | ②入力 |
| ドメインコントローラの名前 | ③入力 |
| WINSサーバアドレス | |

**注意**
ドメインでご利用になる場合はワークグループに切替えないようにしてください。
ドメインログオンした後にドメインユーザ、ドメイングループにて作成した共有は、ワークグループに切替えると使用不可になりますので、事前にデータを保存し共有を削除してください。
また、異なるドメインにログオンした場合には以前のドメインユーザ、ドメイングループで作成した共有は使用できません。

④クリック [OK] [クリア]




- ドメインモードで共有を作成する場合は、ユーザ名にはスペースは使用できません。ドメイングループ名のみスペースが使用できます。
- ユーザ名、グループ名に本製品で使用できない文字が含まれている場合は、そのユーザ/グループは、共有の作成時表示されません。
  詳しくは、【文字制限一覧】（189ページ）をご確認ください。
- ユーザ名にはアルファベットの大文字（A～Z）は使用できません。
- 画面の注意文をご理解の上、設定してください。
- ActiveDirectory では混在モードでご使用ください。
  （ActiveDirectory のネイティブモードには対応していません。）

**4** [結果]画面が表示されます。

## 結果

### 名称の設定

| | |
|---|---|
| LANDISKの名前 | LANDISK |
| コンピュータの説明 | HDL-GT series |

### ネットワーク参加方法の設定

| | |
|---|---|
| 参加方法の選択 | NTドメイン |
| ドメイン名 | |
| ドメインコントローラの名前 | |



以下のようなエラーが表示された！

## 結果

ドメインログオン実行中にエラーが発生しました。

ドメイン名、ドメインコントローラ名が正しいこと、ドメインコントローラのコンピュータアカウントに「LANDISKの名前」が登録されていることを確認して、もう一度設定を行なってください。

上記の設定の確認後、再び本エラーが表示される場合は、いったんドメインコントローラのコンピュータアカウントに登録した「LANDISKの名前」を削除し、再度登録してから、もう一度設定を行なってください。

⇒以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の273ページ

**5** 本製品の[情報表示]メニューの[ネットワーク]を開いて、以下をご確認ください。
①[ドメイン名][ドメインコントローラ名]が登録されていること
②[ドメインへの参加状況]が「信頼アカウントが正常」となっていること

## ネットワーク情報

### ネットワークの情報

| | |
|---|---|
| LANDISKの名前 | LANDISK |
| コンピュータの説明 | HDL-GT series |
| ドメイン名 | ①確認 |
| ドメインコントローラ名 | |
| ドメインへの参加状況 | 信頼アカウントが正常 ②確認 |
| WINSサーバアドレス | |
| DHCPクライアント | 有効 |
| IPアドレス | |
| サブネットマスク | |
| デフォルトゲートウェイ | |
| DNSドメイン名 | |
| DNSサーバアドレス | |
| MACアドレス | 00:A0:B0: |
| ジャンボフレーム | 未使用(mtu:1500) |

以上で設定は完了です。

# 定期警告機能を設定する

# 定期警告機能について

## ● 定期警告機能について

定期警告機能は、定期的(毎時 15 分)に以下３項目の状態をチェックし、異常を検出した場合、警告ブザーと STATUS ランプにて警告を行います。また、COPY ボタンを押すと警告は停止しますが、次回チェック時に再度異常を検出した場合、再度警告します。
定期警告機能は、それぞれの項目ごとに有効/無効の設定ができます。出荷時設定はすべて無効となっております。

| 警告の種類 | ブザー音 | STATUS ランプ | 説明 |
|---|---|---|---|
| ディスク構成異常警告 | ピ、ピ、ピ、… | 赤点滅 | RAID ディスク構成に異常がある場合に警告します。 |
| 空き容量警告 | ピピ、ピピ、ピピ、… | 赤点滅 | 空き容量が、空き容量警告機能の指定値を下回った場合に警告します。<br>※空き容量警告を利用する場合、メール通知で空き容量警告機能を有効にする必要があります。 |
| UPS 警告 | ドレミ、ドレミ、ドレミ、… | 赤点滅 | UPS の接続が確認できない、または、停電状態を検出すると警告します。<br>※UPS 警告を利用する場合、UPS 設定で UPS 警告機能を有効にする必要があります。 |

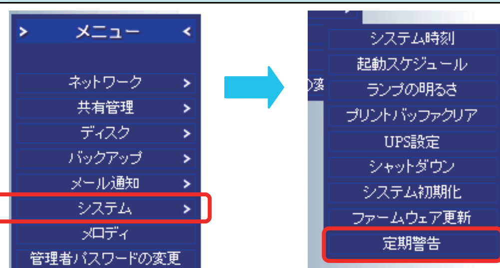
# ディスク構成異常警告音を有効に設定する

ここでは、定期的なディスク構成異常警告音を有効に設定する手順について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の［システム］→［定期警告］を順にクリックします。




**3** ディスク構成異常警告[有効]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。

定期警告

定期警告音設定 ①選択

| | |
|---|---|
| ディスク構成異常警告 | ◉有効 ○無効 |
| 空き容量警告 | ○有効 ◉無効 |
| UPS警告 | ○有効 ◉無効 |

定期的(毎時15分)に各状態を確認し、異常があればブザーとLEDでお知らせします。

空き容量警告を利用する場合、メール通知で空き容量警告機能を有効にする必要があります。
UPS警告を利用する場合、UPS設定でUPS警告機能を有効にする必要があります。

②クリック OK

以上で、設定は完了です。




●空き容量警告を利用する場合、メール通知で空き容量警告機能を有効にする必要があります。

●UPS 警告を利用する場合、UPS 設定で UPS 警告機能を有効にする必要があります。

# 仕　様

# 仕　様

| 商品名 | | LANDISK Tera | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 製品型番 | | HDL-GT1.0 | HDL-GT1.6 | HDL-GT2.0 | HDL-GT3.0 | HDL-GT4.0 |
| 内蔵 HDD | 容量 | 1.0TB | 1.6TB | 1.6TB | 3.0TB | 4.0TB |
| LAN | 転送規格 | IEEE 802.3、IEEE802.3ab、IEEE802.3u<br>(1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T) | | | | |
| | 最大転送速度 | 1000/100/10Mbps | | | | |
| | コネクター | RJ45×1 | | | | |
| | アクセス方法 | CSMA/CD | | | | |
| | MDI/MDI-X | 自動切換 | | | | |
| | 適合ケーブル | UTP カテゴリ6以上、100m 以下 | | | | |
| eSATA ホスト | 転送規格 | SATA I / SATA II (NCQ 対応) | | | | |
| | 最大転送速度 | 3.0Gbps (SATA II) / 1.5Gbps (SATA I) | | | | |
| | コネクター | eSATA コネクター×2 | | | | |
| USB ホスト | 転送規格 | USB 2.0(1.1 含む) | | | | |
| | 最大転送速度 | 480Mbps | | | | |
| | コネクター | USB A コネクター×2 | | | | |
| 電力 | 電源 | AC 100V、50/60Hz | | | | |
| | 消費電力 | 63W(TYP) | 64W(TYP) | 68W(TYP) | 73W(TYP) | 67W(TYP) |
| 環境仕様 | 省エネ法区分 | i | i | i | i | i |
| | エネルギー消費効率※1 | 0.057(W/GB) | 0.038(W/GB) | 0.032(W/GB) | 0.024(W/GB) | 0.015(W/GB) |
| | グリーン購入法 | 適合 | | | | |
| 動作環境 | 使用温湿度 | 5～35℃、10～85%(結露無きこと) | | | | |
| 物理仕様 | 外形寸法 | 170(W)×230(D)×183(H)mm<br>(脚を含む) | | | | |
| | 質量 | 約 7kg | | | | |

※1　省エネ法に基づくエネルギー消費効率は、最大構成における待機中の消費電力を、物理的な最大記憶容量で除したものです。

# 動作環境

本製品は、「LAN インターフェイスを搭載し、TCP/IP が正常に動作する機器」であれば対応しています。

## ● サポート対象機種・OS

LAN インターフェイスを使用できる下記の機種

| 機種 | | OS |
|---|---|---|
| ・DOS/V マシン<br>※弊社では、OADG 加盟メーカーの DOS/V マシンで動作確認しています。 | | ・Windows Vista®<br>・Windows XP<br>・Windows 2000 Professional<br>・Windows Server 2003※1<br>・Windows 2000 Server※1<br>・Windows Me※2<br>・Windows 98(Second Edition 含む) ※2 |
| ・Apple Macintosh<br>・Power Macintosh<br>・iMac | ・iBook<br>・PowerBook<br>・eMac | ・Mac OS X （10.1～10.4）<br>・Mac OS 8.1～9.2.2 |

※１ 本製品上に作成した共有フォルダへのアクセス、および MS ドメインログオン機能（Active Directory 混在モード）のみ対応し、添付ソフトウェア、ブラウザによる設定画面操作はサポート対象外です。

※２ HDL-GT3.0、HDL-GT4.0 ではサポート対象外 OS です。

弊社では、上記の OS でご利用いただく場合のみをサポート範囲とさせていただいております。
上記以外の OS でご利用いただく場合のサポートは行っておりませんのでご了承ください。

▼サポート対象外 OS 一覧（日本語版に限る）

・Windows 95（Ver.4.00.950, 4.00.950a,4.00,950B, 4.00.950C）
・Windows NT
・Mac OS X 10.0.x
・Mac OS 7.6～8.0

## ● 設定に必要なソフトウェア

本製品を設定するには、以下のバージョンのいずれかの Web ブラウザが必要です。お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。

・Internet Explorer バージョン 6.0 以上
・Safari バージョン 2.0 以上
・Netscape バージョン 7.0

## ● LAN 環境

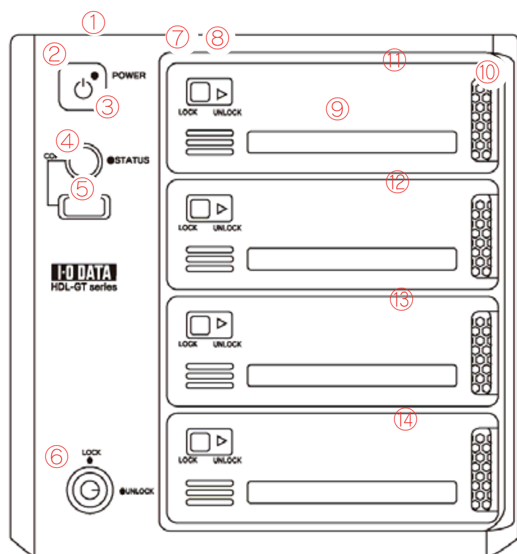
本製品は、LAN で接続します。
パソコンが LAN コネクターを搭載していない場合は、LAN アダプターが必要です。（別売の弊社製 ETG2-PCI など）
複数のパソコンを接続するには、ハブ（ハブ機能付きルータ含む)が必要です。(別売の弊社製 ETG3-SH8N など)
無線 LAN 接続をする場合は、無線アクセスポイントと無線 LAN アダプターを接続したパソコンが必要です。

LAN アダプター

本製品に接続するパソコンの LAN アダプターの設定をご確認ください。
（LAN アダプター：LAN ボード、USB LAN アダプター、LAN PC カードなど）
※LAN アダプター使用時は、パソコンに取り付け、必要なソフトウェアをインストールしておいてください。（詳しくは、各 LAN アダプターの取扱説明書をご覧ください。）

# 各部の名称・機能

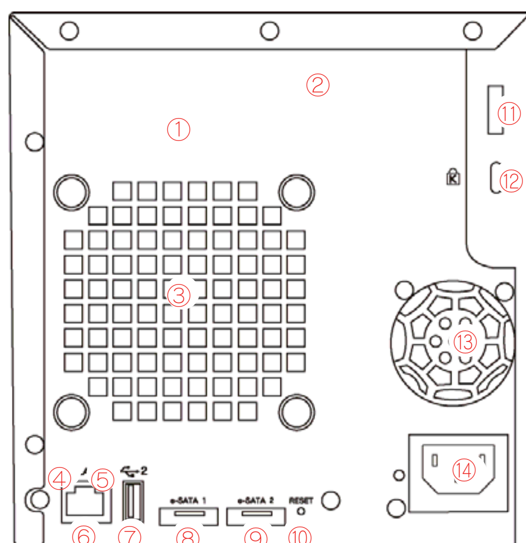
## ●前面




| | 名称 | 機能・状態 | |
|---|---|---|---|
| ① | [POWER]ランプ（パワー） | 赤点灯 | 電源ケーブルが電源コンセントに接続されている状態（スタンバイ状態） |
| | | 緑点灯 | 電源が入っている状態 |
| ② | [電源]ボタン | 本製品の電源を入／切します。 | |
| ③ | [STATUS]ランプ（ステータス） | 緑点灯 | 正常に起動完了した状態 |
| | | 緑点滅 | 起動中、シャットダウン中、チェックディスク時、本製品設定中、ファームウェアアップデート中、USB および eSATA 機器の取り外し、マウント中、フォーマット中、バックアップ処理中 |
| | | 赤点滅 | DHCP サーバーより IP アドレスを取得できない状態、または、クイックコピーなどでエラーが発生している（エラーについては、設定画面の【ログ情報】（200ページ）で確認できます。） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ④ | [COPY]ボタン | 前面の[USB ポート 1 ]に接続した USB 機器のデータを、内蔵ハードディスクの[disk1]フォルダにコピーします。<br>※本製品出荷時にはコピー先として、内蔵ハードディスク内の[disk1]フォルダが設定されています。<br>USB ポート 2 や eSATA ポート 1 および 2 に接続したハードディスクにコピーする場合は、あらかじめ本製品の設定画面でコピー先を変更しておく必要があります。<br>設定方法は、【コピー先を変更する】（96ページ）の個所を参照してください。 | |
| ⑤ | USB ポート 1 | USB 機器を接続します。<br>弊社製 EasyDisk などの USB メモリーの USB 機器は、[USB ポート 1 ]み接続できます。<br>※接続できる USB 機器については、【増設できる USB 機器】（182ページ）の項目をご覧ください。<br>※[USB ポート 1]は出荷時、[クイックコピー]用に設定されているため、USB ハードディスクを増設用としてご利用になる場合は、接続後、動作モードを[共有ディスク（FAT/NTFS）モード]に設定する必要があります。<br>設定方法は、【USB ポート 1 (前面)の設定について】（74ページ）の個所を参照してください。<br>※[USB ポート 1]にバスパワーハードディスクは接続できません。必ずセルフパワーにてご利用ください。<br>※プリンタを接続する場合は、[USB ポート 2]に接続してください。<br>※パソコンの USB ポートとの接続はできません。 | |
| ⑥ | カートリッジ固定 LOCK | UNLOCK | すべてのカートリッジのスライドスイッチを操作（LOCK/UNLOCK）できるようにします。 |
| | | LOCK | すべてのカートリッジのスライドスイッチを UNLOCK できない（カートリッジを取り外せない）ようにします。 |
| ⑦ | スライドスイッチ | UNLOCK | カートリッジを装置から取り外したい時にスライドさせます。<br>UNLOCK 後、[ACCESS]ランプが青点灯した場合は、カートリッジは取り外せません。<br>【◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル】（259ページ）の個所を参照してください。 |
| | | LOCK | カートリッジを装置に固定させたい時にスライドさせます。<br>LOCK 後、[ACCESS]ランプが赤点灯または赤点滅した場合は、使用できないカートリッジの可能性があります。<br>【◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル】（259ページ）の個所を参照してください。 |
| ⑧ | [ACCESS]ランプ（アクセス） | 青点灯 | 本製品内蔵ハードディスクへアクセスがない状態 |
| | | 青点滅 | 本製品内蔵ハードディスクへアクセス中 |
| | | 赤点灯 | 未フォーマットか、認識できないフォーマットのハードディスクが接続されている状態 |
| | | 赤点滅 | ハードディスクに復旧困難なエラー（セクターエラーなど）が発生している状態 |
| | | 消灯 | 取り外し処理が完了した状態 |
| ⑨ | シール貼付溝 | 添付の[インデックスシール]を貼る場所です。 | |
| ⑩ | 取っ手 | カートリッジを取り外す時に使用する取っ手です。　※吸気口となっていますので、ふさがないでください。 | |
| ⑪ | カートリッジ１・スロット１ | カートリッジを挿入する場所です。<br>カートリッジ交換時には、以下の個所を参照してください。<br>【オプション品について】（283ページ） | |
| ⑫ | カートリッジ２・スロット２ | | |
| ⑬ | カートリッジ３・スロット３ | | |
| ⑭ | カートリッジ４・スロット４ | | |

# ●背面




| | 名称 | 機能・状態 | |
|---|---|---|---|
| ① | シリアル番号(S/N) | 12 桁の英数字です。 | |
| ② | MAC アドレス | [00A0B0]で始まる 12 桁の英数字です。 | |
| ③ | メイン FAN | 装置全体を冷却します。<br>※ふさがないでください。 | |
| ④ | 1000/100/10 | 橙点灯 | 1000BASE-T で接続中 |
| | | 緑点灯 | 100BASE-TX で接続中 |
| | | 消灯 | LAN 未接続または 10BASE-T で接続中 |
| ⑤ | [ACT/LINK]ランプ<br>（アクト/リンク） | 黄点灯 | LAN リンク時 |
| | | 黄点滅 | データ送受信中 |
| | | 消灯 | LAN 未接続 |
| ⑥ | LAN ポート | 本製品添付の LAN ケーブルを接続します。<br>※Auto-MDI/MDI-X ですので、ストレートおよびクロスケーブルのどちらのケーブルでも接続できます。 | |
| ⑦ | USB ポート 2 | USB 機器を接続します。<br>※接続できる USB 機器については、【増設できる USB 機器】（182ページ）の項目をご覧ください。<br>※[USB ポート 2]にバスパワーハードディスクは接続できません。必ずセルフパワーにてご利用ください。<br>※プリンタを接続する場合は、[USB ポート 2]に接続してください。<br>※パソコンの USB ポートとの接続はできません。 | |
| ⑧ | eSATA ポート 1 | eSATA 機器を接続します。<br>※接続できる eSATA 機器については、【増設できる eSATA 機器】（183ページ）の項目をご覧ください。<br>※パソコンの eSATA ポートとの接続はできません。 | |
| ⑨ | eSATA ポート 2 | eSATA 機器を接続します。<br>※接続できる eSATA 機器については、【増設できる eSATA 機器】（183ページ）の項目をご覧ください。<br>※パソコンの eSATA ポートとの接続はできません。 | |
| ⑩ | [RESET]ボタン | 本製品の[IP アドレス][管理者パスワード][ジャンボフレーム]設定を初期化します。（ハードディスク内のデータは残ります。）<br>LAN ケーブルを取り外した後、本製品の電源を入れたまま２秒以上押せば初期化されます。<br>※すべての設定を初期化する場合は、【本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す】（157ページ）の項をご覧ください。ただし、同時に、内蔵ハードディスクをフォーマットしますので、データはすべて消去されます。 | |
| ⑪ | セキュリティワイヤー<br>取付穴 | 弊社製「WIRE-100」あるいは、市販のセキュリティワイヤーご利用時には、この穴にワイヤーを通してください。 | |
| ⑫ | ケンジントンスロット | 盗難防止用のロックケーブルを購入し、取り付けることができます。<br>※ケンジントンスロットについて・・・<br>ケンジントンロックに合うように作られたセキュリティスロットのことです。ケンジントンロックを固定された安全な机やラックなどに巻き付け、スロットに差し込みカギをかけることで盗難を防ぎます。<br>詳しくは、Kensington マイクロセーバーのホームページをご覧ください。<br>http://www.nanayojapan.co.jp/products/security/ | |
| ⑬ | 電源 FAN | 電源ユニットを冷却します。<br>※ふさがないでください。 | |
| ⑭ | 電源コネクター | 添付の「電源ケーブル」を接続します。 | |

# 増設できる USB 機器

本製品の前面および背面の USB ポートに USB 機器を接続して使用することができます。



●USB 機器を増設する前に、以下の注意もご確認ください。
【使用上のご注意】（7ページ）
●本製品の USB ポートには、以下の対応機器以外の機器は接続しないでください。
※USB ハブも接続できません。
最新の対応機器については、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。
●本製品の USB ポートに、LANDISK シリーズ(HDL シリーズ、HDL-W シリーズ、HDL-G シリーズ、HDL-GW シリーズ、HDL-GZ シリーズ、HDL-GX、HDL-GT シリーズ、HDL-AV シリーズ）を接続することはできません。

## 増設できる USB ハードディスク

※最新の対応機器については、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 本製品の USB ポートで使用できる動作確認済みのハードディスク | ・HDZ-UE シリーズ<br>・HDW-UE シリーズ<br>・HDW-UES シリーズ<br>・HDX-UE シリーズ<br>・HDA-iU シリーズ<br>・HDOT-U シリーズ<br>・HDOT-UE シリーズ | ・HDH-U シリーズ<br>・HDH-UL シリーズ<br>・HDH-UEH シリーズ<br>・HDH-US シリーズ<br>・HDH-USR シリーズ<br>・HDA-iUM シリーズ<br>・HDPX-U シリーズ | ・HDPX-SU シリーズ<br>・HDC-U シリーズ<br>・HDC-UX シリーズ<br>・HDH-SU シリーズ<br>･RHD2-U シリーズ<br>･RHD-UX シリーズ<br>・USB2-iVDR シリーズ |
| | ※iSPIS 対応ハードディスクを本製品でご利用いただく場合、iSPIS 機能は使用できません。<br>※バスパワーモードのハードディスクは、使用できません。<br>ハードディスクはセルフパワーモードでご利用ください。<br>※HDOT-U シリーズ、HDOT-UE シリーズのワンタッチボタンは利用できません。 | | |
| 対応フォーマット | 本製品に接続可能なハードディスクのフォーマット形式については、以下の個所を参照してください。<br>【ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い】（186ページ）<br>※弊社製 LAN-iCN、LAN-iCN2、LANDISK で使用していたハードディスクは、本製品が対応するフォーマット形式に再フォーマットしてからご利用ください。 | | |

※本製品には、2TB（2,199,023,255,040byte）より大きいディスク容量のハードディスクは接続できません。
※本製品には、パーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT)のハードディスクは接続できません。

## 増設できる USB 対応プリンタ

| | |
|---|---|
| 対応 USB 対応プリンタ | 動作確認済み機種については、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)の製品情報をご覧ください。 |



●プリンタは本製品背面の[USB ポート２]にのみ接続して使用できます。
●プリンタの双方向機能には対応しておりません。
●複合機（プリンタ機能以外にスキャナ機能やリーダライタ機能等を有するもの）の場合、プリント機能にのみ対応します。
●Microsoft Windows Printing System(WPS)専用プリンタ、プリンタメーカーが独自に採用しているプリンティングシステムのプリンタでは、その仕様上プリントサーバ機能はご利用いただけません。
●Windows パソコン同士のみで共有できます。

## 接続できる UPS

| | |
|---|---|
| 対応 UPS | APC 社の UPS（USB 接続タイプ：ES500 / ES725 / CS350 / CS500) |

# 増設できるeSATA機器

本製品のeSATAポートに増設できるハードディスクは、以下のハードディスクです。
※最新の対応機器については、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。




●eSATA機器を増設する前に、以下の注意もご確認ください。
【使用上のご注意】（7ページ）
●本製品のeSATAポートに、ポートマルチプライヤー（Port Multiplier）は接続できません。
●本製品のeSATAポートには、以下の対応機器以外の機器は接続しないでください。
最新の対応機器については、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。

| | |
|---|---|
| 動作確認済み<br>eSATAハードディスク | 以下の弊社製ハードディスクに対応しています。<br>・HDC-UXシリーズ　・RHD-UXシリーズ |
| 対応フォーマット | 本製品に接続可能なハードディスクのフォーマット形式については、以下の個所を参照してください。<br>【ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い】（186ページ）<br>※弊社製LAN-iCN、LAN-iCN2、LANDISKで使用していたハードディスクは、本製品が対応するフォーマット形式に再フォーマットしてからご利用ください。 |

※本製品には、2TB（2,199,023,255,040byte）より大きいディスク容量のハードディスクは接続できません。
※本製品には、パーティションテーブルがGUID Partition Table (GPT)のハードディスクは接続できません。

# 共有フォルダ使用上の注意

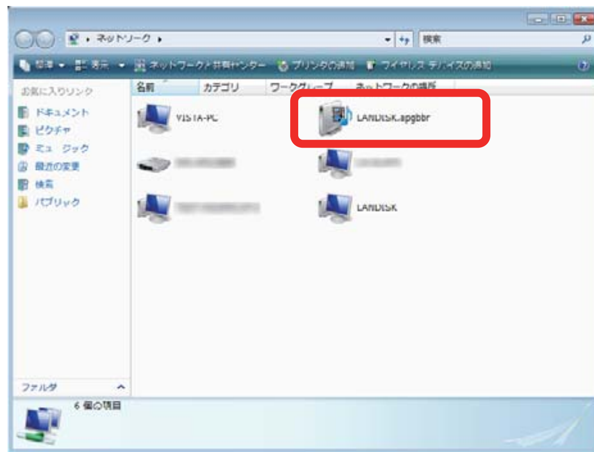
## Windows Vista®での制限・注意事項

●Windows Vista®の「ファイルのバックアップ」機能について

Windows Vista®付属の「ファイルのバックアップ」機能で、バックアップの保存先として本製品の共有フォルダを指定することはできません。

●Windows Vista のネットワークに表示されるアイコンについて

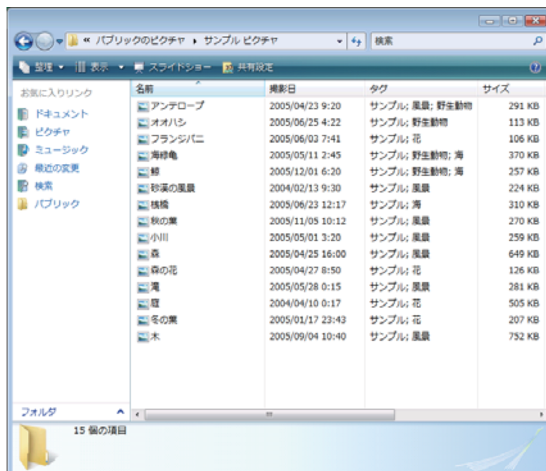
本製品の DLNA Server 機能を有効に設定している場合、Windows Vista®のネットワーク画面に以下のようなアイコンが表示されます。ダブルクリックするとメディアプレイヤーが起動する場合がありますが、お使いの PC のメディアプレイヤーが DLNA に準拠していない場合は、本製品の共有フォルダ内のコンテンツの再生はできません。

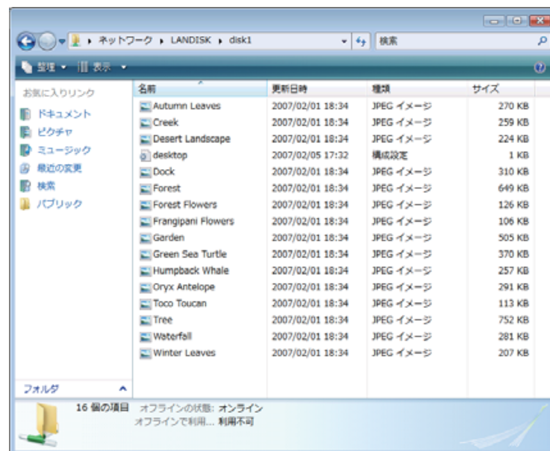



●Windows Vista®上の表示と共有フォルダ上の表示の違いに関する注意

Vista に標準インストールされるサンプルピクチャフォルダのファイルは、Vista 上では画面例(左)のように表示されています。

画面例左のサンプルピクチャを共有フォルダ上にコピーすると、画面例（右）のように全く名前が異なって表示されます。




実際のファイル名は、LANDISK 共有フォルダで表示されるアルファベット文字のファイル名で正しいようですが、Vista 上のサンプルピクチャのフォルダはファイルの表示設定が、実ファイル名表示しない設定がデフォルト設定になっています。

このように名前＝ファイル名ではないフォルダ表示設定が Vista では可能ですので、注意してください。

## ファイル名やフォルダ名の文字制限

本製品に保存できるファイルやフォルダ名は、OS により以下の文字数までとなっています。

【Windows の場合】

半角 255 文字（全角 85 文字）まで

※使用する文字種によっては上記の数値よりも少なくなる場合があります。

※Windows Vista®では従来の Windows と比較し、扱える文字数が増えています。

よって Windows Vista®でのみ使用可能な文字を共有フォルダに保存するファイル名やフォルダ名に使用した場合、従来の Windows で参照すると文字が正しく表示されない場合があります。

Windows Vista®と従来の Windows との間で文字表示について問題が発生しないようにするには Micorosoft 社の公開情報 (http://www.microsoft.com/japan/windowsvista/jp_font/default.mspx)にある、「Microsoft Windows Vista における JIS X 0213:2004(JIS2004) 対応について」の「フォントパッケージと JIS2004 への移行シナリオ」に沿った対応をして頂く必要があります。

【Macintosh の場合】

・Mac OS Ｘでは半角 255 文字（全角 85 文字）まで

・Mac OS（Classic）では半角 31 文字（全角 15 文字）まで

※Mac　OS 9 では以下の文字は正しく表示できません。
他の OS と Mac　OS 9 でファイル（フォルダ）を共有する場合は、ご注意ください。
これらの文字を用いたファイル名/フォルダ名が使用されていると文字化けして表示されたり、
ファイルが見えない場合があります。

・非漢字（特殊文字）

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧⅨⅩ㍉㌔㌢㍍㌘㌧㌃㌶㍑㍗㌍㌦㌣㌫㍊㌻㎜㎝㎞㎎㎏㏄㎡㍻〝〟№㏍℡㊤㊥㊦㊧㊨㈱㈲㈹㍾㍽㍼∮∑∟⊿－∥～

・第２水準の漢字

纊褜鍈銈蓜俉炻昱棈鋹曻彅丨仡仼伀伃伹佖侒侊侚侔俍偀倢俿倞偆偰偂傔僴僘兊兤冝冾凬刕劜劦勀勛匀匇匤卲厓厲叝﨎咜咊咩哿喆坙坥垬埈埇﨏塚增墲夋奓奛奝奣妤妺孖寀甯寘寬尞岦岺峵崧嵓﨑嵂嵭嶸嶹巐弡弴彧德忞恝悅悊惞惕愠惲愑愷愰憘戓抦揵摠撝擎敎昀昕昻昉昮昞昤晥晗晙晴晳暙暠暲暿曺朎朗杦枻桒柀栁桄棏﨓楨﨔榘槢樰橫橆橳橾櫢櫤毖氿汜沆汯泚洄涇浯涖涬淏淸淲淼渹湜渧渼溿澈澵濵瀅瀇瀨炅炫焏焄煜煆煇凞燁燾犱犾猤猪獷玽珉珖珣珒琇珵琦琪琩琮瑢璉璟甁畯皂皜皞皛皦益睆劯砡硎硤礰礼神祥禔福禛竑竧靖竫箞精絈絜綷綠緖繒罇羡羽茁荢荿菇菶葈蒴蕓蕙蕫﨟薰蘒﨡蠇裵訒訷詹誧誾諟諸諶譓譿賰賴贒赶﨣軏﨤逸遧郞都鄕鄧釚釗釞釭釮釤釥鈆鈐鈊鈺鉀鈼鉎鉙鉑鈹鉧銧鉷鉸鋧鋗鋙鋐﨧鋕鋠鋓錥錡鋻﨨錞鋿錝錂鍰鍗鎤鏆鏞鏸鐱鑅鑈閒隆﨩隝隯霳霻靃靍靏靑靕顗顥飯飼餧館馞驎髙髜魵魲鮏鮱鮻鰀鵰鵫鶴鸙黑

## 各 OS で使用できるファイルサイズについて

| | |
|---|---|
| Windows Vista®/XP/2000<br>Windows Server 2003/2000 Server | 特に制限はありません。 |
| Windows Me | 4G バイト以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱うことはできません。 |
| Windows 95～98 | 2G バイト以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱うことはできません。 |
| Mac OS Ｘ | 特に制限はありません。 |
| Mac OS(Classic) | 2G バイト以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱うことはできません。 |

# ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い

増設するハードディスクのフォーマット形式によって使い方に制限があります。

| | 対応フォーマット※1 | |
|---|---|---|
| | FAT※2 | NTFS※3 |
| 本製品での対応 | ○<br>（読み書き可） | △<br>（読み込みのみ可）<br>※書き込み不可 |
| パソコンに接続した場合 | ○<br>（読み書き可） | ○<br>（読み書き可） |
| 主な用途 | ・本製品の容量増設用<br>・データバックアップ用 | データ参照用 |
| 本製品からの取り外し | ○<br>（取り外し可） | |
| ネットワーク上からのファイルの読み書き | ○<br>（読み書き可） | △<br>（読み込みのみ可）<br>※書き込み不可 |
| 共有フォルダの作成 | ×<br><br>※本製品に接続後、初期状態で以下の共有フォルダが作成されます。<br>・USB ポート１に接続したハードディスク→「usb1」<br>・USB ポート２に接続したハードディスク→「usb2」<br>・eSATA ポート１に接続したハードディスク→「esata1」<br>・eSATA ポート２に接続したハードディスク→「esata2」 | |
| ユーザ・グループ別アクセス制限 | ○ | |

※1　OS により、ネットワーク上で扱えるファイルサイズには制限があります。
以下の個所を参照してください。
【各 OS で使用できるファイルサイズについて】（185ページ）

※2　本製品で FAT32 にフォーマットする場合は以下の個所をご覧ください。
【増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする】（80ページ）
オプション品の「RHD シリーズ」をパソコンでフォーマットする際は、別売の SerialATA 対応 5 インチベイ用内蔵ユニット[RHD-IN/SA]をご用意ください。

※3　NTFS でフォーマットする場合は、ハードディスクをパソコンに接続し、パソコン上からフォーマットしてください。
（方法については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。）
Macintosh から、NTFS 形式でフォーマットされた増設ディスクを共有フォルダとして利用することはできません。

※4 本製品には、パーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT)のハードディスクは接続できません。

# 出荷時設定一覧

| 出荷時設定表 | | | |
|---|---|---|---|
| 項目 | | | 初期値 |
| システムバージョン | | | 1.11（出荷時期による） |
| MAC アドレス | | | 00:A0:B0:xx:xx:xx（製品ごとに異なる） |
| ◆ネットワーク | | | |
| 共有サービス設定 | Microsoft ネットワーク ファイル共有 | | 有効 |
| | AppleShare ネットワーク ファイル共有 | | 有効 |
| | FTP | | 無効 |
| | DLNA Server | | 有効 |
| | プリントサーバ | | 無効 |
| MS ネットワーク設定 | LANDISK の名前 | | LANDISK |
| | コンピュータの説明 | | HDL-GT series |
| | 参加方法の選択 | | ワークグループ |
| | ワークグループ | | WORKGROUP |
| | ドメインコントローラの名前 | | なし |
| | WINS サーバアドレス | | なし |
| TCP/IP 設定 | TCP/IP の設定 | | IP アドレスを自動取得する（DHCP） |
| | | （自動取得失敗時） IP アドレス | 192.168.0.200 （AutoIP 自動割当 169.254.xxx.xxx） |
| | | （自動取得失敗時） サブネットマスク | 255.255.255.0 （AutoIP アドレスは 255.255.0.0） |
| | | （自動取得失敗時） デフォルトゲートウェイ | なし |
| | | （自動取得失敗時） DNS ドメイン名 | localdomain |
| | | （自動取得失敗時） DNS サーバアドレス | なし |
| | ジャンボフレーム | | 未使用（1500byte） |
| ◆共有管理 | | | |
| 共有フォルダ管理 | 作成済み共有 | | disk1 |
| | | 場所 | 内蔵ボリューム 1 |
| | | コメント | HDL-GT RAID volume |
| | | アクセス権 | 全てのユーザに許可／読み書き可能 |
| | | サービス | Microsoft ネットワーク ファイル共有<br>AppleShare ネットワーク ファイル共有 |
| | | ごみ箱機能 | 無効 |
| 共有フォルダ管理 | 作成済み共有 | | dlna |
| | | 場所 | 内蔵ボリューム 1 |
| | | コメント | HDL-GT DLNA share |
| | | アクセス権 | 全てのユーザに許可／読み書き可能 |
| | | サービス | Microsoft ネットワーク ファイル共有<br>AppleShare ネットワーク ファイル共有<br>DLNA Server |
| | | ごみ箱機能 | 無効 |
| ユーザ管理 | 登録済みユーザ | | なし |
| グループ管理 | 登録済みグループ | | なし |
| ◆ディスク | | | |
| ボリューム操作 | 動作モード | | RAID5（分散パリティ） |
| | 状態 | | 正常動作しています |
| | 操作 | | フォーマット（専用） |
| ボリューム設定 | ボリュームの選択 | | 内蔵ボリューム |
| | 動作モードの選択 | | RAID5（分散パリティ） |
| アクティブリペア | 現在の状態 | | アクティブリペアは実行していません |
| | スケジュール実行機能 | | 使用する ※ファームウェアバージョン 1.23 以降 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ディスク省電力 | 時間選択 | | なし |
| | 内蔵ボリューム | | 無効 |
| | eSATA ボリューム 1 | | 無効 |
| | eSATA ボリューム 2 | | 無効 |
| | USB ボリューム 1 | | 無効 |
| | USB ボリューム 2 | | 無効 |
| ◆バックアップ | | | |
| セルフバックアップ | | | なし |
| リモートバックアップ | | | なし |
| ◆メール通知 | | | |
| メール基本設定 | メール基本設定 | メール通知機能 | 無効 |
| | | SMTP サーバ | なし |
| | | SMTP ポート番号 | 25 |
| | | 差出人メールアドレス | なし |
| | メール送信時認証設定 | 認証方式 | 無効 |
| | | POP サーバ | なし |
| | | ユーザ名 | なし |
| | | パスワード | なし |
| | メール通知テスト | 送信先メールアドレス | なし |
| メール通知設定 | セルフバックアップログ | メール通知 | 無効 |
| | | 送信先メールアドレス | なし |
| | リモートバックアップログ | メール通知 | 無効 |
| | | 送信先メールアドレス | なし |
| | システムログ | メール通知 | 無効 |
| | | 送信先メールアドレス | なし |
| | システム起動終了通知 | メール通知 | 無効 |
| | | 送信先メールアドレス | なし |
| | システム温度エラー通知 | メール通知 | 無効 |
| | | 送信先メールアドレス | なし |
| | ディスクエラー通知 | メール通知 | 無効 |
| | | 送信先メールアドレス | なし |
| 使用量通知設定 | メール通知 | 使用しない | |
| | 空き容量警告機能 | 使用しない | |
| | 使用量レポート機能 | 使用しない | |
| ◆システム | | | |
| システム時刻 | | | 手動設定 |
| 起動スケジュール | 起動スケジュール機能 | | 無効 |
| | 起動スケジュール表の設定 | 設定方法の選択 | 曜日個別の指定時刻に起動・終了 |
| | | 起動設定 | 無効 |
| | | 起動時刻設定 | なし |
| | | 終了設定 | 無効 |
| | | 終了時刻設定 | なし |
| ランプの明るさ | | | 明 |
| UPS 設定 | UPS 警告 | | 無効 |
| | シャットダウン条件 | 停電後の経過時間 | 10 分後にシャットダウン |
| | | UPS バッテリー充電容量 | 10 分以下でシャットダウン |
| ◆定期警告 | | | |
| 定期警告音設定 | ディスク構成異常警告 | | 無効 |
| | 空き容量警告 | | 無効 |
| | UPS 警告 | | 無効 |
| ◆メロディ | | | |
| メロディ設定 | | | なし |
| ◆管理者パスワード | | | |
| 管理者パスワード | 現在のパスワード | | なし |
| | 新パスワード | | なし |
| | 確認パスワード | | なし |

# 文字制限一覧

## 設定画面上で使用できる文字/できない文字

本製品の設定画面で設定する下記項目は、半角英数字のみが有効となります。さらに各項目には、使用文字の制限があります。
次の文字はそれぞれの項目に対して使用できません。（パスワードに空白文字を使用しないでください。）

| 項目名 | 文字数 | 使用できる文字 | 使用できない文字 |
|---|---|---|---|
| ワークグループ/ドメイン名 | 15 文字以下 | [使用できない文字]以外 | \ ¥ / ˜ $ : , ' ; * ? ″ < > \| ` [ ] = + .<br>空白(ハイフン － で始まる文字列は不可) |
| コンピュータの説明 | 48 文字以下 | [使用できない文字]以外 | \ ¥ : ″ \| ' [ ] ˜ $ ' |
| コメント | | [使用できない文字]以外 | \ ¥ ˜ $ : , ″ \| ' [ ]<br>(ハイフン － で始まる文字列は不可) |
| ユーザ名 | 20 文字以下 | [使用できない文字]以外の小文字のみ | \ ¥ ˜ $ / : , ' ; * ? ″ < > \| ` [ ] = + . @ ( ) # % ^ &<br>{ } !　空白<br>(ハイフン － で始まる文字列は不可)<br>(数字のみでの設定は不可) |
| グループ名 | | [使用できない文字]以外の小文字のみ | |
| パスワード | | [使用できない文字]以外 | \ ¥ : , ; * < > \| ' [ ] = + . ` ( ) ˜ $ ″ / ?　空白<br>(ハイフン － で始まる文字列は不可) |
| コンピュータ名 | 14 文字以下 | 半角英数文字　0～9 A～Z a～z<br>（数字で始まる文字列は不可）<br>アンダーバー　_<br>ハイフン　－<br>(ハイフン　－　で始まる文字列は不可) | [使用できる文字]以外の記号や空白などの文字列は不可 |
| 共有フォルダ名 | 12 文字以下 | 半角英数文字　0～9 A～Z a～z<br>アンダーバー　_<br>ハイフン　－<br>(ハイフン　－　で始まる文字列は不可) | |
| ドメインコントローラの名前 | 15 文字以下 | | |

## ファイル名やフォルダ名の文字制限

本製品に保存できるファイルやフォルダ名は、OS により以下の文字数までとなっています。

【Windows の場合】

半角 255 文字（全角 85 文字）まで

※使用する文字種によっては上記の数値よりも少なくなる場合があります。

※Windows Vista®では従来の Windows と比較し、扱える文字数が増えています。

よって Windows Vista®でのみ使用可能な文字を共有フォルダに保存するファイル名やフォルダ名に使用した場合、従来の Windows で参照すると文字が正しく表示されない場合があります。

Windows Vista®と従来の Windows との間で文字表示について問題が発生しないようにするには Micorosoft 社の公開情報 (http://www.microsoft.com/japan/windowsvista/jp_font/default.mspx)にある、「Microsoft Windows Vista における JIS X 0213:2004(JIS2004) 対応について」の「フォントパッケージと JIS2004 への移行シナリオ」に沿った対応をして頂く必要があります。

【Macintosh の場合】

・Mac OS　X では半角 255 文字（全角 85 文字）まで
・Mac OS（Classic）では半角 31 文字（全角 15 文字）まで

※Mac　OS 9 では以下の文字は正しく表示できません。
他の OS と Mac　OS 9 でファイル（フォルダ）を共有する場合は、ご注意ください。
これらの文字を用いたファイル名/フォルダ名が使用されていると文字化けして表示されたり、
ファイルが見えない場合があります。

・非漢字（特殊文字）

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳ⅠⅡⅢⅣⅤⅥⅦⅧⅨⅩ㍉㌔㌢㍍㌘㌧㌃㌶㍑㍗㌍㌦㌣㌫㍊㌻㎜㎝㎞㎎㎏㏄㎡㍻〝〟№㏍
℡㊤㊥㊦㊧㊨㈱㈲㈹㍾㍽㍼∮∑∟⊿－∥～

・第２水準の漢字

纊褜鍈銈蓜俉炻昱棈鋹曻彅丨仡仼伀伃伹佖侒侊侚侔俍偀倢俿倞偆偰偂傔僴僘兊兤冝冾凬刕劜劦勀勛匀匇匤卲厓厲叝﨎咜咊咩哿喆坙
坥垬埈埇﨏塚增墲夋奓奛奝奣妤妺孖寀甯寘寬尞岦岺峵崧嵓﨑嵂嵭嶸嶹巐弡弴彧德忞恝悅悊惞惕愠惲愑愷愰憘戓抦揵摠撝擎敎昀昕昻
昉昰昮昤晥晗晙晴晳暙暠暲暿曺朎朗杦枻桒柀栁桄棏﨓楨﨔榘槢樰橫橆橳橾櫢櫤毖氿汜沆汯泚洄涇浯涖涬淏淸淲淼渹湜渧渼溿澈澵濵
瀅瀨瀨炅炫焏焄煜煆煇凞燁燾犱犾猤猪獷玽珉珖珣珒琇珵琦琪琩琮瑢璉璟甁畯皂皜皞皛皦益睆劯砡硎硤硺礰礼神祥禔福禛竑竧靖竫箞
精絈絜綷綠緖繒罇羡羽茁荢荿菇菶葈蒴蕓蕙蕫﨟薰蘒﨡蠇裵訒訷詹誧誾諟諸諶譓譿賰賴贒赶﨣軏﨤逸遧郞都鄕鄧釚釗釞釭釮釤釥鈆鈐
鈊鈺鉀鈼鉎鉙鉑鈹鉧銧鉷鉸鋧鋗鋙鋐﨧鋕鋠鋓錥錡鋻﨨錞鋿錝錂鍰鍗鎤鏆鏞鏸鐱鑅鑈閒隆﨩隝隯霳霻靃靍靏靑靕顗顥飯飼餧館馞驎髙
髜魵魲鮏鮱鮻鰀鵰鵫鶴鸙黑

# ログ一覧

※表中***の部分には USB ポート番号、eSATA ポート番号や共有名などの情報が入ります。

## ●バックアップ

| 内容 | 詳細 |
|---|---|
| usbp1：停止処理異常終了 | クイックコピー後、USB ポート 1 のデバイスの抜きとり処理が異常終了した場合に出力されます。 |
| クイックコピー正常終了 | クイックコピーが正常終了しました。 |
| クイックコピー異常終了 | クイックコピーが異常終了しました。 |
| クイックコピー設定エラー | クイックコピーの設定取得でエラーが発生しました。 |
| クイックコピー開始*** | クイックコピーを開始しました。 |
| コピーエラー*** | コピー実行中にエラーが発生しました。 |
| コピー元エラー*** | コピー元フォルダに問題があります。 |
| コピー元共有エラー*** | コピー元共有に問題があります。 |
| コピー元設定エラー | コピー元設定に問題があります。 |
| コピー先エラー*** | コピー先フォルダに問題があります。 |
| コピー先フォルダ作成エラー*** | コピー先フォルダの作成でエラーが発生しました。 |
| コピー先フォルダ削除エラー*** | コピー先フォルダの削除でエラーが発生しました。 |
| コピー先共有エラー*** | コピー先共有に問題があります。 |
| コピー先に空き容量がありません*** | コピー先に空き容量がありません。 |
| セルフバックアップ正常終了 | セルフバックアップが正常終了しました。 |
| セルフバックアップ異常終了 | セルフバックアップが異常終了しました。 |
| セルフバックアップ設定エラー | セルフバックアップの設定取得でエラーが発生しました。 |
| セルフバックアップ開始*** | セルフバックアップを開始しました。 |
| バックアップや他の処理のため開始できませんでした | バックアップもしくはコピーが他の処理のため開始できませんでした。 |
| バックアップもしくはコピー中にシャットダウンが開始されました | バックアップもしくはコピー中に電源断され強制中断されました。 |
| 他の処理のため開始できませんでした | バックアップもしくはコピーが他の処理のため開始できません。 |
| ファイル情報変更エラー | ファイル情報の変更時にエラーが発生しました。 |
| リモートバックアップ正常終了 | リモートバックアップが正常終了しました。 |
| リモートバックアップ異常終了 | リモートバックアップが異常終了しました。 |
| リモートバックアップ設定エラー | リモートバックアップの設定取得でエラーが発生しました。 |
| リモートバックアップ開始*** | リモートバックアップを開始しました。 |
| ログメール送信エラー | ログメールの送信でエラーが発生しました。 |
| 履歴フォルダ削除エラー | 履歴フォルダの削除でエラーが発生しました。 |
| 設定ファイルオープンエラー*** | 装置内部で設定ファイルのオープンでエラーが発生しました。 |

## ●ログ記録

| 内容 | 詳細 |
|---|---|
| メール送信に失敗しました。(***) | メールの送信に失敗した時に出力されます。 |
| 終了 | ログ記録プログラムが終了された時に出力されます。 |
| 開始 | ログ記録プログラムが起動された時に出力されます。 |

## ●DHCP クライアント

| 内容 | 詳細 |
|---|---|
| DHCP 成功：アドレス：***，更新間隔：*** 秒 | DHCP サーバから取得に成功した時に出力されます。 |
| DHCP 失敗：AutoIP アドレス：*** | DHCP サーバから取得に失敗した時に出力されます。 |

## ●FTP サーバ

| 内容 | 詳細 |
|---|---|
| アップロード：ユーザ：*** クライアント：*** ファイル：*** | FTP クライアントから FTP サーバへファイルが転送された時に出力されます。 |
| ダウンロード：ユーザ：*** クライアント：*** ファイル：*** | FTP サーバから FTP クライアントへファイルが転送された時に出力されます。 |
| ログイン：ユーザ：*** クライアント：*** | FTP クライアントが登録ユーザとしてログインした時点で出力されます。 |
| ログイン：匿名ユーザ(ftp) クライアント：*** パスワード：'***' | FTP クライアントが匿名ユーザとしてログインした時点で出力されます。 |
| ログイン失敗：ユーザ：*** クライアント：*** | FTP クライアントが登録ユーザとしてログインを試みたが，ログインに失敗した場合に出力されます。 |
| 接続：クライアント：*** | FTP クライアントから接続があった時点で出力されます。 |

## ●ユーザ管理

| 内容 | 詳細 |
|---|---|
| ユーザ *** の削除 | ユーザの削除処理を行った時に出力されます。 |
| ユーザ *** の追加 | ユーザの追加処理を行った時に出力されます。 |
| ***: FTP 共有変更 | そのユーザに対する FTP 共有を変更した場合に出力されます。 |
| ***: パスワード変更 | そのユーザのパスワードの変更処理を行った場合に出力されます。 |
| ***: ユーザ削除 | ユーザの削除処理を行った時に出力されます。 |
| ***: ユーザ追加 | ユーザの追加処理を行った時に出力されます。 |

## ●デバイス管理

| 内容 | 詳細 |
|---|---|
| ***: 開始 | USB ポートにデバイスが差し込まれた時に出力されます。また、チェックディスク・フォーマット時にも出力されます。 |
| ***: 開始処理正常終了 | USB ポートなどに差し込まれたデバイスの挿し込み処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。 |
| ***: 開始処理異常終了 | USB ポートなどに差し込まれたデバイスの差し込み処理に失敗した場合に出力されます。 |
| プリンタ開始処理終了 | プリンタの開始処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。 |
| プリンタ停止処理終了 | プリンタの停止処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。 |
| RAID 崩壊モードへ移行 | RAID ボリュームが崩壊した場合に出力されます。 |
| ***: 停止 | デバイスが抜かれた時に出力されます。また，チェックディスク・フォーマット時にも出力されます。 |
| ***: 停止処理異常終了 | USB ポートのデバイスの抜きとり処理に失敗した場合に出力されます。 |
| ***: フォーマット開始 | ディスクのフォーマットを開始した時点で出力されます。 |
| ***: 専用フォーマット | 内蔵ディスク・専用ディスクのフォーマットを開始した時点で出力されます。 |
| ***: FAT32 フォーマット | FAT32 フォーマットを開始した時点で出力されます。 |
| ***: フォーマット正常終了 | ディスクのフォーマットが正常終了した時点で出力されます。 |
| ***: フォーマット異常終了 | ディスクのフォーマットに失敗した場合に出力されます。 |
| ***: チェックディスク: 開始 | チェックディスクを開始した時点で出力されます。 |
| ***: チェックディスク: エラー発見 | チェックディスクで異常が発見された場合に出力されます。 |
| ***: チェックディスク: 異常なし | チェックディスクで異常が発見されなかった場合に出力されます。 |
| ***: ポート設定変更: *** => | ポート設定変更の開始段階で、ポート設定を解除した時点で出力されます。 |
| ***: ポート設定変更完了: => *** | ポート設定変更が正常終了した場合に出力されます。 |
| ***: ポート設定変更失敗: => *** | ポート設定変更が異常終了した場合に出力されます。 |
| RAID 構成変更完了: => *** | RAID 構成変更が正常終了した場合に出力されます。 |
| RAID 構成変更失敗: => *** | RAID 構成変更が異常終了した場合に出力されます。 |
| ***: 容量不足 | 接続したドライブの容量が不足している場合に出力されます。 |

## ●共有サービス設定

| 内容 | 詳細 |
|---|---|
| 設定変更 | 共有サービスの起動設定が変更された場合に表示されます。 |

## ●共有設定

| 内容 | 詳細 |
|---|---|
| ***: *** の属性変更 | 共有の属性が変更された場合に出力されます。 |
| ***: 共有削除 | 共有が削除された場合に出力されます。 |
| ***: 共有追加 | 共有が追加された場合に出力されます。 |
| ***: 名前変更 | 共有の名前が変更された場合に出力されます。 |
| ***: 所有者変更 | 共有の所有者が変更された場合に出力されます。 |

## ●グループ管理

| 内容 | 詳細 |
|---|---|
| ***: グループ削除 | グループを削除した時に出力されます。 |
| ***: グループ追加 | グループを追加した時に出力されます。 |
| ***: ユーザ *** 追加 | グループにユーザを追加した時に出力されます。 |
| ***: ユーザ *** 削除 | グループからユーザを削除した時に出力されます。 |

## ●WEB 設定画面

| 内容 | 詳細 |
|---|---|
| 管理者ログアウト ：*** | WEB 設定画面よりログアウト時にログアウトした PC の IP アドレスとともに出力されます。 |
| 管理者ログイン失敗 ：*** | WEB 設定画面にログイン失敗時にログインを試みた PC の IP アドレスとともに出力されます。 |
| 管理者ログイン成功 ：*** | WEB 設定画面にログイン成功時にログインした PC の IP アドレスとともに出力されます。 |
| ログ情報を全消去 | WEB 設定画面よりログ情報を全消去しました。 |

●NTP 時刻同期

| 内容 | 詳細 |
| --- | --- |
| NTP サーバ: ***接続失敗 | NTP サーバへの接続に失敗した場合に出力されます。 |
| 微調整: サーバ: ***, 誤差: *** 秒 | NTP プロトコルによる時刻同期を行ったときに出力されます。この場合、システムクロックは徐々に調製されます。 |
| 有効な NTP サーバなし NTP 終了 | NTP プロトコルによる時刻同期を終了します。 |
| 調整: サーバ: ***, 誤差: *** 秒 | NTP プロトコルによる時刻同期を行ったときに出力されます。この場合、システムクロックはジャンプしています。 |

●ファームウェア更新

| 内容 | 詳細 |
| --- | --- |
| ファームウェア更新失敗: *** | ファームウェア更新に失敗した場合にエラーコードと共に表示されます。 |
| ファームウェア更新成功: *** | ファームウェア更新に成功した場合に表示されます。 |

●RAID 監視

| 内容 | 詳細 |
| --- | --- |
| 監視プログラム開始 | 監視プログラムが起動したときに出力されます。 |
| 監視プログラム停止 | 監視プログラムが停止したときに出力されます。 |
| ***: HDD 発見 | 監視プログラムが起動時にディスクを発見した時に出力します。 |
| ***: 単体動作 | 単体動作に移行した時に出力します。 |
| ***: 再構築開始 | 再構築を開始した時に出力されます。 |
| ***: 再構築 *** % 完了 | 再構築の進捗を出力します。 |
| ***: 再構築終了 | 再構築を終了した時に出力されます。 |
| *** ***: ミラー有効 | ミラーリングが有効になった時に出力されます。 |
| ***: エラー | ディスクにエラーを検出した時に出力されます。 |
| ***: 回復不能エラー | 再構築中に回復不能なエラーを検出した時に出力されます。 |

●ディスク

| 内容 | 詳細 |
| --- | --- |
| 致命的エラー: 内蔵ハードディスクをマウントできません。 | 内蔵ハードディスクがマウントできない場合に出力されます。<br>内蔵ハードディスクが論理的に、もしくは物理的に破損しています。 |

●ディスク修復

| 内容 | 詳細 |
| --- | --- |
| ***: 終了 欠陥修復完了 | アクティブリペアのスキャンが終了し、修復可能なエラーを修復した時に出力されます。 |
| ***: 終了 欠陥修復失敗 ディスクの内容をバックアップした後に、フォーマットを実行してください | アクティブリペアのスキャンが終了し、エラーを修復できない場合に出力されます。 |
| 不良ブロック:<br>***: ********, ・・・<br>***: ********, ・・・<br>・・・ | 次の行から不良ブロックの一覧が追記されます。 |
| 開始 | アクティブリペアを開始したときに出力されます。 |
| 終了 異常なし | アクティブリペアのスキャンが終了し、異常セクタがなかった時に出力されます。 |
| 終了 欠陥修復完了 | アクティブリペアのスキャンが終了し、修復可能なエラーを修復した時に出力されます。 |
| 終了 欠陥修復失敗 ディスクの内容をバックアップした後に、フォーマットを実行してください | アクティブリペアのスキャンが終了し、エラーを修復できない場合に出力されます。 |
| 失敗 | 何らかの理由でアクティブリペアのスキャンが失敗した場合に出力されます。 |
| 中断 | アクティブリペアのスキャンが中断された時に出力されます。 |

●システム温度エラー通知

| 内容 | 詳細 |
| --- | --- |
| 装置温度が異常です。装置の設置環境を見直してください。<br>システムを強制終了します。 | 装置温度が異常な高温となった場合に出力されます。 |
| FAN が停止しました. 装置が高温となり障害の原因となります。<br>FAN の状態を確認してください。 | 装置 FAN が停止した場合に出力されます。 |

●UPS 接続

| 内容 | | 詳細 |
|---|---|---|
| UPS 監視 | 起動 | UPS 監視プログラムが起動した時点で出力されます。 |
| | 停止 | UPS 監視プログラムが停止された時点で出力されます。 |
| | バッテリーでの運用を開始 | UPS が電源供給元をバッテリーへと切替えた時に出力されます。 |
| | 商用電源での運用に復旧 | UPS が商用電源からの電源供給に復旧した時に出力されます。 |
| | バッテリー稼働時間の制限に達しました。 | UPS がバッテリーから電源を供給していたが、バッテリーが空に近付いた時に出力されます。 |
| | バッテリー残量の下限に達しました。 | UPS がバッテリーから電源を供給していたが、バッテリーが空に近付いた時に出力されます。 |
| | シャットダウン処理を開始します。 | シャットダウン処理を開始した時に出力されます。 |
| UPS 接続 | UPS 異常: UPS 状態を確認してください | UPS が通常運用と確認できない場合に出力されます。<br>・UPS が接続されていない。<br>・内蔵バッテリ運用など通常運用ではない。<br>・その他何らかの通信異常，で発生します。<br>起動後は、UPS 抜去時のみ発生します。 |
| デバイス管理 | UPS 開始処理終了 | UPS の開始処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。 |
| | UPS 停止処理終了 | UPS の停止処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。 |

●空き容量警告

| 内容 | 詳細 |
|---|---|
| ディスクの空き容量が**%以下になりました。 | 空き容量が"ディスクの空き容量警告"で指定したパーセント以下になると出力されます。 |

# 設定画面の
# リファレンス

## システム情報

### システムの情報

| | |
|---|---|
| システムバージョン | 1.10 (beta 06/12/27 14:13) |
| 現在時刻 | 2006年12月28日 15時09分05秒 |
| タイムサーバとの時刻同期 | 無効 |
| 有効な共有サービス | Microsoftネットワークファイル共有<br>AppleShareネットワークファイル共有 |
| 内蔵ボリューム1の動作モード | RAID5(分散パリティ) |
| クイックコピー | 有効 |
| セルフバックアップ | スケジュール無効 |
| リモートバックアップ | スケジュール無効 |
| ディスク省電力 | なし |
| ランプの明るさ | 明 |
| 起動スケジュール | 無効 |
| 筐体内温度 | 39 ℃ |
| メインFAN回転数 | 1350 rpm |
| UPS接続状態 | 未接続 |
| UPSバッテリー充電容量 | 取得できません |
| UPS警告機能 | 無効 |

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">内容</th><th>初期値</th></tr>
<tr><td>システムバージョン</td><td colspan="2">本製品システムのバージョンです。</td><td>1.10<br>（出荷時期による）</td></tr>
<tr><td>現在時刻</td><td colspan="2">本製品に設定されている時刻です。</td><td></td></tr>
<tr><td>タイムサーバとの時刻同期</td><td colspan="2">装置の時刻をタイムサーバから取得するかどうかについて表示します。<br>取得する場合、タイムサーバの設定状況と設定するタイミングも表示します。<br>例）タイムサーバ：ntp.jst.mfeed.ad.jp<br>　同期タイミング：装置起動時など<br>設定は、[メニュー]→[システム]→[システム時刻]（218ページ）を参照してください。</td><td>無効</td></tr>
<tr><td rowspan="6">有効な共有サービス</td><td colspan="3">現在、本製品が提供しているサービスを表示します。<br>設定は、[メニュー]→[ネットワーク]→[共有サービス設定]（201ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>Microsoft ネットワークファイル共有</td><td>Windows パソコンがファイル共有に使用するサービスです。</td><td>有効</td></tr>
<tr><td>AppleShare ネットワークファイル共有</td><td>Macintosh パソコンがファイル共有に使用するサービスです。</td><td>有効</td></tr>
<tr><td>FTP</td><td>FTP によるファイル転送サービスで利用する場合のサービスです。</td><td>無効</td></tr>
<tr><td>DLNA Server</td><td>DLNA 対応製品からアクセスする場合の DLNA サーバサービスです。</td><td>有効</td></tr>
<tr><td>プリントサーバ</td><td>プリンタを共有する場合に使用するサービスです。<br>プリンタを USB ポート 2 に接続すると自動的に有効になります。</td><td>無効</td></tr>
<tr><td rowspan="5">内蔵ボリュームの動作モード</td><td colspan="3">現在の内蔵ボリュームがどのようなモードで動作しているのかを表示します。<br>設定は、[メニュー]→[ディスク]→[ボリューム設定]（210ページ）参照してください。</td></tr>
<tr><td>RAID0<br>（ストライピング）</td><td>ディスクの利用効率、システムパフォーマンスが最も高いモードです。<br>（データ保護機能はありません。）</td><td rowspan="4">RAID5<br>（分散パリティ）</td></tr>
<tr><td>RAID5<br>（分散パリティ）</td><td>ディスクの利用効率、データ保護機能およびシステムパフォーマンスのバランスの良いモードです。</td></tr>
<tr><td>RAID5<br>（分散パリティ）＋FAT/NTFS</td><td>RAID5 によるデータ保護されたボリュームと、ディスク交換可能な１つの FAT/NTFS ボリュームを同時に利用できるフレキシブルなモードです。</td></tr>
<tr><td>RAID1+0<br>（ミラーストライピング）</td><td>ディスクの利用効率は高くありませんが、データ保護機能およびシステムパフォーマンスが高いモードです。</td></tr>
<tr><td>クイックコピー</td><td colspan="2">USB ポート 1 に接続されたデジカメなどの USB 機器から共有へ一括コピーを実行するモードです。このモードに設定した場合、USB ポート 1 に接続された USB 機器はコピー元として認識され、[COPY]ボタンを長押しすることによりあらかじめ設定された共有へコピーを行います。<br>クイックコピーモードを解除して一般共有ポートとして利用したり、クイックコピーのコピー先共有を変更したい場合には、[メニュー]→[ディスク]→[ボリューム設定]（210ページ）を参照してください。</td><td>有効</td></tr>
<tr><td>セルフバックアップ</td><td colspan="2">セルフバックアップの設定状況を表示します。<br>設定は、[メニュー]→[バックアップ]→[セルフバックアップ]（213ページ）を参照してください。</td><td>スケジュール無効</td></tr>
<tr><td>リモートバックアップ</td><td colspan="2">リモートバックアップの設定状況を表示します。<br>設定は、[メニュー]→[バックアップ]→[リモートバックアップ]（214ページ）を参照してください。</td><td>スケジュール無効</td></tr>
<tr><td>ディスク省電力</td><td colspan="2">一定時間ディスクアクセスがない場合に内蔵ドライブ、外付けドライブを省電力モードにして消費電力を抑える機能を提供します。時間が表示されている場合は、最後のディスクアクセスからその時間経過すると消費電力を抑えるモードに入ります。次回ディスクアクセスが発生すると、自動的に通常モードに戻ります。<br>外付けドライブにおいては対応する装置以外、省電力モードは利用できません。 詳しくは弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご参照ください。<br>設定は、[メニュー]→[ディスク]→[ディスク省電力]（212ページ）を参照してください。</td><td>１０分後</td></tr>
<tr><td>ランプの明るさ</td><td colspan="2">本製品前面の[STATUS]ランプ、および、４台のカートリッジの[ACCESS]ランプの明るさを表示します。<br>明るさは「明」「中」「暗」の３段階から選択できます。<br>設定は、[メニュー]→[システム]→[ランプの明るさ]（219ページ）を参照してください。</td><td>明</td></tr>
<tr><td>起動スケジュール</td><td colspan="2">本製品を指定時刻に起動、終了する機能を利用しているかどうかを表示します。<br>設定は、[メニュー]→[システム]→[起動スケジュール]（218ページ）を参照してください。</td><td>無効</td></tr>
<tr><td>筐体内温度</td><td colspan="2">現在の装置内の温度を表示します。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>メイン FAN 回転数</td><td colspan="2">メイン FAN の現在の回転数を表示します。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>UPS 接続状態</td><td colspan="2">UPS 装置の接続状況を表示します。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>UPS バッテリー充電容量</td><td colspan="2">接続されているバッテリーの残容量を％表示します。</td><td>—</td></tr>
<tr><td>UPS 警告機能</td><td colspan="2">UPS 監視の有効/無効を表示します。</td><td>無効</td></tr>
</table>

# [情報表示]→[ネットワーク情報]

## ネットワークの情報

| | |
|---|---|
| LANDISKの名前 | LANDISK |
| コンピュータの説明 | HDL-GT series |
| ワークグループ名 | WORKGROUP |
| WINSサーバアドレス | |
| DHCPクライアント | 有効 |
| IPアドレス | [illegible] |
| サブネットマスク | [illegible] |
| デフォルトゲートウェイ | [illegible] |
| DNSドメイン名 | [illegible] |
| DNSサーバアドレス | [illegible] |
| MACアドレス | 00:A0:B0:[illegible] |
| ジャンボフレーム | 未使用(mtu:1500) |

| 項目 | 内容 | 初期値 |
|---|---|---|
| LANDISK の名前 | 本製品に設定している名前です。<br>この名前は、Windows ネットワークに接続しているクライアントから本製品を指定する場合などに利用します。<br>設定は、[メニュー]→[ネットワーク]→[MS ネットワーク設定]（202ページ）を参照してください。 | LANDISK |
| コンピュータの説明 | 本製品に設定している説明文です。Windows ネットワークのプロパティ内にある[コンピュータの説明]同様に、ネットワークで本製品を詳細表示したときのコメントです。<br>設定は、[メニュー]→[ネットワーク]→[MS ネットワーク設定]（202ページ）を参照してください。 | HDL-GT series |
| ワークグループ名/ドメイン名 | 本製品に設定しているワークグループ名またはドメイン名です。<br>設定は、[メニュー]→[ネットワーク]→[MS ネットワーク設定]（202ページ）を参照してください。 | WORKGROUP |
| ドメインコントローラ名 | 本製品に設定しているドメインコントローラの名前です。<br>※ドメイン設定時のみ表示されます。<br>設定は、[メニュー]→[ネットワーク]→[MS ネットワーク設定]（202ページ）を参照してください。 | なし |
| ドメインへの参加状況 | ドメインサーバへログオンできたかどうかの状況です。ワークグループで運用時には表示しません。<br>※ドメイン設定時のみ表示されます。<br>設定は、[メニュー]→[ネットワーク]→[MS ネットワーク設定]（202ページ）を参照してください。 | なし |
| WINS サーバアドレス | 本製品に設定している WINS サーバアドレスです。<br>この設定により、ルータで区切られたネットワークにおいても名前による Windows ネットワーク共有サービスが受けられます。通常、ご家庭でご利用になられる場合は設定の必要がありません。<br>設定は、[メニュー]→[ネットワーク]→[MS ネットワーク設定]（202ページ）を参照してください。 | 空白 |
| DHCP クライアント | 本製品の IP アドレスを自動取得する DHCP 機能が有効か無効かを表示します。<br>有効：IP アドレスをルータなどの DHCP サーバから自動取得します。<br>無効：IP アドレスを手動設定したとおりに設定します。<br>有効かつ DHCP サーバから IP アドレスが取得できなかった場合は、以下の①と②の２つのアドレスを設定して起動しますので、管理用パソコンから上記アドレスのどちらかに接続して IP アドレスを固定に変更してください。<br>①. 169.254.xxx.xxx のアドレス　② 192.168.0.200 のアドレス<br>設定は、[メニュー]→[ネットワーク]→[TCP/IP 設定]（203ページ）を参照してください。 | 有効 |
| IP アドレス | 本製品に設定している IP アドレスです。<br>DHCP が有効の場合は、DHCP サーバから自動取得したアドレスが表示されます。<br>(DHCP 取得失敗時) 192.168.0.200 および 169.254.xxx.xxx | DHCP サーバから自動取得したアドレス |
| サブネットマスク | 本製品に設定しているサブネットマスクです。<br>IP アドレスとの組み合わせにより、通信できるネットワークが決まります。<br>DHCP 機能を有効にしている場合は、DHCP サーバから取得したサブネットマスク値が表示されます。<br>(DHCP 取得失敗時)　255.255.255.0　（169.254.xxx.xxx のサブネットマスクは 255.255.0.0） | DHCP サーバから自動取得したマスク値 |
| デフォルトゲートウェイ | 本製品に設定しているデフォルトゲートウェイです。<br>通信相手が同じネットワーク内に存在していない場合、本製品は、このゲートウェイアドレス宛に通信を行い、中継を依頼します。<br>DHCP 機能を有効にしている場合、DHCP サーバから取得したゲートウェイアドレスが表示されます。 | DHCP サーバから自動取得したアドレス |
| DNS ドメイン名 | 本製品に設定している DNS ドメイン名です。<br>DHCP 機能を有効にしている場合、DHCP サーバから取得したドメイン名を表示します。 | DHCP サーバから自動取得したドメイン名 |
| DNS サーバアドレス | 本製品が名前解決に利用する DNS サーバアドレスです。<br>この設定が正しくないとメール配信が正常に行えません。<br>DHCP 機能を有効にしている場合、DHCP サーバから取得した DNS サーバアドレスが表示されます。 | DHCP サーバから自動取得したアドレス |
| MAC アドレス | 本製品の MAC アドレスです。<br>このアドレスは出荷時点で本製品に書き込まれており、変更はできません。 | 00:A0:B0:xx:xx:xx |
| ジャンボフレーム | 本製品が通信する際に送り出す１回分のデータの最大値を指定します。<br>ネットワーク上のすべての製品がジャンボフレームに対応している場合のみご利用いただけます。<br>ネットワーク上の全ての機器が同一の値でないと通信できません。設定値が正しいかどうかご確認ください。 | 未使用（1500byte） |

# [情報表示]→[ボリューム情報]

▼eSATA ポート２と USB ポート２に FAT32 形式 HDD を接続している例



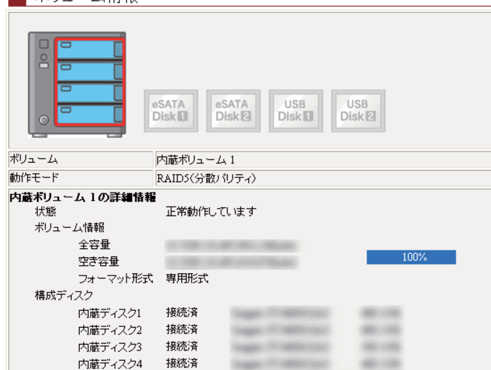

●表示色での各ディスク状態

| 色 | 状態 |
|---|---|
| 水色 | 接続済み、正常に動作中 |
| グレー | 接続済み、停止中 |
| 赤 | 接続済み、エラー発生 |
| 白 | 未接続 |

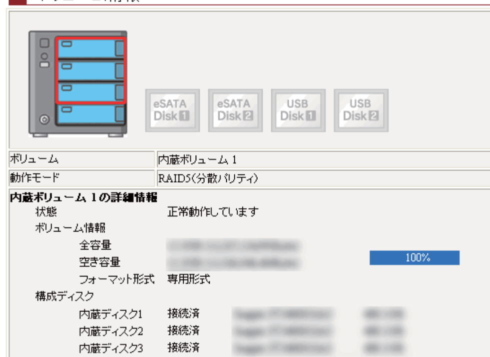
## 内蔵ハードディスク

[内蔵ハードディスク]をクリックすると詳細情報が表示されます。

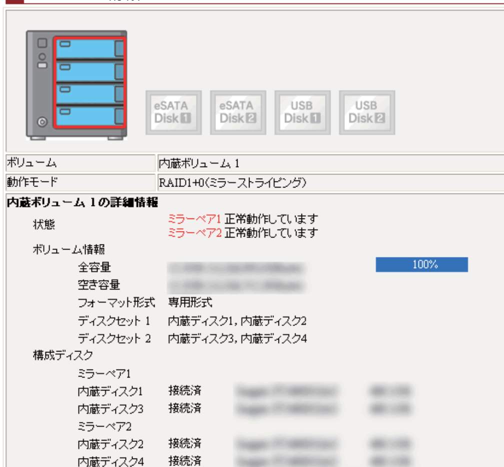
▼RAID5（分散パリティ）での表示例



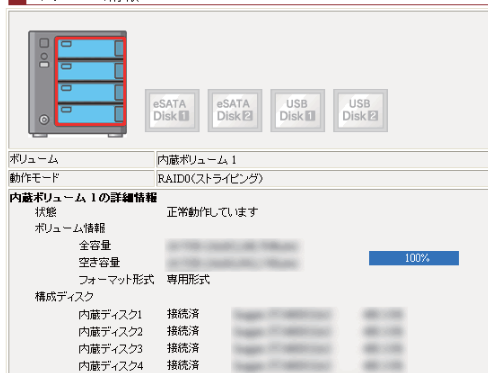

▼RAID5（分散パリティ）+FAT/NTFS での表示例




▼RAID1+0（ミラーストライピング）での表示例




▼RAID0（ストライピング）での表示例



▼ボリューム

選択したボリュームの名前を表示します。

| | |
|---|---|
| 内蔵ボリューム１ | 本製品の内蔵ドライブによる RAID アレイです。 |
| 内蔵ボリューム２ | 本製品を RAID5+FAT/NTFS に設定した場合の FAT/NTFS ドライブです。<br>このボリュームは上から４番目のドライブ固定となり、取り外し可能です。 |

▼動作モード

ボリュームの動作モードを表示します。

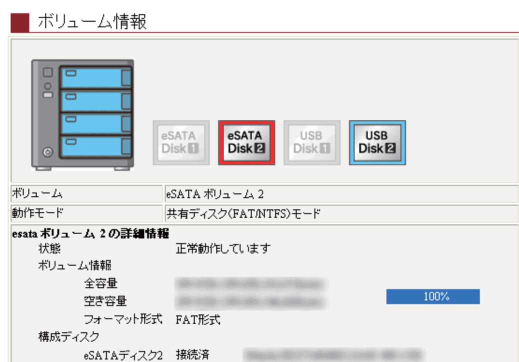
| | |
|---|---|
| RAID5（分散パリティ） | ディスクの利用効率、データ保護機能およびシステムパフォーマンスのバランスの良いモードです。 |
| RAID5（分散パリティ）＋FAT/NTFS | RAID5 によるデータ保護されたボリュームと、ディスク交換可能な１つの FAT/NTFS ボリュームを同時に利用できるフレキシブルなモードです。 |
| RAID1+0（ミラーストライピング） | ディスクの利用効率は高くありませんが、データ保護機能およびシステムパフォーマンスが高いモードです。 |
| RAID0（ストライピング） | ディスクの利用効率、システムパフォーマンスが最も高いモードです。<br>（データ保護機能はありません。） |

▼内蔵ボリューム１、２の詳細情報

| | | |
|---|---|---|
| 状態 | ボリュームの動作状態を表示します。 | |
| | 正常動作しています | ボリュームは正常に動作しています。 |
| | 再構築を行っています（XX% complete） | 新しいディスクが追加され、RAID の再構築を行っています。 |
| | 構成ディスクに問題が発生しています | RAID の構成に問題が発生しています。 異常が発生しているディスクを新しいものに交換してください。 |
| | 停止 | eSATA ボリューム１で単体動作中です。（eSATA 起動） |
| | 崩壊 | 崩壊モードで起動した、または、動作中に RAID が崩壊しています。 |
| | 未使用 | 未フォーマットか、FAT/NTFS/専用形式以外のボリュームです。 |
| | 未接続 | 該当ポートにドライブが接続されていません。 |
| ボリューム情報 | このボリュームの容量について表示します。 | |
| | 全容量 | ボリューム全体の容量を表示します。<br>（1Kbyte ＝ 1000byte にて算出しています。） |
| | 空き容量 | ボリュームの空き容量を表示します。%は空き容量の占める割合です。<br>（1Kbyte ＝ 1000byte にて算出しています。） |
| フォーマット形式 | このボリュームのフォーマット形式を示します。 | |
| | 専用形式 | 本製品専用のフォーマットであることを示します。<br>[内蔵ボリューム１]のみの形式です。 |
| | FAT 形式 | Windows でそのまま利用可能な FAT 形式でフォーマットされています。<br>このボリュームを取り外して Windows パソコンに接続すれば、そのまま読み書きが可能です。 |
| | NTFS 形式 | Windows で NTFS 形式としてフォーマットされています。<br>このボリュームは本製品では読み込み専用となります。 |
| | 不明な形式 | 上記以外の形式です。 |
| 構成ディスク | ボリュームを構成するディスクの一覧を次の形式で表示します。<br>（ディスク番号　ディスク状態　ディスク名　ディスク容量） | |
| | ▼ディスク番号 | |
| | 内蔵ディスク１ | １番上のカートリッジのドライブリストです。 |
| | 内蔵ディスク２ | 上から２番目のカートリッジのドライブリストです |
| | 内蔵ディスク３ | 上から３番目のカートリッジのドライブリストです |
| | 内蔵ディスク４ | １番下のカートリッジのドライブリストです。 |
| | ▼ディスク状態 | |
| | 接続済 | 本製品で正常に認識されています。 |
| | 未接続 | 本製品で認識されていません。カートリッジの交換、またはケーブルの抜き差しが可能な状態です。 |
| | 待機中 | 本製品で認識されていますが、RAID に組み込めない状態です。<br>RAID を構成するスロットに FAT/NTFS 形式でフォーマットされたディスクで、かつデータが保存されているカートリッジを接続したと考えられます。RAID に組み込んで再構築を開始するには、メンテナンスを実行してください。<br>再構築を開始すると、ディスクに保存されているデータは消去されますので必要なデータはあらかじめバックアップしておいてください。 |
| | ▼ディスク名 | |
| | ディスク名 | ディスクのモデルナンバーを表示します。 |
| | ▼ディスク容量 | |
| | ディスク容量 | ディスクのディスク容量を表示します。（1Kbyte ＝ 1000byte にて算出しています。） |

## 増設ハードディスク（[eSATA Disk1]、[eSATA Disk2]、[USB Disk1]、[USB Disk2]）

▼eSATA ボリューム 2 での表示例




| ▼ボリューム | |
|---|---|
| 選択したボリュームの名前を表示します。 | |
| eSATA ボリューム 1 | 外付け eSATA ドライブの内、背面の[eSATA ポート 1]に接続されているドライブです。 |
| eSATA ボリューム 2 | 外付け eSATA ドライブの内、背面の[eSATA ポート 2]に接続されているドライブです。 |
| USB ボリューム 1 | 外付け USB ドライブの内、前面の[USB ポート 1]に接続されているドライブです。 |
| USB ボリューム 2 | 外付け USB ドライブの内、背面の[USB ポート 2]に接続されているドライブです。 |
| ▼動作モード | |
| ボリュームの動作モードを表示します。 | |
| 共有ディスク（FAT/NTFS）モード | 接続された FAT/NTFS 形式のディスクが、共有ディスクとして使用できることを示します。 |
| ミラーリング | （[eSATA ボリューム 1 ]のみ）<br>HDL-GT シリーズ本体と eSATA ハードディスクでミラーリング機能が利用可能なことを示します。 |
| クイックコピー | （[USB ボリューム 1]のみ）<br>USB クイックコピー機能が利用可能なことを示します。 |

| ▼詳細情報 | | |
|---|---|---|
| 状態 | このボリュームの状態を表示します。 | |
| | 正常動作しています | ボリュームは正常に動作しています。eSATA ボリューム 1 をミラーリングに設定している場合は、内蔵ボリュームと同期が取れている状態を示しています。 |
| | 停止 | eSATA ボリューム 1 がミラーリングモードで接続されていますが、同期は行われていない状態です。 |
| | 未使用 | 未フォーマットか、FAT/NTFS/専用形式以外のボリュームです。 |
| | 未接続 | ディスクが接続されていないか、 取り外せる状態にあります。 |
| | 再構築を行っています（XX% complete） | （[eSATA ボリューム 1 ]のみ）<br>内蔵ボリューム 1 とミラーリングのための再構築を行っています。 |
| | eSATA ディスク 1 で単体動作中 | 内蔵ボリュームが停止状態にあり、eSATA ディスク 1 のみで動作している状態です。内蔵ボリュームを eSATA ディスク 1 の内容で再構築するには、eSATA ディスク 1 からミラーリング開始を行ってください。 |
| | クイックコピー可能 | [COPY]ボタンでクイックコピー機能が実行できます。 |
| ボリューム情報 | このボリュームの容量について表示します。 | |
| | 全容量 | ボリューム全体の容量を表示します。（1Kbyte ＝ 1000byte にて算出しています。） |
| | 空き容量 | ボリュームの空き容量を表示します。%は空き容量の占める割合です。（1Kbyte＝1000byte にて算出しています。） |
| フォーマット形式 | このボリュームのフォーマット形式を表示します。 | |
| | FAT 形式 | Windows でそのまま利用可能な FAT 形式でフォーマットされています。<br>このボリュームを取り外して Windows パソコンに接続すれば、そのまま読み書きが可能です。 |
| | NTFS 形式 | Windows で NTFS 形式としてフォーマットされています。このボリュームは本製品では読み込み専用となります。 |
| | 専用形式 | （[eSATA ボリューム 1 ]のみ） ミラーリング時の形式です。 |
| | 不明な形式 | 上記以外の形式です。 |
| 構成ディスク | ボリュームを構成するディスクの一覧を次の形式で表示します。（ディスク番号 ディスク状態 ディスク名 ディスク容量） | |
| | ▼ディスク番号 | |
| | ディスク番号 | [eSATA ディスク 1 ][eSATA ディスク 2 ][USB ディスク 1 ][USB ディスク 2 ] |
| | ▼ディスク状態 | |
| | 接続済 | ディスクが接続されており、本製品で正常に認識されています。 |
| | 未接続 | ディスクが接続されていないか、取り外し処理を行ったか、あるいは正常に認識されていない状態です。<br>ケーブルの抜き差しが可能な状態です。 |
| | 待機中 | ディスクが接続されており、正常に認識されていますが、RAID に組み込めない状態です。<br>FAT/NTFS 形式でフォーマットされていて、かつデータが保存されているディスクを接続したと考えられます。<br>この状態の場合は、[ボリューム操作]画面で「ミラーリングの開始」を実行してください。<br>「ミラーリングの開始」を実行すると、ディスクに保存されているデータは消去されますので必要なデータはあらかじめバックアップしておいてください。 |
| | 容量不足 | ディスクが接続されており、正常に認識されていますが、RAID に組み込めない状態です。接続したディスクの容量がミラーリングするために必要な容量より小さい場合に表示されます。適切な容量のディスクと交換してください。 |
| | 故障 | 本製品で認識されていますが、接続したディスクの S.M.A.R.T.自己診断機能で故障と判断されていますので、RAID に組み込めない状態です。カートリッジを交換してください。 |
| | エラー | 本製品で認識されていますが、接続したディスクにエラーが多数発生しており、危険な状態のため、RAID に組み込めない状態です。別のディスクと交換してください。 |
| | ▼ディスク名 | |
| | ディスク名 | ディスクのモデルナンバーを表示します。 |
| | ▼ディスク容量 | |
| | ディスク容量 | ディスクのディスク容量を表示します。（1Kbyte ＝ 1000byte にて算出しています。） |

## ログ情報

### 表示イベント指定

| | |
|---|---|
| 表示するプログラム | ☑ディスク監視<br>☑DHCPクライアント<br>☑WEB設定画面<br>☑ログ記録 |

再表示　全消去

新しいログ<< 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 >>古いログ

### ログ

| 日時 | プログラム | 内容 |
|---|---|---|
| 8月20日 10:52:06 | ログ記録 | 開始 |
| 8月20日 10:52:08 | ディスク監視 | 監視プログラム開始 |
| 8月20日 10:52:08 | DHCPクライアント | DHCP成功: アドレス: 192.168.0.3, 更新間隔: 43200秒 |
| 8月20日 10:52:13 | ディスク監視 | /dev/md13: HDD発見 |

ログを表示させるプログラムを指定することで表示内容を絞り込むことができます。ログが大量に表示されていて見づらい場合などにご利用ください。希望のプログラムのみにチェックし、再表示ボタンを押すことで絞り込み表示します。

| | | |
|---|---|---|
| 表示イベント指定 | 表示するプログラム | 記録されたログの種類のうち、表示するイベントを選択できます。<br>→[再表示]ボタンを押すとチェックをつけた項目のみが表示されます。 |
| | [再表示]ボタン | [表示するプログラム]設定に応じて、再度ログを表示します。 |
| | [全消去]ボタン | すべてのログを消去します。 |
| | [1]～[10]ボタン | 表示するログの切り替えを行います。数値の小さいボタンほど新しいログを表示します。<br>[1]～[10]ボタンは本製品が保持しているログの量によって表示されない場合があります。 |
| ログ | 日時 | ログを記録した日時を表示します。 |
| | プログラム | イベント名を表示します。 |
| | 内容 | ログ内容を表示します。<br>ログ内容の詳細については【ログ一覧】（190ページ）をご覧ください。 |

注意

・ログ情報は、ログが 10 ページを超えた場合に削除されます。
・本製品をシャットダウンした場合、ログのページが切り替わります。

# [メニュー]→[ネットワーク]→[共有サービス設定]

■ 共有サービスの設定

| | |
|---|---|
| 有効にするサービスの選択 | ☑ Microsoftネットワーク ファイル共有<br>☑ AppleShareネットワーク ファイル共有<br>☐ FTP<br>☑ DLNA Server アクセス制限 |

OK

本製品で利用したいサービスを設定します。

| | | |
|---|---|---|
| Microsoft ネットワーク ファイル共有 | Windows パソコンがファイル共有に使用するサービスです。<br>Windows ユーザからアクセスする場合にチェックします。 | 有効 |
| AppleShare ネットワーク ファイル共有 | Macintosh パソコンがファイル共有に使用するサービスです。<br>Mac ユーザからアクセスする場合にチェックします。 | 有効 |
| FTP | FTP によるファイル転送サービスで利用する場合にチェックします。<br>他のファイル共有サービスに比べ高速に転送可能ですが、ドライブに割り当てることができません。また、日本語ファイルを利用するには UTF-8 に対応した FTP クライアントソフトが必要です。 | 無効 |
| DLNA Server | DLNA 対応製品からアクセスする場合にチェックします。<br>DLNA 対応ネットワークメディアプレーヤーや弊社製 DLNA 対応 AVeL Link Player、DLNA 対応テレビなどの DLNA クライアントに、本製品に蓄えられたマルチメディアデータをプレーヤーから直接再生する機能を提供します。<br>[DLNA Server]設定時、アクセスできるネットワークメディアプレーヤーを制限することもできます。以下の【アクセス制限】参照 | 有効 |

## アクセス制限

■ アクセス制限（デフォルト許可）

■ アクセスがあったDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
|---|---|---|
| ☑ | 00-[redacted] | [redacted] |

禁止 削除

■ アクセスを禁止するDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
|---|---|---|

デフォルトを許可－＞禁止に変更

| | |
|---|---|
| アクセスがあった DLNA クライアント | 本製品にアクセスがあった DLNA クライアントが表示されます。 |
| アクセスを禁止する DLNA クライアント | 本製品へのアクセスを禁止している DLNA クライアントを表示します。 |
| [デフォルトを許可->禁止に変更]ボタン | 工場出荷時は、すべての DLNA クライアントからのアクセスを許可するモードですが、本ボタンを押すと全ての DLNA クライアントからのアクセスを禁止するモードとなります。（以下の【●[デフォルト禁止モード]画面】参照） |

注意

本製品には「デフォルトを許可」「デフォルトを禁止」の 2 つのモードがあります。
モードを変更する際にはご注意ください。また、設定を変更した場合、DLNA クライアントを起動しなおしてください。

・「デフォルトを許可」モードの場合
「アクセスを禁止する DLNA クライアント」以外のクライアントはすべてアクセスを許可します。
ボタンが[デフォルトを許可->禁止に変更]となっている場合がこのモードです。
・「デフォルトを禁止」モードの場合
「アクセスを許可する DLNA クライアント」以外のクライアントはすべてアクセスを禁止します。
ボタンが[デフォルトを禁止->許可に変更]となっている場合がこのモードです。

### ●[デフォルト禁止モード]画面

■ アクセス制限（デフォルト禁止）

■ アクセスがあったDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
|---|---|---|

■ アクセスを許可するDLNAクライアント

| 選択 | MACアドレス | IPアドレス |
|---|---|---|
| ☐ | 00-[redacted] | [redacted] |

禁止

デフォルトを禁止－＞許可に変更

| | |
|---|---|
| アクセスがあった DLNA クライアント | 本製品にアクセスがあった DLNA クライアントが表示されます。 |
| アクセスを禁止する DLNA クライアント | 本製品へのアクセスを禁止している DLNA クライアントを表示します。 |
| [デフォルトを禁止->許可に変更]ボタン | 本ボタンを押すと全ての DLNA クライアントからのアクセスを許可するモード（出荷時設定）に戻ります。 |

▼[ワークグループ］選択時

MSネットワーク設定

名称の設定

LANDISKの名前 LANDISK

コンピュータの説明 HDL-GT series

ネットワーク参加方法の設定

参加方法の選択 ワークグループ NTドメイン

ワークグループ WORKGROUP

WINSサーバアドレス

注意
ドメインでご利用になる場合はワークグループに切替えないようにしてください。
ドメインログオンした後にドメインユーザ、ドメイングループにて作成した共有は、ワークグループに切替えると使用不可になりますので、事前にデータを保存し共有を削除してください。
また、異なるドメインにログオンした場合には以前のドメインユーザ、ドメイングループで作成した共有は使用できません。

OK クリア

<table>
<tr><td>LANDISK の名前</td><td colspan="2">ネットワーク上で表示される名前を入力します。<br>→ネットワーク上に同じ名前が存在しないよう設定します。</td></tr>
<tr><td>コンピュータの説明</td><td colspan="2">Windows ネットワークから本製品を参照したときに表示されるコメントです。（入力しなくてもかまいません。）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">参加方法の選択</td><td colspan="2">本製品をワークグループモードで動作させるか、社内ネットワーク上のドメインに参加させるかを指定します。ご家庭でのご利用は一般に「ワークグループ」を選択してください。</td></tr>
<tr><td>ワークグループ</td><td>本製品をワークグループモードに設定します。この場合、「ドメインコントローラの名前」項目は不要です。</td></tr>
<tr><td>NT ドメイン</td><td>下記をご覧ください。</td></tr>
<tr><td>ワークグループ</td><td colspan="2">ワークグループ名を入力します。</td></tr>
<tr><td>WINS サーバアドレス</td><td colspan="2">WINS サーバがネットワーク内にある場合は、その WINS サーバの IP アドレスを入力します。</td></tr>
</table>

▼[NT ドメイン］選択時

MSネットワーク設定

名称の設定

LANDISKの名前 LANDISK

コンピュータの説明 HDL-GT series

ネットワーク参加方法の設定

参加方法の選択 ワークグループ NTドメイン

ドメイン名 WORKGROUP

ドメインコントローラの名前

WINSサーバアドレス

注意
ドメインでご利用になる場合はワークグループに切替えないようにしてください。
ドメインログオンした後にドメインユーザ、ドメイングループにて作成した共有は、ワークグループに切替えると使用不可になりますので、事前にデータを保存し共有を削除してください。
また、異なるドメインにログオンした場合には以前のドメインユーザ、ドメイングループで作成した共有は使用できません。

OK クリア

<table>
<tr><td>LANDISK の名前</td><td colspan="2">ネットワーク上で表示される名前を入力します。<br>→ネットワーク上に同じ名前が存在しないよう設定します。</td></tr>
<tr><td>コンピュータの説明</td><td colspan="2">Windows ネットワークから本製品を参照したときに表示されるコメントです。（入力しなくてもかまいません。）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">参加方法の選択</td><td colspan="2">本製品をワークグループモードで動作させるか、社内ネットワーク上のドメインに参加させるかを指定します。ご家庭でのご利用は一般に「ワークグループ」を選択してください。</td></tr>
<tr><td>ワークグループ</td><td>上記をご覧ください。</td></tr>
<tr><td>NT ドメイン</td><td>本製品を NT ドメインモードに設定します。 NT ドメイン名、NT ドメインコントローラ名を適切に設定してください。<br>対応可能なドメインは Windows NT ドメインのみとなり、Active Directory のネイティブモードには参加できません。</td></tr>
<tr><td>ドメイン名</td><td colspan="2">参加させるドメイン名を入力します。</td></tr>
<tr><td>ドメインコントローラの名前</td><td colspan="2">ドメインを管理しているドメインコントローラ（PDC）名を入力します。ドメインモードでご利用の場合は、この項目と直前の「ドメイン名」が正しく入力されているかご確認ください。<br>（ドメインを選択した時のみ、設定してください。）</td></tr>
<tr><td>WINS サーバアドレス</td><td colspan="2">WINS サーバがネットワーク内にある場合は、その WINS サーバの IP アドレスを入力します。</td></tr>
</table>

# [メニュー]→[ネットワーク]→[TCP/IP 設定]

**TCP/IPの設定**

◉ IPアドレスを自動取得する(DHCP)

○ 次のIPアドレスを使う

| | |
|---|---|
| IPアドレス | 192 . 168 . 0 . 10 |
| サブネットマスク | 255 . 255 . 255 . 0 |
| デフォルトゲートウェイ | 192 . 168 . 0 . 1 |
| DNSドメイン名 | Domain |
| DNSサーバアドレス | 192 . 168 . 0 . 1 |

**その他の設定**

| | |
|---|---|
| ジャンボフレーム | ◉ フレームサイズを選択 未使用(mtu:1500)<br>○ フレームサイズを設定 mtu = 1500 byte |

**注意**
ジャンボフレームを設定する場合、通信経路上にあるハブや通信相手のLANアダプタなど、他のネットワーク機器もすべてジャンボフレームに対応している必要があります
ジャンボフレームサイズ設定値のmtu値は、フレームサイズにヘッダサイズを含まない値です

OK クリア

| | | |
|---|---|---|
| ▼TCP/IP の設定 | | |
| IP アドレスを自動取得する（DHCP） | 本製品の IP アドレスを、ルータなどの DHCP サーバから自動取得する場合に選択します。<br>→DHCP サーバからの自動取得に失敗した場合、本製品は「169.254.xxx.xxx」の自動 IP アドレスと、「192.168.0.200」の固定アドレスの２つが自動的に設定されますので、設定変更などの際にはこれらのアドレスで通信してください。<br>このとき、[STATUS]ランプは赤く点滅し、ブザー音が鳴ります。自動取得の成功・失敗にかかわらず、[情報表示]→[ネットワーク情報]では[DHCP クライアント]："有効"と表示されます。 | |
| 次の IP アドレスを使う | 本製品の IP アドレスを直接指定したい場合、こちらを選択し、以下の IP アドレス関連項目を設定します。 | |
| | IP アドレス | 本製品に設定する IP アドレスを入力します。 |
| | サブネットマスク | 本製品に設定するサブネットマスクを入力します。 |
| | デフォルトゲートウェイ | 本製品が接続されているネットワークのデフォルトゲートウェイを入力します。一般にインターネットと接続しているルータの IP アドレスを入力します。 |
| | DNS ドメイン名 | 本製品が所属しているネットワークの DNS ドメイン名を入力します。 |
| | DNS サーバアドレス | 本製品が所属しているネットワークの DNS サーバアドレスを入力します。 |
| ▼その他の設定 | | |
| ジャンボフレーム | ネットワーク上のすべての装置が Gigabit 対応製品で、より高速な通信をしたい場合に設定します。<br>ネットワーク上の機器すべてが同一のジャンボフレーム値を設定しなければなりません。異なった値が設定されていると通信できなくなります。ご不明の場合は設定値を変更しないようにしてください。 | |
| | フレームサイズを選択 | ジャンボフレームのフレームサイズを選択します。<br>以下から選択可能です。<br>「未使用：1500bytes（出荷時設定）」<br>「2KB：2034bytes」<br>「3KB：3058bytes」<br>「4KB：4074bytes」<br>「7KB：7154bytes」<br>「9KB：9000bytes」<br>上記以外の値を設定したい場合は「フレームサイズを設定」を選択し、希望する値を入力してください。 |
| | フレームサイズを設定 | 使用したいフレームサイズが上記の選択肢にない場合、こちらを選択して直接フレームサイズを入力してください。<br>設定範囲：1500～9676<br><br>ここで入力するフレームサイズ値にはフレームヘッダサイズを含めないでください。 |

# [メニュー]→[共有管理]→[共有フォルダ管理]

■ 新規共有フォルダの作成

| | |
|---|---|
| 新規共有フォルダの追加 | 共有フォルダを追加します |

■ 共有フォルダ一覧

| 内蔵ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| disk1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT RAID volume | Win Mac |
| dlna | 詳細 変更 削除 | HDL-GT DLNA share | Win Mac DLNA |

| eSATA ボリューム1の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata1 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA1 disk | Win Mac |

| eSATA ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| esata2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT eSATA2 disk | Win Mac |

| USB ボリューム2の共有 | 操作 | コメント | サービス |
|---|---|---|---|
| usb2 | 詳細 変更 削除 | HDL-GT USB2 disk | Win Mac |

| | | |
|---|---|---|
| ▼新規共有フォルダの作成 | | |
| 新規共有フォルダの追加 | 共有フォルダを追加します。<br>→【新規共有フォルダの追加】（次ページ）画面を表示します。 | |
| ▼共有フォルダ一覧 | | |
| 共有フォルダ名 | 内蔵ボリューム１の共有 | 内蔵ボリューム１に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。 |
| | 内蔵ボリューム２の共有 | （RAID5+FAT/NTFS モードのみ）<br>内蔵ボリューム２に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。 |
| | eSATA ボリューム１の共有 | eSATA ボリューム１に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。 |
| | eSATA ボリューム２の共有 | eSATA ボリューム２に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。 |
| | USB ボリューム１の共有 | USB ボリューム１に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。 |
| | USB ボリューム２の共有 | USB ボリューム２に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。 |
| 操作 | 詳細 | 共有フォルダの詳細情報を表示します。 |
| | 変更 | 共有フォルダの設定を変更します。<br>→【共有フォルダの設定変更】（206ページ）画面を表示します。 |
| | 削除 | 共有フォルダを削除します。 |
| コメント | コメントが表示されます。 | |
| サービス | 設定されている共有サービスが表示されます。 | |
| | Win | この共有は Windows ネットワークファイル共有サービスで利用可能です。 |
| | Mac | この共有は Macintosh ネットワークファイル共有サービスで利用可能です。 |
| | FTP | この共有は FTP ファイル転送サービスで利用可能です。 |
| | DLNA | この共有は DLNA サービスとして公開されます。 |




FAT/NTFS ハードディスクに、新規の共有を作成することはできません。（ドライブ全体がひとつの共有として認識されます。）

## [新規共有フォルダの追加]画面での設定内容

■ 新規共有フォルダの追加

| | |
|---|---|
| 共有フォルダ名 | |
| 共有フォルダのコメント | LANDISK<br>※「共有のコメント」は、Windowsの共有のみ有効となります。 |
| 共有フォルダの作成先 | 内蔵ボリューム1<br>※ 専用フォーマットされたディスクのみ選択できます。 |
| アクセス権の選択 | ◉ 全てのユーザに許可<br>○ 指定ユーザのみ許可<br>○ 指定グループのみ許可<br>☐ このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く) |
| サービスの選択 | ☑ Microsoftネットワークファイル共有<br>☑ AppleShareネットワークファイル共有<br>☐ DLNA Serverで公開<br>☐ Anonymous FTPを許可<br>☐ User FTPを許可 |
| ごみ箱機能 | ○ 有効 ◉ 無効<br>※「ごみ箱機能」は、Windowsの共有のみ利用可能です。 |

OK

| 項目 | 設定する内容 |
|---|---|
| 共有フォルダ名 | 共有フォルダの名前を入力します。<br>この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク]や[ネットワークコンピュータ]など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。 |
| 共有フォルダのコメント | Windows 用です。<br>ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。 |
| 共有フォルダの作成先 | 共有フォルダを作成するハードディスクを選択します。<br>注意 FAT/NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクに、新規に共有フォルダを作成することはできません。（ドライブ全体がひとつの共有として認識されます。） |

| | | |
|---|---|---|
| アクセス権の選択 | 共有フォルダにアクセスする権限（アクセス権）を設定できます。 | |
| | 全てのユーザに許可 | 本製品にアクセスできるすべてのユーザがアクセスできる設定です。 |
| | 指定ユーザのみ許可 | 本製品にユーザ登録したユーザのうち、特定のユーザと admin のみがアクセスできる設定です。 |
| | 指定グループのみ許可 | 本製品にグループ登録したグループのうち、特定のグループと admin のみがアクセスできる設定です。 |
| | このフォルダを読み取り専用にする（FTP は除く） | 本製品にアクセスできるすべてのユーザから読み取りのみできるよう（書き込み禁止）にする設定です。<br>ただし、FTP は書き込み可能です。 |
| | 注意 NTFS 増設ハードディスクの場合は、上記設定にかかわらず読み込みのみ可能です。<br>書き込みできる設定にすることはできません。 | |
| サービスの選択 | この共有で利用するネットワークサービスを選択します。実際にこれらを有効にするためには「ネットワーク」→「共有サービス設定」（201ページ）でそれぞれのサービスを有効にしてください。 | |
| | Microsoft ネットワーク ファイル共有 | Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。 |
| | AppleShare ネットワーク ファイル共有 | Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。 |
| | DLNA Server で公開 | DLNA 準拠機器からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。<br>上記[アクセス権の選択]設定が「全てのユーザに許可」となっている場合のみ、選択できます。 |
| | Anonymaous FTP を許可 | Anonymous（匿名）FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。上記[アクセス権の選択]設定が「全てのユーザに許可」となっている場合のみ、選択できます。<br>→同時に登録できる Anonymous FTP フォルダは 1 つのみとなります。Anounymous FTP 機能を利用してファイルを書き込むことはできません。（読み取りのみとなります。） |
| | User FTP を許可 | User FTP は、ユーザ共有（単一のユーザのみがアクセスできる共有）の場合のみ指定できます。<br>上記[アクセス権の選択]設定が「指定ユーザのみ許可」となっている場合のみ、選択できます。 |
| | 注意 MS ドメインログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。 | |
| ごみ箱機能 | Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。<br>作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐに ファイルがなくなるわけではなく、一旦[ごみ箱]フォルダに保管されます。<br>[ごみ箱]フォルダ内のファイルは自動的には消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに[ごみ箱]フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に[ごみ箱]フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。<br>[ごみ箱]フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。<br>【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（59ページ） | |

# [共有フォルダの設定変更]画面での設定内容

■ 共有フォルダの設定変更

| 変更する項目の選択 | 変更内容の設定 |
|---|---|
| ○共有フォルダ名を変更 | disk1 |
| ○コメントを変更 | HDL-GT RAID volume |
| ○アクセス権を変更 | ◉全てのユーザに許可<br>○指定ユーザのみ許可<br>○指定グループのみ許可<br>☐このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く) |
| ◉サービスを変更 | ☑Microsoftネットワークファイル共有<br>☑AppleShareネットワークファイル共有<br>☐DLNA Serverで公開<br>☐Anonymous FTPを許可<br>☐User FTPを許可 |
| ○ごみ箱機能を変更 | ○有効 ◉無効 |

変更

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">設定する内容</th></tr>
<tr><td>共有フォルダ名を変更</td><td colspan="2">共有フォルダの名前を変更できます。<br>この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク]や[ネットワークコンピュータ]など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td>コメントを変更</td><td colspan="2">Windows 用です。<br>ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">アクセス権を変更</td><td colspan="2">共有フォルダにアクセスする権限（アクセス権）を変更できます。</td></tr>
<tr><td>全てのユーザに許可</td><td>本製品にアクセスできるすべてのユーザがアクセスできる設定です。</td></tr>
<tr><td>指定ユーザのみ許可</td><td>本製品にユーザ登録したユーザのうち、特定のユーザのみがアクセスできる設定です。</td></tr>
<tr><td>指定グループのみ許可</td><td>本製品にグループ登録したグループのうち、特定のグループのみがアクセスできる設定です。</td></tr>
<tr><td>このフォルダを読み取り専用にする（FTP は除く）</td><td>本製品にアクセスできるすべてのユーザから読み取りのみできるよう（書き込み禁止）にする設定です。ただし、FTP は書き込み可能です。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注意 NTFS 増設ハードディスクの場合は、上記設定にかかわらず、読み取り専用となります。<br>書き込みできる設定にすることはできません。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">サービスを変更</td><td colspan="2">共有フォルダのサービスを変更できます。</td></tr>
<tr><td>Microsoft ネットワーク ファイル共有</td><td>Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>AppleShare ネットワーク ファイル共有</td><td>Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>DLNA Server で公開</td><td>DLNA 準拠機器からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。<br>上記[アクセス権の選択]設定が「全てのユーザに許可」となっている場合のみ、選択できます。</td></tr>
<tr><td>Anonymous FTP を許可</td><td>Anonymous（匿名）FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。<br>上記[アクセス権の選択]設定が「全てのユーザに許可」となっている場合のみ、選択できます。<br>→同時に登録できる Anonymous FTP フォルダは 1 つのみとなります。Anonymous FTP 機能を利用してファイルを書き込むことはできません。（読み取りのみとなります。）</td></tr>
<tr><td>User FTP を許可</td><td>User FTP は、ユーザ共有（単一のユーザのみがアクセスできる共有）の場合のみ指定できます。上記[アクセス権の選択]設定が「指定ユーザのみ許可」となっている場合のみ、選択できます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注意 MS ドメインログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。</td></tr>
<tr><td>ごみ箱機能</td><td colspan="2">Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。<br>作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。<br>ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐに ファイルがなくなるわけではなく、一旦[ごみ箱]フォルダに保管されます。<br>[ごみ箱]フォルダ内のファイルは自動的には消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに[ごみ箱]フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に[ごみ箱]フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。<br>[ごみ箱]フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。<br>【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（59ページ）</td></tr>
</table>

# [メニュー]→[共有管理]→[ユーザ管理]

**ユーザ管理**

新規ユーザの作成

| | |
|---|---|
| 新規ユーザの追加 | ユーザを追加します |
| 新規ユーザの一括追加 | 複数ユーザを一括追加します |

注意事項

・LANDISKユーザ・NTドメインユーザが登録されていません.

| | |
|---|---|
| 新規ユーザの追加 | 新規ユーザを追加します。<br>→以下の【ユーザ追加】画面を表示します。 |
| 新規ユーザの一括追加 | 複数の新規ユーザを一括で追加します。<br>→以下の【ユーザの一括追加】画面を表示します。 |

## 新規ユーザの追加

ユーザ追加

| | |
|---|---|
| 新しいユーザ名 | |
| パスワード | |
| 確認パスワード | |

OK クリア

ユーザ一覧

| | |
|---|---|
| 既存のユーザ | |

| | |
|---|---|
| ▼ユーザ追加 | |
| 新しいユーザ名 | 新しく追加するユーザのユーザ名を入力します。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。 |
| パスワード | ユーザのパスワードを入力します。 |
| 確認パスワード | |
| ▼ユーザ一覧 | |
| 既存のユーザ | すでに登録されているユーザの一覧を表示します。 |

## 新規ユーザの一括追加

ユーザの一括追加

| | |
|---|---|
| CSV ファイル名 | 参照... |
| 各ユーザ専用の共有フォルダ | ○作成する ◉作成しない |
| 共有フォルダの作成先 | 内部ボリューム1 |
| 各ユーザの利用するサービス選択 | Microsoftネットワークファイル共有<br>AppleShareネットワークファイル共有<br>User FTPを許可 |

追加

| | | |
|---|---|---|
| CSV ファイル名 | 複数のユーザ情報が入力された CSV ファイル（カンマ区切り形式）の名前を入力します。<br>[参照]ボタンを押して一覧から選択することもできます。<br>ファイルの形式については、以下の【CSV ファイル形式】の個所を参照してください。 | |
| 各ユーザ専用の共有フォルダ | ユーザごとに専用の共有フォルダを作成するかどうかを指定します。ここで作った共有フォルダはアクセス権が「指定ユーザのみ許可」となります。各ユーザ専用の共有フォルダを作成する場合、CSV ファイルに記述するユーザ名で共有フォルダを作成します。CSV ファイルに記述するユーザ名は共有フォルダ名で使用可能な文字の制限となります。 | |
| 共有フォルダの作成先 | （共有フォルダを作成する場合）<br>共有フォルダを作成するボリュームを指定します。<br>ここで選択できるボリュームは専用フォーマットされたボリュームのみとなります。 | |
| 各ユーザの利用するサービス選択 | 各ユーザ専用の共有フォルダで利用可能なサービスを選択します。 | |
| | Microsoft ネットワーク ファイル共有 | Windows からファイル共有する場合に選択します。 |
| | AppleShare ネットワーク ファイル共有 | Macintosh からファイル共有する場合に選択します。 |
| | User FTP を許可 | FTP ファイル転送サービスを利用してファイルの読み書きを実行したい場合に選択します。 |
| | 注意 MS ドメインログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。 | |
| [追加]ボタン | 上記設定に応じて、ユーザの追加および共有フォルダの作成を行います。 | |

### ○CSV ファイルのファイル形式

CSV ファイルは以下の形式のものとなります。

| ユーザ名 | パスワード | 所属グループ名 |
|---|---|---|
| user1 | pass1 | group1 |
| user2 | pass2 | group1 |
| user3 | Pass3 | group1 |

例えば右の例の場合、以下のような CSV ファイルとなります。

user1,pass1,group1
user2,pass2,group1
user3,pass3,group1

Excel などで作成される場合は、保存形式で「CSV 形式」を選択してください。

# [メニュー]→[共有管理]→[グループ管理]

■ グループ管理

■ 新規グループの作成

| | |
|---|---|
| 新規グループの追加 | グループを追加します |

■ 注意事項

・LANDISKグループ・NTドメイングループが登録されていません。

| | |
|---|---|
| 新規グループの追加 | 新規グループを追加します。<br>→以下の【グループの追加】画面を表示します。 |

## 新規グループの追加

■ グループの追加

| | |
|---|---|
| 新しいグループ名 | |
| 追加するユーザ | ☐ user1 ☐ user2 |

OK クリア

■ 既存のグループ一覧

| | |
|---|---|
| グループ名 | |

| ▼グループの追加 | |
|---|---|
| 新しいグループ名 | 新しく追加するグループのグループ名を入力します。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。 |
| 追加するユーザ | グループに追加するユーザをチェックします。 |
| ▼既存のグループ一覧 | |
| グループ名 | すでに登録されているグループの一覧を表示します。 |

## グループ作成後の画面

■ グループ管理

■ 新規グループの作成

| | |
|---|---|
| 新規グループの追加 | グループを追加します |

■ グループ一覧

| グループ名 | 操作 | 備考 |
|---|---|---|
| group1 | 登録ユーザ変更 削除 | |
| group2 | 登録ユーザ変更 削除 | |

| ▼グループ一覧 | | |
|---|---|---|
| グループ名 | すでに登録されているグループの一覧を表示します。 | |
| 操作 | 登録ユーザ変更 | 登録ユーザを変更します。<br>→以下の【登録ユーザの変更】画面を表示します。 |
| | 削除 | グループを削除します。 |

## 登録ユーザの変更

■ 登録ユーザの変更

| | |
|---|---|
| 変更するグループ名 | group2 |
| 登録ユーザの選択 | ☑ user1 ☑ user2 ☑ user3 |

OK クリア

| ▼登録ユーザの変更 | |
|---|---|
| 変更するグループ名 | 変更するグループ名が表示されます。 |
| 登録ユーザの選択 | 現在登録されているユーザ一覧が表示されます。<br>チェックされているユーザが現在そのグループに登録されているユーザです。<br>チェックを付けるとそのユーザがグループに登録され、チェックを外すとそのユーザはグループに登録されません。 |

# [メニュー]→[ディスク]→[ボリューム操作]

**ボリューム操作**

ボリューム情報

| | | |
|---|---|---|
| 内蔵 ボリューム1 | 動作モード | RAID5(分散パリティ) |
| | 状態 | 正常動作しています |
| | 操作 | フォーマット(専用) 実行 |
| | 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム1 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| eSATA ボリューム2 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| USB ボリューム1 | 動作モード | クイックコピー |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |
| USB ボリューム2 | 動作モード | 共有ディスク(FAT/NTFS)モード |
| | 状態 | 未接続 |
| | 操作 | 現在可能な操作はありません |
| | 詳細情報 | |

## [動作モード][状態][詳細情報]

[動作モード][状態][詳細情報]は、[情報表示]画面の[ボリューム情報]と同じです。

以下の個所を参照してください。

[情報表示]画面の[ボリューム情報]（197ページ）

## [操作]

| | |
|---|---|
| ▼内蔵ボリューム１ | |
| 内蔵ボリューム１では、以下の操作が可能です。 | |
| フォーマット（専用） | このボリュームを専用フォーマット形式にてフォーマットします。専用フォーマット形式のボリュームには複数の共有フォルダを作成することができます。また、ファイルサイズの制限がありません。 |
| チェックディスク | 専用フォーマット形式のボリュームに論理的なエラーが発生してないか調査します。もしエラーがあった場合には、ファイル構造を修復します。<br>チェックディスクについては、以下の個所を参照してください。<br>【[チェックディスク]でチェックする】（68ページ） |
| ディスクセット１の保管 | RAID1+0（ミラーストライピング）の構成状態において、ディスクセット１側を保管する場合に実行します。<br>この機能を実行すると本体の電源が自動的に切れますので、その後に内蔵ディスク１および２を取り外して保管してください。<br>手順については、以下の個所を参照してください。<br>【ディスクセットを保管する】（123ページ） |
| ディスクセット２の保管 | RAID1+0（ミラーストライピング）の構成状態において、ディスクセット２側を保管する場合に実行します。<br>この機能を実行すると本体の電源が自動的に切れますので、その後に内蔵ディスク３および４を取り外して保管してください。<br>手順については、以下の個所を参照してください。<br>【ディスクセットを保管する】（123ページ） |
| eSATA ディスク１から ミラーリング開始 | 保管されていたミラーディスクから内蔵ボリュームにすべてのデータをコピーし、ミラーリング状態を復旧します。<br>手順については、以下の個所を参照してください。<br>【ミラーディスクから復旧する】（119ページ） |
| メンテナンス | RAID 構成が正常に認識できず、復旧不能な状態の場合にのみ表示されます。<br>この状態から保存されていたファイル群を復旧することはできません。メンテナンスでは、失われた RAID 構成を破棄し、新たに４台による RAID ボリュームを作成しなおします。<br>手順については、以下の個所を参照してください。<br>【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】（160ページ） |
| ▼内蔵ボリューム２ | |
| （RAID+FAT/NTFS 時の内蔵ディスク４のみ）<br>内蔵ボリューム２では、以下の操作が可能です。 | |
| フォーマット（FAT32） | このボリュームを FAT32 形式にてフォーマットします。FAT32 形式は、Windows にて採用されているフォーマット形式の一種で、そのまま Windows パソコンに接続してデータの読み書きが可能です。FAT 形式のボリュームはドライブ全体がひとつの共有フォルダとなり、複数の共有フォルダを作成することはできません。また最大ファイルサイズは 4G-1 バイトとなります。 |
| ディスクの取り外し | FAT または NTFS 形式のボリュームを取り外せる状態にします。<br>ディスクを取り外す時は、この「ディスクの取り外し」を実行した後に外してください。 |
| ▼eSATA ボリューム１、eSATA ボリューム２、USB ボリューム１、USB ボリューム２ | |
| eSATA ボリューム１では、以下の操作が可能です。 | |
| フォーマット（FAT32） | このボリュームを FAT32 形式にてフォーマットします。FAT32 形式は、Windows にて採用されているフォーマット形式の一種で、そのまま Windows パソコンに接続してデータの読み書きが可能です。FAT 形式のボリュームはドライブ全体がひとつの共有フォルダとなり、複数の共有フォルダを作成することはできません。また最大ファイルサイズは 4G-1 バイトとなります。 |
| ディスクの取り外し | FAT または NTFS 形式のボリュームを取り外せる状態にします。<br>ディスクを取り外す時は、この「ディスクの取り外し」を実行した後に外してください。 |
| ミラーリング開始 | （eSATA ボリューム１のみ）<br>eSATA ポート１に待機中のハードディスクを接続している場合に表示されます。 |
| ミラーディスクの保管 | （eSATA ボリューム１のみ）<br>ミラーリング構成している eSATA ディスクを保管できる状態にします。この機能を実行すると本体の電源が自動的に切れますので、その後に eSATA ディスクを取り外して保管してください。<br>手順については、以下の個所を参照してください。<br>【ミラーディスクを保管する】（118ページ） |

## ボリューム設定

ボリュームの設定

| ボリュームの選択 | 動作モードの選択 |
|---|---|
| ◉内蔵 ボリューム<br>○eSATA ボリューム1<br>○eSATA ボリューム2<br>○USB ボリューム1<br>○USB ボリューム2 | ○RAID0(ストライピング)<br>◉RAID5(分散パリティ)(現在の設定値)<br>○RAID5(分散パリティ)+FAT/NTFS<br>○RAID1+0(ミラーストライピング) |

RAID5

RAID5モード

ディスクの利用効率、データ保護機能およびシステムパフォーマンスのバランスのよいモードです

変更

| ボリュームの選択 | 動作モードの選択 | |
|---|---|---|
| 内蔵ボリューム | 内蔵ボリュームの動作モードを選択します。 | |
| | RAID0（ストライピング） | 内蔵ディスク１～４で RAID0（ストライピング）を構成し、１つのボリュームとして使用できます。ディスクの使用効率とシステムパフォーマンスが最も高いモードですが、データの保護機能はありません。 |
| | RAID5（分散パリティ） | 内蔵ディスク１～４で RAID5（分散パリティ）を構成し、１つのボリュームとして使用できます。ディスクの使用効率とシステムパフォーマンス、およびデータの保護機能のバランスのよいモードです。 |
| | RAID5（分散パリティ）＋FAT/NTFS | RAID5 のボリュームに加えて、内蔵ディスク４を取り外しが可能な FAT/NTFS モードで使用できます。<br>パソコンとのデータのやり取りをカートリッジの交換をおこなうことによってできるので、大量のデータをネットワークに公開したい場合などに便利です。<br>内蔵ディスク１～３で RAID5（分散パリティ）を構成し、１つのボリュームとして使用できます。<br>内蔵ディスク４を FAT/NTFS ディスク共有として使用できます。 |
| | RAID1+0（ミラーストライピング） | ディスクの利用効率は低いですが、データ保護機能が最も高いモードです。<br>内蔵ディスク１、３および内蔵ディスク２、４で２つのミラーリングペアを構成し、２つのミラーリングペアをさらにストライピングすることにより、１つのボリュームとして使用できます。<br>また、ディスクセットの保管機能により、内蔵ディスク１、２（上２つ）または内蔵ディスク３、４（下２つ）をディスクセットとして取り外し、内蔵ボリューム、及びシステム全体のバックアップとして保管することができます。<br>トラブル発生時は、保管したディスクセットを接続してシステムを起動すると、ディスクセットを保管した時点のシステムの状態（内蔵ボリュームの共有データ、登録ユーザ/グループ情報、その他各種設定）まで戻ることができます。 |
| eSATA ボリューム１ | eSATA ボリューム１の動作モードを選択します。 | |
| | 共有ディスク（FAT/NTFS） | FAT/NTFS 形式の eSATA ハードディスクを接続し、共有できるモードです。 |
| | ミラーリング | 内蔵ボリューム１と eSATA ハードディスクでミラーリングができるモードです。 |
| eSATA ボリューム２ | eSATA ボリューム２の動作モードを表示します。 | |
| | 共有ディスク（FAT/NTFS） | FAT/NTFS 形式の eSATA ハードディスクを接続し、共有できるモードです。 |
| USB ボリューム１ | USB ボリューム１の動作モードを選択します。 | |
| | 共有ディスク（FAT/NTFS） | FAT/NTFS 形式の USB ハードディスクを接続し、共有できるモードです。 |
| | クイックコピー | 前面の[COPY]ボタンを使ってクイックコピーができるモードです。 |
| ＵＳＢボリューム２ | USB ボリューム２の動作モードを表示します。 | |
| | 共有ディスク（FAT/NTFS） | FAT/NTFS 形式の USB ハードディスクを接続し、共有できるモードです。 |

# [メニュー]→[ディスク]→[アクティブリペア]

アクティブリペアとは、ミラーリングや分散パリティを行っている RAID のディスクの一部に不良セクタが発見された場合、他の正常なディスクからデータを読み込んで、異常のあるディスクに書き込むことによって、ディスク不良によるデータ破損を防止する機能です。

ファームウェアバージョン 1.23 以降より、本製品はアクティブリペアのスケジュール実行を有効に設定しており、毎週日曜日午前 2 時 00 分よりアクティブリペアが自動的に開始されます。

| アクティブリペア | | |
|---|---|---|
| 現在の状態 | 現在のアクティブリペアの実行状態または結果を表示します。 | |
| | 表示 | 意味 |
| | アクティブリペアは実行していません | 本製品を起動後、一度もアクティブリペアを実行していません。 |
| | アクティブリペア実行中 | アクティブリペアを実行中です。 |
| | アクティブリペアが中断されました | [停止]ボタンを押して、中断した状態です。 |
| | エラーは発見されませんでした | エラーはありません。ディスクは正常です。 |
| | アクティブリペアにより修復されました | エラーがありましたが修復完了しました。ディスクは正常です。 |
| | 修復不能なエラーが発見されました | エラーがあり、修復できなかった状態です。カートリッジを交換してください。<br>（詳細はシステムログを参照してください。） |
| | 不明な状態です | ディスク状態を取得できない状態です。<br>本製品の再起動が必要です。 |
| 最終実行時刻 | 最後にアクティブリペアを実行した時刻が表示されます。 | |
| アクティブリペア機能 | アクティブリペアの実行を制御します。 | |
| | 開始 | アクティブリペアを実行します。 |
| | 停止 | 実行中のアクティブリペアを停止します。 |
| アクティブリペアのスケジュール実行 | | |
| スケジュール機能 | 設定した日時にアクティブリペアを自動的に実行したい場合は[使用する]をチェックし、曜日、時刻を指定します。 | |
| | 曜日指定： | アクティブリペアする曜日を指定します。<br>※複数の指定が可能です。 |
| | 時刻指定： | アクティブリペアする時刻を指定します。<br>24 時間制で指定します。<br>例）午後 9 時ちょうどの場合は、[21]時[0]分 |

# [メニュー]→[ディスク]→[ディスク省電力]

■ ディスク省電力開始時間設定

| | |
|---|---|
| 時間選択 | なし |
| 本装置に接続した内蔵、eSATAおよびUSBディスクにアクセスがなかった場合、ディスクの省電力モード(スピンダウン)を開始するまでの時間を選択します。 | |

■ ボリュームごとの省電力設定

| | |
|---|---|
| 内蔵 ボリューム | ○有効 ◉無効 |
| eSATA ボリューム1 | ○有効 ◉無効 |
| eSATA ボリューム2 | ○有効 ◉無効 |
| USB ボリューム1 | ○有効 ◉無効 |
| USB ボリューム2 | ○有効 ◉無効 |
| 各ボリュームを構成するディスクに対して省電力設定を有効するかどうかを設定します。<br>上記の設定を有効に設定しても、接続するディスクによっては正常に省電力設定が機能しない場合があります。 | |

OK

<table>
<tr><th colspan="2">ディスクの省電力設定</th></tr>
<tr><td>時間選択</td><td>一定時間、本製品や増設ハードディスクにアクセスがない場合にハードディスクの動作を停止させる機能です。<br>この停止までの時間を変更できます。（初期値は「なし」です。）<br>※設定時間内にハードディスクにアクセスしなくても本製品のシステムがハードディスクにアクセスした場合は、ハードディスクおよび冷却ファンの動作は停止しません。</td></tr>
<tr><th colspan="2">ボリュームごとの省電力設定</th></tr>
<tr><td>内蔵ボリューム</td><td rowspan="5">有効：省電力機能を有効にします。<br>無効：省電力機能を無効にします。<br>※各ボリュームを構成するハードディスクに対して設定されます。<br>※eSATA または USB 接続のディスクが正常に認識されない場合は、省電力設定を無効に設定すると認識できる場合があります。</td></tr>
<tr><td>eSATA ボリューム 1</td></tr>
<tr><td>eSATA ボリューム 2</td></tr>
<tr><td>USB ボリューム 2</td></tr>
<tr><td>USB ボリューム 2</td></tr>
</table>

# [メニュー]→[バックアップ]→[セルフバックアップ]

■ セルフバックアップの設定

| | |
|---|---|
| バックアップ元フォルダ指定 | 0個のフォルダ指定済 [選択] |
| バックアップ先共有指定 | 保存先が未指定です [選択] |
| バックアップ方式 | ○毎回上書き(backupフォルダ)<br>◉履歴(日付時刻フォルダ) 全て 残す |
| バックアップオプション | □設定と同時にバックアップを開始する<br>□バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする |
| スケジュールバックアップ機能 | ○使用する ◉使用しない<br>曜日指定：□日 □月 □火 □水 □木 □金 □土<br>時刻指定：0 時 0 分 |
| バックアップログメール送信機能 | ○使用する ◉使用しない<br>送信先メールアドレス |

[OK] [クリア]

<table>
<tr><td>バックアップ元フォルダ指定</td><td colspan="2">バックアップ元のフォルダを指定します。<br>[選択]ボタンでバックアップ元のフォルダを選択します。</td></tr>
<tr><td>バックアップ先共有指定</td><td colspan="2">バックアップ先の共有フォルダを指定します。<br>[選択]ボタンでバックアップ先の共有フォルダを選択します。<br>※NTFS 形式のハードディスクは指定できません。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">バックアップ方式</td><td colspan="2">バックアップの方式を選択します。</td></tr>
<tr><td>毎回上書き：</td><td>バックアップのたびに以前のバックアップデータに上書きします。</td></tr>
<tr><td>履歴：</td><td>指定した回数分のバックアップ履歴を残します。<br>指定回数を超えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※バックアップを実行すると、本製品は[バックアップ先共有指定]で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。<br>その際、[毎回上書き]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[backup]フォルダを作成し、さらにその下に[backup]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。<br>[履歴]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[backup]フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した[日付時刻]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">バックアップオプション</td><td>設定と同時にバックアップを開始する：</td><td>設定した日時にバックアップを自動的に実行したい場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td>バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする：</td><td>バックアップ終了後、本製品を自動的にシャットダウンする場合にチェックします。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">スケジュールバックアップ機能</td><td colspan="2">設定した日時にバックアップを自動的に実行したい場合は[使用する]をチェックし、曜日、時刻を指定します。</td></tr>
<tr><td>曜日指定：</td><td>バックアップする曜日を指定します。<br>※複数の指定が可能です。</td></tr>
<tr><td>時刻指定：</td><td>バックアップする時刻を指定します。<br>24 時間制で指定します。<br>例）午後 9 時ちょうどの場合は、[21]時[0]分</td></tr>
<tr><td rowspan="3">バックアップログメール送信機能</td><td colspan="2">バックアップログをメール送信する場合は[使用する]にチェックし、送信先メールアドレスを入力します。<br>バックアップの開始時刻、終了時刻、エラー発生などのログを指定のメールアドレスに送信します。</td></tr>
<tr><td>送信先メールアドレス：</td><td>バックアップメールの送信先アドレスを指定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">送信メールサーバや POP before SMTP など、メール送信時の詳細設定については【メール基本設定】（215ページ）をご参照ください。</td></tr>
</table>

■ リモートバックアップの設定

| | |
|---|---|
| バックアップ元共有指定 | 0個の共有を選択済み [詳細] |
| バックアップ先共有指定 | 保存先が未指定です [選択] |
| バックアップ方式 | ○毎回上書き(backupフォルダ)<br>◉履歴(日付時刻フォルダ) 全て 残す |
| バックアップオプション | □設定と同時にバックアップを開始する<br>□バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする |
| スケジュールバックアップ機能 | ○使用する ◉使用しない<br>曜日指定：□日 □月 □火 □水 □木 □金 □土<br>時刻指定：0 時 0 分 |
| バックアップログメール送信機能 | ○使用する ◉使用しない<br>送信先メールアドレス |

[OK] [クリア]

| | | |
|---|---|---|
| バックアップ元共有指定 | [詳細]ボタンで、バックアップ元共有（バックアップ元ホスト名、共有名、ユーザ名、パスワード）を指定します。 | |
| | バックアップ元ホスト名： | 最大 10 個まで指定できます。<br>同一ネットワーク内に他の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT シリーズが接続されている場合は、[LANDISK 検索]ボタンで接続されている HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT シリーズを一覧から選択できます。<br>同一ネットワーク内の上記以外の LANDISK の場合、バックアップ元の LANDISK の名前か、IP アドレスを入力します。<br>Windows XP/2000 パソコンをリモートバックアップ元にする場合は、パソコンの[コンピュータ名]か、IP アドレスを入力します。<br>※Windows 98/Me をバックアップ元に設定する場合は、IP アドレスではなく「コンピュータの名前」を入力してください。 |
| | バックアップ元共有名： | バックアップ元共有フォルダを指定します。 |
| | バックアップ元ユーザ名： | バックアップ元共有フォルダにアクセス権を設定してあるユーザ名を入力します。<br>アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、ユーザ名は「Administrator」など、任意のものを使用できます。 |
| | バックアップ元パスワード： | バックアップ元共有フォルダにアクセス権を設定してあるユーザのパスワードを入力します。<br>アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、パスワードは上記ユーザのパスワードを設定してください。 |
| バックアップ先共有指定 | バックアップ先の共有フォルダを指定します。<br>[選択]ボタンでバックアップ先の共有フォルダを選択します。<br>※NTFS 形式のハードディスクは指定できません。 | |
| バックアップ方式 | バックアップの方式を選択します。 | |
| | 毎回上書き： | バックアップのたびに以前のバックアップデータに上書きします。 |
| | 履歴： | 指定した回数分のバックアップ履歴を残します。<br>指定回数を超えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。 |
| | ※バックアップを実行すると、本製品は[バックアップ先共有指定]で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。<br>その際、[毎回上書き]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[netbackup]フォルダを作成し、さらにその下に[backup]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。<br>[履歴]を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で[netbackup]フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した[日付時刻]フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。 | |
| バックアップオプション | 設定と同時にバックアップを開始する： | 設定した日時にバックアップを自動的に実行したい場合にチェックします。 |
| | バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする： | バックアップ終了後、本製品を自動的にシャットダウンする場合にチェックします。 |
| スケジュールバックアップ機能 | 設定した日時にバックアップを自動的に実行したい場合は[使用する]をチェックし、曜日、時刻を指定します。 | |
| | 曜日指定： | バックアップする曜日を指定します。<br>※複数の指定が可能です。 |
| | 時刻指定： | バックアップする時刻を指定します。<br>24 時間制で指定します。<br>例）午後 9 時ちょうどの場合は、[21]時[0]分 |
| バックアップログメール送信機能 | バックアップログをメール送信する場合は[使用する]にチェックし、送信先メールアドレスを入力します。<br>バックアップの開始時刻、終了時刻、エラー発生などのログを指定のメールアドレスに送信します。 | |
| | 送信先メールアドレス： | バックアップメールの送信先アドレスを指定します。 |
| | 送信メールサーバや POP before SMTP など、メール送信時の詳細設定については【メール基本設定】（215ページ）をご参照ください。 | |

# [メニュー]→[メール通知]→[メール基本設定]

## メール通知

### メール基本設定

| | |
|---|---|
| メール通知機能 | ○有効 ◉無効 |
| SMTP サーバ | |
| SMTP ポート番号 | 25 |
| 差出人メールアドレス | |

「メール通知機能」の設定は、全てのメール通知機能に対するスイッチとなり、「無効」を選択した場合、それぞれの画面でメール通知設定を行ってもメールは送信されません。
「メールエンコード」は、メールの本文が文字化けする場合、設定を変更してみてください。
「差出人メールアドレス」には、SMTP サーバで使用可能なメールアドレスを入力して下さい。

### メール送信時認証設定

| | |
|---|---|
| 認証方式 | POP before SMTP |
| POP サーバ | |
| ユーザ名 | |
| パスワード | |

SMTP サーバとの接続で POP before SMTP 認証を行っている場合に設定します。
わからない場合は、「無効」を選択して下さい。

[設定保存]

### メール通知テスト

| | |
|---|---|
| 送信先メールアドレス | |
| メールエンコード | ○ISO-2022-JP ◉UTF-8 |

上記の設定でメールが届くかどうか、テストすることができます。
ここで入力するメールアドレスは、メール通知テストでのみ使用されます。
実際の宛先は、各機能で別々の宛先を設定することができます。

[テストメール送信]

| メール基本設定 | |
|---|---|
| メール通知機能 | ログ情報やバックアップ完了通知などをメールで送信するかどうかを設定します。 |
| SMTP サーバ | メール送信に利用する SMTP サーバを設定します。プロバイダや会社のメールサーバなど、送りたいメールアドレスに合致するサーバ名を入力してください。 |
| SMTP ポート番号 | メール送信に利用する TCP ポート番号を指定します。（初期値：25）<br>ご利用のプロバイダがセキュリティ上の理由で 25 番ポートでのメール送信を遮断している場合は、適切な番号に変更してください。 |
| 差出人メールアドレス | 送信するメールアドレスの差出人を設定することができます。送信メールサーバが差出人チェックを実行している場合や、どこから送られてきているのかを明確にしたい場合などに設定します。 |

<table>
<tr><td colspan="2">メール送信時認証設定</td><td colspan="2">メール送信時の認証方式を選択できます。<br>指定する SMTP サーバがサポートしている認証方式を設定してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="14">認証方式</td><td>無効</td><td colspan="2">メール送信時に認証は行いません。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">POP before SMTP</td><td colspan="2">メール送信時に SMTP サーバと POP before SMTP 認証を行います。</td></tr>
<tr><td>POP サーバ</td><td>POP サーバ名を入力します。</td></tr>
<tr><td>ユーザ名</td><td>メール受信に使用するユーザ名を入力します。</td></tr>
<tr><td>パスワード</td><td>メール受信に使用するパスワードを入力します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">SMTP AUTH (PLAIN)</td><td colspan="2">メール送信時に SMTP サーバと SMTP AUTH 認証(PLAIN 方式)を行います。</td></tr>
<tr><td>ユーザ名</td><td>メール送信に使用するユーザ名を入力します。</td></tr>
<tr><td>パスワード</td><td>メール送信に使用するパスワードを入力します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">SMTP AUTH (LOGIN)</td><td colspan="2">メール送信時に SMTP サーバと SMTP AUTH 認証(LOGIN 方式)を行います。</td></tr>
<tr><td>ユーザ名</td><td>メール送信に使用するユーザ名を入力します。</td></tr>
<tr><td>パスワード</td><td>メール送信に使用するパスワードを入力します。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">SMTP AUTH (CRAM-MD5)</td><td colspan="2">メール送信時に SMTP サーバと SMTP AUTH 認証(CRAM-MD5 方式)を行います。</td></tr>
<tr><td>ユーザ名</td><td>メール送信に使用するユーザ名を入力します。</td></tr>
<tr><td>パスワード</td><td>メール送信に使用するパスワードを入力します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">[設定保存]ボタン</td><td colspan="2">上記の設定情報をシステム内に記憶します。</td></tr>
<tr><td colspan="4">メール通知テスト</td></tr>
<tr><td colspan="2">送信先メールアドレス</td><td colspan="2">上記の設定情報が正しく機能するか、実際にメールを送信してテストすることができます。<br>テストメールの送信先アドレスを設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">メールエンコード</td><td colspan="2">メール本文のエンコード方式を選択します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">[テストメール送信]ボタン</td><td colspan="2">テストメールを送信します。</td></tr>
</table>

# [メニュー]→[メール通知]→[メール通知設定]

## メール通知

注意
「メール基本設定」の「メール通知機能」が「無効」に設定されています。
「メール通知機能」を使用するには、「メール通知機能」を「有効」に設定してください。

### メール通知設定

| 内容 | メール通知 | エンコード | 送信先メールアドレス |
|---|---|---|---|
| セルフバックアップログ | ☐ 有効 | ○ISO-2022-JP ◉UTF-8 | |
| リモートバックアップログ | ☐ 有効 | ○ISO-2022-JP ◉UTF-8 | |
| システムログ | ☐ 有効 | ○ISO-2022-JP ◉UTF-8 | |
| システム起動終了通知 | ☐ 有効 | ○ISO-2022-JP ◉UTF-8 | |
| システム温度エラー通知 | ☐ 有効 | ○ISO-2022-JP ◉UTF-8 | |
| ディスクエラー通知 | ☐ 有効 | ○ISO-2022-JP ◉UTF-8 | |

OK

| | | |
|---|---|---|
| 内容 | セルフバックアップログ | セルフバックアップの開始、終了、エラー発生などのログを指定のメールアドレスに送信します。 |
| | リモートバックアップログ | リモートバックアップの開始、終了、エラー発生などのログを指定のメールアドレスに送信します。 |
| | システムログ | システムで発生したイベントなどを記録した「システムログ」をメールで送信することができます。（初期値は無効）<br>本製品ではシステムログのサイズをチェックし、一定の大きさを超えた場合にメールでシステムログを送信します。また、シャットダウン時にもシステムログを送信します。<br>注意 ログ情報は、以下のような状況のときに消去されます。<br>・ログのサイズが一定のサイズを超えた場合<br>・本製品をシャットダウンした場合<br>・「システムログのメール送信」を[有効]にしていて、ログメールが送信された後<br>※システムログをメール送信する設定については、【システムログをメール送信する】（151ページ）をご覧ください。 |
| | システム起動終了通知 | システムの起動、または終了の通知メールを指定のメールアドレスに送信します。 |
| | システム温度エラー通知 | 装置 FAN が停止した場合や、装置温度が異常に高温になった場合にメール送信されます。<br><br>システム温度エラー時（異常温度、FAN 停止）：<br>・ブザー：「ピーピーピー」となり続けます。ボタンで止めることができます。<br>・[STATUS]ランプは赤く点滅します。<br>通知時の動作：<br>・FAN 停止：ボタンでクリアされても、５分後再通知機能あり<br>・温度エラー：５分後にシャットダウン<br>注意 システム温度エラー時は、メール送信後、５分後に自動的にシャットダウンします。<br>装置を保護するためです。（FAN 停止時はシャットダウンしません。） |
| | ディスクエラー通知 | 以下のディスクエラーが発生した場合、[送信先メールアドレス]で指定したメールアドレスに通知することができます。<br>・内蔵ハードディスク、または、ミラーリングとしたディスク（内蔵ハードディスク＋eSATA ハードディスク）の読み書きでエラーが発生した場合<br>・リビルドに失敗した場合<br>・[アクティブリペア]の開始、終了時<br>本項目を有効にすると「使用量通知設定」の「メール通知」も有効となります。 |
| エンコード | メール本文のエンコード方式を選択します。 | |
| メール通知 | 各メール通知設定を有効にする場合にチェックします。 | |
| 送信先メールアドレス | 上記ログや通知情報を送信するメールアドレスを指定します。 | |

# [メニュー]→[メール通知]→[使用量通知設定]

## 使用量通知設定

### 使用量通知

| | |
|---|---|
| メール通知 | ○使用する ◉使用しない<br>送信先メールアドレス |
| 空き容量警告機能 | ○使用する ◉使用しない<br>空き容量が 1 %で以下で警告メール送信 |
| 使用量レポート機能 | ○使用する ◉使用しない<br>曜日指定：□日 □月 □火 □水 □木 □金 □土<br>時刻指定：0 時 0 分 |

空き容量警告機能は、内蔵ボリューム1の空き容量が指定値以下になった事を検出すると警告メールを送信します。
使用量レポート機能は、指定した曜日時刻に使用量のレポートメールを送信します。

OK

| | | |
|---|---|---|
| メール通知 | 使用量メール通知を使用する場合に設定します。<br>本項目を有効にすると「メール通知設定」の「ディスクエラー通知」も有効となります。 | |
| | 送信先メールアドレス | メール通知の送信先アドレスを指定します。 |
| 空き容量警告機能 | 内蔵ボリューム１の空き容量が指定値以下になると警告メールを送信します。 | |
| | 空き容量 | メールを送信する空き容量の割合を数値で入力します。 |
| 使用量レポート機能 | 指定した曜日時刻に各ボリュームの使用量レポートメールを送信します。 | |
| | 曜日指定 | 使用量レポートを送信する曜日を指定します。 |
| | 時刻指定 | 使用量レポートを送信する時刻を指定します。 |

## [メニュー]→[システム]→[システム時刻]

■ システム時刻の設定

| | |
|---|---|
| ⊙手動設定 | 2006 年 8 月 10 日 16 時 16 分00秒<br>PC の時刻を設定 |
| ○タイムサーバ使用 | タイムサーバ名またはIPアドレス<br>ntp.jst.mfeed.ad.jp<br>同期のタイミング<br>□システム起動時<br>□毎日指定時刻 12 時 34 分 |

OK クリア

品のシステム時刻を設定します。
現在時刻を設定してください。

| | | |
|---|---|---|
| 手動設定 | 手動で時刻を設定する場合に選択します。<br>本製品に設定する時刻を入力できます。 | |
| | [PC の時刻を設定]ボタン | パソコンと同じ時刻を設定します。 |

| | | |
|---|---|---|
| タイムサーバ使用 | タイムサーバを使用する場合に選択します。<br>タイムサーバの設定を実行すると、そのタイミングで一旦タイムサーバ時刻を本製品に設定します。 | |
| | タイムサーバ名または IP アドレス | |
| | タイムサーバ名または IP アドレス | タイムサーバ名かタイムサーバの IP アドレスを入力します。<br>通常は初期設定のタイムサーバをお使いください。 |
| | 同期のタイミング | |
| | どんな時に時刻同期を行なうかを設定します。どちらかにチェックを入れてください。<br>（システム起動時/毎日指定時刻を両方同時に選択することもできます。） | |
| | システム起動時 | 本製品起動時にタイムサーバとの時刻同期を行ないます。 |
| | 毎日指定時刻 | 指定した時間（24 時間表記で入力します）にタイムサーバとの時刻同期を行ないます。<br>本製品を 24 時間稼働させる場合はこちらを選択してください。 |

## [メニュー]→[システム]→[起動スケジュール]

■ **起動スケジュール**

■ 起動スケジュール機能

起動スケジュール機能 ○有効 ⊙無効

「起動スケジュール機能」の設定で「無効」を選択した場合、「起動スケジュール表」で設定を行っても起動スケジュール機能は動作しません。

■ 起動スケジュール表の設定

設定方法の選択
○毎日指定時刻に起動・終了
○平日の指定時刻に起動・終了
⊙**曜日個別の指定時刻に起動・終了**

| 曜日 | 起動設定 | 起動時刻指定 | 終了設定 | 終了時刻指定 |
|---|---|---|---|---|
| 日曜日 | □有効 | 0 : 0 | □有効 | 0 : 0 |
| 月曜日 | □有効 | 0 : 0 | □有効 | 0 : 0 |
| 火曜日 | □有効 | 0 : 0 | □有効 | 0 : 0 |
| 水曜日 | □有効 | 0 : 0 | □有効 | 0 : 0 |
| 木曜日 | □有効 | 0 : 0 | □有効 | 0 : 0 |
| 金曜日 | □有効 | 0 : 0 | □有効 | 0 : 0 |
| 土曜日 | □有効 | 0 : 0 | □有効 | 0 : 0 |

OK

起動スケジュールを設定すると、指定した時刻に本製品を自動的に起動および終了させる（シャットダウン）ことができます。




●起動スケジュール設定を使用する場合は、電源コンセントに常に接続した状態（電源を切った場合は［POWER］ランプが赤点灯の状態：スタンバイ状態）にしておいてください。、電源コンセントから電源ケーブルを取り外した状態では、起動スケジュール機能は動作しません。

●起動スケジュールによる終了（シャットダウン）に関して、指定した終了時間にアクティブリペア、バックアップ、リビルドが行われている場合、処理が完了するまで終了しません。また、処理中に指定した起動時刻をすぎた場合も終了しません。

| | |
|---|---|
| 起動スケジュール機能 | 有効にすると、以下の起動スケジュール表に従って、本製品の電源の ON/OFF を行います。<br>無効にした場合は、以下のスケジュール表のすべての設定が無効になります。 |

| | | |
|---|---|---|
| 起動スケジュール表の設定 | 起動方法の選択 | |
| | 毎日指定時刻に起動・終了 | 毎日同じ時刻に起動／終了します。 |
| | 平日の指定時刻に起動・終了 | 平日のみ設定時刻に起動／終了します。 |
| | 曜日個別の指定時刻に起動・終了 | すべての曜日について異なる設定を行えます。 |
| | 曜日・起動設定・起動時刻設定・終了設定・終了時刻設定 | |
| | 起動設定 | 有効にチェックした場合、指定した時刻に起動します。 |
| | 起動時刻指定 | 起動時刻を指定します。<br>24 時間制で指定します。<br>例）午前 8 時ちょうどの場合は、[8]時[0]分 |
| | 終了指定 | 有効にチェックした場合、指定した時刻に終了します。 |
| | 終了時刻指定 | 終了時刻を指定します。<br>24 時間制で指定します。<br>例）午後 10 時ちょうどの場合は、[22]時[0]分 |

# [メニュー]→[システム]→[ランプの明るさ]

ランプの明るさの設定

ランプの明るさ　◉明　○中　○暗

LANDISKのランプ(LED)の明るさを3段階で調節することができます。

OK

| 前面ランプの明るさを設定します。<br>（STATUS、各 HDD の ACCESS ランプの明るさが変わります。） | |
|---|---|
| 明 | 最も明るい設定です。（初期値） |
| 中 | 若干明るさを抑えた設定です。 |
| 暗 | 最も暗い設定です。暗い部屋でご利用になられる場合などにご指定ください。 |

# [メニュー]→[システム]→[プリントバッファクリア]

**プリントバッファクリア**

プリントサーバのバッファをクリアします。

**現在のプリントバッファをクリアしてもよろしいですか？**

OK

[OK]ボタンをクリックすると、本製品のプリントサーバ機能のバッファをクリアします。
現在出力中の印刷データもクリアされます。プリンタに紙が残る場合には、プリンタの操作ボタンなどで排紙してください。（詳しくはプリンタの取扱説明書をご参照ください。）
※プリントサーバ機能が有効の場合のみ機能します。

# [メニュー]→[システム]→[UPS 設定]

**UPS設定**

UPS状態

| | |
|---|---|
| UPS接続状態 | 未接続 |
| UPSバッテリー充電容量 | 取得できません |

UPS警告

| | |
|---|---|
| UPS警告機能 | ○有効 ◉無効 |

「UPS警告機能」を有効に設定すると、UPSの接続が確認できない、または停電状態を検出すると、ブザー音とSTATUSランプ(赤点滅)でお知らせします

シャットダウン条件

| | |
|---|---|
| 停電後の経過時間 | 10分後にシャットダウン |
| UPSバッテリー充電容量 | 10%以下でシャットダウン |

UPS接続中に停電状態を検出すると、上記のシャットダウン条件のいずれかに一致した時点でシャットダウン処理を開始します

OK

| UPS 状態 | |
|---|---|
| UPS 接続状態 | UPS 装置の接続状態を表示します。 |
| UPS バッテリー充電容量 | UPS 装置のバッテリー状況を表示します。 |

| UPS 警告 | |
|---|---|
| UPS 警告機能 | 有効に設定すると、UPS の接続が確認できない、または、停電状態を検出すると、ブザー音と STATUS ランプ（赤点滅）でお知らせします。 |

| シャットダウン条件<br>本設定は、本製品に対応した UPS 装置を USB 接続したときのみ有効です。 | |
|---|---|
| 停電後の経過時間 | 停電を検出後、指定時間が経過すると、本装置のシャットダウンを開始します。 |
| UPS バッテリー充電時間 | UPS 装置のバッテリー充電容量が指定の充電容量以下になったことを検出したとき、本装置のシャットダウンを開始します。 |

# [メニュー]→[システム]→[シャットダウン]

**シャットダウン**

システムの「シャットダウン」または「再起動」を行います

処理を選択してください

◉ 今すぐシステムシャットダウンを実行する

○ 今すぐシステム再起動を実行する

OK

| システムのシャットダウンまたは、再起動を行います。 | |
|---|---|
| 今すぐシステムシャットダウンを実行する | 本製品をシャットダウンします。<br>シャットダウン処理ではシステムの電源を安全に切断できるよう、設定情報や管理情報の更新作業の他、一時記憶されているデータファイルの保存作業を行います。POWER ランプが待機状態（赤点灯）となるまでそのままお待ちください。[POWER]ランプが待機状態（赤点灯）となることを確認するまでは電源ケーブルを抜かないでください。 |
| 今すぐシステム再起動を実行する | 本製品を再起動します。 |

## [メニュー]→[システム]→[システム初期化]

■ システムの初期化

警告

システム初期化を実行すると、全ての設定、
及び内蔵HDDのデータが消去されます。

システム初期化を実行しますか？
☐ 内蔵 HDD の完全消去を行う

「内蔵 HDD の完全消去を行う」にチェックをつけて「システム初期化」を実行すると、内蔵HDDのデータ領域をゼロクリアします。完全消去には数時間かかる場合があります。

[OK]

[OK]ボタンをクリックすると、すべての項目を本製品の出荷時設定値に戻し、内蔵ハードディスクもフォーマットします。
ハードディスク内に必要なデータがある場合は、必ずシステム初期化前に、データをバックアップしてください。
出荷時設定については、【出荷時設定一覧】（187ページ）をご覧ください。

| | |
|---|---|
| 内蔵 HDD の完全消去を行う： | チェックすると、出荷時設定へ戻すと同時に内蔵ハードディスクのデータ領域を 0（ゼロ）クリアします。 |




[内蔵 HDD の完全消去を行う]をチェックした場合、内蔵ハードディスクをフォーマットした後、全てのデータ領域に 0（ゼロ）を書き込みます。
本製品を廃棄や譲渡される場合にチェックしてください。（本処理には、目安として、1G バイトあたり約 1 分ほど要します。）

## [メニュー]→[システム]→[ファームウェア更新]

ファームウェアの更新（アップデート）手順については、以下の個所を参照してください。
【ファームウェアを更新する】（148ページ）

■ ファームウェアの更新

現在のファームウェアバージョンは1.[illegible]です。
ファームウェアのファイル名 [参照...]

[更新]

| | |
|---|---|
| ファームウェアのファイル名 | [参照]ボタンをクリックして、ファームウェアのファイル名(update.tgz)を選択し、[更新]ボタンをクリックします。<br>ファームウェアのアップデートは画面にしたがって正しく行ってください。<br>また、あわせてダウンロードしたアップデートプログラム内の README.TXT ファイルもご覧ください。 |

## [メニュー]→[システム]→[定期警告]

定期警告機能では、定期的(毎時 15 分)に以下３項目の状態をチェックし、異常を検出した場合、警告ブザーと STATUS ランプにて警告します。また、COPY ボタンを押すと、警告は停止しますが、次回チェック時に再度異常を検出した場合、再度警告します。

■ **定期警告**

■ 定期警告音設定

| | |
|---|---|
| ディスク構成異常警告 | ◉有効 ○無効 |
| 空き容量警告 | ○有効 ◉無効 |
| UPS警告 | ○有効 ◉無効 |

定期的(毎時15分)に各状態を確認し、異常があればブザーとLEDでお知らせします。
空き容量警告を利用する場合、メール通知で空き容量警告機能を有効にする必要があります。
UPS警告を利用する場合、UPS設定でUPS警告機能を有効にする必要があります。

[OK]

| | |
|---|---|
| ディスク構成異常警告 | RAID ディスク構成に異常がある場合、警告します。 |
| 空き容量警告 | 空き容量が、空き容量警告機能の指定値を下回った場合、警告します。 |
| UPS 警告 | UPS の接続が確認できない、または停電状態を検出すると警告します。 |

## [メニュー]→[メロディ]

メロディ機能では、ランプとブザー音で本製品の設置場所や現在設定画面を開いている本製品を確認することができます。
ネットワーク内に複数台の本製品を設置した場合などにご利用ください。

■ メロディ機能

**メロディ**

メロディを開始すると、本装置のランプ点滅とブザーで、本装置の設置場所をお知らせします。

[メロディ開始] [メロディ停止]

| | |
|---|---|
| メロディ開始 | [STATUS]ランプと各内蔵 HDD の[ACCESS]ランプが点滅し、ブザー音が鳴ります。 |
| メロディ停止 | ブザー音を停止し、[STATUS]ランプと各内蔵 HDD の[ACCESS]ランプは現在の状態表示に戻ります。 |

## [メニュー]→[管理者パスワード変更]

■ 管理者パスワード設定

| | |
|---|---|
| 現在のパスワード | |
| 新パスワード | |
| 確認パスワード | |

OK クリア

| | |
|---|---|
| 現在のパスワード | 管理者の現在のパスワードを入力します。 |
| 新パスワード | 管理者の新しいパスワードを入力します。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。 |
| 確認パスワード | 管理者の確認パスワードを入力します。 |




●管理者はアクセス制限を設定した共有フォルダを含め、すべての共有フォルダにアクセスできます。
（Windows パソコンからアクセスする場合のみ）
※Macintosh パソコンからすべての共有フォルダにアクセスすることはできません。
管理者がネットワークにログオンする際には、ユーザ名「admin」、パスワードを上記で設定したパスワードでログオンすれば、すべての共有フォルダにアクセスできます。

（ユーザ用設定ページ）

## [メニュー]→[ユーザパスワード変更]

■ **ユーザパスワード変更**

■ パスワード変更

| | |
|---|---|
| ユーザ名 | |
| 現在のパスワード | |
| 新パスワード | |
| 確認パスワード | |

OK クリア

| | |
|---|---|
| ユーザ名 | パスワードを変更するユーザ名を入力します。 |
| 現在のパスワード | ユーザの現在のパスワードを入力します。 |
| 新パスワード | ユーザの新しいパスワードを入力します。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。 |
| 確認パスワード | ユーザの確認パスワードを入力します。 |

# 困ったときには

本製品を使用していてトラブルがあった場合にご覧ください。

## ●トラブルの状態と対処

以下のトラブルの状態をクリックしてください。

弊社ホームページの[製品 Q&A]もご覧ください

⇒http://www.iodata.jp/support/
製品名の頭文字『H』をクリック → HDL-GT シリーズの製品 Q&A をクリックしてください。

サポート Web ページには、最新の情報や過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

### ◆本製品起動時のトラブル



### ◆セットアップ時のトラブル（ネットワークへの導入時）

◆本製品へアクセス時のトラブル



●Windows



●Macintosh



◆設定画面に関するトラブル



◆本製品の IP アドレスについて



◆ファイルの保存について

◆ランプやブザーについて



◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル



◆eSATA ハードディスクとミラーリング使用時のトラブル



◆ネットワークメディアプレーヤー使用時のトラブル



◆プリントサーバ機能使用時のトラブル



◆バックアップ機能について

◆内蔵および増設ハードディスクについて



◆タイムサーバ機能使用時のトラブル



◆MS ドメイン使用時のトラブル



◆FTP サーバ使用時のトラブル



◆メール送信でのトラブル



◆パソコンのネットワーク設定について

# ◆本製品起動時のトラブル

## 本製品の電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと３回鳴った

| | |
|---|---|
| 原因 | DHCP サーバーから本製品の IP アドレスを取得できていない。<br>※本製品の IP アドレスの設定が、自動取得(出荷時設定)に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、STATUS ランプが点滅します。 |
| 対処 | 接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。<br>※DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、固定の IP アドレス：192.168.0.200 に設定されます。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | DHCP サーバーのない環境で使用している、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。 |
| 対処 | 本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。<br>・Windows の場合<br>【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（19ページ）<br>・Macintosh の場合<br>【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（30ページ） |

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品が取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続された。 |
| 対処 | 本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、接続に失敗したことを STATUS ランプの赤点滅で表示します。この場合は該当する USB 機器を本製品から取り外してください。しばらくすると緑点灯に変わります。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 内蔵ボリュームにエラーが発生した。 |
| 対処 | [ボリューム情報]画面で、内蔵ボリュームの状態を確認してください。 |

## eSATA ハードディスクを[eSATA ポート１]に接続して電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーが鳴り続けている

| | |
|---|---|
| 原因 | eSATA ハードディスクが[ミラーディスクの保管]を行ったハードディスクです。<br>本製品では、内蔵ハードディスクを取り付けたまま、[ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクを接続して、内蔵および eSATA 両方のシステムを同時に起動させることはできません。 |
| 対処 | [電源]ボタンを「ピッ」と音がするまで押して、本製品の電源を切ります。<br>・内蔵ハードディスクから起動したい場合は、eSATA ミラーディスクを取り外した状態で本製品の電源を入れてください。<br>・eSATA ミラーディスクからシステムを起動する場合は、以下の個所を参照してください。<br>【ミラーディスクから復旧する】（119ページ）<br>・eSATA ミラーディスクをフォーマットし直して、通常の FAT や NTFS 形式のハードディスクに戻す場合は、eSATA ミラーディスクをパソコンに直接接続してフォーマットするか、あるいは、本製品のみで起動後、起動後に eSATA ミラーディスクを接続し、eSATA ミラーディスクを[ボリューム操作]画面で FAT32 にフォーマットしてください。 |

## どうしても起動停止状態となるため、本製品を起動できない

| | |
|---|---|
| 対処 | 起動停止状態の対処については、次ページを参照してください。<br><br>どうしても起動できなくなった場合は、以下の個所を参照してください。<br>【強制的に RAID を再構成する】（161ページ） |

## 使用中に[ACCESS]ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている

| | |
|---|---|
| 原因 | RAID 崩壊の状態です。 |
| 対処 | 前面の[COPY]ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、RAID の再構成を行ってください。<br>詳細は、以下の個所を参照してください。<br>【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】（160ページ） |

## 起動時に[ACCESS]ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている

| | |
|---|---|
| 原因 | 起動を停止している状態です。 |
| 対処 | 前面の[COPY]ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、以下の【起動停止状態を確認する】を参照してください。 |

### 起動停止状態を確認する

本製品起動時に、[STATUS]ランプが赤点滅、[ACCESS]ランプが赤点灯し、ブザーが「ピー」と鳴り続けている場合は、本製品が何らかの理由で起動停止している状態です。以下の手順で起動停止状態を確認し、原因・対処をご確認ください。

### STEP1 設定用パソコンのIPアドレスを一時的に変更する

本製品起動途中の場合、本製品は、「192.168.0.200」固定の IP アドレスで起動しています。
この時、パソコンから停止画面を開くには、、パソコン側も一時的に「192.168.0」と同じセグメントで「192.168.0.200」以外に設定する必要があります。
※ネットワーク内に DHCP サーバのあり、なしにかかわらず、本製品は「192.168.0.200」の固定の IP アドレスで起動しています。、

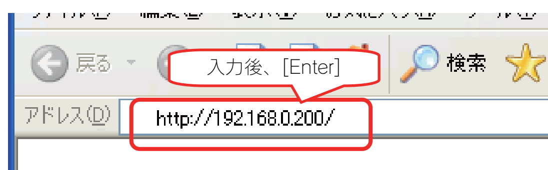
**1** パソコンの[IP アドレス][サブネットマスク]を一時的に以下の値に変更します。
[IP アドレス]・・・192.168.0.xxx
(xxx には 200 を除く 1～254 のいずれかの値)
[サブネットマスク]・・・255.255.255.0

パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない
⇒以下の個所を参照してください。
【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】(279ページ)

注意
●後で元の設定に戻しますので、必ず現在の[IP アドレス][サブネットマスク][デフォルトゲートウェイ][(ルータ) アドレス]などはメモしておいてください。
●停止画面を「Magical Finder」から開くことはできません。

### STEP2 停止画面を開く

**1** Web ブラウザを起動して下記を入力し、[Enter]キーを押します。
http://192.168.0.200/




**2** 停止画面が表示されます。
停止画面の内容に応じて各対処を行ってください。

▼「起動可能なハードディスクが接続されていません」と表示されている




| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品の各スロット、および eSATA ポート 1 に接続されているディスクで、システムを起動できるディスクが見つからないため、システムが起動できない状態になります。 |
| 対処 | 内蔵ハードディスクから起動する場合は、各スロットのカートリッジのスライドスイッチが[LOCK]状態となっているかご確認ください。<br>[ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクから起動する場合は、「[ミラーディスクの保管]を行ったディスク」の確認、[eSATA ポート1]の接続、および電源を確認してください。 |

▼「ハードディスク内のシステムの内容が一致していません」と表示されている

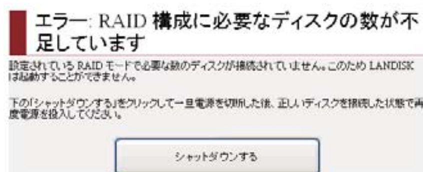



| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品のスロット、および eSATA ポート 1 に接続されているディスクで、システムの最終更新時刻が異なるディスクが接続されていると、起動するシステムを特定できないため、システムが起動できない状態になります。 |
| 対処 | 1.各カートリッジまたは SATA ポート 1 に接続されているディスクの最終更新時刻を確認し、最終更新時刻が異なるカートリッジを確認します。<br>2.一旦本製品をシャットダウンし、最終更新時刻が異なっていたカートリッジを取り外した状態で起動します。<br>3.本製品起動後、取り外していた HDD カートリッジを挿入し、スライドスイッチを LOCK へスライドさせて固定し、再構築されるかどうかご確認ください。 |

(次ページへ続く)

（前ページからの続き）

▼「RAID 構成に必要なディスクの数が不足しています」と表示されている




| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品の内蔵ボリュームを構成するために最低必要なディスクの台数が不足しています。 |
| 対処 | いったんシャットダウンし、各スロットのカートリッジの取り付けの確認、および eSATA ディスクの接続を確認してください。 |

▼「内蔵ディスクの接続スロットが違います」と表示されている




| | |
|---|---|
| 原因１ | 内蔵ボリューム１の設定が RAID5+FAT/NTFS と RAID1+0 の場合で、内蔵 HDD の接続するスロットに問題がある状態です。 |
| 対処 | RAID5+FAT/NTFS 設定時、スロット１，２，３に内蔵ボリューム構成ディスクが接続されている必要があります。<br>スロット１，２，３に内蔵ボリューム構成ディスク以外のディスクが接続されている、スロット４に内蔵ボリューム構成ディスクが接続されているなどの状態になります。<br>一旦シャットダウンし、スロット１，２，３に内蔵ボリュームを構成ディスクを接続してください。 |

| | |
|---|---|
| 原因２ | RAID1+0 設定時、ディスクセットはスロット１，２または３，４に接続されている必要があります。ディスクセットが、スロット２，スロット３に入っている場合など、正しい位置に接続されていない場合の状態になります。 |
| 対処 | いったんシャットダウンし、ディスクセット単位でスロット１，２またはスロット３，４に接続してください。 |

▼「RAID 崩壊モード」と表示されている




| | |
|---|---|
| 原因 | 内蔵システムディスク１台のみで起動した状態です。 |
| 対処 | いったんシャットダウンし、スロットすべてのカートリッジのスライドスイッチが[LOCK]となっているかご確認ください。<br><br>なお、[RAID 崩壊モードで起動する]ボタンについては、以下の個所を参照してください。<br>【強制的に RAID を再構成する】（161ページ） |

## 起動時、または起動中に[ACCESS]ランプが消灯しているカートリッジがある

| | |
|---|---|
| 原因 | カートリッジのスライドスイッチが「LOCK」されていない。<br>※「LOCK」したつもりでも「LOCK」されていない場合があります。<br>　スライドスイッチが確実に「LOCK」の位置になっていることを確認してください。<br>　また、[LOCK]の状態の場合でも、いったん[UNLOCK]に戻してから[LOCK]し直してください。 |
| 対処 | 本製品の電源を入れたまま、スライドスイッチを[LOCK]してください。<br>[ACCESS]ランプが青く点灯、または、青く点滅を開始します。<br><br>[LOCK]した後、そのカートリッジの[ACCESS]ランプが赤く点灯、または、赤く点滅した場合には、以下の個所を参照してください。<br>【◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル】（259ページ） |

| | |
|---|---|
| 原因 | RAID に組み込まれていないカートリッジ※を接続した状態でシステム起動した。<br>この場合、電源投入時は接続したカートリッジの[ACCESS]ランプは青点灯していますが、システム起動中に該当のカートリッジがの[ACCESS]ランプが消灯します。<br>※RAID に組み込まれていないカートリッジとは・・・<br>　FAT/NTFS フォーマットされたカートリッジ<br>　未フォーマットのカートリッジ<br>　新しいカートリッジ<br>　取り外し処理を行ったカートリッジ |
| 対処 | 本製品が起動している状態で、一旦そのカートリッジの取り外し操作　（スライドスイッチを「UNLOCK」）を行った後、再度取り付け操作（スライドスイッチ「LOCK」）を行う必要があります。<br>「LOCK」したあと、そのカートリッジの[ACCESS]ランプが赤点灯、または赤点滅した場合は、次の箇所を確認してください。【◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル】（259ページ）<br><br>また、あわせて本製品の設定画面を開き、ログ情報を確認してください。 |

# ◆セットアップ時のトラブル（ネットワークへの導入時）

## Mac と Windows が混在している環境の場合どのパソコンで設定したらよいですか？

| | |
|---|---|
| 対処 | 本製品は、本製品と同一ネットワーク内の１台のパソコンからすべての設定を行うことができます。<br>ご利用環境に、Windows と Mac OS のどちらもある場合は、一方のパソコンからすべての設定を行うことができますが、Windows パソコンから設定することをお勧めします。<br>Windows 環境では、添付ソフト「Magical Finder」を使用できますので、本製品の IP アドレスの情報を知らなくても、本製品の設定画面を開いたり、また、直接「Magical Finder」で本製品の IP アドレスの設定等を簡単に行うことができます。 |

## 現在のネットワーク環境に DHCP サーバーがあるかわからない

| | |
|---|---|
| 対処 | ご使用のネットワーク環境に、「ブロードバンドルーター」「ルーター機能付きの ADSL モデム」「Windows NT 系のサーバー」などがある場合は、これらの DHCP サーバー機能を使用している可能性があります。<br>以下の【方法１】あるいは【方法２】などの手順で確認できます。<br>方法１：パソコンの IP アドレスの設定で確認する（以下参照）<br>方法２：Windows 標準添付のツールを使って確認する（Windows のみ）（次ページ） |

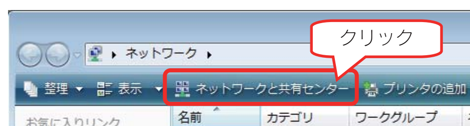
### 方法１：パソコンの IP アドレスの設定で確認する

すでにネットワーク内にあるインターネットなどに正常にアクセスできるパソコンの IP アドレスの設定で確認できます。
（IP アドレスの設定が” DHCP サーバーから取得する” 設定になっていて正常に LAN 内で使用できている場合は、ネットワーク内に DHCP サーバーがあります。）

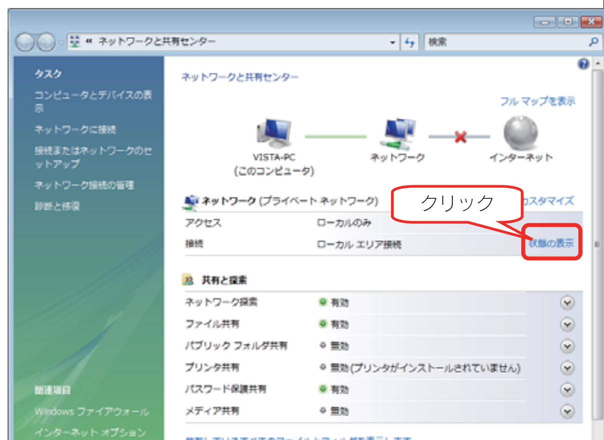
●Windows Vista®の場合

**1** [スタート]→[ネットワーク]をクリックします。

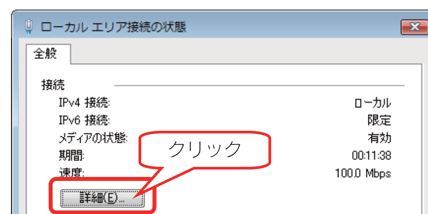
**2** [ネットワークと共有センター]をクリックします。



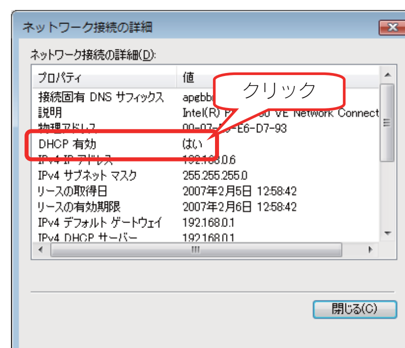

**3** [状態の表示]をクリックします。




**4** [詳細]をクリックします。




**5** [DHCP 有効]欄に[はい]と表示されていれば、DHCP サーバーがあります。

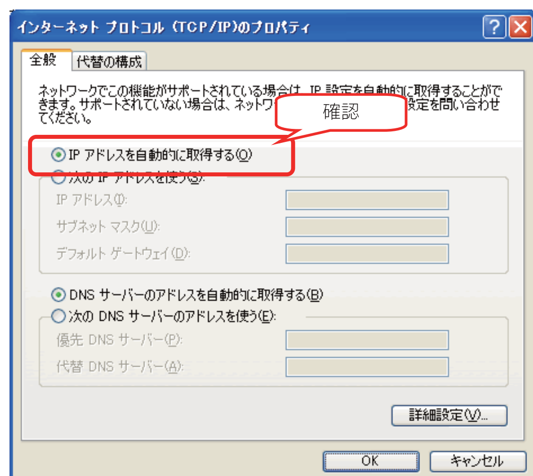


●Windows Vista®以外の OS の場合

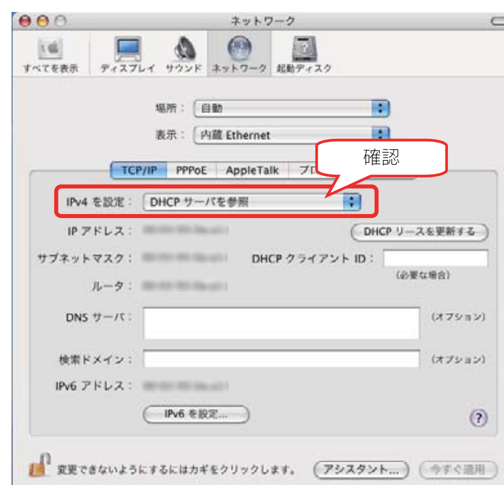
| | |
|---|---|
| **1** | パソコンの IP アドレスを確認できる画面を開きます。 |

| | |
|---|---|
| **2** | パソコンの IP アドレスの設定が、[IP アドレスを自動的に取得（する）]や[DHCP サーバを参照]となっている場合は、ネットワーク内に DHCP サーバーがあると考えられます。 |

▼Windows XP で DHCP サーバーを使用している場合




▼Mac OS X で DHCP サーバーを使用している場合



## 方法２：Windows 標準添付のツールを使って確認する（Windows のみ）

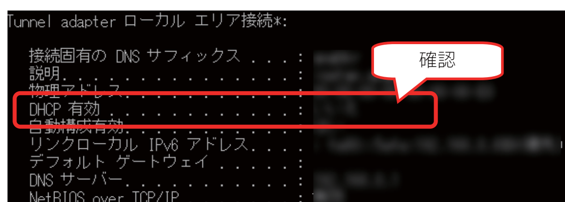
Windows 標準添付のツールで DHCP サーバーを利用しているかを確認できます。

### ●Windows Vista®の場合

**1** [スタート]→[（すべての）プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を開きます。

**2** IPCONFIG　– ALL
　（G と-の間にスペースが入ります）
と入力して[Enter]キーを押します。

**3** DHCP 有効の欄に「はい」が表示されている場合は、DHCP サーバーがあります。

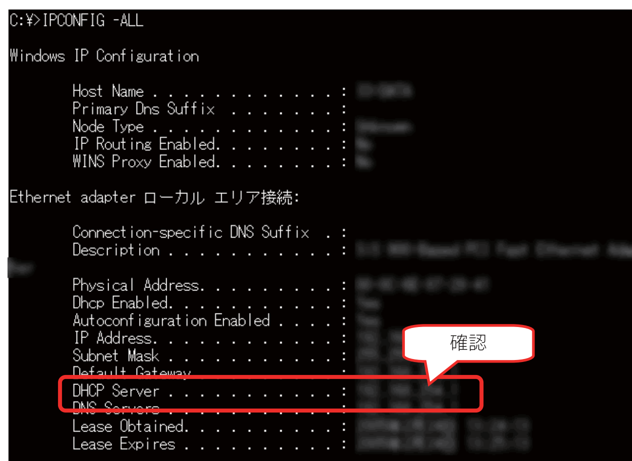



### ●Windows XP/2000 の場合

**1** [スタート]→[（すべての）プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を開きます。

**2** IPCONFIG　– ALL
　（G と-の間にスペースが入ります）
と入力して[Enter]キーを押します。

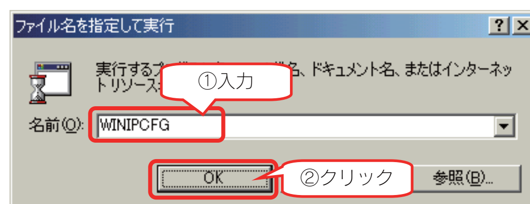
**3** [DHCP Server]欄にアドレス（DHCP サーバーのアドレス）が表示されていれば、DHCP サーバーがあります。



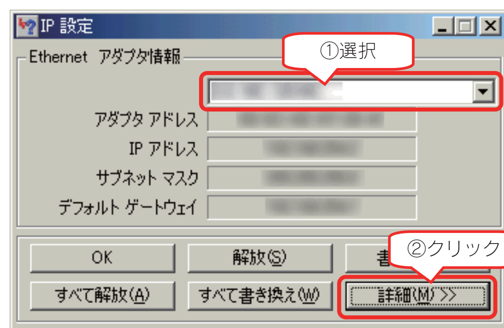

### ●Windows Me/98 の場合

**1** [スタート]→[ファイル名を指定して実行]を開きます。

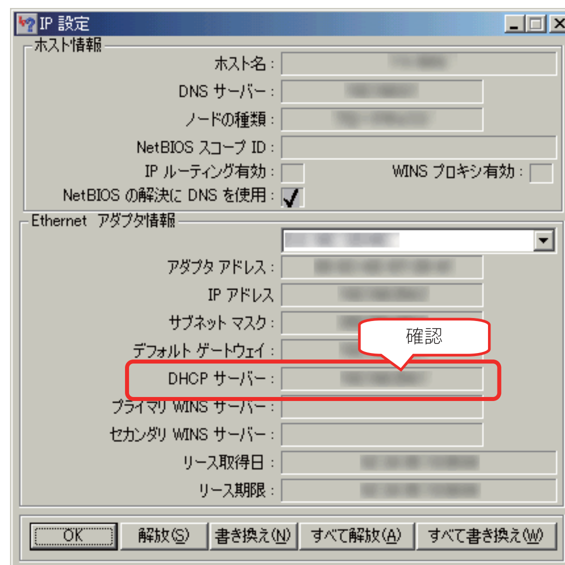
**2** [名前]欄に[WINIPCFG]と入力して[OK]ボタンをクリックします。




**3** ご使用の LAN アダプター名を選択し、[詳細]ボタンをクリックします。




**4** [DHCP サーバー]欄に IP アドレスが表示されていれば、DHCP サーバーがあります。



## （Windows）
## [Magical Finder]で本製品が検索されない

| 原因 | 接続が正しく行われていない。 |
|---|---|
| 対処 | 本製品の電源が入っているか（[POWER]ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の[ACT/LINK]ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。<br>【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】（239ページ）<br>本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。 |

| 原因 | セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。 |
|---|---|
| 対処 | セキュリティ関連のソフトウェア（ファイヤーウォールソフト）の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しください。<br>また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、「MagicalFinder」をファイヤーウォールソフトの除外設定を行うと、 ファイヤーウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。<br>（詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください）。 |

| ＜参考：WindowsXP ServicePack2 の Windows ファイヤーウォール機能の除外設定＞ | |
|---|---|
| ① | あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。<br>1)添付の CD-ROM をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。<br>2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを<br>行ってください。 |
| ② | [スタート]→[コントロールパネル]→[セキュリティセンター]を開きます。 |
| ③ | 一番下の「Windows ファイヤーウォール」をクリックします。 |
| ④ | [例外]タブをクリックし、[プログラムの追加]ボタンをクリックします。 |
| ⑤ | 一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。 |
| ⑥ | 「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。 |

以上で WindowsXPSP2 のファイヤーウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。
[スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finder が起動し、本製品が検索されます。
設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。

| 原因 | 本製品が再起動中である。 |
|---|---|
| 対処 | 本製品が起動するまで（[STATUS]ランプが緑色に点灯※するまで）お待ちください。<br>※DHCP サーバーの無いネットワークにはじめて接続した場合は、赤く点滅します。 |

## DHCP サーバーがあるのに、STATUS ランプが赤く点滅している

| | |
|---|---|
| 原因 | 正しく接続されていない。 |
| 対処 | 一旦本製品の電源ボタンを押して電源を切り、LAN ケーブルが正しく接続されていることを確認してから、再度電源を入れてください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | DHCP サーバーから本製品の IP アドレスが取得できていない。<br>※本製品の DHCP クライアント設定が on(出荷時設定)に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、STATUS ランプが赤く点滅します。 |
| 対処 | 接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。<br>※DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、固定の IP アドレス：192.168.0.200　に設定されます。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | DHCP サーバーがない環境で使用している、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。 |
| 対処 | 本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。<br>【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（19ページ）<br>【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（30ページ） |

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品が取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続された。 |
| 対処 | 本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、接続に失敗したことを STATUS ランプの赤点滅で表示します。この場合は該当する USB 機器を本製品から取り外してください。しばらくすると緑点灯に変わります。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 内蔵ボリュームにエラーが発生した。 |
| 対処 | [ボリューム情報]画面で、内蔵ボリュームの状態を確認してください。 |

## [ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクから起動できない

| | |
|---|---|
| 原因 | eSATA ハードディスクの電源が入っていない。 |
| 対処 | eSATA ハードディスクの電源ケーブルをご確認ください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | [eSATA ポート 1 ]に接続されていない。 |
| 対処 | eSATA ハードディスクか起動するには、[eSATA ポート 1 ]に接続する必要があります。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | [ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクでない。 |
| 対処 | [ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクかをご確認ください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 内蔵ハードディスク（カートリッジ）が取り付けられたままとなっている。 |
| 対処 | 内蔵ハードディスクがある場合に、[ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクから起動することはできません。<br>本製品の電源を切った後、カートリッジをすべて取り外してください。 |

## （Mac OS）<br>パソコンに直接接続した後、本製品の設定画面が表示されない

| 原因 | 接続が正しく行われていない。 |
|---|---|
| 対処 | 本製品の電源が入っているか（[POWER]ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の[ACT/LINK]ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。<br>【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】（239ページ）<br>本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。 |

| 原因 | 本製品の IP アドレスとパソコンの IP アドレスの設定があっていない。 |
|---|---|
| 対処 | パソコンと本製品を直接接続して設定画面を開くには、以下の設定にする必要があります。 |

| | |
|---|---|
| ① | 本製品の STATUS ランプを確認してください。<br>・赤く点滅している場合<br>本製品の IP アドレスは 192.168.0.200 に設定されています。<br>パソコンの IP アドレスを 192.168.0.xxx に設定します。<br>設定方法は、次の②の手順をご覧ください。<br>・緑色に点灯している場合<br>本製品の IP アドレスは、設定画面で設定した値に設定されています。<br>本製品に設定した IP アドレスにあわせてパソコンの IP アドレスを設定します。<br>設定方法は、次の②の手順をご覧ください。<br>本製品の IP アドレスが分からない場合は、以下の個所を参照してください。<br>【本製品に設定した IP アドレスを忘れた】（237ページ） |
| ② | パソコンの IP アドレスを設定します。<br>本製品の IP アドレスと同じセグメントのアドレスに設定します。<br>例）本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合・・・パソコンの IP アドレスは 192.168.0.123 などに設定します。<br>パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、以下の個所を参照してください。<br>【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】（260ページ） |
| ③ | IP アドレスを設定できましたら、InternetExplorer を起動し、アドレス欄に以下を入力して開きます。<br>http://192.168.0.200/　※本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合<br>本製品の IP アドレスを変更されている場合は、変更した IP アドレスを入力してください。 |

| 原因 | セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。 |
|---|---|
| 対処 | セキュリティ関連のソフトウェアのファイヤウォール機能により制限されている場合があります。<br>ファイヤウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイヤウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。<br>なお、ファイヤウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問合せください。 |

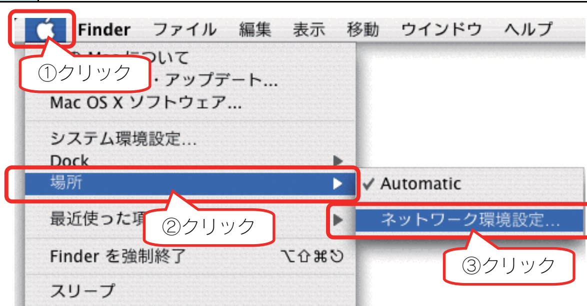
| 原因 | 以前に設定した本製品の IP アドレスが間違っている、あるいは、正しく設定していなかった。 |
|---|---|
| 対処 | RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定（192.168.0.200）に戻してください。<br>【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】(156ページ)参照<br><br>出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。<br>【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】(30ページ) |

| 原因 | Web ブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。 |
|---|---|
| 対処 | ブラウザがプロキシサーバを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。<br>ブラウザの設定でプロキシサーバを使わない設定にしてください。<br>注意 本製品の設定終了後は、プロキシ設定を元に戻してください。<br>以下の個所を参照してください。 |

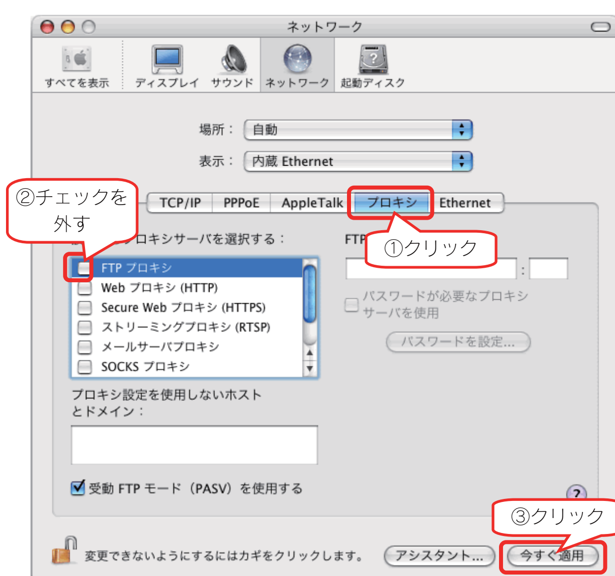
## Mac OS でプロキシサーバ設定を無効にする設定

### ●Mac OS Xの場合

**1** [アップルメニュー]→[場所]（または[ネットワーク環境]）→[ネットワーク環境設定…]を選択します。




**2** [プロキシ]タブをクリックし、以下の設定を行います。




**3** 設定後、左上の(×)をクリックして画面を閉じます。

以上で設定は完了です。

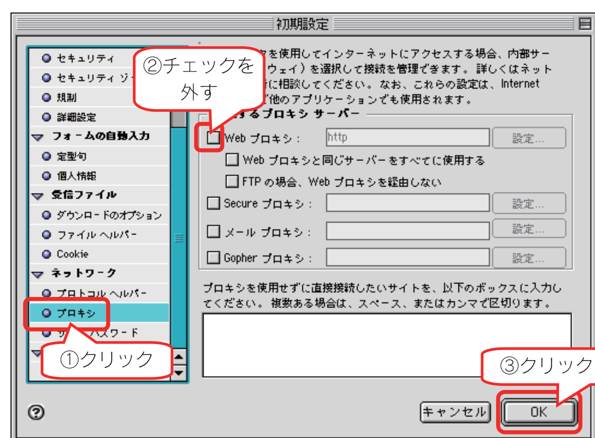
### ●Mac OS（Classic）の場合

**1** Internet Explorer を起動します。

**2** [編集]→[初期設定…]を選択します。

**3** [ネットワーク]の[プロキシ]を選択します。

**4** 以下の設定を行います。




以上で設定は完了です。

## パソコンと LANDISK 本体を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している

| | |
|---|---|
| 原因 | はじめて本製品をパソコンに接続した。 |
| 対処 | パソコンにはじめて直接接続した場合、STATUS ランプが赤く点滅します。<br>設定画面で、本製品の IP アドレスを固定に設定し、電源ボタンで一度本製品の電源を切り(シャットダウン)後、再度本製品の電源を入れれば、STATUS ランプが緑色に点灯します。 |

## [LANDISK の名前]を変更したい

| | |
|---|---|
| 対処 | 以下の個所を参照してください。 |

# [LANDISK の名前]の変更手順

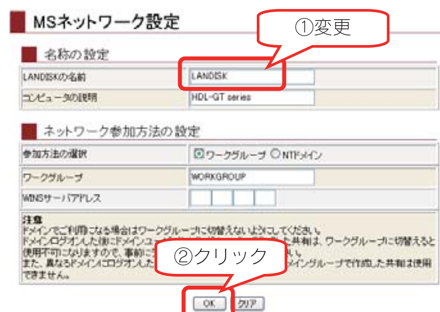
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。




**2** [メニュー]の[ネットワーク]→[MS ネットワーク設定]を順にクリックします。




**3** [LANDISK の名前]の項目で、[LANDISK の名前]を変更できます。




| | |
|---|---|
| LANDISK の名前 | ネットワーク上（[マイネットワーク]あるいは[ネットワークコンピュータ]など）に表示される本製品の名称です。<br><br>※変更する場合は、必ずメモしてください。<br>※使用できる文字には制限があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）を参照してください。 |

**4** 設定された内容を確認後、Web ブラウザを閉じてください。

**結果**

Microsoftネットワーク設定

| | |
|---|---|
| LANDISKの名前 | LANDISK1 |
| コンピュータの説明 | HDL-GT series |
| ワークグループ/ドメインの選択 | ワークグループ |
| ワークグループ名 | WORKGROUP |
| WINSサーバアドレス | |

これで設定は完了です。

## ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない

| | |
|---|---|
| 原因 | 接続が正しく行われていない。 |
| 対処 | 本製品の電源が入っているか（[POWER]ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の[ACT/LINK]ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。<br>本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 接続先のネットワーク機器の電源が入っていない。 |
| 対処 | 本製品接続先のネットワーク機器（ルーターやハブなど）の電源が入っているかご確認ください。 |

## ファイアウォールソフトで、LANDISK に対してアクセスを許可させたい場合、どのポート番号で設定すればよいかわからない

| | |
|---|---|
| 対処 | 137～139 番、445 番のポートに対してアクセスを許可する設定を行ってください。<br>詳しい設定方法については、アプリケーションメーカーにご確認ください。 |

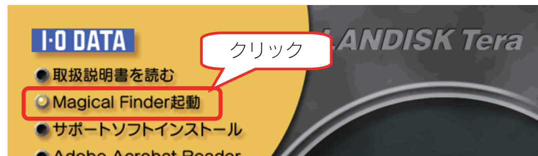
## パソコンの IP アドレスがわからない

| | |
|---|---|
| 対処 | パソコンの IP アドレスは以下の方法で確認することができます。<br><br>・Windows の場合<br>添付ユーティリティ「Magical Finder」で確認することができます。以下の個所を参照してください。<br>【Windows パソコンの IP アドレスの確認】(次ページ)参照<br>・Mac OS Xの場合<br>OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。以下の個所を参照してください。<br>【Mac OS Xパソコンの IP アドレスの確認】(241ページ)参照<br>・Mac OS 8.1～9.2.2 の場合<br>OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。以下の個所を参照してください。<br>【Mac OS 8.1～9.2.2 パソコンの IP アドレスの確認】(242ページ)参照 |

## Windows パソコンの IP アドレスの確認

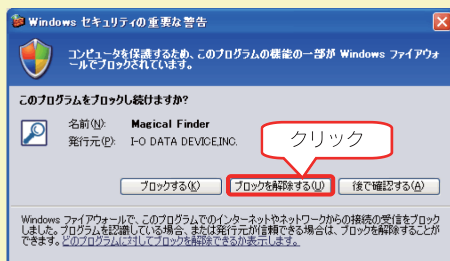
Windows パソコンの IP アドレスは、添付ユーティリティ「Magical Finder」で確認することができます。

**1** 添付 CD-ROM をセットし、起動してきたサポートソフトメニューの[Magical Finder 起動]をクリックすれば、「Magical Finder」が起動します。




注意

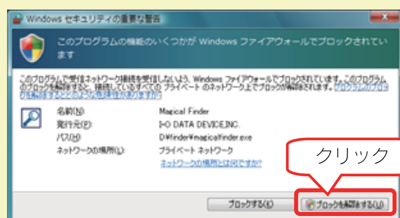
●Windows XP SP2 をお使いで以下の画面が表示された場合は、[ブロックを解除する]をクリックしてください。




●Windows Vista®をお使いで、CD-ROM を挿入すると、以下の画面が表示された場合、[Autorun.exe の実行]をクリックしてください。

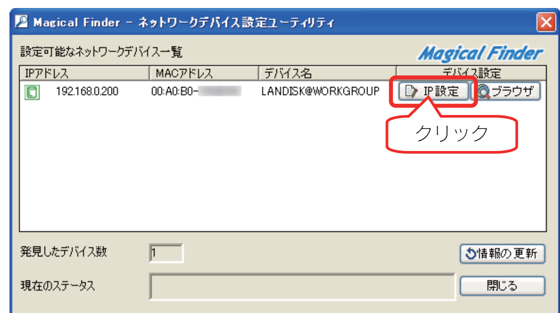



●Windows Vista®をお使いで、以下の画面が表示された場合、[ブロックを解除する]をクリックしてください。




サポートソフトメニューが表示されていない場合
①[マイコンピュータ]を開きます。
※Windows Vista®では[スタート]→[コンピュータ]をクリックします。
②HDL-GTRxxx|※アイコンをダブルクリックします。
※xxx にはサポートソフトのバージョンが表示されます。
(サポートソフトメニューが表示されない場合は、さらに[Autorun.exe]アイコンをダブルクリックしてください。)

**2** 自動で本製品が検索されますので、[IP 設定]ボタンをクリックします。
※本製品の電源が ON になってから、検索されるまでに約 1 ～2 分かかる場合があります。

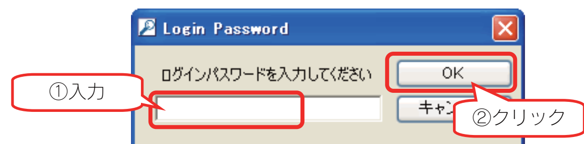





本製品が検索されない！

対処１：30 秒ほど待ってから[情報の更新]ボタンをクリックしてください。
対処２：以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の234ページ

**3** 管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、[OK]ボタンをクリックします。

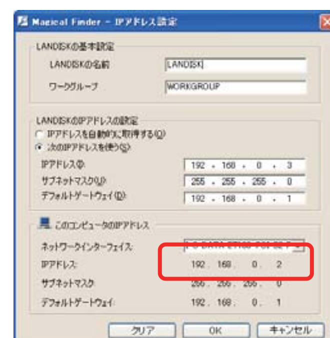





「パスワードが間違っています。」と表示された！

対処：[OK]ボタンをクリック後、以下の個所を参照してください。
【困ったときには】の254ページ

**4** 表示された[IP アドレス設定]画面の[このコンピュータの IP アドレス]で確認できます。

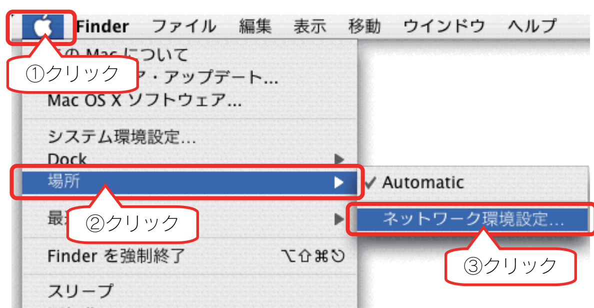



以上で確認は、終了です。

## Mac OS Xパソコンの IP アドレスの確認

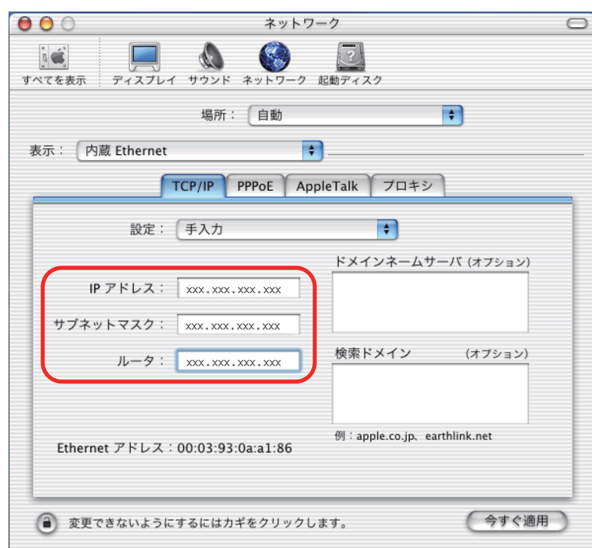
Mac OS Xパソコンの IP アドレスは、OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。

**1** [アップルメニュー]→[場所]（または[ネットワーク環境]）→[ネットワーク環境設定…]を選択します。



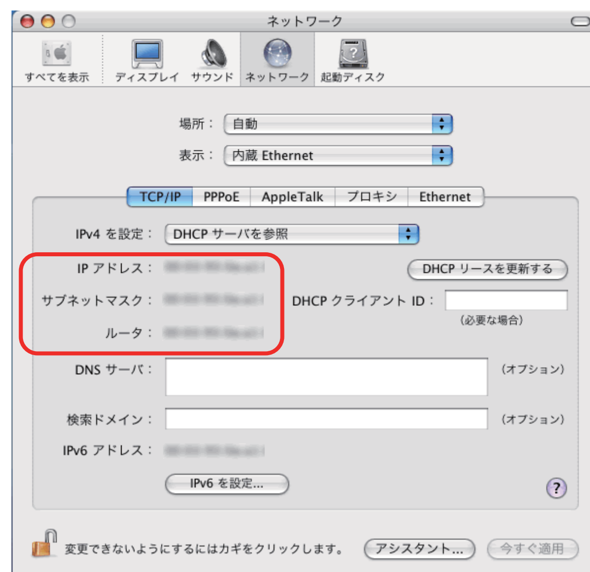

**2** [ネットワーク]画面が表示されます。
[表示：]から[内蔵 Ethernet]または[Ethernet]を選択します。
表示された画面の[TCP/IP]タブで現在の IP アドレスの設定を確認できます。
ただし、固定の IP アドレスで使用している場合と、DHCP サーバを利用している場合では設定が異なります。

▼IP アドレスを固定で使用している場合




表示されている[IP アドレス][サブネットマスク]がパソコンに設定されている値です。

▼DHCP サーバを使用している場合




表示されている[IP アドレス][サブネットマスク]がパソコンに設定されている値です。

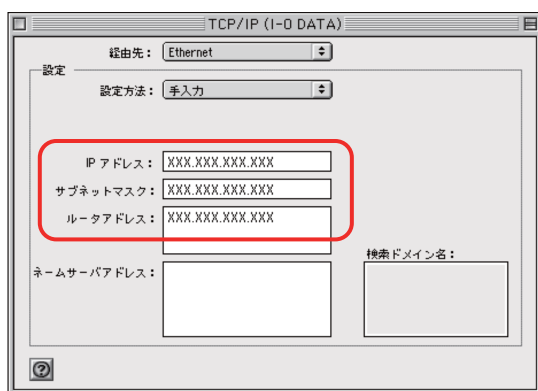
DHCP サーバーご利用は、通常、[IPv4 を設定]（または[設定]）で[DHCP サーバを参照]を選択します。
表示されている[IP アドレス][サブネットマスク]は、パソコンがDHCP サーバーより取得した（DHCP サーバーから割り当てられた）値です。

## Mac OS 8.1～9.2.2 パソコンの IP アドレスの確認

Mac OS 8.1～9.2.2 パソコンの IP アドレスは、OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。

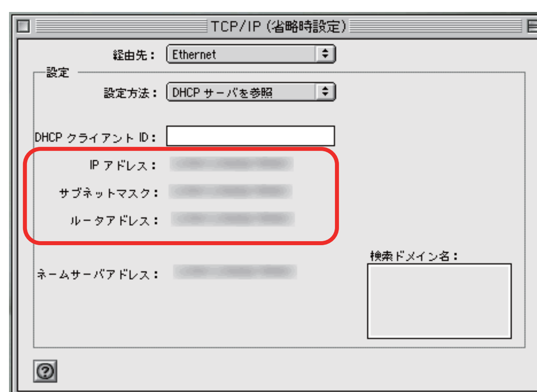
| | |
|---|---|
| **1** | [アップルメニュー]→[コントロールパネル]内の[TCP/IP]をクリックします。 |
| **2** | [TCP/IP]画面が表示されます。<br>[経由先]から[Ethernet]または[内蔵 Ethernet]を選択します。<br>表示された画面で現在の IP アドレスの設定を確認できます。ただし、固定の IP アドレスで使用している場合と、DHCP サーバを利用している場合では設定が異なります。 |

▼IP アドレスを固定で使用している場合




表示されている[IP アドレス][サブネットマスク]がパソコンに設定されている値です。

▼DHCP サーバを使用している場合




表示されている[IP アドレス][サブネットマスク]がパソコンに設定されている値です。

DHCP サーバーご利用は、通常、[IPv4 を設定]（または[設定]）で[DHCP サーバを参照]を選択します。

表示されている[IP アドレス][サブネットマスク]は、パソコンが DHCP サーバーより取得した（DHCP サーバーから割り当てられた）値です。

# ◆本製品へアクセス時のトラブル

## 「LANDISK」のアイコンを開いたり、共有フォルダを開こうとすると、「アクセス権限が無い」とエラーが表示されたり、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示される

| | |
|---|---|
| 原因 | 共有フォルダにアクセス権限の設定を行っていて、本製品に登録したユーザ名、パスワードと、パソコンからログオンしたユーザ名とパスワードが一致していない。 |
| 対処 | ネットワークログイン時に入力する[ユーザ名]、[パスワード]と本製品に登録したユーザの[ユーザ名]、[パスワード]が一致するように、本製品とパソコンの設定をご確認ください。<br>パソコンの設定については、次を確認してください。<br><br>▼Windows Vista®/XP/2000 の場合<br>OS 側にユーザ登録しなおします。<br>ユーザ登録されていない場合には、本製品に登録した[ユーザ名][パスワード]と同じユーザアカウントを作成してください。<br><br>▼Windows Me/98 の場合<br>Windows 起動時の[ネットワークパスワードの入力]画面で、本製品に登録したユーザ名、パスワードを入力してください。<br><br>▼Mac OS X の場合<br>[移動]→[サーバへ接続…]で本製品の IP アドレスを設定後、[接続]ボタンをクリックした際に表示される画面で、[登録ユーザ]を選択し、[名前]と[パスワード]に本製品に登録した[ユーザ名]と[パスワード]を入力してください。<br><br>▼Mac OS 8.1～9.2.2 の場合<br>[アップルメニュー]→[セレクタ]→[AppleShare]→[landisk]を選択し、[接続]ボタンをクリックした際に表示される画面で、[登録利用者]を選択し、[名前]と[パスワード]に本製品に登録した[ユーザ名]と[パスワード]を入力してください。 |

## Mac OS(バージョン問わず)から書き込んだファイルを Windows から削除すると、本製品の共有へ Mac OS からファイル保存ができなくなる

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品のシステムに採用されている Windows サービスと Macintosh サービス間のファイル保存情報に不整合が生じるため。 |
| 対処 | Mac OS のデスクトップ上にマウントした共有を一度、ゴミ箱へ捨て再度、Finder(Mac OS X)、またはネットワークブラウザ(Mac OS)から本製品の共有へアクセスしてください。 |

## (Mac OS 9)<br>フォルダ名やファイル名が文字化けする、あるいは開けない

| | |
|---|---|
| 原因 | Mac OS 9 で正しく表示できないファイル（フォルダ）名を使用している。<br>【文字制限一覧】（189ページ）参照 |
| 対処 | Mac OS 9 以外の OS で、一般的な文字のファイル（フォルダ）名に変更すると表示できます。 |

## LANDISK にアクセスできないパソコンがある（他のパソコンからは既に LANDISK にアクセスできている場合）

| 対処 | 既に別のパソコンが LANDISK にアクセスできている場合、LANDISK 自体の動作､設定には問題がないため、LANDISK 自体の設定変更を行う必要はありません。<br>LANDISK に接続できないパソコンで以下の点をご確認ください。 |
|---|---|
| | ▼Windows の場合<br>「コンピュータの検索」にて LANDISK の名前ではなく、本製品に設定されている IP アドレスで検索を行ってみてください。<br><br>●IP アドレスの検索で見つかる場合<br>TCP/IP で正しく通信できていますので、IP アドレス設定は正常です。<br>また、検索の結果表示された共有フォルダへのアクセスをお試しください。<br><br>●IP アドレスの検索で見つからない場合<br>検索した IP アドレスが LANDISK に設定されたものではない、または IP アドレスが正しく設定されていない可能性があります。以下の点をご確認ください。<br><br>＜本製品の IP アドレスに PING を実行する＞<br>①MS-DOS プロンプト（コマンドプロンプト）を起動します。<br>・Windows98 の場合<br>「スタート」-「プログラム」-「MS-DOS プロンプト」を起動します。<br>・WindowsMe の場合<br>「スタート」-「プログラム」-「アクセサリ」-「MS-DOS プロンプト」<br>・Windows Vista®/XP/2000 の場合<br>「スタート」-「プログラム（すべてのプログラム）」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」を起動します。<br>②「ping」と入力し、スペースを 1 文字あけてから、本製品の IP アドレスを入力し Enter キーを押します。<br>入力例）　C:\xxxxx>ping　192.168.0.200　[Enter]<br>③応答メッセージが表示されますので、メッセージ内容によりそれぞれの対処をご確認ください。<br><br>＜「Reply from・・・」と応答があった場合＞<br>OS のファイル共有サービスが正しく動作していない可能性があります。<br>お使いの LAN アダプターのドライバーを再インストールしてみてどうかお試しください。<br>また、WindowsMe/98 の場合は、ネットワーク構成の再インストールもお試しください。<br>【Windows Me/98 のネットワーク構成を入れ直す】（次ページ）<br><br>＜「Request time out」と応答があった場合＞<br>・本製品の IP アドレスが、パソコンの IP アドレスと同じセグメントの IP アドレスになっているかを確認してください。<br>Windows パソコンの場合、[MagicalFinder]より確認することができます。<br>【本製品に設定されている IP アドレスを調べたい】（255ページ）<br>・ファイヤーウォールソフトがインストールされている場合には、一時的に機能を無効にしてみてどうかご確認ください。 |
| | ▼Macintosh の場合<br>【[Landisk]が見つからない、もしくは、接続できない】（249ページ）の対処をご確認ください。 |

## 本製品にネットワーク経由で接続するパソコンの台数に制限はありますか？

| 対処 | 本製品にネットワーク経由で接続可能な端末数について、Windows では制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。<br><br>・Windows パソコンの場合：推奨する同時接続台数は１６台まで<br>（ネットワークドライブの割り当ても同様です。）<br>・Mac OS パソコンの場合：推奨する同時接続台数は８台まで（最大１６台まで） |
|---|---|

## Windows Me/98 のネットワーク構成を入れ直す

ネットワークの構成を以下の手順で設定し直した後、ネットワーク参照をご確認ください。

**1** [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[ネットワーク]を開きます。

**2** [ネットワーク]画面に表示される内容を次の種類順に削除してください。

注意
削除する順番が異なると、ネットワークがうまく構成し直せなくなる場合がありますので、必ず次の順で削除してください。。

① サービスをすべて削除します。
[Microsoft ネットワーク共有サービス]など[xxxx 共有サービス]という名称のものが該当します。
サービスの削除後は、[ネットワーク]画面で[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。その後、Windows の再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

② クライアントをすべて削除します。
[Microsoft ネットワーククライアント]、[Microsoft ファミリログオン]など[xxxx クライアント]という名称のものが該当します。
[コントロールパネル]→[ネットワーク]を開いて、クライアントをすべて削除します。サービスの削除後は、[ネットワーク]画面で[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。
その後、Windows の再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

③ プロトコルをすべて削除します。
[TCP/IP (TCP/IP->xxxx) ]、[NetBEUI (NetBEUI->xxxx) ]、[IPX/SPX (IPX/SPX->xxxx) という名称のものが該当します。
プロトコルの削除後は、[ネットワーク]画面で[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。
その後、Windows の再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

**3** [コントロールパネル]→[ネットワーク]を開くと、アダプタ関連が残ります。
その状態になりましたら、お客様が接続するネットワーク環境に必要なものを以下の順に追加を行います。

① クライアントとプロトコルを追加します。
※クライアントを追加すると、プロトコルも一緒に追加されます。
追加する方法は、以下の通りです。

1)[追加]ボタンをクリックします。
2)[クライアント]をクリック後、[追加]ボタンをクリックします。
3)[製造元]で[Microsoft]を選択し、[クライアント]で必要なプロトコルの名称 ([Microsoft ネットワーククライアント]など) をクリックし選択します。
4)[OK]ボタンをクリックします。
5)クライアントとプロトコルが追加されたことを確認します。

② サービスを追加します。
追加する方法は、以下の通りです。

1)[追加]ボタンをクリックします。
2)[サービス]をクリック後、[追加]ボタンをクリックします。
3)[製造元]で[Microsoft]を選択し、[サービス]で必要なサービスの名称([Microsoft ネットワーク共有サービス]など) をクリックし選択します。
4)[OK]ボタンをクリックします。
5)サービスが追加されたことを確認します。

**4** [優先的にログオンする]は、上記にて追加し直したクライアントを選択してください。

**5** 以上の設定を行って再起動した際、ネットワークへのログオン画面が表示されると思います。ここでは、キャンセルせずに必ず[OK]ボタンをクリックしてください。(パスワードは未入力でも可)

# ◆本製品へアクセス時のトラブル（Windows）

## [コンピュータの検索]で[Landisk]が見つからない

| | |
|---|---|
| 原因 | 共有サービスが有効になっていない。 |
| 対処 | 設定画面の[メニュー]→[ネットワーク]→[共有サービス設定]（201ページ）で、「Microsoft ネットワークファイル共有」にチェックが入っていることを確認してください。<br>また、[メニュー]→[共有管理]→[共有フォルダ管理]（204ページ）より、アクセスしたい共有フォルダの「Microsoft ネットワークファイル共有」が有効になっていることもご確認ください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | ネットワークの参照に時間がかかっている。 |
| 対処 | [表示]メニュー→[最新の情報に更新]をクリックしてください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品がネットワークに正しく接続されていない。 |
| 対処 | 本製品の電源が入っているか（[POWER]ランプが点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の[ACT/LINK]ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。<br>(本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。) |

| | |
|---|---|
| 原因 | ファイアウォール系のソフトウェアを使用している。 |
| 対処 | ファイアウォール系のソフトウェアで、本製品のコンピュータ名（初期値は「Landisk」）や本製品の IP アドレス（初期値は「192.168.0.200」）を使用できるように設定してください。<br>詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品の IP アドレスを変更後、検索しようとしている。 |
| 対処 | パソコンを一度再起動する必要があります。<br>Windows が以前の情報を保持しているため、再起動で保持している情報を一度クリアする必要があるからです。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | （Windows Me）<br>ユーザ名が正しくない。 |
| 対処 | 以前にログオンしたことのあるユーザ名で、パスワードを追加する、あるいは、パスワードを変更してログオンするなどした場合は、ネットワークに正しくログオンできません。（Windows　Me は以前のログオンユーザ情報を記憶しています。）<br>正しいユーザ名、パスワードでログオンしていない場合、Windows Me では本製品が検索できません。<br>一度ログオフ（[スタート]メニュー→[ｘｘｘｘｘのログオフ]をクリック）してから、以前に正しくログオンできていたユーザ名、パスワードでログオンするか、別のユーザ名でログオンしてください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | （Windows Me/98）<br>ネットワークにログオンしていない。 |
| 対処 | ネットワークにログオンしていないと本製品を検索できません。<br>[スタート]メニューをクリックし、「ｘｘｘｘｘｘｘのログオフ」<br>（ｘｘｘｘｘｘｘにはログオン時のユーザ名が表示されます。）<br>と表示されるかご確認ください。<br>ログオンしていない場合は、[ログオフ]のみ表示されます。<br>ログオンしていない場合は、[ログオフ]をクリックし、正しい[ユーザー名][パスワード]でログオンしてください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | Windows のネットワーク機能が不安定なため、ネットワーク参照が正しく行えない。 |
| 対処 | ▼Windows Me/98 で見つからない場合<br>→【Windows Me/98 のネットワーク構成を入れ直す】（前ページ)をご覧ください。<br><br>▼Windows XP/2000 で見つからない場合<br>→ ・設定画面が開けることをご確認ください。<br>・LAN アダプタが正常に認識されていることをご確認ください。（詳しくは、各 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。） |

| | |
|---|---|
| 原因 | パソコン側の名前解決がうまくいっておらず、[LANDISK](コンピュータ名)の文字での検索では検索されない。 |
| 対処 | 本製品に設定されている IP アドレス（出荷時は、192.168.0.200）を入力して検索してみてください。<br>①本製品の IP アドレスを入力<br>②クリック<br>※本製品の IP アドレスは、「Magical Finder」で確認することができます。<br>表示されている[IP アドレス]が本製品の IP アドレスです。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | お使いのネットワークの IP アドレスのセグメントが本製品の IP アドレスと異なっている。 |
| 対処 | ▼ブロードバンドルーターなどの DHCP サーバをお使いの環境の場合<br>→一旦本製品の電源を入れ直していただき、再度検索できるかどうかお試しください。<br><br>▼DHCP サーバがない場合<br>→本製品の IP アドレスをお使いのネットワークに合った IP アドレスに変更してください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | すでに LANDISK※1 を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の[LANDISK の名前]を変更していない。<br>※1 HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR.、HDL-AV の各シリーズ |
| 対処 | 本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LANDISK と併用する場合など、LANDISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の[LANDISK の名前]を、すでに導入済みの LANDISK と重複しない名前に変更する必要があります。<br>設定方法は、以下の個所を参照してください。<br>【[LANDISK の名前]を変更したい】（238ページ）<br><br>※本製品の出荷時の[LANDISK の名前]は、LANDISK 共通の”LANDISK”となっています。<br>ネットワーク導入時に、他の LANDISK の[LANDISK の名前]を出荷時設定の”LANDISK”のまま変更していない場合は、本製品の[LANDISK の名前]を変更する必要があります。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品とお使いのパソコンのワークグループ名が異なる。 |
| 対処 | 本製品とパソコンのワークグループ名を一致するように設定してください。<br><br>・本製品のワークグループ名・・・設定画面の「メニュー」→[ネットワーク]→[MS ネットワーク設定]（202ページ）参照<br>・パソコンのワークグループ名・・・【Windows パソコンの[ワークグループ名]がわからない】（276ページ）参照 |

## Windows 上から本製品を参照した場合に、見覚えのないフォルダやファイルがある

| | |
|---|---|
| 原因 | Mac OS で、フォルダを作成したりファイルをコピーした。 |
| 対処 | Mac OS で、フォルダを作成したりファイルをコピーした際は、作成したファイル（フォルダ）の他に、別のファイル（フォルダ）が作成されます。（例：「.AppleDouble、「.AppleDB」など、Windows 上から見ると、見覚えの無いファイル、フォルダになります。）<br>このファイル（フォルダ）には、Mac OS ユーザ用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | アプリケーションが作業中に作成・削除した。 |
| 対処 | アプリケーションによっては、作業ファイルを作成・削除するものがあります。<br>そのため、[ごみ箱]フォルダにファイルやフォルダがある場合があります。 |

## Windows Vista®/XP/2000 のパソコンからユーザー権限共有フォルダにログオンしようとすると、エラーメッセージが出てきてログオンができない

| | |
|---|---|
| 原因 | LANDISK に登録したユーザ名・パスワードと、Windows のパソコンに登録したユーザ名とパスワードが 一致していない可能性が考えられます。 |
| 対処 | LANDISK に登録したユーザー名・パスワードを、Windows のパソコンでも作成し、OS ログイン時にそのユーザー名・パスワードを使ってログインしてください。 |

## [Magical Finder]で本製品が検索されない

| | |
|---|---|
| 原因 | 接続が正しく行われていない。 |
| 対処 | 本製品の電源が入っているか（[POWER]ランプが点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の[ACT/LINK]ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。<br>(本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。) |

| | |
|---|---|
| 原因 | 検索に時間がかかっている。 |
| 対処 | 30 秒ほど待ってから、[情報の更新]ボタンをクリックしてください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。 |
| 対処 | セキュリティ関連のソフトウェア（ファイヤーウォールソフト）の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しください。<br>また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、「MagicalFinder」をファイヤーウォールソフトの除外設定を行うと、 ファイヤーウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。<br>（詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください）。 |

| <参考：WindowsXP ServicePack2 の Windows ファイヤーウォール機能の除外設定> | |
|---|---|
| ① | あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。<br>1)添付の CD-ROM をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。<br>2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインス<br>トールを行ってください。 |
| ② | [スタート]→[コントロールパネル]→[セキュリティセンター]を開きます。 |
| ③ | 一番下の「Windows ファイヤーウォール」をクリックします。 |
| ④ | [例外]タブをクリックし、[プログラムの追加]ボタンをクリックします。 |
| ⑤ | 一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。 |
| ⑥ | 「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。 |

以上で WindowsXPSP2 のファイヤーウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。
[スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finder が起動し、本製品が検索されます。
設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品が再起動中である。 |
| 対処 | 本製品が起動するまで（[STATUS]ランプが緑色に点灯※するまで）お待ちください。<br>※DHCP サーバの無いネットワークにはじめて接続した場合は、点滅します。 |

## LANDISK の検索を行うと「プリンタと FAX」（「プリンタ」）のアイコンが出ますが削除はできますか？

| | |
|---|---|
| 対処 | 削除することはできません。 |

# ◆本製品へアクセス時のトラブル（Macintosh）

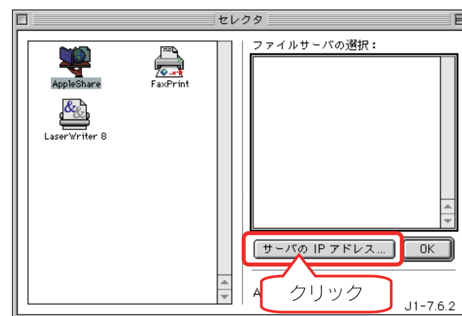
## [Landisk]が見つからない、もしくは、接続できない

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品がネットワークへ正しく接続されていない。 |
| 対処 | 本製品の電源が入っているか（[POWER]ランプが点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の[ACT/LINK]ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。<br>(本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。) |

| | |
|---|---|
| 原因 | ファイアウォール系のソフトウェアを使用している。 |
| 対処 | ファイアウォール系のソフトウェアで、本製品のコンピュータ名（初期値は「Landisk」）や本製品の IP アドレス（初期値は「192.168.0.200」）を使用できるように設定してください。<br>詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | すでに LANDISK※1 を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の[LANDISK の名前]を変更していない。<br>※1 HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR、HDL-AV の各シリーズ |
| 対処 | 本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LANDISK と併用する場合など、LANDISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の[LANDISK の名前]を、すでに導入済みの LANDISK と重複しない名前に変更する必要があります。<br>設定方法は、以下の個所を参照してください。<br>【[LANDISK の名前]を変更したい】（238ページ）<br>※本製品の出荷時の[LANDISK の名前]は、LANDISK 共通の”LANDISK”となっています。<br>ネットワーク導入時に、他の LANDISK の[LANDISK の名前]を出荷時設定の”LANDISK”のまま変更していない場合は、本製品の[LANDISK の名前]を変更する必要があります。 |

| Mac OS X のみ | |
|---|---|
| 原因 | LANDISK の名前で検索できない。 |
| 対処 | [サーバへ接続]画面で、本製品の IP アドレスを使用して接続してください。<br>入力する IP アドレスは、本製品に設定されている IP アドレスを入力します。<br>DHCP サーバが割り当てた IP アドレスが分からない場合、【本製品の IP アドレスを調べたい】（255ページ）をご覧ください。<br>●IP アドレスを指定して接続する場合：　afp://192.168.0.200/ |

| Mac OS 8.1～9.2.2 のみ | |
|---|---|
| 対処 | セレクタで[サーバの IP アドレス]ボタンをクリックし、本製品の IP アドレスを入力して検索できるかお試しください。  |



## フォルダ名やファイル名が文字化けする、あるいは開けない

| | |
|---|---|
| 原因 | Mac OS　9 で正しく表示できないファイル（フォルダ）名を使用している。<br>【文字制限一覧】（189ページ）参照 |
| 対処 | Mac OS 9 以外の OS で、一般的な文字のファイル（フォルダ）名に変更すると表示できます。 |

# ◆設定画面に関するトラブル

## （Windows）
## ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない

| | |
|---|---|
| 対処１ | 添付の CD-ROM 内の[MagicalFinder]を起動し、本製品を検索してみてください。<br>詳しくは【設定画面の開き方】（37ページ）をご覧ください。 |

| | |
|---|---|
| 対処２ | セキュリティ関連のソフトウェア（ファイヤーウォールソフト）の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しください。<br>また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、「MagicalFinder」をファイヤーウォールソフトの除外設定を行うと、 ファイヤーウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。<br>（詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください）。 |

＜参考：WindowsXP ServicePack2 の Windows ファイヤーウォール機能の除外設定＞

| | |
|---|---|
| ① | あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。<br>1)添付の CD-ROM をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。<br>2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインス<br>トールを行ってください。 |
| ② | [スタート]→[コントロールパネル]→[セキュリティセンター]を開きます。 |
| ③ | 一番下の「Windows ファイヤーウォール」をクリックします。 |
| ④ | [例外]タブをクリックし、[プログラムの追加]ボタンをクリックします。 |
| ⑤ | 一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。 |
| ⑥ | 「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。 |

以上で WindowsXPSP2 のファイヤーウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。
[スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finder が起動し、本製品が検索されます。
設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。

## （Mac OS）
## ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない

| 原因 | 接続が正しく行われていない。 |
|---|---|
| 対処 | 本製品の電源が入っているか（[POWER]ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の[ACT/LINK]ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。<br>【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】（239ページ）<br>本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。 |

| 原因 | セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。 |
|---|---|
| 対処 | セキュリティ関連のソフトウェアのファイヤウォール機能により制限されている場合があります。<br>ファイヤウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイヤウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。<br>なお、ファイヤウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問合せください。 |

| 原因 | （本製品に固定の IP アドレスを設定した場合）<br>本製品と設定用パソコンの IP アドレスのセグメント値が合っていない。 |
|---|---|
| 対処 | お使いのパソコンの IP アドレスが例えば「192.168.1.xxx」に設定されている環境で、本製品の IP アドレスが「192.168.0.200」に設定されているなど、セグメント値が合っていないことが考えられます。（以下の図参照）<br>本製品の IP アドレスの設定を、お使いのネットワーク環境にあわせて設定し直してください。<br>【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（19ページ）<br>【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（30ページ）<br>IP アドレス：　ピリオドで区切られた４つの数字<br>XXX . XXX . XXX . XXX<br>セグメント（はじめの３つの数字）パソコンと同じ値にする<br>この値のみ、パソコンやネットワーク機器で使用していない値にする |

| 原因 | 本製品が DHCP クライアントに設定されているため、IP アドレスがわからない。 |
|---|---|
| 対処 | 【本製品の IP アドレスを調べたい】（255ページ）を参照してください。 |

| 原因 | 設定画面を開こうとしているパソコンの IP アドレス設定が間違っている。 |
|---|---|
| 対処 | 設定画面を開こうとしている以外のパソコンで、設定画面が開けないかお試しください。<br>開ける場合は、開けなかったパソコン側の IP アドレスの設定が本製品にアクセスできる設定になっていない可能性があります。<br>本製品を設定時にパソコンの IP アドレスやサブネットマスクを一時的に変更していた場合などは、本製品設定前の IP アドレスやサブネットマスクに戻してください。 |

| 原因 | すでに LANDISK※1 を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の[LANDISK の名前]を変更していない。<br>※1 HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GT、HDL-GTR、HDL-AV の各シリーズ |
|---|---|
| 対処 | 本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LANDISK と併用する場合など、LANDISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の[LANDISK の名前]を、すでに導入済みの LANDISK と重複しない名前に変更する必要があります。<br>設定方法は、【[LANDISK の名前]を変更したい】（238ページ）の個所を参照してください。<br>※本製品の出荷時の[LANDISK の名前]は、LANDISK 共通の”LANDISK”となっています。<br>ネットワーク導入時に、他の LANDISK の[LANDISK の名前]を出荷時設定の”LANDISK”のまま変更していない場合は、本製品の[LANDISK の名前]を変更する必要があります。 |

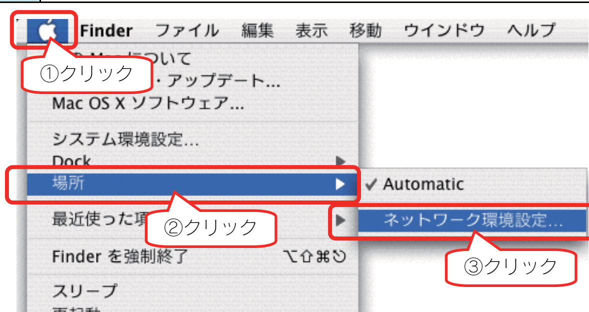
| 原因 | 以前に設定した本製品の IP アドレスが間違っている、あるいは、正しく設定していなかった。 |
|---|---|
| 対処 | RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定（192.168.0.200）に戻してください。<br>【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】（156ページ)参照<br>出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。<br>【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（30ページ） |

| 原因 | Web ブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。 |
|---|---|
| 対処 | ブラウザがプロキシサーバを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。<br>ブラウザの設定でプロキシサーバを使わない設定にしてください。<br>注意 本製品の設定終了後は、プロキシ設定を元に戻してください。<br>以下の個所を参照してください。 |

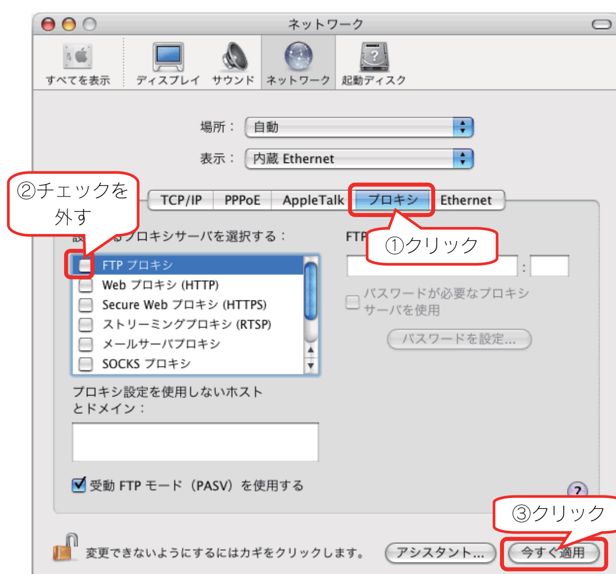
## Mac OS でプロキシサーバ設定を無効にする設定

### ●Mac OS Xの場合

**1** [アップルメニュー]→[場所]（または[ネットワーク環境]）→[ネットワーク環境設定...]を選択します。




**2** [プロキシ]タブをクリックし、以下の設定を行います。




**3** 設定後、左上の(×)をクリックして画面を閉じます。

以上で設定は完了です。

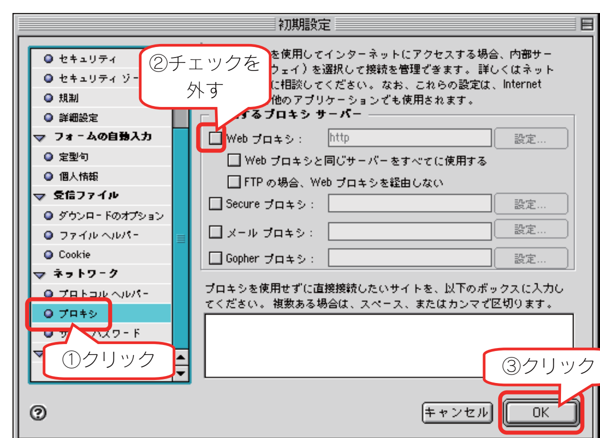
### ●Mac OS（Classic）の場合

**1** Internet Explorer を起動します。

**2** [編集]→[初期設定...]を選択します。

**3** [ネットワーク]の[プロキシ]を選択します。

**4** 以下の設定を行います。




以上で設定は完了です。

## 設定画面で一部表示されない項目がある

| | |
|---|---|
| 原因 | セキュリティ関連のソフトウェアの影響により表示されない。 |
| 対処 | セキュリティ関連のソフトウェアのファイヤウォール機能により制限されている場合があります。<br>ファイヤウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイヤウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。<br>なお、ファイヤウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問合せください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | ブラウザのセキュリティレベルが高く設定されている。 |
| 対処 | 本製品の設定時のみセキュリティレベルを「中」に設定してください。<br>設定後は、元の「高」設定に戻してください。<br><br>■Internet Explorer6 をご利用の場合<br>【Windows の場合】<br>①デスクトップにある「Internet Explorer」のアイコンを右クリックし、メニューの中の[プロパティ]をクリックし、[インターネットオプション]もしくは[インターネットのプロパティ]を開いてください。<br>②[セキュリティ]タブをクリックし、[このゾーンのセキュリティレベル]を「中」に合わせます。<br>③「OK」ボタンをクリックします。<br><br>以上で終了です。<br><br>【Mac OS X の場合】<br>①.「編集」→「初期設定」をクリックします。<br>②「セキュリティゾーン」をクリックします。<br>③[セキュリティゾーン」で「中」にチェックをします。<br>④「OK」ボタンをクリックします。<br><br>以上で終了です。 |

## 空き容量が実際より少ない気がする

| | |
|---|---|
| 原因 | [ごみ箱]フォルダのファイルが多数ある。 |
| 対処 | 各共有の[ごみ箱]フォルダを空にしてください。 |

## 設定画面で文字が入力できない

| | |
|---|---|
| 原因 | 入力個所をクリックしていない。 |
| 対処 | 一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 入力できない文字を入力しようとしている。 |
| 対処 | 入力できる文字かを確認してから入力してください。<br>本製品の設定画面上で入力できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（189ページ）をご覧ください。 |

## 設定画面上から入力できる文字制限について

| | |
|---|---|
| 対処 | 【文字制限一覧】（189ページ）をご覧ください。 |

## パスワード認証に失敗し設定画面を表示できない

| | |
|---|---|
| 原因 | パスワードが間違っています。 |
| 対処 | 出荷時設定では、「パスワード：（なし）」に設定されています。<br>出荷時設定の場合は、パスワード入力欄には何も入力せずに[OK]ボタンをクリックすれば設定画面が表示されます。<br>設定画面の[管理者パスワードの変更]でパスワードを設定した場合は、そのパスワードをパスワード入力欄に入力する必要があります。<br>再度パスワードをご確認いただき入力しなおしてみてください。<br>パスワードを忘れてしまった場合は、【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】(156ページ)参照をご覧になり、出荷時状態に戻してください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 空白(スペース)のみのパスワードになっています。 |
| 対処 | パスワード無しに設定したつもりで、空白(スペース)で設定されていることがありますので、空白(スペース)を入力してみてください。ログオンできない場合は、上の原因をご覧ください。 |

## 設定画面にログオンするためのパスワードがわからない

| | |
|---|---|
| 対処 | 出荷時設定では、「パスワード：（なし）」に設定されています。<br>出荷時設定の場合は、パスワード入力欄には何も入力せずに[OK]ボタンをクリックすれば設定画面が表示されます。<br>設定画面の[管理者パスワードの変更]でパスワードを設定した場合は、そのパスワードをパスワード入力欄に入力する必要があります。<br>再度パスワードをご確認いただき入力しなおしてみてください。<br>パスワードを忘れてしまった場合は、【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】(156ページ)参照をご覧になり、出荷時状態に戻してください。 |

## 以下のメッセージが表示された<br>「現在システムは処理中です。<br>しばらく待ってから操作してください。」

| | |
|---|---|
| 原因 | 設定処理実行中に他の設定をしようとした。 |
| 対処 | 他の設定処理が実行中でないかご確認ください。<br>設定処理の途中で別の設定を行おうとすると上記メッセージが表示されることがあります。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | ファームウェアが正常に動作していない。 |
| 対処 | ①いったん、本製品の電源を入れ直して、同様の操作をしてみてください。<br>②本製品の初期化を行ってみてください。詳しくは、【出荷時設定に戻す】（154ページ）をご覧ください。 |

## 設定画面上のハードディスク使用領域が、ドライブのプロパティと異なる

| | |
|---|---|
| 対処 | 本製品が使用するファームウェアの制限で、ハードディスクに問題はありません。 |

## 設定画面の動作が遅い

| | |
|---|---|
| 原因 | バックアップ中、アクティブリペア中など、本製品の処理動作中である。 |
| 対処 | 以下の動作中は、本製品の操作・動作が遅くなる場合あります。<br>処理が終了するまでお待ちください。<br>・バックアップ中　・アクティブリペア中　・RAID リビルド中　・ファイル共有サービス転送中/再生中<br>・DLNA データベース更新中　・スピンアップ中 |

# ◆本製品の IP アドレスについて

## 本製品に設定した IP アドレスを忘れた<br>本製品に設定されている IP アドレスを調べたい




DHCP サーバのあるネットワークで確認する場合は、毎回以下の手順を行うことをおすすめします。
DHCP サーバは常に固定の IP アドレスを割り当てるわけではありません。
下記手順で一旦確認できた IP アドレスも、本製品の電源を入れなおした後や DHCP サーバを再起動した場合などには、本製品やパソコンに割り当てられた IP アドレスが変更されている場合もあります。

| | |
|---|---|
| 対処 1 | （ネットワーク内に Windows パソコンがある場合のみ）<br>添付ユーティリティ[Magical Fider]で調べる<br>[Magical Finder]を起動してください。<br>表示されている[IP アドレス]が本製品の IP アドレスです。 |

| | |
|---|---|
| 対処２ | (DHCP サーバのあるネットワークの場合)<br>DHCP サーバ内の情報から確認する<br>ご使用のブロードバンドルーターなどの DHCP サーバが、本製品に割り当てた IP アドレスの情報を記録している場合があります。詳しくは、DHCP サーバとなっている機器の取扱説明書などをご覧ください。 |

| | |
|---|---|
| 対処３ | ネットワーク内に DHCP サーバがなく、かつ、Mac OS パソコンしかない場合は、確認する方法はありません。<br>本製品から LAN ケーブルを取り外した後、RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定（192.168.0.200）に戻してください。<br>【出荷時設定に戻す】（154ページ）参照<br><br>出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。 |

# ◆ファイルの保存について

## 本製品に保存したファイルに、「読み込みのみ」「読み書き可能」のような属性設定ができない

| | |
|---|---|
| 対処 | 製品の仕様上、ファイルごとのセキュリティ設定はできません。 |

## ファイル名やフォルダ名の制限について

| | |
|---|---|
| 対処 | 本製品に保存できるファイルやフォルダ名は、文字制限があります。<br>以下の個所を参照してください。<br>【文字制限一覧】（189ページ） |

## （Windows Me/98 のみ）<br>4GB サイズまたは 2GB サイズのファイルをコピーしようとすると Windows がハングアップする

| | |
|---|---|
| 原因 | Windows Me では 4GB サイズ以上のファイル、Windows 98 は 2GB サイズ以上のファイルは、ネットワーク経由では扱えません。（OS の仕様です。） |
| 対処 | クライアント OS を Windows XP/2000 にするか、それぞれのサイズより 1MB 程度小さいサイズのファイルにしてご使用ください。 |

## ファイルを削除するとごみ箱に一旦入りますか？

| | |
|---|---|
| 対処 | 本製品の「ごみ箱機能」を有効（初期値は無効）に設定した場合は、該当フォルダの中に「ごみ箱」フォルダに一旦削除したファイルが入ります。<br>ごみ箱機能を無効にして削除した場合は、そのまま削除されます。<br><br>[参考]　【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（59ページ） |

## 共有フォルダにファイルをコピーする際のサイズの制限はありますか？

| | |
|---|---|
| 対処 | OS によりファイルサイズの制限があります。<br>以下の個所を参照してください。<br>【各 OS で使用できるファイルサイズについて（185ページ） |

# ◆ランプやブザーについて

## 起動時に[ACCESS]ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」となり続けている

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品が起動停止の状態です。 |
| 対処 | 前面の[COPY]ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、起動停止画面を開いて画面の表示に応じた対処を行ってください。<br>詳細は、以下の個所を参照してください。<br>【起動時に[ACCESS]ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている】（228ページ） |

## 使用中、または、起動時に[ACCESS]ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」となり続けている

| | |
|---|---|
| 原因 | RAID 崩壊の状態です。 |
| 対処 | 前面の[COPY]ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、RAID の再構成を行ってください。<br>詳細は、以下の個所を参照してください。<br>【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】（160ページ） |

## STATUS ランプが赤く点滅している

| | |
|---|---|
| 原因 | 正しく接続されていない。 |
| 対処 | 一旦本製品の電源ボタンを押して電源を切り、LAN ケーブルが正しく接続されていることを確認してから、再度電源を入れてください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | DHCP サーバーから本製品の IP アドレスが取得できていない。<br>※本製品の DHCP クライアント設定が on(出荷時設定)に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、STATUS ランプが赤く点滅します。 |
| 対処 | 接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。<br>※DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、固定の IP アドレス：192.168.0.200　に設定されます。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | DHCP サーバーがない環境で使用している、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。 |
| 対処 | 本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。<br>【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（19ページ）<br>【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（30ページ） |

| | |
|---|---|
| 原因 | （クイックコピーで EasyDisk やデジカメ接続時）<br>FAT または NTFS 形式以外のデジカメや EasyDisk を接続した。 |
| 対処 | クイックコピーで使用できるデジカメや EasyDisk については、以下の個所を参照してください。<br>【クイックコピーで使用できるデジカメや EasyDisk】（91ページ） |

| | |
|---|---|
| 原因 | （クイックコピーでデータコピー時）<br>コピー先が正しく接続されていない。 |
| 対処 | コピー先に増設ハードディスクを設定している場合に、増設ハードディスクが接続されていない場合などは、接続してください。<br>コピー先の設定については、以下の個所を参照してください。<br>【コピー先を変更する】（96ページ） |

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品が取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続された。 |
| 対処 | 本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、接続に失敗したことを STATUS ランプの赤点滅で表示します。この場合は該当する USB 機器を本製品から取外してください。しばらくして緑点灯に変わります。 |

## パソコンと LANDISK 本体を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している

| | |
|---|---|
| 対処 | 以下の個所を参照してください。<br>【パソコンと LANDISK 本体を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している】（238ページ） |

## ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない

| | |
|---|---|
| 対処 | 以下の個所を参照してください。<br>【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】（239ページ） |

## ランプの動作について知りたい

| | |
|---|---|
| 対処 | 添付の冊子【必ずお読みください】の【各部の名称･機能】をご覧になるか、以下の個所を参照してください。<br>【各部の名称・機能】（180ページ）<br>【ランプ表示別の対応】（164ページ） |

# ◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル

## カートリッジの取り外し（スライドスイッチを[UNLOCK]した）のに、UNLOCK したカートリッジの ACCESS ランプが青点灯している

| | |
|---|---|
| 原因 | カートリッジを取り外せない状態です。 |
| 対処 | 本製品が再構築中など、システムで使用中のため取り外すことはできません。<br>無理に取り外すと、データの損失や RAID 崩壊、ハードディスクの故障、システムの故障の原因となります。<br>スライドスイッチを[LOCK]に戻してください。<br><br>取り外したい場合は、再構築が終了するまで待つ、など取り外せる状態になってから取り外してください。<br>ただし、RAID0（ストライピング）で使用中など、取り外せない場合もあります。 |

## カートリッジの取り付け（スライドスイッチを[LOCK]した）後に、すべての ACCESS ランプが速く青点滅を開始している

| | |
|---|---|
| 原因 | RAID を再構築している状態です。 |
| 対処 | RAID 使用中に、カートリッジを交換、あるいは、再度取り直した場合、RAID 再構築を開始します。<br>本製品では、RAID 再構築中でも通常通りの使用が可能ですので、そのままお使いください。<br>ただし、RAID 再構築中は、操作および処理が遅くなる場合があります。<br>また、RAID 再構築中に[電源]ボタンを押すなどシャットダウンを行った場合は、再起動後に、再度最初から RAID 再構築を開始しますのでご注意ください。<br>RAID の再構築の状態は、[ボリューム情報]画面で確認することができます。<br>【ボリューム情報】（197ページ） |

## カートリッジの取り付け（スライドスイッチを[LOCK]した）後に、LOCK したカートリッジの ACCESS ランプが赤く点灯している

| | |
|---|---|
| 原因 | RAID5+FAT/NTFS でのスロット４に FAT/NTFS 形式以外のカートリッジを取り付けた。 |
| 対処 | RAID5+FAT/NTFS でお使いの場合、スロット４には、FAT/NTFS 形式以外のカートリッジは使用できません。<br>以前に[ディスクセットの保管]などシステムのバックアップなどを行った大切なカートリッジの場合は、スライドスイッチを[UNLOCK]にした後、取り外してください。<br>FAT32 にフォーマットして良い場合は、設定画面の[ディスク]→[ボリューム設定]画面で[内蔵ボリューム２]の[フォーマット（FAT32）]を実行してフォーマットしてご利用ください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | FAT/NTFS 形式でデータのあるカートリッジ、あるいは、取り付けることができないカートリッジです。 |
| 対処 | [ボリューム情報]画面で[内蔵ボリューム１]の[構成ディスク]の状態をご確認ください。<br>【ボリューム情報】（197ページ）<br><br>・取り付けたカートリッジの状態が、[故障]と表示されている場合<br>何らかの原因で故障したカートリッジです。<br>そのカートリッジを使用することはできません。正常なカートリッジに交換してください。<br><br>・取り付けたカートリッジの状態が、[待機中]と表示されている場合<br>以前に FAT/NTFS 形式でフォーマットした、あるいは、フォーマットされていたカートリッジでデータがある場合は、データ保護のため、そのままでは使用できないようになっています。<br>必要なデータがある場合は、[UNLOCK]にした後、以前にご利用になっていた環境でデータをバックアップしてください。<br>バックアップ後、あるいは、バックアップが不要な場合は、[メンテナンス]操作で本製品の RAID に再度組み込むことができます。<br>詳細は、以下の個所を参照してください。<br>【FAT/NTFS カートリッジを RAID に組み込む】（261ページ） |

## カートリッジの取り付け（スライドスイッチを[LOCK]した）後に、LOCK したカートリッジの ACCESS ランプが赤く点滅している

| | |
|---|---|
| 原因 | RAID に組み込むために必要なディスク容量が足りないカートリッジを接続した。 |
| 対処 | システムは RAID を構成するディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つカートリッジと交換してください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | ディスクエラー発生過多のカートリッジを接続した。 |
| 対処 | 本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生したディスクは RAID を構成するディスクとして使用しないようにしています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | SMART チェックエラー発生のカートリッジを接続した。 |
| 対処 | 本装置はディスクを接続されたとき、ディスク自身の故障診断機能（SMART）を利用してディスクが壊れていないか確認します。<br>SMART 情報により故障と判定されるディスクは、使用しないようにしています。<br>新しいカートリッジを準備し、交換してください。 |

## FAT/NTFS カートリッジを RAID に組み込む

FAT/NTFS 形式でフォーマットした、あるいは、フォーマットされていたカートリッジで、以前にデータをコピーするなど、ディスク内にデータがある場合は、データ保護のため、本製品はそのままでは RAID に組み込めないよう（待機中）になっています。
組み込む場合は、以下の[メンテナンス]操作を行ってください。

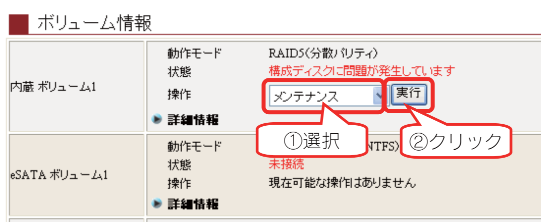
※FAT/NTFS 形式でフォーマットした、あるいは、フォーマットされていたカートリッジで、データが無い場合はそのまま組み込まれ、再構築を開始します。以下の手順を行う必要はありません。
※組み込もうとしているカートリッジ内のデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、[UNLOCK]にした後、以前にご利用になっていた環境でデータをバックアップしてください。

▼[ボリューム情報]画面での確認

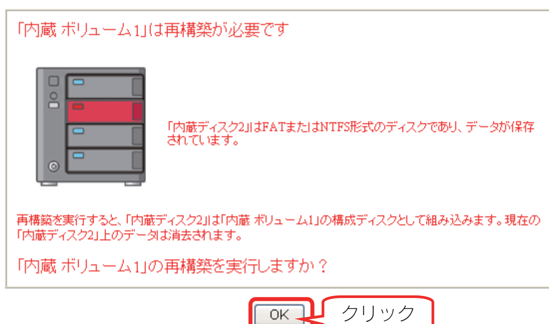



**1** 本製品の設定画面を開きます。
開き方については、以下の個所を参照してください。
【設定画面の開き方】（37ページ）

**2** [内蔵ボリューム 1 ]の[操作]欄で[メンテナンス]を選択後、[実行]ボタンをクリックします。




**3** [OK]ボタンをクリックします。




**4** [OK]ボタンをクリックします。




**5** 数分後、以下の画面となります。

結果

再構築を開始しました

以上で終了です。
終了後、RAID 再構築を開始します。
この手順で RAID を再構築しても、既存の RAID ボリュームのデータはそのまま残ります。

# ◆eSATA ハードディスクとミラーリング使用時のトラブル

## 電源を入れると、STATUS ランプが点滅し、ブザーが鳴り続けている

| | |
|---|---|
| 原因 | eSATA ハードディスクが[ミラーディスクの保管]を行ったハードディスクです。<br>本製品では、内蔵ハードディスクを取り付けたまま、[ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスクを接続して、内蔵および eSATA 両方のシステムを同時に起動させることはできません。 |
| 対処 | [電源]ボタンを「ピッ」と音がするまで押して、本製品の電源を切ります。<br><br>・内蔵ハードディスクから起動したい場合は、eSATA ミラーディスクを取り外した状態で本製品の電源を入れてください。<br>・eSATA ミラーディスクからシステムを起動する場合は、以下の個所を参照してください。<br>【ミラーディスクから復旧する】（119ページ）<br>・eSATA ミラーディスクをフォーマットし直して、通常の FAT や NTFS 形式のハードディスクに戻す場合は、eSATA ミラーディスクをパソコンに直接接続してフォーマットするか、あるいは、本製品のみで起動後、起動後に eSATA ミラーディスクを接続し、eSATA ミラーディスクを[ボリューム操作]画面で FAT32 にフォーマットしてください。 |

## eSATA ハードディスクを接続しているのに、設定画面上では[停止]と表示される

| | |
|---|---|
| 原因 | eSATA ハードディスクの電源が入っていない。 |
| 対処 | eSATA ハードディスクの電源ケーブル等を確認し、電源を入れてください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | [ミラーリングモード]の状態のまま、FAT/NTFS 形式の eSATA ハードディスクを接続して本製品の電源を入れた。 |
| 対処 | [ミラーリングモード]の状態のまま、FAT/NTFS 形式の eSATA ハードディスクを接続したまま起動した場合は、[停止]状態となります。<br>一旦 eSATA ハードディスクの eSATA ケーブルを抜いた後、再度接続してください。<br>ミラーリングを開始します。<br>接続後、ブザーが鳴り、STATUS ランプが赤点滅した場合は、eSATA ハードディスク内にデータがあることが考えられます。<br>本紙下の[原因][対処]の個所へお進みください。 |

## ｅＳＡＴＡハードディスクを[eSATA ポート１]に接続すると、STATUS ランプが赤く点滅し、ブザーが「ピーピーピー」と鳴った

| | |
|---|---|
| 原因 | FAT/NTFS 形式でデータが入っている eSATA ハードディスクを接続した。 |
| 対処 | [eSATA ポート１]の動作モード設定が[ミラーリングモード]中の場合、通常、FAT/NTFS 形式以外、あるいは、FAT/NTFS 形式でデータが入っていない eSATA ハードディスクを接続すると自動的に HDL-GT シリーズとミラーリングを開始します。<br>ただし、FAT/NTFS 形式でデータが入っている eSATA ハードディスクの場合、システムは自動でデータを上書きしないようになっています。<br>この eSATA ディスクでミラーリングを開始するには、WEB 操作画面より[ディスク]→[ボリューム操作]画面で、[eSATA ボリューム１]のミラーリング開始を実行してください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | ミラーリングに必要なディスク容量が足りない eSATA ディスクを接続した。 |
| 対処 | システムはミラーリング構成する eSATA ディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つ eSATA ディスクに交換する必要があります。<br>必要な容量については、以下の個所を参照してください。<br>【ミラーリングに使用できる増設ハードディスク】（115ページ） |

| | |
|---|---|
| 原因 | ディスクエラー発生過多の eSATA ハードディスクを接続した。 |
| 対処 | 本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生した eSATA ハードディスクは RAID を構成する eSATA ハードディスクとして使用しないようにしています。<br>新しい eSATA ハードディスクを準備し、交換してください。 |

# ◆ネットワークメディアプレーヤー使用時のトラブル

## ネットワークメディアプレーヤーで本製品が表示されない

| | |
|---|---|
| 原因 | 接続が正しく行われていない。 |
| 対処 | 本製品の電源が入っているか（[POWER]ランプが点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の[ACT/LINK]ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。<br>(本製品を接続したブロードバンドルーターやハブの LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)<br>また、ネットワークメディアプレーヤー側の電源が入っているか、接続ケーブルが LAN に接続されているか（LAN ポートのランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | ネットワークメディアプレーヤーまたは本製品の IP アドレスの設定が間違っている。 |
| 対処 | ネットワークメディアプレーヤーと本製品の IP アドレスを確認し、同じネットワークアドレス（セグメント）で別々の IP アドレスとなっているかを確認してください。<br><br>●ネットワークメディアプレーヤーの IP アドレス･･･<br>詳細は、ネットワークメディアプレーヤーの取扱説明書を参照してご確認ください。<br>●本製品の IP アドレス･･･【本製品に設定されている IP アドレスを調べたい】（255ページ）参照 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品の「DLNA Server」設定が有効になっていない。 |
| 対処 | 設定画面の[共有サービス設定]（201ページ）を開いて、[DLNA Server]がチェックされているかご確認ください。<br>また、以前にアクセス制限を設定したことがある場合は、画面の[アクセス制限]（201ページ）をクリックして、アクセスを制限していないかご確認ください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品が再起動中である。 |
| 対処 | 本製品が起動するまで（[POWER]ランプが緑色に点灯するまで）お待ちください。 |

## ネットワークメディアプレーヤーに表示されない、あるいは、再生できないファイルがある

| | |
|---|---|
| 原因 | ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）が対応していないファイルフォーマットである。 |
| 対処 | お使いのネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）が対応しているファイルかを、ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）の取扱説明書などで確認してください。<br>※本製品が対応しているファイルフォーマットであっても、ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）側が対応していない場合は再生できません。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品が対応していないファイルフォーマットである。 |
| 対処 | 本製品は以下のファイル拡張子のファイルにのみ対応しています。<br>※最新の対応情報は弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。 |

| 種類 | ファイル拡張子 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 動画 | mpg | mpeg | mpa | mpeg2 | vob |
| | wmv | asf | avi | | |
| 写真 | jpeg | jpg | png | bmp | |
| 音楽 | mp3 | wma | wav | pcm | lpcm |

※ファイルによっては、上記ファイル拡張子でも再生できない場合もあります。

| | |
|---|---|
| 原因 | DLNA Server 機能にて公開している共有に非常に多くのファイルが入っている。 |
| 対処 | DLNA Server 機能にて公開している共有に非常に多くのファイルが入っている場合には、初回接続時や共有内ファイル操作時にネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）で表示されるまでに待たされることがあります。<br>この場合、DLNA 用データベースの更新が行われていますので、しばらくお待ちください。<br>※１万ファイル以内でご利用ください。 |

## ネットワークメディアプレーヤーで再生できる本製品のファイルについて

| | |
|---|---|
| 対処 | ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）で再生できるファイルのファイルサイズによる制限はありませんが、本製品は以下のファイル拡張子のファイルにのみ対応しています。<br>※最新の対応情報は弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)をご覧ください。 |

| 種類 | ファイル拡張子 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 動画 | mpg | mpeg | mpa | mpeg2 | vob |
| | wmv | asf | avi | | |
| 写真 | jpeg | jpg | png | bmp | |
| 音楽 | mp3 | wma | wav | pcm | lpcm |

※ファイルによっては、上記ファイル拡張子でも再生できない場合もあります。

注意

●ネットワークメディアプレーヤー（DLNA クライアント）で本製品内のファイルを再生する場合、本製品およびネットワークメディアプレーヤーの両方が対応しているファイルフォーマットである必要があります。
お使いのネットワークメディアプレーヤーが対応しているファイルかを、ネットワークメディアプレーヤーの取扱説明書などで確認してください。

## AVeL LinkPlayer から LANDISK のファイルやフォルダを見ることができない

| | |
|---|---|
| 原因 | DLNA に対応していない AVeL LinkPlayer である。 |
| 対処 | DLNA に対応していない AVeL LinkPlayer からは、本製品のファイルやフォルダを見ることはできません。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | LANDISK 側で「DLNA Server 機能」の設定が有効になっていないことが考えられます。 |
| 対処 | 以下の手順を行います。<br><br>①設定画面の[管理者用]メニューにログインします。<br>②[メニュー]→[ネットワーク]→[共有サービス設定]（201ページ）にて[DLNA Server]にチェックをつけ、[OK]ボタンをクリックします。<br>③[メニュー]→[共有管理]→[共有フォルダ管理]（204ページ）より、公開する共有フォルダや増設ハードディスクの[変更]→[DLNA Server で公開]にチェックをつけ、[OK]ボタンをクリックします。<br><br>以上の設定を行いましたら、LinkPlayer のログイン先選択画面に LANDISK のログインアイコンが自動的に表示されます。表示されましたら、そのログイン名を選択し、LANDISK 上のファイルの参照をお試しください。 |

# ◆プリントサーバ機能使用時のトラブル

## プリントサーバ機能を使用する際、プリンタドライバのインストールがうまくできない

| 対処 | 以下の手順にしたがってください。<br><br>●Windows XP の場合<br>①[スタート]→[コントロールパネル]→（[プリンタとその他のハードウェア]）→[プリンタと FAX]をクリックします。<br>②画面左側の「プリンタのインストール」をクリックします。<br>③[プリンタの追加ウィザード開始]画面が表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします。<br>④[ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ]にチェックをして、[次へ]をクリックします。<br>⑤[共有プリンタ]内に[LANDISK の名前]が表示されましたら､ダブルクリックし､更にその下に表示される[USB-printer]をクリックして、[次へ]ボタンをクリックします。<br>⑥[プリンタの接続 xxxx 上のプリンタに接続しようとしています。お使いのコンピュータに　~]というメッセージが出たら、[はい]ボタンをクリックします。<br>⑦[プリンタの接続プリンタのサーバーに正しいプリンタドライバがインストールされていません。　~]というメッセージがでたら、[OK]ボタンをクリックします。<br>⑧プリンタの製造元、機種名を選択して、[OK]ボタンをクリックします。<br>⑨[このプリンタを通常のプリンタとして使いますか？]で通常のプリンタとして使用する場合は、[はい]にチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。<br>⑩[プリンタの追加ウィザードの完了]画面にて、[完了]ボタンをクリックします。<br>以上で設定は終了です。<br><br>●Windows 2000 の場合<br>①[スタート]→[設定]→[プリンタ]→[プリンタの追加]アイコンをクリックします。<br>②[プリンタの追加ウィザードの開始]画面が表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします。<br>③[ネットワークプリンタ]にチェックをして、[次へ]ボタンをクリックします。<br>④[プリンタ名を入力するか[次へ]をクリックして、プリンタを参照します]にチェックした状態で、[次へ]ボタンをクリックします。<br>⑤[共有プリンタ]内に[LANDISK の名前]が表示されましたら、ダブルクリックをして、更にその下に表示される[USB-printer]をクリックして、[次へ]ボタンをクリックします。<br>⑥[プリンタの接続プリンタが接続されているサーバーに正しいプリンタドライバがインストールされていません。~]というメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。<br>⑦プリンタの製造元、機種名を選択して、[OK]ボタンをクリックします。<br>⑧[Windows アプリケーションで、このプリンタを通常のプリンタとして使いますか？]で通常のプリンタとして使用する場合は、[はい]にチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。<br>⑨[プリンタの追加ウィザードが完了しています]で、[完了]ボタンをクリックします。<br>以上で設定は終了です。<br><br>●Windows Me/98 の場合<br>①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]-[プリンタ]をクリックします。<br>②[プリンタの追加]アイコンをダブルクリックします。<br>③ウィザード画面が表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします。<br>④[ネットワークプリンタ]にチェックを付けて、[次へ]ボタンをクリックします。<br>⑤[ネットワークパスまたはキューの名前]にて、[参照]ボタンをクリックします。<br>⑥[ネットワーク全体]-[LANDISK のワークグループ名]-[LANDISK の名前]をクリックし、[USB-printer]をクリックし、[OK]をクリックします。<br>⑦[MS-DOS アプリケーションから印刷しますか？]にて､[いいえ]にチェックを付けて､[次へ]ボタンをクリックします。<br>⑧プリンタの製造元、機種名を選択して、[OK]ボタンをクリックします。<br>⑨プリンタの名前を変更する場合は変更します。<br>⑩[Windows ベースのプログラムで、このプリンタを通常のプリンタとして使いますか？]で、通常のプリンタとして使う場合は[はい]にチェックをして、[次へ]ボタンをクリックします。<br>⑪[印字テストを行いますか？]という画面にて、印字テストを行う場合は[はい]を選択して、[完了]ボタンをクリックします。<br>以上で設定は終了です。 |
|---|---|

## 印刷時にエラー画面が表示される インク残量を確認するユーティリティソフトが使えない

| | |
|---|---|
| 原因 | 双方向機能が有効になっている。 |
| 対処 | 本製品のプリントサーバー機能は双方向通信に対応しておりません。<br>そのため、インク残量等を確認するユーティリティソフトにも対応ができませんので、ユーティリティソフトをアンインストールしてください。 |

## プリントサーバ機能を利用して印刷を行ったところ、正常に印刷ができない

| | |
|---|---|
| 原因 | プリンタメーカーより提供されている、ユーティリティソフトをインストールしている。 |
| 対処 | 本製品ではプリンタの双方向通信には対応していません。<br>プリンタメーカーから提供されてるインク残量の確認が行えるようなユーティリティソフトがインストールされている場合には、アンインストールしてください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 動作確認済み以外のプリンタを使用している。 |
| 対処 | お使いのプリンタが動作確認済みのプリンタかどうかご確認ください。<br>動作確認済みプリンタについては、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)の製品情報をご覧ください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 印刷先のポートの設定が正しくない。 |
| 対処 | 以下の手順でポートの設定が LANDISK 経由の設定されているかご確認ください。<br><br>●Windows Vista®の場合<br>①[スタート]→[コントロールパネル]→[ハードウェアとサウンド] →[プリンタ]をクリックします。<br>②登録したプリンタを選択後、右クリックし、メニューより[プロパティ]をクリックします。<br>③[ポート]タブをクリックし、現在チェックが付いているポート名が「\\LANDISK の名前\USB_printer」と表示されているか確認してください。<br><例>LANDISK の名前が、” LANDISK” の場合は「\\landisk\USB_printer」となります。<br><br>●Windows XP の場合<br>①[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プリンタ]を開きます。<br>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。<br>③[ポート]タブをクリックし、現在、チェックが付いているポート名が「\\LANDISK の名前\USB-printer」と表示されているかご確認ください。<br><例>LANDISK の名前が、'LANDISK'の場合は「\\landisk\USB-printer」となります。<br><br>●Windows 2000 の場合<br>①[スタート]→[コントロールパネル]→（[プリンタとその他のハードウェア]）→[プリンタと FAX]をクリックします。<br>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。<br>③[ポート]タブをクリックし、現在、チェックが付いているポート名が「\\LANDISK の名前\USB-printer」と表示されているかご確認ください。<br><例>LANDISK の名前が、'LANDISK'の場合は「\\landisk\USB-printer」となります。<br><br>●Windows Me/98 の場合<br>①[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プリンタ]をクリックします。<br>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。<br>③[詳細]タブをクリックし、「印刷先のポート」が「\\LANDISK の名前\USB-printer」と表示されているかご確認ください。<br><例>LANDISK の名前が、'LANDISK'の場合は「\\landisk\USB-printer」となります。 |

| 原因 | プリンタの設定で双方向通信が有効になっている。 |
| --- | --- |
| 対処 | 以下の手順で、双方向通信が無効に設定されているかどうかご確認ください。<br><br>●Windows Vista®の場合<br>①[スタート]→[コントロールパネル]→[ハードウェアとサウンド] →[プリンタ]をクリックします。<br>②登録したプリンタを選択後、右クリックし、メニューより[プロパティ]をクリックします。<br>③「ポート」タブをクリックし、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。<br>以上で確認および設定は終了です。<br><br>●Windows XP の場合<br>①[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プリンタ]を開きます。<br>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。<br>③[ポート]タブをクリックし、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し、{OK} ボタンをクリックして画面を閉じます。<br>以上で確認および設定は終了です。<br><br>●Windows 2000 の場合<br>①[スタート]→[コントロールパネル]→([プリンタとその他のハードウェア])→[プリンタと FAX]をクリックします。<br>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。<br>③[ポート]タブをクリックして、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し、{OK} ボタンをクリックして画面を閉じます。<br>以上で確認および設定は終了です。<br><br>●Windows Me/98 の場合<br>①[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プリンタ]をクリックします。<br>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。<br>③[詳細]タブをクリックし、{スプールの設定} ボタンをクリックします。<br>④「このプリンタで双方向通信機能をサポートしない」にチェックをします。<br>以上で確認および設定は終了です。 |

# ◆バックアップ機能について

## バックアップ後にデータを参照したい

| | |
|---|---|
| 対処 | 以下の個所を参照してください。<br><br>●セルフバックアップのデータを参照したい場合　→　【セルフバックアップしたデータを確認する】（101ページ）<br>●リモートバックアップのデータを参照したい場合　→　【リモートバックアップしたデータを確認する】（110ページ） |

## バックアップにかかる時間について

| | |
|---|---|
| 対処 | セルフバックアップの場合、目安として 1G バイトあたり約 200 秒かかります。<br>リモートバックアップの場合はネットワークの負荷状況などにより変動しますが、さらに多くの時間を要します。 |

## スケジュール設定でバックアップした場合、更新されたデータのみバックアップされますか？

| | |
|---|---|
| 対処 | すべてのデータが上書きで保存されます。 |

## バックアップ設定でバックアップログメールが送信されない

| | |
|---|---|
| 原因 | [TCP/IP 設定]で正しく設定されていない。 |
| 対処 | [メニュー]-[ネットワーク設定]-[TCP/IP 設定]で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバアドレス」を設定してください。<br>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。<br>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「TCP/IP 設定」画面に入力してタイムサーバとの同期とログメールの送信ができるかどうかご確認ください。<br><br>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバの確認方法】<br>●Windows Vista®の場合<br>①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ] →[コマンドプロンプト]をクリックします。<br>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。<br>③[デフォルトゲートウェイ]と「DNS サーバー」の IP アドレスを確認します。<br>●Windows XP/2000 の場合<br>①[スタート]→[（すべての）プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を開きます。<br>②IPCONFIG　-ALL　と入力して Enter キーを押します。<br>③[Defalt Gateway]と[DNS Servers]の IP アドレスを確認します。<br>●Windows Me/98 の場合<br>①[スタート]→[ファイル名を指定して実行]を開きます。<br>②[名前]欄に[WINIPCFG]と入力して Enter キーを押します。<br>③[DNS サーバ]と[デフォルトゲートウェイ]の IP アドレスを確認します。<br>●Mac OS X の場合<br>①[アップルメニュー]→[場所]（または[ネットワーク環境]）→「ネットワーク環境設定」を開きます。<br>②「TCP/IP」画面で「ルータ」と「DNS サーバ（ドメインネームサーバ）」の IP アドレスを確認します。<br>●Mac OS 9 の場合<br>①[アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[TCP/IP]を開きます。<br>②表示されている「ルータアドレス」と「ネームサーバアドレス」の IP アドレスを確認します。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | メール送信先のサーバ（プロバイダ)が「POP Before SMTP」を使用している。<br>※　「POP Before SMTP」を使用しているかどうかはプロバイダやメール送信サーバーの管理者にご確認ください。 |
| 対処 | [メニュー]-[メール通知]-[メール基本設定]で、「POP before SMTP 設定」を「有効」に設定し、使用するメールアドレスの POP サーバ等の設定を行ってください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | メール通知の「メール基本設定」で、[メール通知機能]を「有効」にしていない。 |
| 対処 | メール通知を「有効」に設定し、「SMTP サーバ」などを設定してください。 |

## バックアップログでエラーのログが表示された<br>バックアップを実行すると、ブザーが鳴り、エラーとなる

| | |
|---|---|
| 対処１ | バックアップ元を「フォルダ」で指定している場合や、バックアップ先に増設ハードディスクを指定している場合、そのフォルダや増設ハードディスクが存在しているかどうか、正しく認識されているかどうか、ご確認ください。 |

| | |
|---|---|
| 対処２ | バックアップ先のドライブ容量に空きがない可能性があります。<br>バックアップ先のドライブ容量に空きを作成してから、再度お試しください。 |

| | |
|---|---|
| 対処３ | Mac OS　９では正しく表示できないファイル（フォルダ）名があります。<br>【文字制限一覧】（189ページ）参照<br>それらの文字が使用されていないかご確認ください。<br>Mac OS　９以外の OS で、一般的な文字のファイル（フォルダ）名に変更すると表示できます。 |

| | |
|---|---|
| 対処４ | 内蔵ハードディスクを設定画面内の「チェックディスク」を実施したり、FAT/NTFS 形式の増設ハードディスクは、パソコンと接続して「スキャンディスク」を実施してみてどうか、ご確認ください。 |

| | |
|---|---|
| 対処５ | バックアップ先共有が存在するドライブが FAT の場合、使用可能なファイルの最大サイズは 4GB となります。<br>バックアップ元側に、制限を超えるサイズのファイルが存在する場合はバックアップできないため、対象から外してください。 |

| | |
|---|---|
| 対処６ | （リモートバックアップの場合）<br>原因を調べるために、まずは少ない容量の共有で試してください。<br>リモートバックアップ元ホストの共有へ、指定したユーザとパスワードで Windows からアクセスできるか試してみてください。<br>アクセスできない場合は共有のアクセス権設定やユーザ設定を確認して、Windows からアクセス可能となるか確認します。<br>その後、リモートバックアップの設定を再確認して試してください。 |

## バックアップデータを見せないようにできますか？

| | |
|---|---|
| 対処 | 見せないようにはできません。<br><br>ただし、セキュリティ上、他の人からアクセスができないようにされたい場合は、バックアップ先としている共有フォルダ（あるいは増設ハードディスク）を、バックアップデータにアクセスできるユーザ（管理者などバックアップデータを参照できるユーザ）専用に設定することで、アクセス権が無いユーザーからアクセスできないようにすることができます。<br><br><参考：バックアップ先をユーザ専用に設定する手順><br>①バックアップデータにアクセスできるユーザ（管理者などバックアップデータを参照できるユーザ）専用の共有フォルダを事前に作成します。<br>【共有フォルダを作成する】（53ページ）<br><br>②バックアップ設定で、バックアップ先を上記手順で作成した共有フォルダに設定します。<br>【バックアップする】（89ページ）<br>これで、バックアップ先は特定ユーザのみがアクセスできるようになります。<br>すでにバックアップしたデータがある場合は、アクセス権のあるユーザでネットワークにログオン後、この共有フォルダにデータを移してください。<br><br>※バックアップ先としたユーザ専用の共有フォルダの参照方法については以下の個所を参照してください。<br>・セルフバックアップの場合　→【セルフバックアップしたデータを確認する】（101ページ）<br>・リモートバックアップの場合→【リモートバックアップしたデータを確認する】（110ページ）<br><br>注意<br>●ユーザ専用などのアクセス権を設定できるのは、設定画面で作成する共有フォルダのみです。<br>共有フォルダ下に、ネットワーク上などから作成するフォルダにアクセス権を設定することはできません。<br>●増設ハードディスク（USB ハードディスクまたは eSATA ハードディスク）にアクセス権を設定した場合、その増設ハードディスク全体がユーザ専用となります。 |

# ◆内蔵および増設ハードディスクについて

## [USB ポート 1]に増設ハードディスクを接続しても利用できない

| | |
|---|---|
| 対処 | 本製品の出荷時設定では、前面の[USB ポート 1]は、クイックコピー用に設定されているため、そのままの状態では利用できません。<br>【USB ポート 1 (前面)の設定について】（74ページ）をご覧になり、USB ポート 1 を増設用に変更してください。 |

## 増設ハードディスクを接続するとブザーが「ピーピーピー」と３回鳴り、STATUS ランプが赤く点滅したままとなる

| | |
|---|---|
| 原因 | FAT/NTFS 以外のフォーマット形式の増設ハードディスクを接続した。<br>FAT/NTFS 以外のフォーマット形式としては以下のような場合があります。<br>・Macintosh で使用していたハードディスク<br>・未フォーマット状態のハードディスク<br>・以前に[ミラーディスクの保管]を行った eSATA ハードディスク<br>・HDL-GT シリーズ以外の LANDISK で専用フォーマットにした増設ハードディスク |
| 対処 | 一旦ケーブルを抜いてＦＡＴ／ＮＴＦＳ形式にパソコンなどでフォーマットしてから再度接続する必要があります。<br>または、接続したまま WEB 設定画面「フォーマット（FAT32）」を実行することで、FAT32 形式にフォーマットすることもできます。<br>フォーマット方法については、以下の個所を参照してください。<br>【増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする】（80ページ） |

## eSATA ハードディスクを[eSATA ポート]に接続しても認識されない

| | |
|---|---|
| 原因 | eSATA ハードディスクのケーブルを USB ケーブルから eSATA ケーブルに切り替えて接続した。 |
| 対処 | パソコンや本製品の USB ポートでご利用になっていた eSATA ハードディスクの USB ケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、切り替える前に一度 eSATA ハードディスクの電源ケーブルの抜き差しを行ってください。<br>電源ケーブルの抜き差しを行わずに eSATA ケーブルに切り替えて本製品の[eSATA ポート]に接続しても、本製品に認識されない場合があります。 |

## 増設ハードディスクのパソコンでのフォーマット方法について

| | |
|---|---|
| 対処 | FAT32 や NTFS 形式のハードディスクはそのまま Windows パソコンではご利用になれます。<br>再度フォーマットする場合などのフォーマット方法の詳細については、お使いの増設ハードディスクの取扱説明書を参照してください。<br>※フォーマットするとデータはすべて消去されます。<br>※LANDISK をパソコンに直接接続して、FAT32 や NTFS 形式にフォーマットすることはできません。<br><br>なお、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/）で「DiskRefresherLE を使用した FAT32 へのフォーマット手順」と「NTFS へのフォーマット手順」をご案内しています。<br>【「DiskRefresherLE を使って FAT32 にフォーマットする手順】<br>【NTFS でフォーマットする手順】<br>※上記手順はインターネット上の弊社ホームページ内へリンクしています。<br>インターネット接続ができない場合は、お使いのハードディスクに付属の取扱説明書をお読みください。 |

## ハードディスクの不良でカートリッジ交換が必要な場合は？

| | |
|---|---|
| 対処 | 以下の場合が考えられます。<br>各カートリッジの状態については、[ボリューム情報]画面の[構成ディスク]でご確認ください。<br>[ボリューム情報]画面（197ページ）<br><br>①「S.M.A.R.T 自己診断機能」で異常と判断されたハードディスク<br>　この場合、[ボリューム情報]画面の[構成ディスク]には、[故障]と表示されています。<br>②アクティブリペアで修復不能の場合と判断されたハードディスク<br>③エラーが多数発生しているハードディスク<br>　この場合、[ボリューム情報]画面の[構成ディスク]には、[エラー]と表示されています。 |

## 本製品に接続可能なハードディスクについて

| | |
|---|---|
| 対処 | 以下の個所を参照してください。<br><br>●USB 機器を増設する場合　→　【増設できる USB 機器】（182ページ）<br>●eSATA 機器を増設する場合　→　【増設できる eSATA 機器】（183ページ） |

## デフラグ機能はありますか？

| | |
|---|---|
| 対処 | 本製品にデフラグ機能はありませんが、本製品に採用しているファイルシステムの仕様により、フラグメーション（断片化）が起こりにくい仕様となっています。 |

## 省電力機能が働かない

| | |
|---|---|
| 原因 | 省電力に対応していない増設ハードディスクである。 |
| 対処 | 増設ハードディスクよっては、省電力に対応していないハードディスクがあります。<br>対応状況については、弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/)にてご確認ください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | 本製品のシステムがアクセスしている。 |
| 対処 | 本製品のシステムが必要なファイルにアクセスする場合があります。 |

# ◆タイムサーバ機能使用時のトラブル

## タイムサーバとの同期が行われない

| 原因 | [TCP/IP 設定]で正しく設定されていない。 |
|---|---|
| 対処 | 設定画面の[メニュー]→[ネットワーク]-[TCP/IP 設定]で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバアドレス」を設定してください。<br>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。<br>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「TCP/IP の設定」画面に入力してタイムサーバとの同期とログメールの送信ができるかどうかご確認ください。<br><br>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバの確認方法】<br><br>●Windows Vista®の場合<br>①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ] →[コマンドプロンプト]をクリックします。<br>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。<br>③[デフォルトゲートウェイ]と「DNS サーバー」の IP アドレスを確認します。<br><br>●Windows XP/2000 の場合<br>①[スタート]→[（すべての）プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を開きます。<br>②IPCONFIG　-ALL　と入力して Enter キーを押します。<br>③[Defalt Gateway]と[DNS Servers]の IP アドレスを確認します。<br><br>●Windows Me/98 の場合<br>①[スタート]→[ファイル名を指定して実行]を開きます。<br>②[名前]欄に[WINIPCFG]と入力して Enter キーを押します。<br>③[DNS サーバ]と[デフォルトゲートウェイ]の IP アドレスを確認します。<br><br>●Mac OS X の場合<br>①[アップルメニュー]→[場所]（または[ネットワーク環境]）→「ネットワーク環境設定」を開きます。<br>②「TCP/IP」画面で「ルータ」と「DNS サーバ（ドメインネームサーバ）」の IP アドレスを確認します。<br><br>●Mac OS 9 の場合<br>①[アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[TCP/IP]を開きます。<br>②表示されている「ルータアドレス」と「ネームサーバアドレス」の IP アドレスを確認します。 |

# ◆MS ドメイン使用時のトラブル

## ドメインへの参加ができない

| | |
|---|---|
| 対処 | 以下の点をご確認いただき、ログオンできるかどうかお試しください。<br><br>・ドメイン名、ドメインコントローラー名がお間違えないかどうかご確認ください。<br><br>・いったん「ワークグループ」に設定を戻して、再度ドメインにログオンし直してください。<br><br>・ご利用のネットワークに BDC（バックアップドメインコントローラ）がある場合には、以下内容をご確認ください。<br>①一旦ドメイン設定を解除します。<br>設定画面の[メニュー]で、[ネットワーク]-[MS ネットワーク設定]（202ページ）を開き、「ワークグループ/ドメイン名の選択」で「ワークグループ」を選択して[OK]ボタンをクリックします。<br>②PDC（プライマリドメインコントローラ）を再起動させます。<br>1）［スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[サービス]を開きます。<br>2）「NetLogon」サービスを一旦停止して、[開始]にします。<br>③本製品のドメイン設定を再度行います。<br>設定画面の[メニュー]で、[ネットワーク]-[MS ネットワーク設定]にて、ドメインの設定を行ってください。 |

## ドメインモードに切り替えると共有にアクセスできなくなった

| | |
|---|---|
| 対処 | ドメインモードでは、ユーザ認証をドメインコントローラーで行います。そのためこれまで 本製品に登録していたユーザやグループにアクセス権を設定したフォルダは、Windows ネットワークファイル共有サービスから利用できなくなります。ただしアクセス権が[全てのユーザに許可]に設定されているフォルダ（全てのユーザからアクセス可能な共有フォルダ）へのアクセスは可能です。<br>逆に、ドメインモードでアクセス権をドメインユーザやドメイングループに設定した共有は、ワークグループモードへ切り替えると Windows から利用できなくなります。 |

## ドメインモードにおいて共有作成・変更時に AppleShare ネットワークファイル共有サービスや FTP サービスを選択できない

| | |
|---|---|
| 対処 | アクセス権がドメインユーザやドメイングループに設定されている共有では AppleShare ネットワークファイル共有サービスや User FTP サービスを設定できません。これはこれらのサービスがドメインコントローラを利用しないためです。<br>AppleShare ネットワークファイル共有サービスや User FTP サービスをご利用になられる場合は、本製品でユーザ、グループを作成後、共有フォルダを作成・設定してください。 |

# ◆FTP サーバ使用時のトラブル

## FTP サーバー機能を使用すると、フォルダやファイル名が文字化けしてしまう

| | |
|---|---|
| 対処 | 本製品の仕様となります。<br>FTP サービスをご利用いただいた場合、ファイルやフォルダ名に半角英数字以外の文字を使用した場合は、正しく表示されず、文字化けした状態で表示されます。<br>ファイルやフォルダ名は半角英数字をお使いください。<br><br>※FTP サービスをご利用いただく場合で、日本語のファイル名などを使用したい場合は、文字コード UTF-8 に対応した FTP クライアントソフトをご利用いただく必要があります。 |

# ◆メール送信でのトラブル

## メール送信テストでエラーとなる

| | |
|---|---|
| 原因 | [TCP/IP 設定]で正しく設定されていない。 |
| 対処 | [メニュー]→[ネットワーク設定]→[TCP/IP 設定]（203ページ）で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバアドレス」を設定してください。<br>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。<br>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「TCP/IP 設定」画面に入力してタイムサーバとの同期とログメールの送信ができるかどうかご確認ください。<br><br>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバの確認方法】<br><br>●Windows Vista®の場合<br>①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ] →[コマンドプロンプト]をクリックします。<br>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。<br>③[デフォルトゲートウェイ]と「DNS サーバー」の IP アドレスを確認します。<br><br>●Windows XP/2000 の場合<br>①[スタート]→[（すべての）プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を開きます。<br>②IPCONFIG　-ALL　と入力して Enter キーを押します。<br>③[Defalt Gateway]と[DNS Servers]の IP アドレスを確認します。<br><br>●Windows Me/98 の場合<br>①[スタート]→[ファイル名を指定して実行]を開きます。<br>②[名前]欄に[WINIPCFG]と入力して Enter キーを押します。<br>③[DNS サーバ]と[デフォルトゲートウェイ]の IP アドレスを確認します。<br><br>●Mac OS X の場合<br>①[アップルメニュー]→[場所]（または[ネットワーク環境]）→「ネットワーク環境設定」を開きます。<br>②「TCP/IP」画面で「ルータ」と「DNS サーバ（ドメインネームサーバ）」の IP アドレスを確認します。<br><br>●Mac OS 9 の場合<br>①[アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[TCP/IP]を開きます。<br>②表示されている「ルータアドレス」と「ネームサーバアドレス」の IP アドレスを確認します。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | メール送信先のサーバ（プロバイダ)が「POP Before SMTP」を使用している。<br>※　「POP Before SMTP」を使用しているかどうかはプロバイダやメール送信サーバーの管理者にご確認ください。 |
| 対処 | [メニュー]→[メール通知]→[メール基本設定]（215ページ）で、「POP before SMTP 設定」を「有効」に設定し、使用するメールアドレスの POP サーバ等の設定を行ってください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | メール通知の「メール基本設定」で、[メール通知機能]を「有効」にしていない。 |
| 対処 | メール通知を「有効」に設定し、「SMTP サーバ」などを設定してください。 |

# ◆パソコンのネットワーク設定について

## パソコンの IP アドレスがわからない

| 対処 | パソコンの IP アドレスは以下の方法で確認することができます。<br><br>・Windows の場合<br>添付ユーティリティ「Magical Finder」で確認することができます。以下の個所を参照してください。<br>【Windows パソコンの IP アドレスの確認】(240ページ)参照<br>・Mac OS X の場合<br>OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。以下の個所を参照してください。<br>【Mac OS X パソコンの IP アドレスの確認】(241ページ)参照<br>・Mac OS 8.1～9.2.2 の場合<br>OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。以下の個所を参照してください。<br>【Mac OS 8.1～9.2.2 パソコンの IP アドレスの確認】(242ページ)参照 |
|---|---|

## Windows パソコンの[ワークグループ名]がわからない

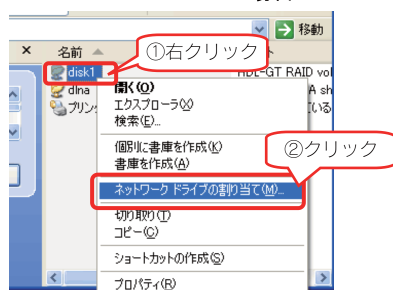
| 対処 | 【Windows パソコンのワークグループ名の確認方法】<br><br>●Windows Vista®の場合<br>①[スタート]をクリック後、[コンピュータ]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。<br>②コンピュータ名、ドメイン及びワークグループの設定のワークグループの欄で確認できます。<br><br>●Windows XP の場合<br>①[スタート]をクリック後、[マイ コンピュータ]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。<br>②[システムのプロパティ]画面で[コンピュータ名]タブをクリックすれば確認できます。<br><br>●Windows 2000 の場合<br>①[マイ コンピュータ]を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。<br>②[システムのプロパティ]画面で[ネットワーク ID]タブをクリックすれば確認できます。<br><br>●Windows Me/98 の場合<br>①[マイ ネットワーク]（または[ネットワークコンピュータ]）を右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。<br>②[ネットワーク]画面で、[識別情報]（または[識別]）タブをクリックすれば確認できます。 |
|---|---|

## （Windows）
## ネットワークドライブの割り当て方法がわからない

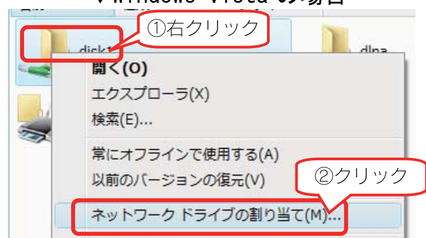
本製品（[disk1]共有フォルダ）を、ネットワークドライブとして割り当てることができます。
ネットワークドライブとして割り当てれば、[マイコンピュータ]上から簡単にアクセスできるようになります。
※画面は Windows XP を例にしています。

**1** [disk1]フォルダを右クリックして、[ネットワークドライブの割り当て]をクリックします。

▼Windows XP の場合

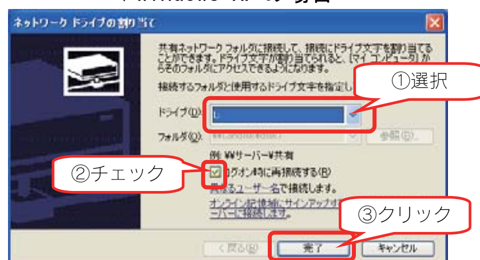



▼Windows Vista®の場合

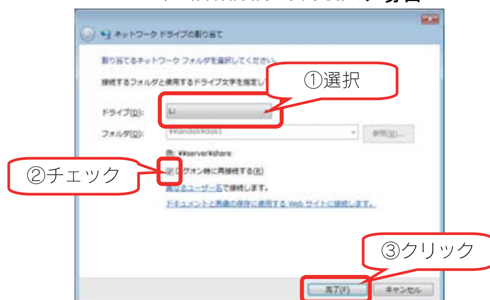



**2** ネットワークドライブの割り当てを行います。
①[ドライブ]にて本製品に割り当てる文字を選びます。
（画面例では、L を選択しています。）
②[ログオン時に再接続する]にチェックを付けます。
③[完了]ボタンをクリックします。

▼Windows XP の場合




▼ Windows Vista®の場合



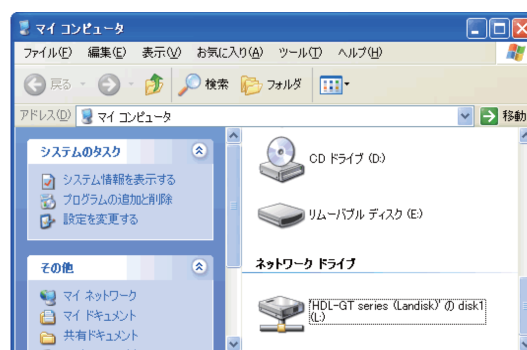

**3** ドライブの割り当てが完了すると、割り当てられたドライブのウィンドウが表示されます。

▼Windows XP の場合

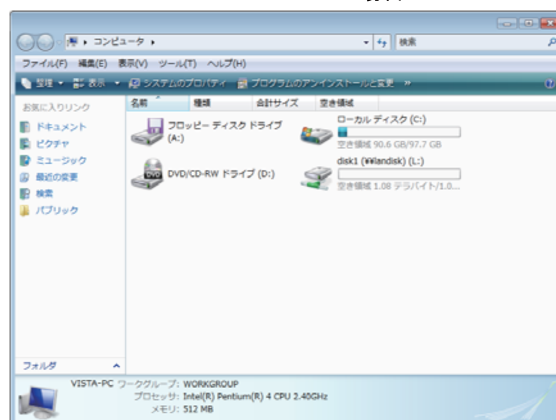


**4** [マイコンピュータ]を開いて、割り当てられたドライブが認識されていることをご確認ください。
ネットワークドライブは、通常のディスクと同様にアクセスできます。

▼Windows XP の場合



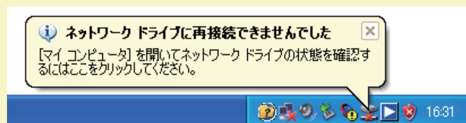

▼Windows Vista®の場合



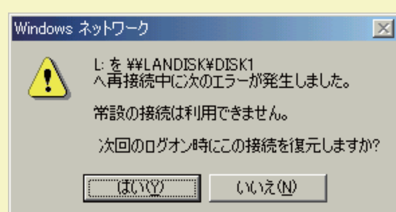



●手順３ で[ログオン時に再接続する]へチェックを入れることにより、次回パソコン起動時にも、本製品がドライブとして登録されます。
ネットワークに接続していない場合は、パソコン起動時に以下のエラーメッセージが表示されます。

・Windows XP でのエラー画面例




・Windows Me でのエラー画面例




●多くのパソコンからネットワークドライブとして割り当てると、本製品のパフォーマンスが低下する場合があります。

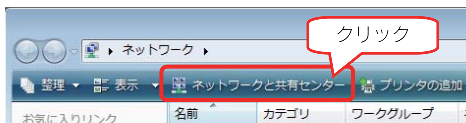
以上で完了です。

## パソコンに固定の IP アドレスを設定するには

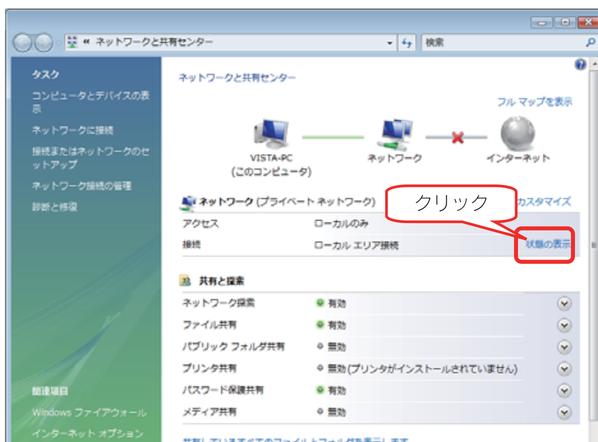
以下の手順は、パソコンに固定の IP アドレス（例は「192.168.0.3」）を設定する場合の例です。
一時的に変更する場合などは、必ず、以前の[IP アドレス][サブネットマスク][デフォルトゲートウェイ]などのアドレスはメモしてください。
ネットワーク内に DHCP サーバが無い場合（本製品が「192.168.0.200」の IP アドレスで起動した場合）などに、パソコンから設定画面を開く際には、パソコン側は同じネットワークアドレスで別の IP アドレスを設定する必要があります。

### Windows Vista®の場合

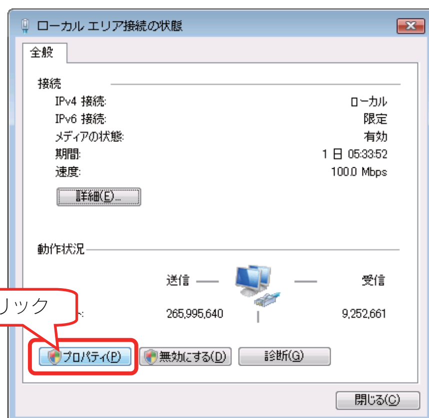
**1** [スタート]→[ネットワーク]をクリックし、[ネットワークと共有センター]をクリックします。



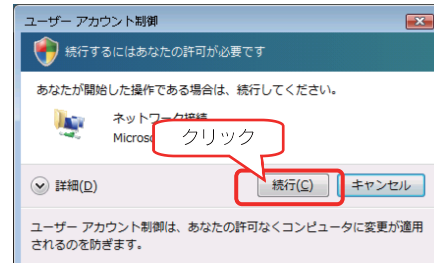

**2** [状態の表示]をクリックします。



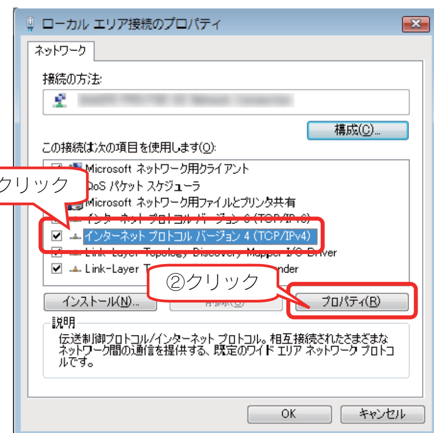

**3** [プロパティ]をクリックします。



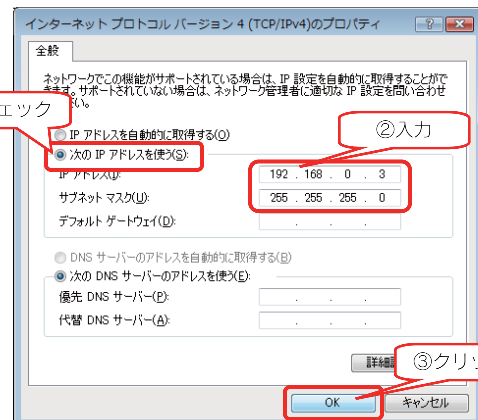

**4** 以下の確認画面が表示された場合は、[続行]をクリックします。




**5** [インターネットプロトコルバージョン4（TCP/IPv4）]をクリックし、[プロパティ]をクリックします。




**6** [次の IP アドレスを使う]をチェック後、[IP アドレス][サブネットマスク]を設定後、[OK]ボタンをクリックします。
※画面は設定値は、設定例です。



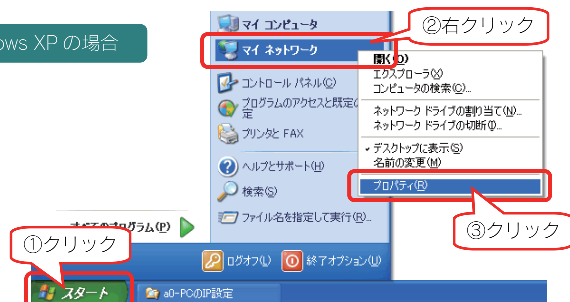

以上で設定終了です。
開いた画面を閉じてください。

## Windows XP/2000 の場合

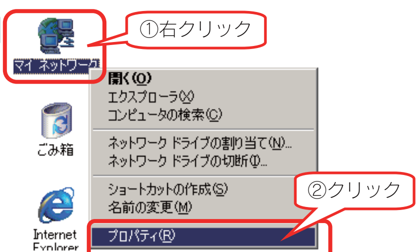
※画面は Windows XP での例です。

**1** [スタート]→[マイネットワーク]を右クリック後、[プロパティ]をクリックします。
（Windows 2000 の場合は、[マイネットワーク]アイコンを右クリック）

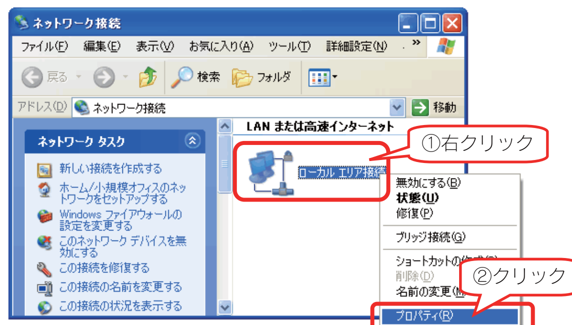
Windows XP の場合



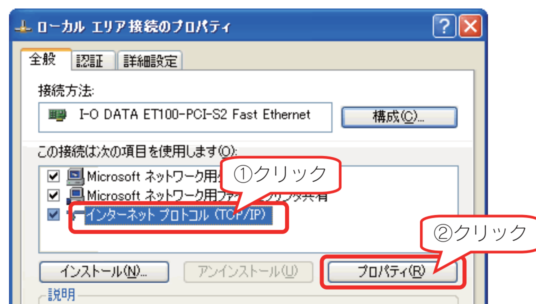

Windows 2000 の場合



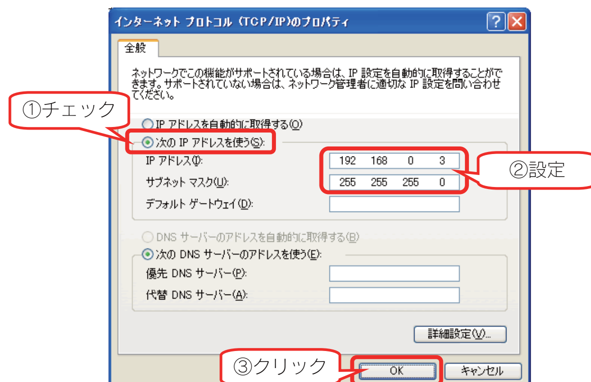

**2** [ローカルエリア接続]アイコンを右クリック後、[プロパティ]をクリックします。




**3** [インターネットプロトコル（TCP/IP）]をクリック後、[プロパティ]ボタンをクリックします。




**4** [次の IP アドレスを使う]をチェック後、[IP アドレス][サブネットマスク]を設定後、[OK]ボタンをクリックします。
※画面は設定値は、設定例です。

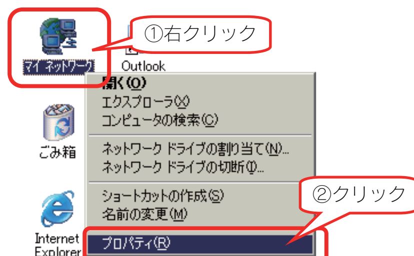



以上で設定終了です。
開いた画面を閉じてください。

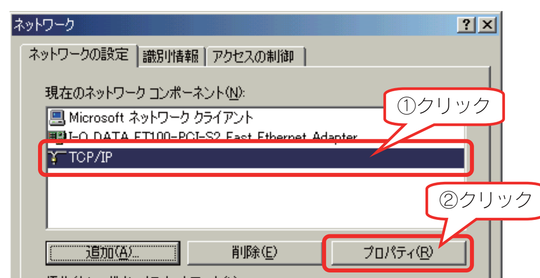
## Windows Me/98 の場合

※画面は Windows Me での例です。

**1** [マイネットワーク]アイコン（（Windows 98 の場合は、[ネットワークコンピュータ]）を右クリック後、[プロパティ]を順にクリックします。




**2** [TCP/IP]をクリック後、[プロパティ]ボタンをクリックします。

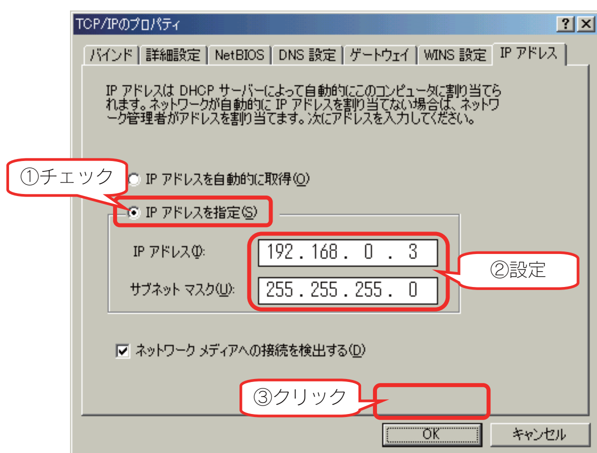


注意

複数の LAN アダプタをお使いの場合は、以下のような画面となります。
以下の場合は、[TCP/IP -> お使いの LAN アダプタ]をクリック後、[プロパティ]ボタンをクリックしてください。

現在のネットワーク コンポーネント(N):
Microsoft ネットワーク クライアント
ダイヤルアップ アダプタ
TCP/IP ->
TCP/IP -> ダイヤルアップ アダプタ
Microsoft ネットワーク共有サービス
追加(A)... 削除(E) プロパティ(R)
①クリック
②クリック

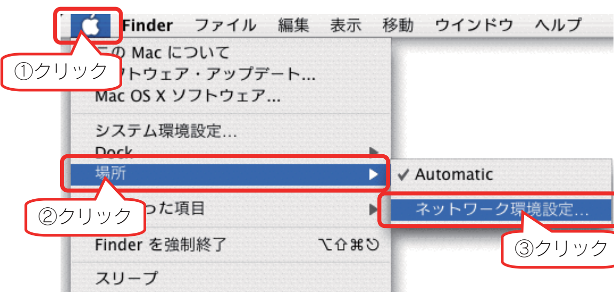
**3** [IP アドレスを設定]をチェック後、[IP アドレス][サブネットマスク]を設定後、[OK]ボタンをクリックします。
※画面は設定値は、設定例です。



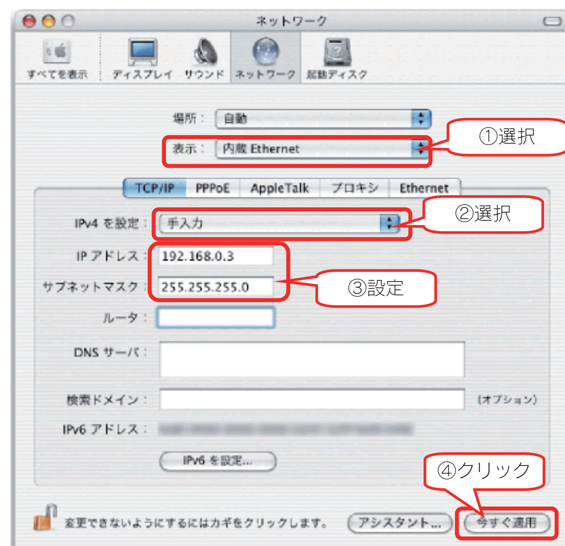

以上で設定終了です。
開いた画面を閉じて、一度パソコンを再起動してください。

## Mac OS X の場合

**1** [アップルメニュー]→[場所]（または[ネットワーク環境]）→[ネットワーク環境設定...]を選択します。




**2** 設定用パソコンの IP アドレスを一時的に変更します。
①[表示：]から[内蔵 Ethernet]または[Ethernet]を選択します。
②[TCP/IP]タブで[IPv4 を設定：]（または[設定：]）から[手入力]を選択します。
③以下を設定します。
IP アドレス：192.168.0.3
サブネットマスク：　255.255.255.0
③[今すぐ適用]ボタンをクリックします。

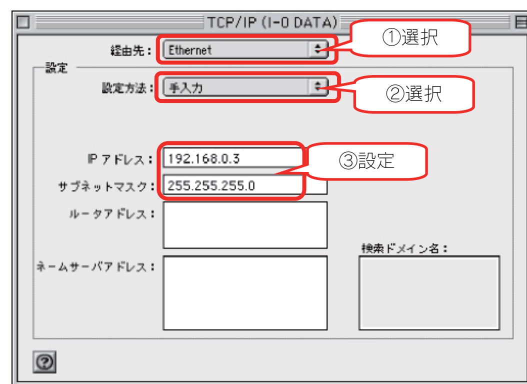



**3** 画面を閉じて、パソコンを再起動します。

## Mac OS 8.1～9.2.2 の場合

**1** [アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[TCP/IP]を選択します。

**2** 設定用パソコンの IP アドレスを一時的に変更します。
①[経由先：]から[Ethernet]または[内蔵 Ethernet]を選択します。
②[設定方法：]から[手入力]を選択します。
③以下を設定します。
IP アドレス：192.168.0.3
サブネットマスク：　255.255.255.0




**3** 画面を閉じて、パソコンを再起動します。

## (Windows Vista®/XP/2000)
## [ローカルエリア接続]アイコンに×マークが付いている

| | |
|---|---|
| 原因 | LAN ケーブルが正しく接続されていない。 |
| 対処 | パソコンに LAN ケーブルが接続されているか、また、パソコン接続先のネットワーク機器（ルーターやハブなど）に LAN ケーブルが接続されているかご確認ください。 |

| | |
|---|---|
| 原因 | LAN ケーブルに問題がある。 |
| 対処 | 別の LAN ケーブルをお持ちの場合は、LAN ケーブルを交換してみてどうかお試しください。 |

# オプション品について

本製品のオプション品です。（2007 年 6 月時点での発売予定も含みます。）
各製品の詳細な情報は弊社ホームページ　http://www.iodata.jp　をご確認ください。

## ▼カートリッジ

| 品名 | 容量 |
|---|---|
| RHD-250 | 250GB |
| RHD-320 | 320GB |
| RHD-400 | 400GB |
| RHD-500 | 500GB |
| RHD-750 | 750GB |
| RHD-1.0T | 1.0TB |

以下の使用方法があります。

・RAID5（分散パリティ）+FAT/NTFS モード時のカートリッジ 4（スロット 4）交換用
本製品の RAID モードを RAID5+FAT/NTFS にした場合に、カートリッジ 4（スロット 4）を取り外し、これらのオプション品と交換できます。

・RAID1+0（ミラーストライピング）時のディスクセット交換用
本製品の RAID モードを RAID1+0 にした場合の、ディスクセット保管後の、交換用カートリッジとして使用できます。
ディスクセット保管後の交換用カートリッジとしては、以下が必要です。

HDL-GT1.0 の場合・・・・・「RHD-250」が 2 台
HDL-GT1.6 の場合・・・・・「RHD-400」が 2 台
HDL-GT2.0 の場合・・・・・「RHD-500」が 2 台
HDL-GT3.0 の場合・・・・・「RHD-750」が 2 台
HDL-GT4.0 の場合・・・・・「RHD-1.0T」が 2 台

・カートリッジ故障時の交換用
カートリッジが 1 台あるいは複数台故障した場合の、交換用カートリッジとして使用できます。
交換用カートリッジとしては、以下が必要です。

HDL-GT1.0 の場合・・・・・「RHD-250」
HDL-GT1.6 の場合・・・・・「RHD-400」
HDL-GT2.0 の場合・・・・・「RHD-500」
HDL-GT3.0 の場合・・・・・「RHD-750」
HDL-GT4.0 の場合・・・・・「RHD-1..0T」




●容量の大きいカートリッジを RAID に組み込んだ場合、実際に使用できる容量は、ほかのカートリッジと同じ容量に調整されます。
●オプション品のカートリッジには、RAID システムは入っていません。
●HDL-GT1.0 において、500GB の交換用 HDD を 4 つ使用して HDL-GT2.0 と同容量とする等、後から容量を増やすことはできません。

## ▼SerialATA 対応 5 インチベイ用内蔵ユニット

| 品名 |
|---|
| RHD-IN/SA |

上記オプション品カートリッジをデスクトップパソコンの 5 インチベイのスペースに接続し、直接パソコンで読み書きできるようにすることができます。
本製品の RAID5+FAT/NTFS モードをご利用になれば、カートリッジ4（スロット4）のカートリッジを取り外して、パソコンでそのまま読み書きできるようにすることもできます。
また、カートリッジ4を NTFS フォーマットでご利用になる場合は、本オプション品（RHD-IN/SA）を利用してパソコンで NTFS フォーマットを実行してください。

# 本製品のお問い合わせ

## ① 弊社ホームページをご覧ください

サポート Web ページには、最新の情報や過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらもご参考ください。

製品 Q&A、News など ⇒ http://www.iodata.jp/support/

ソフトウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のソフトウェアをダウンロードしてお試しください。

最新サポートソフト ⇒ http://www.iodata.jp/lib/

## ② それでも解決できない場合は、下記にお問い合わせください


住所： 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器 サポートセンター

電話： 本社…076-260-3644 東京…03-3254-1144
※受付時間 9:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

FAX： 本社…076-260-3360 東京…03-3254-9055

インターネット： http://www.iodata.jp/support/


※お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

1．ご使用の弊社製品名
2．ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番
3．ご使用のシステムバージョン
4．トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

※ご提供いただいた個人情報は、製品のお問合せなどアフターサービス及び顧客満足度向上のアンケート以外の目的には利用いたしません。また、これらの利用目的の達成に必要な範囲内で業務を委託する場合を除き、お客様の同意なく第三者へ提供、または第三者と共同して利用いたしません。

# 修理について

## 修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●内部のデータについて

・検査の際には、内部のデータはすべて消去されてしまいます。

（厳密な検査を行うためです。どうぞご了承ください。）

※データに関しては、弊社はいっさいの責任を負いかねます。バックアップできる場合は、修理にお出しになる前にバックアップしてください。

弊社では、データの修復は行っておりません。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。

その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料にて修理いたします。

ただし、ハードウェア保証書に記載されている「4.保証適応外」に該当する場合は、有料となります。

※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。

※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。

修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。

（ご依頼時に FAX 番号をお知らせいただければ、修理金額を FAX にて連絡させていただきます。）

## 修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

①メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、シリアル番号(S/N)、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

②これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）

※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの

返送先[住所/氏名/(あれば)FAX 番号]、日中にご連絡できるお電話番号、

ご使用環境（機器構成、OS など）,故障状況（どうなったか）

③修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。

※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

④修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。

※原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513

石川県金沢市桜田町 2 丁目 84 番地　アイ・オー・データ第 2 ビル

株式会社アイ・オー・データ機器　修理センター　宛

## 修理品の返送

修理品到着後、通常約 1 週間ほどで弊社より返送できます。

※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります

【ご注意】
1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
3) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。
また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
5)本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。




HDL-GT シリーズ取扱説明書　　2008.8.20
発 行　株式会社アイ･オー･データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町３丁目１０番地